

XyXon, Inc.
www.xyxon.co.jp
support@xyxon.co.jp

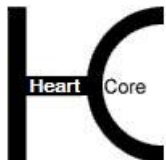
XyXon, Inc.

HeartCore

Web コンテンツ管理システム

設定ガイド

簡単・安価に Web サイトを作成・公開・管理



著作権・機密情報

著作権 株式会社ジゾン 1999–2015。当ユーザガイドは株式会社ジゾンの機密情報により構成されています。本書の無断複製、複写、転写、情報検索方式での格納、又は、いかなる言語への翻訳においても株式会社ジゾンの許可無しでは固く禁じられています。

注意

株式会社ジゾンは、本書の記載内容において、何時でも予告なく変更することがあります。また、本書において明示または黙示を問わず、一切保証致しません。株式会社ジゾンはいかなる場合においても、購入した際および本書の使用時、またはこれに含まれる情報によって生じた間接的、特別かつ偶発的損害に関しての責任を負いません。

ライセンスおよび商標

HeartCore Web コンテンツ管理や HeartCore のロゴは商標であり、株式会社ジゾン独自の登録商標です。また、その他の企業、製品、トレードネームは商標であり、各所有者の登録商標です。

HeartCore Web コンテンツ管理は wz_dragdrop.js ライブラリを使用しています。このライブラリは GNU Lesser General Public License (LGPL) (<http://www.gnu.org/copyleft/lesser.html>) 規約に基づいてライセンスされています。Copyright (c) 2002-2003 Walter Zorn (www.walterzorn.com)。

HeartCore Web コンテンツ管理は wz_jsgraphics.js ライブラリを使用しています。このライブラリは GNU Lesser General Public License (LGPL) (<http://www.gnu.org/copyleft/lesser.html>) 規約に基づいてライセンスされています。Copyright (c) 2002-2004 Walter Zorn (www.walterzorn.com)。

HeartCore Web コンテンツ管理は Dynarch DHTML Calendar ライブラリを使用しています。このライブラリは GNU Lesser General Public License (LGPL) (<http://www.gnu.org/licenses/lgpl.html>) 規約に基づいてライセンスされています。Copyright (c) 2002-2005 Mihai Bazon (<http://www.bazon.net/mishoo> - <http://www.dynarch.com/projects/calendar>)

HeartCore Web コンテンツ管理は Kryogenix sortable ライブラリを使用しています。このライブラリは、MIT License (<http://www.kryogenix.org/code/browser/license.html>) 規約に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 1997-2005 Stuart Langridge (<http://www.kryogenix.org/code/browser/sortable/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は SWFupload コンポーネントとライブラリを使用しています。このライブラリは MIT License (<http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php>)規約に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2006-2007 Lars Huring, Olov Nilzén and Mammon Media, and Copyright (c) 2007-2008 Jake Roberts (<http://www.swfupload.org/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は Prototype ライブラリを使用しています。このライブラリは MIT License (<http://www.kryogenix.org/code/browser/license.html>) 規約に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2005 Sam Stephenson (<http://prototype.conio.net/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は Scriptaculous ライブラリを使用しています。このライブラリはフリーソフトウェアとしてライセンスされています。 Copyright (c) 2005 Thomas Fuchs (<http://script.aculo.us/>).

HeartCore Web コンテンツ管理は Rico ライブラリの一部を使用しています。このライブラリは the Apache License, Version 2.0.規約に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2005 Sabre Airline Solutions (<http://openrico.org/>).

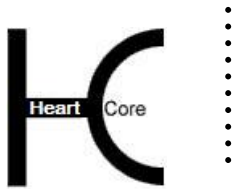
HeartCore Web コンテンツ管理は Rico Livegrid Plus ライブラリを使用しています。このライブラリは the Apache License, Version 2.0.規約に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2006 Matt Brown (<http://dowdybrown.com/>).

HeartCore Web コンテンツ管理は Lightbox library ライブラリを使用しています。このライブラリは Creative Commons Attribution 2.5 License (<http://creativecommons.org/licenses/by/2.5/>)に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2006 Lokesh Dhakar (<http://www.huddletogether.com/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は TableKit ライブラリを使用しています。このライブラリはフリーソフトウェアとしてライセンスされています。 Copyright (c) 2007 Andrew Tetlaw & Millstream Web Software (<http://www.millstream.com.au/view/code/tablekit/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は jQuery ライブラリを使用しています。このライブラリは MIT License (<http://jquery.org/license/>) 規約に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2011 John Resig (<http://jquery.org/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は jsTree ライブラリを使用しています。このライブラリは MIT License (<http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php>) 規約に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2010 Ivan Bozhanov (<http://jstree.com/>)



HeartCore Web コンテンツ管理は JavaBeans Activation Framework ライブラリを使用しています。このライブラリは Sun Microsystems, Inc. Binary Code License Agreement に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) Sun Microsystems (<http://www.sun.com/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は JavaMail ライブラリを使用しています。このライブラリは Sun Microsystems, Inc. Binary Code License Agreement に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2009 Sun Microsystems (<http://www.sun.com/>)

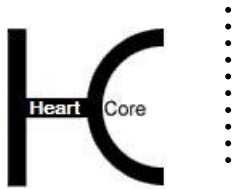
HeartCore Web コンテンツ管理は Apache Jakarta JCS ライブラリを使用しています。このライブラリは Apache License, Version 2.0 に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2001-2007 The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は Apache Commons Logging ライブラリを使用しています。このライブラリは Apache License, Version 2.0 に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2003-2007 The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は Apache log4j ライブラリを使用しています。このライブラリは Apache License, Version 2.0 に基づいてライセンスされています。 Copyright (c) 2010 The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は concurrent ライブラリを使用しています。このライブラリはフリーソフトウェアとしてライセンスされています。 Copyright (c) Doug Lea (<http://gee.cs.oswego.edu/dl/classes/EDU/oswego/cs/dl/util/concurrent/intro.html>)

HeartCore Web コンテンツ管理は slidetabs ライブラリを使用しています。 Copyright (c) WebStack (<http://www.slidetabs.com/>).



HeartCore

Web コンテンツ管理システム

簡単・安価に Web サイトを作成・公開・管理

はじめに

本書は、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムの設定ガイドです。HeartCoreWeb コンテンツ管理システムを使って、Web サイトや管理システムを設定する方法を記しています。

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、インターネット Web サイトのみならず、イントラネットやエクストラネット Web サイトのコンテンツをより簡単に作成、更新を行うための Web ソリューションです。このシステムはフル機能を備えていますが、操作が簡単で非常に柔軟性があります。高度な機能は、必要になるまで使用する必要はありません。また不要な機能は、（スーパー・ユーザによって）簡単に無効化し、隠すことができます。そうすることで、Web サイト管理 Web ページを出来るだけシンプルに保つことができます。必要に応じて、より高度な機能を有効化・可視化させます。

本書は、7つのパートに大別されます。

パート1では、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムへログインする方法と、スーパー・ユーザ管理者のユーザ名とパスワードの取得方法をご説明します。

パート2では、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムと Web サイトの設定方法をご説明します。

パート3では、管理ページのカスタマイズを目的とした各種オプション機能を有効化・無効化する方法をご説明します。

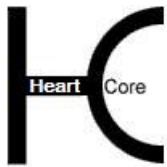
パート4では、Web サイトで使用するコンテンツのクラス、フォーマット、グループ、タイプ、バージョンを設定する方法をご説明します。

パート5では、Web サイトで使用するユーザのグループ、タイプの設定方法、並びにユーザアカウントのエクスポートとインポートについてご説明します。

パート6では、Web サイトのコンテンツ作成や管理において、一連のプロセスに使用されるワークフローの設定方法をご説明します。

パート7では、Web サイトで使用する商品のグループ、タイプ、通貨、割引、送料、税率を設定、エクスポート、インポートする方法をご説明します。

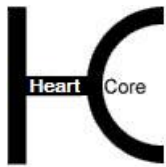
パート8では、Web サイトで使用するカスタム・コンテンツ・データベースの設定方法をご説明します。



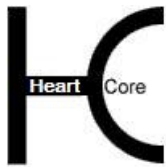
目次

はじめに	4
目次.....	5
1 スーパー・ユーザ WEB サイト管理者ログイン	10
1.1 ログイン	10
1.2 ログアウト	10
1.3 スーパー・ユーザのユーザ名とパスワード取得	11
1.4 ホーム	11
1.4.1 Web サイト機能の追加	12
1.4.2 設定	12
2 システム設定.....	13
2.1 システム環境.....	13
2.2 データベース設定	14
2.2.1 データベース接続	14
2.2.2 初期化とインポート	14
2.2.3 追加モジュールインポート機能.....	16
2.2.4 Web サイトデザインのインポート	17
2.2.5 メディアライブラリファイルのインポート.....	18
2.2.6 バックアップとエクスポート.....	19
2.2.7 バックアップの復元	22
2.2.8 高度なインポート	23
2.3 ソフトウェア・ライセンス・キー設定	26
2.4 スーパー・ユーザ Web サイト管理者設定.....	27
2.5 Web 設定	28
2.5.1 Web サイト・デザイン	28
2.5.2 Web サイト設定.....	30
2.5.3 Eメールとフォーム	32
2.5.4 セキュリティ	36
2.5.5 特殊ページ	40
2.5.6 特殊設定	43
2.5.7 Web サイトアドレス URL 再描画	46
2.5.8 メディアストレージ	47
2.6 マイクロサイト	49

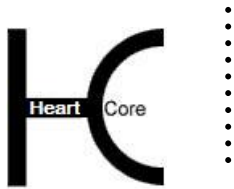
2.6.1	インターネット・ドメイン名.....	50
2.6.2	ビジターの訪問元インターネット・アドレス設定.....	51
2.6.3	ユーザ・エージェント (Web ブラウザ)	51
2.6.4	Web ブラウザの言語設定.....	52
2.6.5	他の Web サイトからの参照元情報.....	52
2.6.6	検索エンジンおよびディレクトリ Web サイト検索の参照元情報.....	52
2.6.7	マイクロサイトの設定.....	53
2.7	E コマースシステム設定.....	59
2.7.1	通貨&価格	59
2.7.2	注文フォーム	60
2.7.3	注文管理のアクセス制限.....	60
2.7.4	支払い処理	63
2.7.5	商品の出荷	64
2.7.6	E コマース特別ページ	65
2.8	アクセス統計値システム設定	69
2.8.1	Web アクセスログの期間	70
2.8.2	アクセスログステータス.....	71
2.8.3	アクセスログデータのコンテンツ	72
2.8.4	アクセス統計値レポート.....	73
2.8.5	アクセス統計値アクセス制限.....	75
3	機能設定	76
3.1	Web サイトユーザ/管理者へのアクセス制限.....	76
3.1.1	個々のユーザ・アクセス制限.....	77
3.1.2	ユーザ・アクセス制限.....	77
3.1.3	管理者アクセス制限	77
3.1.4	ワークフロー	78
3.1.5	空白コンテンツ項目の新規追加設定.....	80
3.1.6	特別アクセス制限設定.....	80
3.1.7	コンテンツグループ/タイプのメニュー表示と非表示	81
3.1.8	スケジュール済のコンテンツ項目	81
3.1.9	Web サイト全体のアクセス制限	82
3.1.10	注文管理のアクセス制限.....	84
3.1.11	アクセス統計値アクセス制限.....	84
3.2	メニューやツールバーの追加コンテンツ構成要素	84
3.3	Dynamic HTML のためのアドバンススクリプト	85
3.4	バックアップおよび変更ログ/追跡記録のためのコンテンツアーカイブ	86
3.5	複数管理者のための専有/解放及びアサイン先機能.....	87
3.6	多数のコンテンツ項目整理のためのコンテンツカテゴリ.....	89
3.6.1	コンテンツ・パッケージ.....	90
3.6.2	コンテンツ・バンドル.....	90
3.6.3	ページと構成要素のクラス、グループ、タイプ	91



3.6.4	イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプ	92
3.6.5	商品のグループとタイプ	92
3.7	Web サイトコンテンツ整合性のためのコンテンツ依存関係	93
3.8	コンテンツ編集	94
3.8.1	コンテンツ・エディタ	94
3.8.2	HeartCoreWeb エディタ	95
3.8.3	ファイル・アップロード	101
3.8.4	インデックス・ページ	101
3.8.5	閲覧&編集	115
3.9	動的ナビゲーションメニューとリンクのためのコンテンツ依存関係	116
3.10	多言語対応やその他のマルチバージョン・コンテンツ	117
3.10.1	コンテンツ・バージョン	117
3.10.2	Eメール通知	118
3.11	SEO や目録作成のためのメタ情報	118
3.12	Web サイトセクションやページ指定デザイン/レイアウトのプレゼンテーション	119
3.13	コンテンツのステージング、プレビュー、公開	120
3.13.1	自動および手動での公開	120
3.13.2	動的および静的 Web アドレス	120
3.13.3	スケジュールされた公開と公開期限終了	121
3.13.4	コンテンツを静的 HTML ページ/ファイルとしてエクスポート	123
3.14	コンテンツの変更ログのための変更履歴	123
3.15	期限付きユーザアカウントのためのユーザ有効化と有効期限	124
3.16	多数のユーザアカウントを整理するためのユーザカテゴリ	125
3.16.1	ユーザクラス	125
3.16.2	ユーザグループとタイプ	125
3.17	Web サイト管理者および登録ユーザのためのユーザデータベース	126
3.17.1	外部 LDAP ディレクトリサーバー	127
3.18	ユーザ住所および支払内容のためのユーザ詳細	135
3.19	Web サイト管理者別 機能設定のためのユーザ機能設定	135
4	WEB サイトコンテンツ設定	137
4.1	コンテンツの設定	137
4.1.1	静的 Web アドレスフォルダの移動/リネーム	137
4.1.2	Web サイトコンテンツ管理	137
4.1.3	コンテンツクラス設定	138
4.1.4	コンテンツのグループ/タイプ設定	139



4.2	イメージの設定	141
4.2.1	イメージフォルダの移動/リネーム.....	142
4.2.2	イメージフォーマット設定.....	142
4.2.3	イメージのグループ/タイプ設定.....	143
4.3	ファイルの設定	145
4.3.1	ファイルフォルダの移動/リネーム.....	145
4.3.2	ファイルフォーマット設定.....	145
4.3.3	ファイルのグループ/タイプ設定.....	146
4.4	リンクの設定	148
4.4.1	リンクのグループ/タイプ設定.....	148
4.5	バージョンの設定	150
4.6	パッケージの設定と管理	151
4.7	バンドルの設定と管理	152
5	ユーザデータベース設定	154
5.1	ユーザのグループ/タイプ設定	154
5.1.1	サブグループとサブタイプ.....	156
5.1.2	アクセス制限.....	156
5.2	ユーザ情報のエクスポート	157
5.3	ユーザ情報のインポート	158
6	ワークフロー設定	159
6.1.1	ワークフロー.....	159
6.1.2	ワークフローアクション.....	159
6.1.3	サンプルワークフロー.....	165
7	Eコマース設定	173
7.1	商品の設定	174
7.1.1	商品のグループ/タイプ設定.....	174
7.1.2	商品データベース同期化.....	177
7.2	通貨の設定	179
7.2.1	通貨.....	180
7.2.2	通貨データベース同期化.....	180
7.3	割引の設定	182
7.3.1	割引率（設定）.....	182
7.3.2	割引率.....	182
7.4	送料の設定	190
7.4.1	送料（設定）.....	190



7.4.2	送料	190
7.5	税率の設定	194
7.5.1	税率 (設定)	195
7.5.2	税率	195
8	コンテンツデータベース設定	200
8.1.1	コンテンツデータベース (設定)	200
8.1.2	コンテンツデータベース	201

1 スーパー・ユーザ Web サイト管理者ログイン

1.1 ログイン

Web サイトを管理する HeartCore Web コンテンツ管理システムにアクセスするには、通常の Web アドレスに“/webadmin/”を追加した URL を開きます。例えば、<http://127.0.0.1> というアドレスで Web サイトにアクセスするならば、HeartCore Web コンテンツ管理システムにアクセスするには、<http://127.0.0.1/webadmin/> といったアドレスを使用します。

HeartCore Web コンテンツ管理システムの設定セクションへアクセスするには、まず、スーパー・ユーザ Web サイト管理者のユーザ名とパスワードで認証を得てログインします。大文字、小文字、スペース、句読点に注意し、正確にユーザ名とパスワードを入力してください。



1.2 ログアウト

ログインが無事に完了したら、Web サイトの HeartCore Web コンテンツ管理システムへアクセスできます。同時に、あなたのコンピュータにアクセスできる誰もが、Web コンテンツ管理システムへアクセスできるようになります。時間の長短に関わらずコンピュータから離れるときは、HeartCore Web コンテンツ管理システムをログアウトし、他の人が Web サイトを変更しないようにしてください。他の人も使用可能なコンピュータを使用しているのならば、このことは特に重要です。

HeartCore Web コンテンツ管理システムをログアウトするには、HeartCore Web コンテンツ管理や、閲覧&編集ページの左上にある、“ログアウト”リンクをクリックしてください。ログアウト後は、Web サイトのホームページが表示されます。

Web サーバの設定により、自動的にログアウトされることがあります。厳密には、ログイン/ログアウトは Web サーバの“セッション変数”と呼ばれるものによって制御されています。Web サーバは、数秒から数日でセッション変数が期限切れになるよう設定されている可能性があります。

HeartCore Web コンテンツ管理システムを使用している間に、Web サーバのセッション変数によってログインの期限が切れるようであれば、再度ログインしてください。例えば、Web ページ

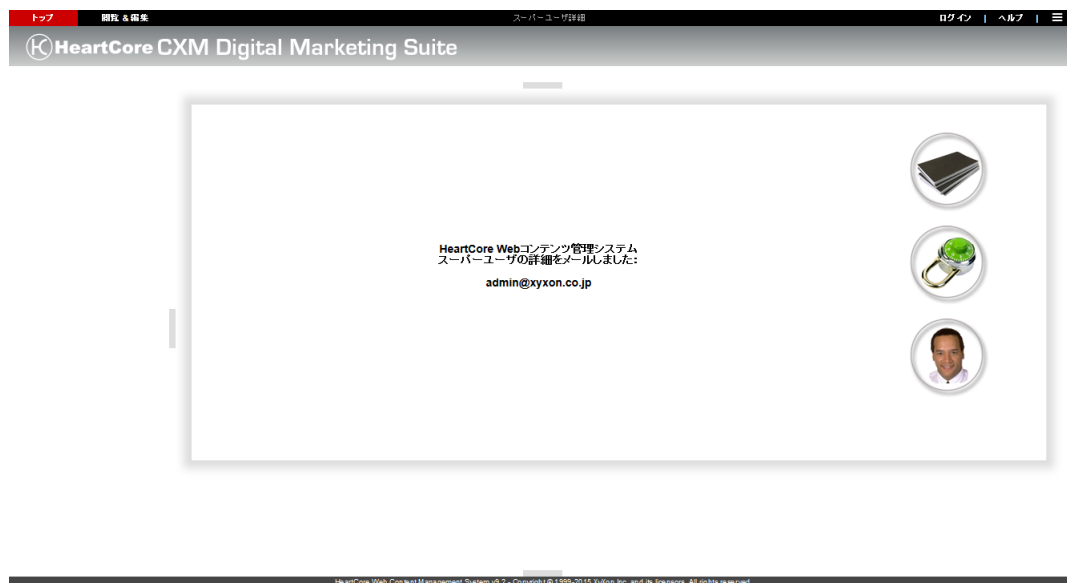
のひとつのコンテンツを編集するのに長時間かかり、保存する前にログインが切れてしまったら保存されないので、定期的に作業を保存してください。もしくは、Web ホスティング・プロバイダに、Web サーバのセッション変数有効期限を延ばしてもらうように依頼することもできます。通常、Web サーバ設定は問題ないはずですが、場合によっては数分でセッション変数が切れるように設定されている可能性があります。

1.3 スーパー・ユーザのユーザ名とパスワード取得

スーパー・ユーザのユーザ名とパスワードを忘れて、失くしたりしないように気をつけてください。これらは HeartCore Web コンテンツ管理システムへのフルアクセス権を得るためには欠かせません。

しかしながら、もし、スーパー・ユーザのユーザ名とパスワードを忘れてしまった場合、有効なスーパー・ユーザEメール・アドレスを設定していれば取得が可能です。

スーパー・ユーザのユーザ名とパスワードを取得するには、通常の Web サイト・アドレスに、“/webadmin/password/”を追加したアドレスを開きます。例えば、通常 <http://127.0.0.1> というアドレスで Web サイトにアクセスしている場合、“<http://127.0.0.1/webadmin/password/>”というアドレスを使用し、設定されたスーパー・ユーザEメール・アドレスに、ユーザ名とパスワードを送信させます。



スーパー・ユーザのユーザ名とパスワードを忘れて失くした場合に、もしスーパー・ユーザEメール・アドレスが設定されていなかったり有効でないとなると、他に簡単にユーザ名とパスワードを取得する方法はありません。

その他の方法としては、HeartCore Web コンテンツ管理データベースに手動でアクセスし、スーパー・ユーザ・ユーザ名とパスワードをリセットしなければなりません。

1.4 ホーム

スーパー・ユーザ Web サイト管理者として HeartCore Web コンテンツ管理システムへのログインが成功すると、メインの管理ページが表示されます。



1.4.1 Web サイト機能の追加

追加の Web サイト機能を使用すると、重要な追加モジュールを多数インポートできるようになります。詳しくは、2.2.3 追加モジュールインポート機能をご参照下さい。

1.4.2 設定

管理システムと Web サイト設定へのフルアクセスを得るには、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムの「設定」セクションを使用して下さい。HeartCoreWeb コンテンツ管理システムの各ページ上に、「設定」セクションへのリンクが表示されています。



2 システム設定

システム設定を使って、Web サイトや HeartCoreWeb コンテンツ管理システムの様々な基本設定を行うことができます。

左メニューより「システム設定」ページへアクセスし、管理システムや Web サイトの設定を行います。



設定

左のメニューから設定管理ページにアクセスしてください。

データベース
Webサイトのコンテンツ等を保存するための設定です。

ライセンス
HeartCore Webコンテンツ管理システムの様々な機能を使用したり、有効化/無効化することができます。

スノーバーユーザ
HeartCore Webコンテンツ管理システムにフルアクセスできる「スノーバーユーザ」の詳細です。

Webサイト
Webサイトのデフォルトページ、テンプレート、スタイルシート、バージョン、Eメールアドレスを定義します。

Eコマース
EコマースのデフォルトページとEメールアドレスを定義します。

マイクロサイト
Webサイト上の特定ページに導くための追加インターネットドメイン名を定義します。

Webアクセス解析
Webアクセスのアクセス制限と、Webアクセスログ時間およびコンテンツを定義します。

2.1 システム環境

システム環境ページでは、Web コンテンツ管理システムがインストールされている場所や、設定ファイルが配置されている場所、システムフォルダに対する現在の作成/書き込み権限といった、システム環境に関する基本情報が表示されます。



Webコンテンツ管理システムインストール

OK Webサイトホーム/ルートフォルダー: /webapps/ROOT
 OK Webサイト管理フォルダー: /webapps/ROOT/webadmin/
 OK Webサイト管理 言語ファイル: /webapps/ROOT/WEB-INF/classes/hardcore.properties
 OK Webサイト管理 WebサイトURL: http:// /webadmin/

Webコンテンツ管理システム設定

OK Webサイト管理 設定ファイル: /webapps/ROOT/ini/webadmin.jsp
 OK Webサイト管理 設定ファイル: /webapps/ROOT/ini.jsp
 OK Webサイト管理 デフォルトの設定ファイル: /webapps/ROOT/defaults.jsp

Webサイトファイルの作成・書き込み権限

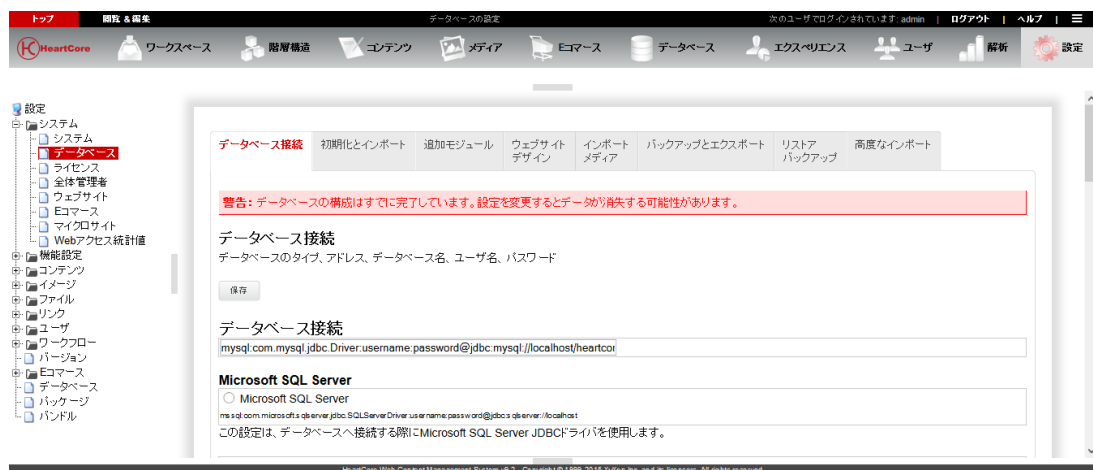
OK Webサイトホーム/ルートフォルダー: /webapps/ROOT
 OK Webサイトアップロードフォルダーの権限: /webapps/ROOT/upload/
 OK Webサイトイメージフォルダーの権限: /webapps/ROOT/image/
 OK Webサイトファイルフォルダーの権限: /webapps/ROOT/file/

2.2 データベース設定

2.2.1 データベース接続

警告：データベース接続が既に設定されている場合は、変更を行うと、管理システム内のコンテンツや Web サイトのコンテンツが消失する恐れがあり、削除されてしまう可能性があります。従って、データベース接続の変更は、必要な場合にのみ行うようにし、その際にはデータベースと Web サイトの完全なバックアップを取った上で、十分な知識を持って行って下さい。

Web コンテンツ管理システムをインストールし初期設定を行う際に、既にデータベース接続は設定されているはずですが、通常、データベースサーバーのソフトウェアや設定を変更しない限り、このデータベース接続は変更されるべきではありません。詳しくは、「インストールガイド」をご参照下さい。



2.2.2 初期化とインポート

警告：既にデータベースが初期化されている場合、この初期化とインポートを行うと、管理システムや Web サイトコンテンツの紛失を招く恐れがあり、削除されてしまうかもしれません。必要がある場合にのみ、十分な知識を持って行って下さい。

管理システムのインストール、初期設定の際に、既にデータベースは初期化され初期コンテンツがインポートされているはずですが、通常、この初期化とインポートを行うのは、管理システムや Web サイトの全コンテンツを削除し、Web サイトを一から作り直したり、サンプルサイトを使って作成し直したりする場合のみです。

「初期化とインポート」設定ページには、使用可能な Web サイトデータベース・インポートファイルが一覧表示されます。管理システムへ設定されたソフトウェア・ライセンスキーによっては、いくつかのインポートファイルは無効/使用不可のため、グレーアウトされている場合もあります。

- **Basic**
作成済み、設定済みの特別なページを含む、空白の Web サイトです。一から Web サイトを作成する場合に推奨されるオプションです。
- **Empty**
必要なすべての特別ページを含め、すべてを一から作成するための、完全に空白の Web サイトです。（大抵は Empty の代わりに Basic Web サイトが使用されるべきです。）

- **Business Website Professional Suite (推奨)**

Web コンテンツ管理システム機能をバリエーション豊かに使用した、高度なサンプル Web サイト。

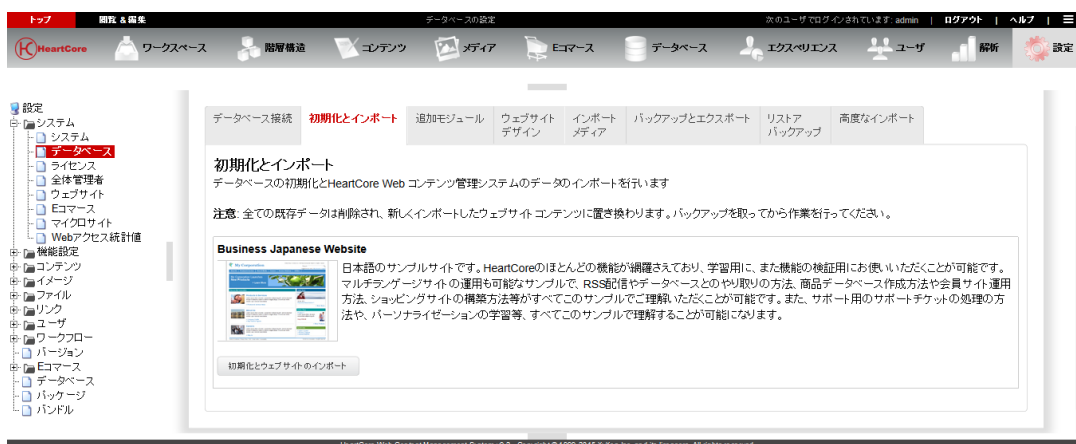
初期 Web サイトコンテンツとして推奨されるオプションです。通常の企業サイトで使用されるコンテンツや機能を備えたテンプレートが用意されており、すぐにご利用頂けます。不要なコンテンツや機能は容易に取り除くことができ、コンテンツやデザインの修正も簡単です。さらに、コンテンツや機能を追加することも可能です。

- **Eagle Golf**

多くの Web コンテンツ管理システム機能を使用した、高度なサンプル Web サイト。異なるエディションの HeartCore Web コンテンツ管理システム用に、様々な Eagle Golf サンプル Web サイトが提供されています。



「ウェブサイトの選択」ボタンを使って、インポートする Web サイトを選択します。そして選択した Web サイトのインポートオプションを入力/選択し (もしあれば)、「初期化とインポート」ボタンを押すと実際にインポートが行われます。代わりに、ページ下部にある入力フィールドを使って、Web サイト・データベース・インポートファイルをローカルコンピュータからアップロードすることも可能です。また、「初期化とインポート」タグを再度選択すると、再び Web サイト・インポート・オプションがすべて一覧表示されます。



インポートする Web サイトのサイズによっては、データベースの初期化や Web サイトデータのインポートに時間が掛かる可能性があります。データベースインポートの進捗状況はインポート中に表示されます。データベースのインポートが完了すると、データベース設定ページに戻ります。最終的には、新しい Web サイトへは再度ログインしないとけません。

データベースの設定と初期化に成功すると、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムのデータベース設定ページには、下記が表示されます。

「警告：データベースの構成はすでに完了しています。設定を変更するとデータが消失する可能性があります。」

これによりデータベース設定が正常に完了し、引き続き HeartCore Web コンテンツ管理システムを設定、使用する用意ができたことを意味します。

データベースの初期化が正常に完了しなかった場合、再度データベースを初期化する必要があります。データベース初期化ステップを繰り返してください。もしインポートする Web サイトコンテンツが比較的大きい、そして／あるいはデータベースのデータ・インポートが比較的遅い場合、データベースのインポートが完了する前に Web サーバが「タイムアウト」する可能性があります。その場合は Web サイト・コンテンツのインポートに使用可能なリソースを増やす必要があるかもしれません。詳細については、2.2.8 高度なインポートをご参照下さい。



2.2.3 追加モジュールインポート機能

管理システムの「設定」セクションの「データベース設定」ページにある「追加モジュール」タブより、追加モジュールを使用することができます。また、「トップ」管理ページの「Web サイト機能の追加」リンクからも有効です。

追加モジュールは、Web サイトの Web サイトコンテンツを追加でインポートします。既存の Web サイトコンテンツが削除されたり変更されたりすることはありません。

追加モジュール設定ページには、使用可能な Web サイト・データベース・インポートファイルが一覧表示されます。管理システムへ設定されたソフトウェア・ライセンスキーによっては、いくつかの追加モジュールは無効／使用不可であるため、グレーアウトされている場合もあります。



「追加モジュールを選択」ボタンを使って、インポートする追加モジュールを選択します。そして追加モジュールのインポートオプションを入力/選択し（もしあれば）、「追加モジュールをインポート」ボタンを選択すると、実際のインポートが行われます。代わりに、ページ下部にある入力フィールドを使って、ローカルコンピュータより追加モジュール・データベース・インポートファイルをアップロードすることも可能です。また、追加モジュールオプションを再度一覧表示させるには、もう一度「追加モジュール」タブを選択して下さい。



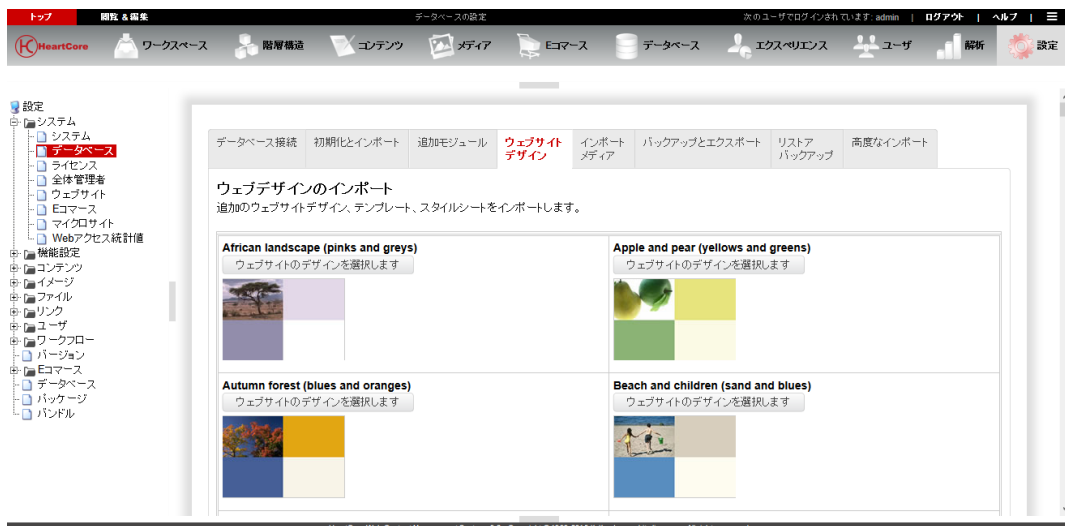
インポートする追加モジュールのサイズによっては、データベースを初期化し、追加モジュールをインポートするまでに時間が掛かる可能性があります。インポート中、進捗状況が表示されます。追加モジュールのインポートが完了すると、データベース設定ページに戻ります。

2.2.4 Web サイトデザインのインポート

管理システムの「設定」セクション内「データベース設定」ページにある「ウェブサイトデザイン」タブより、Web サイトデザインを使用することができます。

Web サイトデザインは、Web サイトへの追加 Web サイトコンテンツをインポートします。既存の Web サイトコンテンツが、削除されたり変更されたりすることはありません。

「Web サイトデザイン」設定ページでは、使用可能な Web サイトデザイン・インポートファイルが一覧表示されます。管理システムへ設定されたソフトウェア・ライセンスキーによっては、いくつかの Web サイトインポートファイルは無効/使用不可のため、グレーアウトされている場合があります。



「ウェブサイトデザイン」ボタンを使って、インポートする Web サイトデザインを選択します。そして、選択した Web サイトデザインのインポートオプションを入力/選択し（もしあれば）、「ウェブサイトデザインのインポート」ボタンを選択すると、実際のインポートが行われます。代わりに、ページ下部の入力フィールドを使って、ローカルコンピュータより Web サイトデザイン・データベース・インポートファイルをアップロードすることも可能です。また、再度 Web サイトデザインオプションを一覧表示させるには、「ウェブサイトデザイン」タブを再び選択します。

2.2.5 メディアライブラリファイルのインポート

インポートメディアタブでは、既存 Web サイト HTML ファイルを解析し、それらのファイルをインポートすることができます。また、/image/フォルダより Web サイトの既存イメージをインポートしたり、/file/フォルダより Web サイトの他の既存ファイルをインポートすることもできます。既存 Web サイトのファイル数によっては、解析するのに時間が掛かる場合があります。

Adobe Dreamweaver など生成された HTML ファイルで定義されているように、Web コンテンツ管理システムが編集可能領域を特定している場合、その中からどれを、インポートしたページのタイトルとして取り込むか、またはコンテンツとして取り込むか選択できます。「ページタイトル編集可能領域」または「ページコンテンツ編集可能領域」を選択するか、単に「なし」や「すべて」を選択します。

デフォルトでは、インポートした Web サイトページやスタイルシート、スクリプトのオリジナルファイルはサーバー上に保持されます。この場合、バックアップや削除が必要であれば手動で行ってください。代わりに、自動でバックアップや削除を行うには、「バックアップ」（*.backup にリネームされます）もしくは「削除」を選択してください。

チェックボックスを選択後「メディアのインポート」ボタンを押下し、既存 Web サイトの HTML ファイルやイメージ、その他ファイルをインポートします。

「Web サイトをインポート」のオプションは「.dwt」ファイル、「.html/htm」ファイル、画像、その他のファイルをお使いの Web サイトに分析してインポートします。インポートの際

に、下部に出るドロップダウンから、Dreamweaver ベースで作成したテンプレートファイルの編集可能領域を選択できます。選択された領域以外の各ファイル (.html / htm) は、「ページ」として、Web コンテンツ管理システムにインポートされます。もし、Web サイト home/root フォルダに、「index.html」ファイルがある場合は、このページが「デフォルトページ（ホームページ）」になります。またお使いの Web サイトに「.dwt」ファイルがある場合、このファイルは「テンプレート」として Web コンテンツ管理システムにインポートされ、それらのテンプレートは「.html / .htm」Web サイトファイルから作成された「ページ」に使われます。「.dwt」ファイル内に追加領域があれば、それらは「classes」、「elements」として Web コンテンツ管理システムにインポートされます。

個々のイメージやその他のファイルは、メディア・ライブラリへアップロードしたり、コンテンツの追加／更新時に Web コンテンツ・エディタを介してアップロードできます。しかし、イメージやその他のファイル数が多い場合には、一括アップロードをし、インポートしたい場合があります。イメージ・ファイルは、Web サイトの「/image/」フォルダに一括アップロードすることができます。その他のファイルは、FTP ファイル転送プログラムなどの標準サードパーティ・インターネット・アプリケーションを使用して、Web サイトの「/file/」フォルダに一括アップロードすることができます。そうすることで、メディアのインポート機能を使用して、Web サイトの「/image/」フォルダからすべてのイメージを、また「/file/」フォルダからその他のすべてのファイルを、Web コンテンツ管理システムのメディア・ライブラリに一括インポートすることが可能になります。

イメージやその他ファイルのインポートによって、Web コンテンツ管理システムのメディア・ライブラリに既に存在するイメージやその他のファイルが削除されることはありません。Web コンテンツ管理システムにまだ存在しないイメージやその他ファイルのみがインポートされます。



The screenshot shows the 'Import Media' configuration page in the HeartCore Web Content Management System. The page title is 'メディアライブラリのファイルをインポート' (Import Files from Media Library). Below the title, it says '追加のメディアライブラリのイメージやファイルをインポートします' (Import images and files from additional media libraries). There are three main options for import:

- Web サイトのインポート: 既存の Web サイトのページ、イメージ、ファイルをインポートします。ページのタイトルを編集可能にする。[-なし-] ページのパーツを編集可能にする。[-すべて-]
- イメージのインポート: /image/フォルダ内の既存イメージ全てをインポートします。
- ファイルのインポート: /file/フォルダ内の既存ファイル全てをインポートします。

On the left side, there is a navigation menu with categories like '設定' (Settings), 'システム' (System), 'データベース' (Database), '機能設定' (Feature Settings), 'コンテンツ' (Content), 'イメージ' (Image), 'ファイル' (File), 'リンク' (Link), 'ユーザ' (User), 'ワークフロー' (Workflow), 'バージョン' (Version), 'Eコマース' (E-commerce), 'データベース' (Database), 'バックアップ' (Backup), and 'バンドル' (Bundle). The 'データベース' (Database) category is currently selected.

既存 Web サイトのファイル数によっては、テンプレートやページ、イメージ、ファイルをインポートするのに時間が掛かる場合があります。インポートが完了すると、データベース設定ページへ戻ります。

2.2.6 バックアップとエクスポート

「バックアップとエクスポート」タブでは、Web コンテンツ管理システムのデータや Web サイトのファイルを、単一のバックアップファイルにエクスポートすることができます。バックア

アップされたファイルは、Web サイトへ格納され、ご自身のローカル・コンピュータへダウンロード可能ですので、後々Web 管理システムへアップロードして、インポートするのに有効です。

バックアップとエクスポートを行う対象データのチェックボックスを選択し、また必要に応じてバックアップへの説明文を入力し、「エクスポートとダウンロード」ボタンをクリックすると、実際のエクスポートが始まります。エクスポートが始まると新しいウィンドウが開き、バックアップとエクスポートの進捗状況が表示されます。バックアップとエクスポートが完了すると、ウィンドウ下部にリンクが表示されますので、そこからエクスポートしたバックアップデータファイルをダウンロードすることができます。また、そのリンクを右クリックし、「名前を付けて保存」機能を使って、バックアップデータファイルをローカルコンピュータへダウンロード、保存することもできます。

Web サイトのデータやイメージ・ファイルなどのコピーを保存しておくため、Web サイトのコンテンツを定期的にバックアップやエクスポートしたい場合があります。または、別の Web サーバに Web サイトのコンテンツを移動させるために、バックアップやエクスポートすることもあるかもしれません。最後に、Web デザイナーや開発者として、または Web ホスティング・サービス・プロバイダとして、新規 Web サイトを構築するための様々なサンプルやテンプレートを顧客用に作成するため、Web サイト・コンテンツをバックアップ、エクスポートしたい場合もあるかもしれません。

バックアップとエクスポートでは、Web サイト・データベースから全ての Web サイト・コンテンツや全てのイメージ・ファイルなどを、ひとつのデータ・ファイルにエクスポートします。このデータファイルは、データベース・インポートでインポートすることができます。エクスポートされたデータは、Web サーバ上のファイルに格納され、ローカルのコンピュータにダウンロードしてバックアップコピーとして安全に保管することができます。

デフォルトでは、全てのWebサイトコンテンツがエクスポートされますが、任意で、Web サイトのどの部分をエクスポートするかを選択することができます。

- コンテンツ

ページ、構成要素、スタイルシート、イメージ、ファイル、リンクそして商品、またクラス、フォーマット、グループ、タイプそしてバージョンも同様に、以上を含む全てのコンテンツアイテムをエクスポートします。イメージとファイルに関しては、実際のファイルではなく、データベース・データのみエクスポートされますので注意して下さい。

- イメージ

「イメージ」データベースデータではなく、実際の「イメージ」ファイルをエクスポートします。

- ファイル

「ファイル」データベースデータではなく、実際の「ファイル」ファイルをエクスポート。

- E コマース (E コマース追加モジュールのみ)

E コマース追加モジュールの注文、通貨、送料、そして税率をエクスポートします。

- コンテンツデータベース (データベース追加モジュールのみ)

設定されたカスタム・コンテンツ・データベースとそのデータをエクスポートします。

- ユーザー

ユーザー・データベース、またユーザー・グループとタイプをエクスポートします。

- ワークフロー

設定されたワークフローをエクスポートします。

- マイクロ Web サイト

設定されたマイクロ Web サイトをエクスポートします。

- 設定

スーパー・ユーザーやライセンス情報などを含む Web コンテンツ管理システム設定をエクスポートします。

- ホスティング・クライアント (ホスティング・エディションのみ)

ホスティング・クライアントのデータおよび、ホスティング・クライアントのグループ、タイプをエクスポートします。実際のホスティング・クライアント Web サイトではなく、データベース・データのみがエクスポートされますのでご注意ください。

- その他

特殊フォント (非推奨) と、ゲストブック・データをエクスポートします。

- イメージ/ファイルフォルダの全ファイル

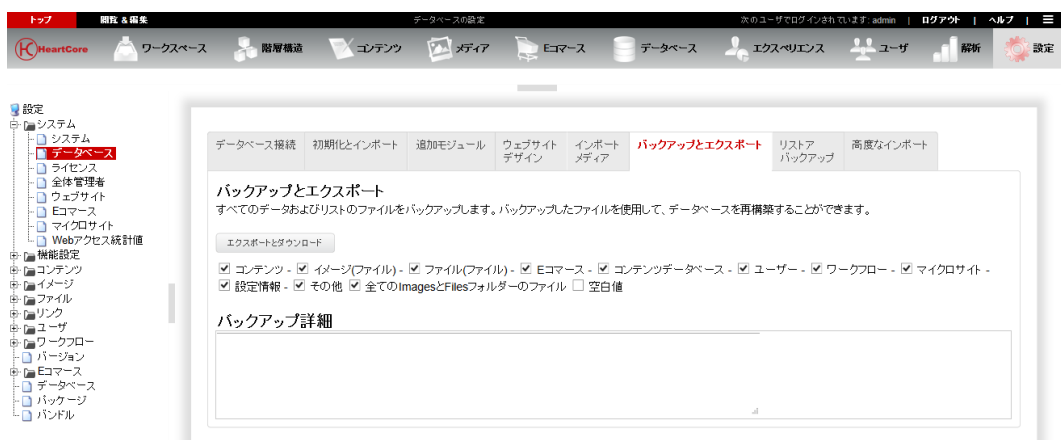
Web コンテンツ管理システムでは管理されないファイルも含め、/image/ および /file/ フォルダ内にあるすべてのファイルをエクスポートします。

- 空白値

デフォルトでは、エクスポート/インポートファイルが小さくコンパクトになるよう、空白値のデータはエクスポートされません。外部システムとの使用向けに、空白値も含めたすべてのデータをエクスポートしたい場合は、「空白値」を選択してください。

オプションとして、後でバックアップを復元する際に、「リストアバックアップ」タブに表示されるバックアップの詳細情報を入力することができます。

エクスポートされたデータは、この「リストアバックアップ」タブより、サーバのファイル一覧から選択することで、またはローカル・コンピュータよりアップロードすることで、再度インポートすることが可能です。



2.2.7 バックアップの復元

警告：バックアップの復元は、HeartCore Web コンテンツ管理システムの設定と作成済みコンテンツを含むすべてのデータをデータベースから削除します。すでに HeartCore Web コンテンツ管理システムを使用していて、これまでに作成したものを保持しておきたい場合は、バックアップの復元を行わないでください。バックアップの復元を行う前に、現在の Web サイトのデータをバックアップしておくことを強く推奨します。

「バックアップの復元」タブでは、既にエクスポートしたバックアップファイルを、Web コンテンツ管理システムにインポートすることができます。また、再ダウンロードしたり、削除したりすることも可能です。

「バックを選択」ボタンを使って、インポートするバックアップファイルを選択し、「バックアップをリストア」ボタンをクリックすると、実際のインポートが開始されます。ページ下部にある入力フィールドを使って、ご自身のローカルコンピュータより Web サイトバックアップファイルをアップロードすることも可能です。また、再度バックアップのオプションを一覧表示させるには、「バックアップのリストア」タブを再び選択します。

エクスポート済みバックアップファイルをダウンロードするには、「ダウンロード」ボタンを使用します。

エクスポート済みバックアップファイルを Web サイトから削除するには、「削除」ボタンを使用します。



2.2.8 高度なインポート

警告：「テーブルの削除」や「データの削除」オプションが有効な状態でデータベースを初期化すると、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムの設定や、これまで作成したコンテンツなど、すべてデータベースから削除されてしまいます。HeartCoreWeb コンテンツ管理システムを既にご利用されていて、作成したものを残しておきたい場合には、データベースの初期化はしないで下さい。

特別な状況においては、個々のデータベース初期化やインポート・オプション、または高度な設定をコントロールする、高度なデータベース初期化とインポート機能が必要、または好ましい場合があります。

HeartCore Web コンテンツ管理システムで使用されるデータベースを初期化する必要があります。データベースを初期化すると、データベース構造と HeartCore Web コンテンツ管理システムで使用されるデフォルト・データが作成されます。例えば、“Basic”のクイックスタート・Web サイト・データでデータベースを初期化するには、「サンプルやテンプレートから新規のサイトを作成する」を選び、「-basic-」データファイルを選択し、さらに「初期化とインポート」ボタンを選択してください。その他のデータベース初期化とインポート・オプションについては、下記を参照してください。

これにより、HeartCore Web コンテンツ管理システムのデータベース構造が作成され、デフォルト・データがインポートされます。完了するのに数分かかることがあります。データベース・インポートの進捗は、Web ブラウザに表示されます。HeartCore Web コンテンツ管理データベース設定画面が、データベース・インポートの進捗情報の下に再度表示されるまでお待ちください。

データベースが正常に設定され初期化されると、HeartCore Web コンテンツ管理データベース設定ページには、次のように表示されます。

「警告：データベースの構成はすでに完了しています。設定を変更するとデータが消失する可能性があります。」

これによりデータベース設定が正常に完了し、引き続き HeartCore Web コンテンツ管理システムを設定、使用する用意ができたことを意味します。

データベースの初期化が正常に完了しなかった場合、再度データベースを初期化する必要があります。上記データベース初期化ステップを繰り返してください。もしインポートする Web サイトコンテンツが比較的大きい、そして/あるいはデータベースのデータ・インポートが比較的遅い場合、データベースのインポートが完了する前に Web サーバが「タイムアウト」する場合があります。その場合は Web サイト・コンテンツのインポートに使用可能なリソースを増やす必要があるかもしれません。詳細については、以下に記載されている高度な設定を参照してください。

「テーブルを削除」や「データの削除」オプションが有効な状態でデータベースを初期化すると、データベース・インポートの進捗情報に警告メッセージが表示されることがあります。これらの警告メッセージは、データベース・テーブルやデータが存在しないため、削除ができないと書かれている場合があります。これは、単に前回のデータベースの初期化が正常に完了しなかったためなので、全く問題ありません。これらの警告は無視してください。

多くの定義済み、および手動のデータベース初期化とインポート・オプションが使用可能です。

- サンプルやテンプレートから新規のサイトを作成する

警告：すべての既存Webサイトコンテンツおよびデータを削除します。代わりにどのサンプルWebサイト・データファイルをインポートするかを選択してください：

- Eagle Golf
多くの Web コンテンツ管理システム機能を使用した、高度なサンプル Web サイト。異なるエディションの HeartCore Web コンテンツ管理システム用に、様々な Eagle Golf サンプルが提供されています。
- Company / Family / Organisation / Personal / Teacher / Team
異なるユーザタイプ用の様々な基本的Webサイト

- スクラッチで新規サイトを作成する

警告：すべての既存のWebサイトコンテンツおよびデータを削除します。代わりにどの空白Webサイトのデータファイルをインポートするか選択します：

- Basic
定義済み、設定済みの特別なページを含む空の Web サイト
- Empty
完全に空のWebサイト

- 既存のイメージやファイルを利用しながら、スクラッチで新規サイトを作成する

警告：すべての既存Webサイトコンテンツおよびデータを削除します。代わりにどの空白Webサイトのデータファイルをインポートするか選択します。Webサーバの “/image/” フォルダから既存イメージが、そして “/file/” フォルダからその他の既存ファイルがWebコンテンツ管理システムのメディア・ライブラリにインポートされます。

- Basic
定義済み、設定済みの特別なページを含む空のWebサイト
- Empty
完全に空のWebサイト

- 既存のサイトにモジュールを追加します

既存のWebサイト・コンテンツやデータは削除されません。現在のWebサイト・コンテンツやデータに加え、どの追加モジュールまたはWebサイトデザイン・データ・ファイルをインポートするか選択します。

- バックアップをリストアします
警告：すべての既存Webサイト・コンテンツおよびデータを削除します。代わりにどのWebサイトのバックアップデータ・ファイル（Webサイトのバックアップ日時で一覧表示されます）をインポートするかを選びます。
- オプションを手動で選択します
様々なデータベース初期化およびインポート・オプションを手動で選択します。

もしインポートされる Web サイトコンテンツが比較的大きい、そして／あるいはデータベースのデータ・インポートが比較的遅い場合、データベースのインポートが完了する前に Web サーバが「タイムアウト」する場合があります。その場合は Web サイト・コンテンツのインポートに使用可能なリソースを増やしてください。

PHP バージョンのみ：

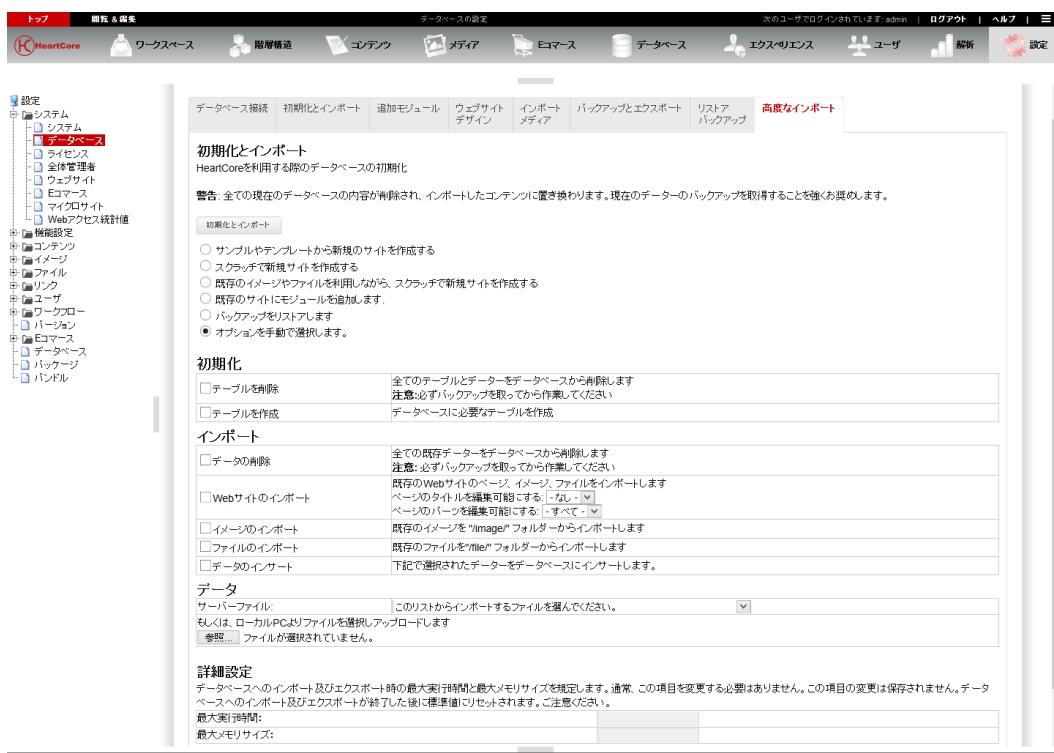
デフォルトでは、データベース・インポートの最大実行時間は 1 時間（3600 秒）に設定されています。データベース・インポートが完了するのに十分な時間を与えるため、この設定値を大きくする必要があります。

PHP バージョンのみ：

デフォルトでは、データベース・インポートの最大メモリサイズは 64MB(64M)に設定されています。データベース・インポートが完了するのに十分なメモリを与えるため、この設定値を大きくする必要があります。

高度な設定は保存されません。毎回データベース・インストール直前に設定してください。データベース・インポートの後は高度な設定はデフォルトにリセットされます。

重要：お使いの Web サーバでは、Web コンテンツ管理システムにおいてこれらの設定を変更できないようになっている場合があります。その場合は、データベース・インポートが常に「タイムアウト」する可能性があります。お使いの Web サーバ/プログラミング言語設定を変更し、データベース・インポートを再度行ってください。最大実行時間および最大メモリサイズの設定変更方法については、お使いの Web サーバ/プログラミング言語のドキュメンテーションを参照してください。



2.3 ソフトウェア・ライセンス・キー設定

HeartCore Web コンテンツ管理システムを使用するには、株式会社ジソン (www.xyxon.co.jp) もしくは認定リセラーより、ライセンスを購入し、ライセンス・キーを設定しなければなりません。Web ホスティング・プロバイダにより HeartCore Web コンテンツ管理システムが提供されている場合、ライセンス・キーはお使いの Web ホスティング・プロバイダによって提供される場合もあります。

HeartCore Web コンテンツ管理システムとライセンスは、それぞれ特徴の異なる様々なエディションにて利用可能です。

- パーソナル：

小規模ビジネスや個人的 Web サイトを作成し管理するための、個人 Web サイト管理者用シングルユーザシステム
- プロフェッショナル：

大規模 Web サイトや複数の Web サイト管理者向け、あらゆるビジネスニーズをサポートする全標準システム
- エンタープライズ：

他の技術的ビジネス・システムとのバックエンド統合をサポートする拡張システム
- ホスティング：

複数クライアントのホスティングや管理をサポートするインターネット、ホスティング、アプリケーション・サービス・プロバイダシステム

その他、多数の HeartCore Web コンテンツ管理アドオンモジュールとライセンスが利用可能です。

- Eコマース：
商品カタログ、ショッピングカート、チェックアウト、支払い手続き、注文確認、注文通知、注文追跡
- コミュニティ：
ユーザ登録、パーソナライズ機能、掲示板、チャット広場、問題追跡、投票、メーリングリスト、コミュニケーションツール
- データベース
データベース作成、インポート／エクスポート、同期化、データベース管理、閲覧・検索
- Web アクセス統計値
Webサイトの使用状況をモニタリングする Web サイトアクセス統計値

HeartCore Web コンテンツ管理システムと追加モジュールのライセンスを設定するには、株式会社ジゾンから提供された完全なライセンス・キーをすべて、空白等に注意しながら、適切な箇所にコピーし、保存をクリックしてください。

保存をクリックする際にエラーが発生した場合、ライセンス・キーを確認し、再度やり直してください。

Web コンテンツ管理システムをアップグレードし、追加機能を有効にしたい場合、追加の“より大きな”ソフトウェア・ライセンス・キーをいつでも設定することが可能です。すべての機能（いくつかのホスティング・エディション機能を除いて）は、既に全バージョンに含まれていますので、ライセンス・キーがあれば追加機能を有効にすることができます。したがって、ソフトウェアの余計なインストールやアップグレードなしに、追加機能を持つ管理システムへと容易にアップグレードすることが可能です。



The screenshot shows the 'ライセンスの設定' (License Settings) page in the HeartCore Web Content Management System. The page has a navigation menu on the left and a main content area with a '保存' (Save) button at the top left. The content area is divided into two sections: 'ライセンス' (Licenses) and 'アドオンモジュール' (Add-on Modules). Each section contains a list of licenses with corresponding license keys in a table.

ライセンス	ライセンスキー
パーソナル エディション	
プロフェッショナル エディション	
エンタープライズ エディション	sample.enterprise SAMPLELICENSE
ホスティング エディション	

アドオンモジュール	ライセンスキー
Eコマース	sample.ecommerce.SAMPLELICENSE
コミュニティ	sample.community.SAMPLELICENSE
データベース	sample.databases.SAMPLELICENSE
Webアクセス統計値	sample.statistics.SAMPLELICENSE
エクスペリエンス	sample.experience.SAMPLELICENSE

2.4 スーパー・ユーザ Web サイト管理者設定

HeartCore Web コンテンツ管理スーパー・ユーザは、特別な権限とシステム設定へのアクセス許可を持つメインの Web サイト管理者です。

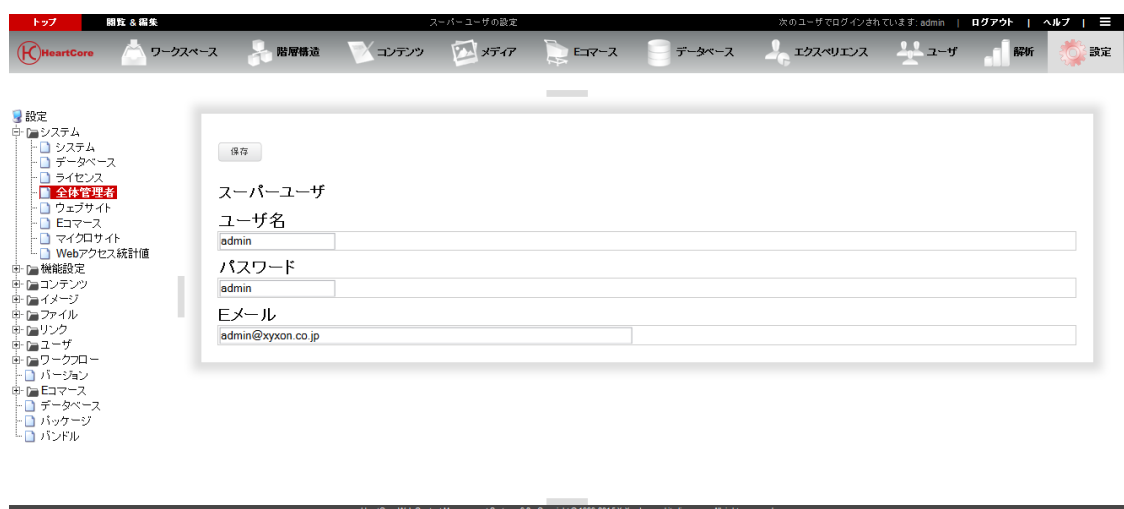
スーパー・ユーザ Web サイト管理者用のユーザ名とパスワード、そしてEメール・アドレスを設定する必要があります。デフォルトではスーパー・ユーザのユーザ名とパスワードは

“admin”と“admin”に設定されています。パスワードを他のものに変更しないと誰もが簡単に Web サイト管理へのアクセス権を不正に得ることができてしまいます。

スーパー・ユーザのユーザ名やパスワードを覚えておくこと、またスーパー・ユーザの E メールアドレスを常に有効なアドレスへ更新しておくことは重要です。そうしておかないと、HeartCore Web コンテンツ管理システムにアクセスすることができず Web サイトを管理できなくなる可能性があります。

保護手段として、スーパー・ユーザ Web サイト管理者用に有効な E メール・アドレスを設定し、変更する場合は忘れずに更新してください。もしスーパー・ユーザのユーザ名とパスワードを忘れてしまった場合、設定したスーパー・ユーザ E メール・アドレスにユーザ名とパスワードを送信させることが、唯一の簡単な取得手段です。それ以外には、直接データベースにアクセスし、手動でスーパー・ユーザのユーザ名とパスワードをリセットもしくは取得しなければいけません。詳しくは、「インストールガイド」をご参照下さい。

HeartCore Web コンテンツ管理システム スーパー・ユーザと E メール・アドレスを設定するには、任意のユーザ名とパスワード、E メール・アドレスを入力し、保存をクリックします。



2.5 Web 設定

「Web サイト設定」ページでは、Web サイトへ設定可能な／設定すべき様々な基本 Web サイト設定を行うことができます。

2.5.1 Web サイト・デザイン

2.5.1.1 デフォルト Web サイトテンプレート、スタイルシート、バージョン

Web サイトには、デフォルトのテンプレートやスタイルシートを設定しておくべきです。ページを表示させる際、特に別のテンプレートやスタイルシートが（そのページや、対象グループ・タイプに対し）選択されていない場合には、すべてこのデフォルトテンプレートとスタイルシートが使用されます。オプションで、デフォルトバージョンを設定することもできます。しかし通常は、“default/master”バージョンのコンテンツをデフォルトとして使用できるよう空白にしておくべきです。

- デフォルトのバージョン（コンテンツ）
Web サイトで使用されるマルチ・バージョン・コンテンツのデフォルト・バージョン。

- デフォルトのテンプレート（ページレイアウト）
 すべての Web サイトページで使用される、デフォルトのページデザイン。すぐに使用できるように、基本的なページレイアウトおよびカラースキーマのサンプルが提供されています。もちろん、自由にテンプレートを作成したり、任意の Web サイト・グラフィックデザインにあわせてテンプレートを変更したりすることもできます。
- デフォルトのスタイルシート（テキスト）
 すべての Web サイトページで使用される、デフォルトのテキストスタイル。すぐに使用できるように、基本的なスタイルシート・サンプルが提供されています。もちろん、自由にスタイルシートを作成したり、任意の Web サイト・グラフィックデザインにあわせてスタイルシートを変更したりすることができます。

お好みのオプションを選び、「プレビュー」を選択すると、選択したオプションで Web サイト・ホームページをプレビューすることができます。Web サイト・ホームページのプレビューは新規ブラウザウィンドウに表示されます。Web サイト設定画面に戻るには、Web サイトホームページのプレビュー・ウィンドウを閉じてください。選択に満足するまでオプションを選択し「プレビュー」を行うことができます。選択されたオプションに満足し、続く Web サイト詳細を入力したら、Web サイトの初期設定を完了するため「保存」を選択してください。



2.5.1.2 Web サイト・デザインのインポート

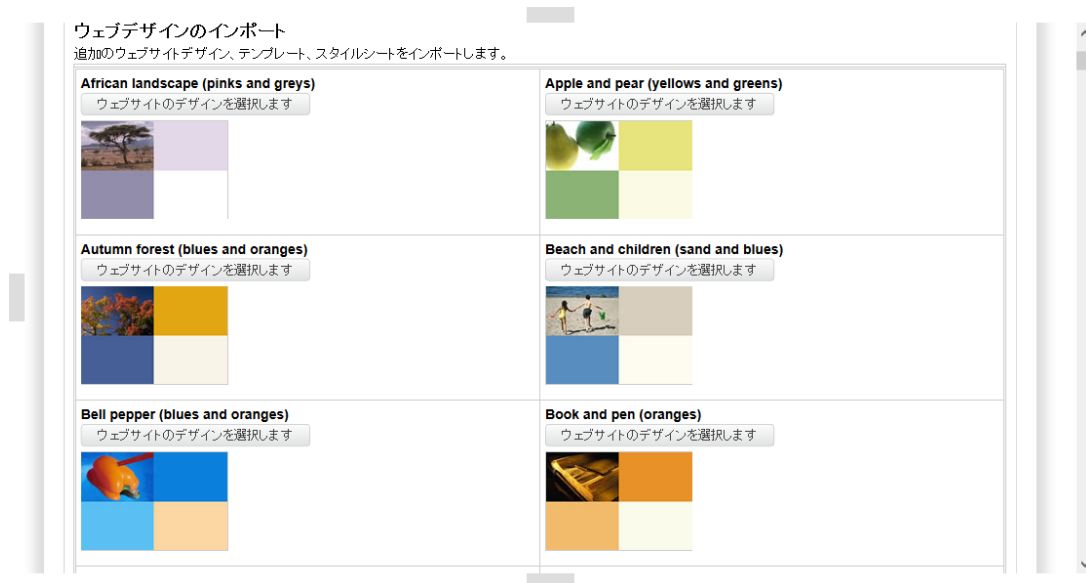
Web コンテンツ管理システムには様々な Web サイト・デザインが含まれています。使用可能なクイックスタート Web サイト・デザインがリストされます。

Web サイト・デザインをインポートするには、リストされた Web サイト・デザインの中から一つ選び、「Web サイトのデザインを選択します」ボタンを選んでください。Web サイト・デザインのインポートを確認するには「Web サイト・デザインをインポートします」ボタンを選択します。（または、「Web デザイン」タブを選択すると、使用可能なすべての Web サイト・デザイン・オプションが再度表示されます。）

Web サイト・デザインによっては、いくつか設定オプションが表示されることがあります。データ・インポート確認の前に、チェック/変更してください。

これにより、HeartCore Web コンテンツ管理システムのデータベースに、選択した Web サイト・デザインデータがインポートされます。この作業は数秒から数分ほどで完了します。データベース・インポートの進捗情報は、Web ブラウザに表示されます。

これで追加のテンプレートおよび／またはスタイルシートのオプションが Web サイトのデフォルトのテンプレートおよびデフォルトのスタイルシート選択一覧に追加されます。



2.5.2 Web サイト設定

2.5.2.1 HTML DOCTYPE と キャラクタセット

基本的な Web サイトの設定は2つの特別な HTML ヘッダーで、これらは、お使いの Web サイトに使用している HTML コードのバージョンとキャラクタセット・エンコーディングを、Web ブラウザに伝えるものです。もし特にお好みの設定などがなければ、「HTML DOCTYPE」を空白のままにするか、「HTML 4.01 Transitional」オプションを選択し、「HTML コンテンツ・タイプ文字コード」をデフォルトの「UTF-8」に設定して下さい。

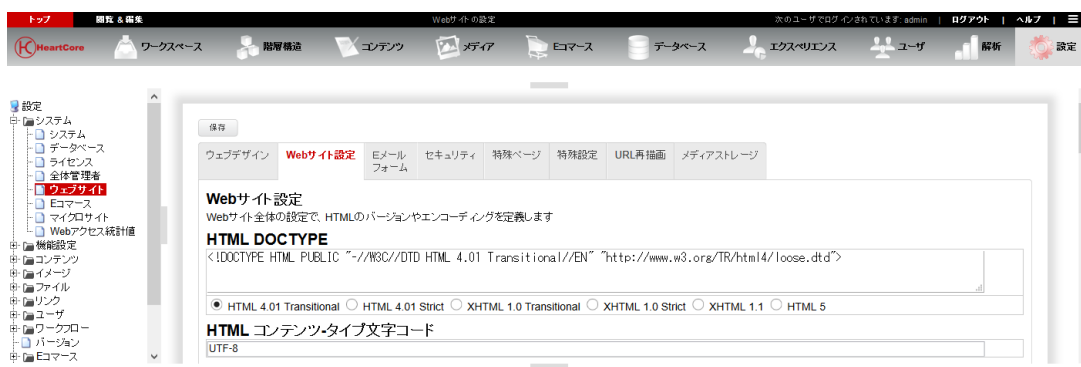
- HTML DOCTYPE

Web ページで使用される HTML 規格を定義する Web ページヘッダー。Web ブラウザに Web ページの HTML ドキュメントタイプを判断し処理させるには、空白のままにして下さい。

この HTML DOCTYPE Web サイト設定は、他の HTML DOCTYPE 設定よりも優先度が低く、個々のページ／商品 > テンプレート > ページ／商品グループ > ページ／商品タイプ > マイクロサイトの順で優先されます。

- HTML コンテンツタイプ文字コード

Web ページと、Web サーバにデータを投稿するのに使われるキャラクタセットを定義した Web ページヘッダー。デフォルトの「UTF-8」キャラクタセットを使用するには空白のままにしておいて下さい。



2.5.2.2 Web サイトページ・タイトル・プリフィックスとサフィックス

会社名のような固定文字列も、Web ブラウザ内で全 Web サイト・ページのタイトルの前後に表示させることが可能です。これらの文字列は、Web ブラウザ・ウィンドウのタイトル内に表示されるのみで、Web ページ・コンテンツ内のタイトル前後に表示されるわけではありません。

- デフォルトページ・タイトル・プリフィックス
Web ブラウザのウィンドウタイトル内で、ページタイトルの前に表示される文字列
- デフォルトページ・タイトル・サフィックス
Web ブラウザのウィンドウタイトル内で、ページタイトルの後ろに表示される文字列

標準のページタイトルプリフィックス	標準のページタイトルサフィックス

2.5.2.3 カスタム Web サイト設定

Web サイト・デザインで使用されている様々なカラーなどの追加 Web サイト設定が、インポートした Web サイト・コンテンツと Web サイト・デザインに応じて表示されます。

最後に、独自の追加カスタム Web サイト設定を定義することができます。そしてそれらを Web サイト上のページ、テンプレート、そしてスタイルシート内、スクリプトに使用することができます。

各 Web サイトの設定は、「ネーム」と、Web サイト設定が分類される「ヘディング」でラベル付けされます。ヘディングと名前を入力し、「新規追加」を選択し、新規のカスタム Web サイト設定を追加します。そうするとこれが Web サイト設定ページ上に追加され、値は Web サイト設定に入力されます。Web サイト設定は再度除去することもできます。Web サイトの設定を追加・編集した後は、設定した内容を失わないために、必ず「保存」をして下さい。

Web サイトページや、テンプレート、スタイルシート、スクリプト内のあらゆる箇所に、特殊コードによるカスタム Web サイト設定を使用することができます。それらページ等が表示された際には、特殊コードは Web サイト設定の実際の値へと、自動で動的に置換されます。こうすることで、1 箇所の変更を行うだけで、すべてのページに反映させることが可能になります。特殊コードについての詳細は、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照下さい。

Colors	
Featurebox1header @@@@config:Colors:Featurebox1header@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#006699	
Featurebox2header @@@@config:Colors:Featurebox2header@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#006699	
Featurebox3header @@@@config:Colors:Featurebox3header@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#669933	
Featurebox4header @@@@config:Colors:Featurebox4header@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#009999	
Headers @@@@config:Colors:Headers@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#006699	
Links1 @@@@config:Colors:Links1@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#3A89C9	
Links1hover @@@@config:Colors:Links1hover@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#235693	
Logo @@@@config:Colors:Logo@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#3A89C9	
Menubackground @@@@config:Colors:Menubackground@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#3A89C9	
Menubackgroundhover @@@@config:Colors:Menubackgroundhover@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#D6E8F5	
Menubackgroundselected @@@@config:Colors:Menubackgroundselected@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#00648F	
Tablefirstcolumnbackground @@@@config:Colors:Tablefirstcolumnbackground@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#3A89C9	
Tableheaderbackground @@@@config:Colors:Tableheaderbackground@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#006699	
Toolbarbackground @@@@config:Colors:Toolbarbackground@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#3A89C9	
Toolbarbackgroundhover @@@@config:Colors:Toolbarbackgroundhover@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#D6E8F5	
Toolbarbackgroundselected @@@@config:Colors:Toolbarbackgroundselected@@@@	<input type="button" value="Delete"/>
#00648F	
ヘディング: <input type="text"/> ネーム: <input type="text"/> <input type="button" value="Add New"/>	

2.5.3 Eメールとフォーム

2.5.3.1 Eメールアドレスとメールサーバ

デフォルトでは、コンタクトフォーム等は、設定した Web サイト E メールアドレスに送信されます。オプションで、別のコンタクトフォーム等を開発することも可能で、複数の許可済 E メールアドレスへ送信させることができます。コンタクトフォームを使った不正メールや迷惑メールを防止するため、設定した許可済 E メールアドレスにしか送信されません。

- Eメール送信先（デフォルト）
すべてのコンタクト/フィードバック・フォーム・コンテンツが送信される E メールアドレス。
- Eメールアドレス（追加）
コンタクト/フィードバック・フォームの送信先となり得る E メールアドレス（複数の場合は改行区切り）。
- メールサーバ
Eメールの送信に使用されるメール・サーバ。デフォルトでは“localhost”に設定されています。

ご利用の Web サーバやプログラミング言語プラットフォームによっては、メールサーバは Web コンテンツ管理システムで設定できない場合があります。その場合は、別の場所で設定する必要があります。



2.5.3.2 フォーム CAPTCHA 設定

Web コンテンツ管理システムは、コンタクトフォーム、ゲストブック、ブログ、メッセージボード、ショッピングカート、ユーザー登録など、Web サイトのビジターが登録したり、データを投稿したりできる様々な機能を備えています。残念なことに多くの個人、そして組織がそのような Web サイト機能を、自動プログラムを使って悪意のある Web サイトへアクセスさせるため、頼んでもいない広告やリンクを投稿する目的で乱用しています。自動プログラムによって、お使いの Web サイトへのそのような悪意あるデータやリンクを送信させるのを防ぐには、Web コンテンツ管理システムにおいて、Web サイトビジターがデータを送信したり商品注文する際に、いわゆる CAPTCHA（コンピュータと人間を区別する完全に自動化された公開チューニングテスト）確認コードの入力を要求する設定をすることが可能です。デフォルトでは、そのような確認コードは、Web コンテンツ管理システム側からは要求されませんが、異なる 3 つのタイプの CAPTCHA 確認コードが設定可能です。

デフォルトでは、そのような確認コードは、Web コンテンツ管理システム側からは要求されませんが、異なる 3 つのタイプの CAPTCHA 確認コードが設定可能です。

- なし

Web サイトビジターがフォームを送信するにあたり、いかなる CAPTCHA 確認コードも要求されません。

- ReCAPTCHA.net

無償の「公式」CAPTCHA オンラインサービス www.ReCAPTCHA.net を使って、Web サイトビジター自身を認証させます。このサービスを使用するには、無償のユーザーアカウントと、私用、公用のキーが必要となります。こちらは最も効果のある、推奨の CAPTCHA 設定となります。

- ランダムな文字

Web サイトコンテンツ管理システムにより設定された文字や数字のリストから、ランダムに選択される文字や数字を、Web サイトビジターに入力させ、認証させます。

- ランダムな単語

Web サイトコンテンツ管理システムにより設定された単語のリストから、ランダムに選択される単語を、Web サイトビジターに入力させ、認証させます。

CAPTCHA 認証を、異なるタイプの Web サイト機能へ有効にすることができます。

- コンタクトフォーム(/contact.aspx)

“/contact.aspx”、“/contact.jsp”、“/contact.php” プログラムスクリプトに送信されるすべての Web ページフォームに対して、Web サイトビジター自身を認証させます。

- コンテンツとデータの送信(/post.aspx)

ブログ、ゲストブック、メッセージボード Web サイト機能モジュールなどに用いられるように、“/post.aspx”、“/post.jsp”、“/post.php” プログラムスクリプトに送信されるすべての Web ページフォームに対して、Web サイトビジター自身を認証させます。

- ショッピングカート (/shopcart.aspx)

“/shopcart.aspx”、“/shopcart.jsp”、“/shopcart.php” プログラムスクリプトに送信されるショッピングカートの注文に対して、Web サイトビジター自身を認証させます。
(“/shopcart.aspx?complete=xxx”、“/shopcart.jsp?complete=xxx”、“/shopcart.php?complete=xxx”)。

- ユーザー登録(/register.aspx)

“/register.aspx”、“/register.jsp”、“/register.php” プログラムスクリプトに送信されるすべての Web ページフォームに対して、Web サイトビジター自身を認証させます。

- ログイン済みの登録ユーザー

上記に対して、すでに Web サイトにログインしている登録済み Web サイトビジター自身を認証させます。でなければ、登録済みログイン・ユーザには、再度、認証が要求されません。

CAPTCHA 認証機能を使用するには、上記にポストされ、プログラム・スクリプトを有効にするための追加特別コードが、Web ページフォームに追加されている必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照下さい。

重要： CAPTCHA 認証が必要な Web ページフォームに、このような特殊コードがひとつも追加されていない場合には、ポストされた Web ページフォームデータは、単に無視されます。

フォーム用 CAPTCHA 確認
ユーザーがウェブサイトからフォームを送信する際に、スパム防止のため変形文字の入力を要求することが可能です。
@@@captcha@@@ 開放を利用してページのフォームを作成、設定します。

CAPTCHA テキスト

なし

ReCAPTCHA.net ここをクリックしてアカウントを取得してください。

プライベート・キー

パブリック・キー

ランダムキャラクター
キャラクター

ランダムワード
ワードリスト

CAPTCHA 認証を要求する項目:

コンタクトフォーム (/contact.jsp)
 コンテンツとデータの送信 (/post.jsp)
 ショッピングカート (/shopcart.jsp)
 ユーザー登録 (/register.jsp)
 ログイン中の登録ユーザーにも適用

2.5.3.3 フォーム 認証

Web コンテンツ管理システムには、Web サイト訪問者がデータを登録したりポストしたりするための様々な機能が備わっています。コンタクトフォームや、ゲストブック、ブログ、掲示板、ショッピングカート、ユーザ登録などです。デフォルトでは、自身の Web サイト上でも、他の Web サイトからでも使用することができます。したがって、相互作用する関連 Web サイトを多く持つことが可能になります。また、外部 Web サイトからデータを収集したり、連携したりすることもできます。

オプションとして、このような機能の HTML FORM が自身の Web サイトを起源とすることを義務づけ、外部 Web サイトから無許可データをポストできないようにしたり、悪質なクロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) を阻止したりすることが可能です。これは、特別な隠し自動生成承認チケット/トークンを、HTML FORM に含めることで実現します。含まれていない場合、ポストされた HTML FORM データは無視されます。

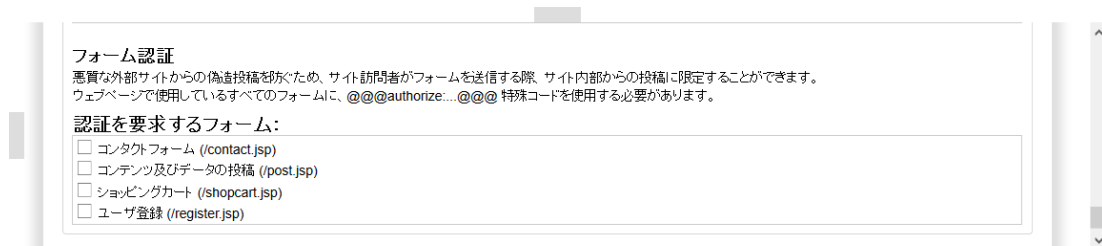
デフォルトでは、このような承認チケット/トークンは必須ではありませんが、様々な Web サイト機能に承認を要求するよう、Web コンテンツ管理システムを設定することが可能です。

- コンタクトフォーム (/contact.aspx)
“/contact.aspx”、“/contact.jsp” および “/contact.php” プログラムスクリプトへポストされるすべての Web ページフォームに対し、承認を要求します。

- コンテンツおよびデータの投稿 (/post.aspx)
ブログやゲストブック、掲示板などのモジュールで使用される“/post.aspx”、“/post.jsp”および“/post.php”プログラムスクリプトへポストされるすべての Web ページフォームに対し、承認を要求します。
- ショッピングカート (/shopcart.aspx)
“/shopcart.aspx”、“/shopcart.jsp” および “/shopcart.php” プログラムスクリプトへポストされるショッピングカートの注文に対し、承認を要求します。（“/shopcart.aspx?complete=xxx”、“/shopcart.jsp?complete=xxx”、“/shopcart.php?complete=xxx”）
- ユーザ登録 (/register.aspx)
“/register.aspx”、“/register.jsp” および “/register.php” プログラムスクリプトへポストされるすべての Web ページフォームに対し、承認を要求します。

フォーム認証機能を使用するには、上記プログラムスクリプトへポストされる Web ページフォームに、特殊コードを追加する必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。

重要： 認証を要求する Web ページフォームへ特殊コードを追加していない場合、ポストされた Web ページフォームデータは無視されます。



2.5.4 セキュリティ

Web コンテンツ管理システムへの不正なアクセスを防ぎ、それぞれのアクセスを監視するために、アクセスを制限することが可能です。暗号化の使用を義務づけたり、指定した回数以上ログインに失敗したユーザアカウントをブロックしたり、ログインが成功・失敗する度に通知 E メールを送信させることができます。

2.5.4.1 SSL にて暗号化されたインターネット接続でのログイン要求

- Web サイト管理者に SSL 経由でのログインを義務づける
デフォルトでは、Web サイト管理者は、標準の HTTP Web 通信プロトコルでログインすることができます。このような通信は、モニタされ Web サイト管理者のユーザ名とパスワードが第三者に不正に入手される可能性があります。

もし、ご利用の Web サーバが SSL(Secure Socket Layer)暗号化 HTTPS Web 通信プロトコルをサポートしている場合、セキュリティを高めるため、Web コンテンツ管理者に Web コンテンツ管理システムにアクセスする際に SSL 経由でログインすることを義務づけることができます。もし Web サイト管理者が標準の HTTP プロトコル経由でログインしようとした場合、SSL 暗号化 HTTPS プロトコルを使用するよう自動的にリダイレクトされます。

このオプションは Web コンテンツ管理システムが SSL でアクセスされる場合のみ有効にするよう、ご注意ください。Web サーバで SSL が設定されていない場合、Web コンテンツ管理システムにアクセスできなくなります。SSL を使って Web コンテンツ管理システムにアクセスするには、URL “http://yourwebsite/webadmin” の代わり

に、"<https://yourwebsite/webadmin>"を使用してください。

- Web サイト管理者ログアウトのあとに SSL を使用する
デフォルトでは、Web サイト管理者は公開 Web サイトにリダイレクトされます (<http://yourwebsite.com/>)。 オプションで、代わりに SSL 経由で Web サイト管理者を Web サイトにリダイレクトさせることも可能です (<https://yourwebsite.com/>)。
- 登録済み Web サイト・ユーザに SSL 経由でのログインを義務づける
デフォルトでは、登録済み Web サイト・ユーザは、標準の HTTP Web 通信プロトコルでログインすることができます。このような通信は、モニタされ Web サイト・ユーザ名とパスワードが第三者に不正に入手される可能性があります。

もしご利用の Web サーバが SSL(Secure Socket Layer)暗号化 HTTPS Web 通信プロトコルをサポートしている場合、セキュリティを高めるため、登録済み Web サイト・ユーザに SSL 経由でログインすることを義務づけることができます。もし登録済み Web サイト・ユーザが標準の HTTP プロトコル経由でログインしようとした場合、SSL 暗号化 HTTPS プロトコルを使用するよう自動的にリダイレクトされます。

- Web サイト登録ユーザーログアウトのあとに SSL を使用する
デフォルトでは、登録済み Web サイト・ユーザは公開 Web サイトにリダイレクトされます (<http://yourwebsite.com/>)。 オプションで、代わりに SSL 経由で登録済み Web サイト・ユーザを Web サイトにリダイレクトさせることも可能です (<https://yourwebsite.com/>)。



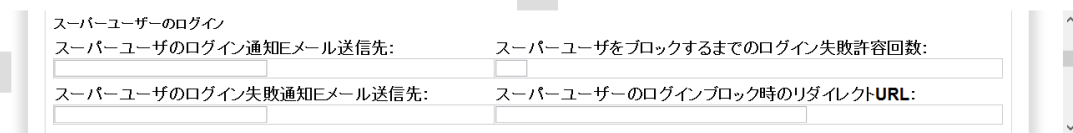
2.5.4.2 ログイン試行制限とログイン通知 E メール

2.5.4.2.1 スーパーユーザ・ウェブサイト管理者ログイン

- スーパー・ユーザ・ログイン時の通知 E メール送信先
スーパー・ユーザによる Web コンテンツ管理システムへの全アクセスを監視するため、スーパー・ユーザが Web コンテンツ管理システムにログインする度に E メール通知を送信させることができます。
- スーパー・ユーザ・ログイン失敗時の通知 E メール送信先
スーパー・ユーザによる Web コンテンツ管理システムへのログイン失敗を全て監視するため、スーパー・ユーザが Web コンテンツ管理システムにログイン失敗する度に E メール通知を送信させることができます。
- スーパー・ユーザのログインを複数回失敗後ブロック
スーパー・ユーザ Web サイト管理者でのログインが、一定の連続回数失敗すると、スーパー・ユーザへ新しいランダムなパスワードが生成され、その新パスワードを取得するには、

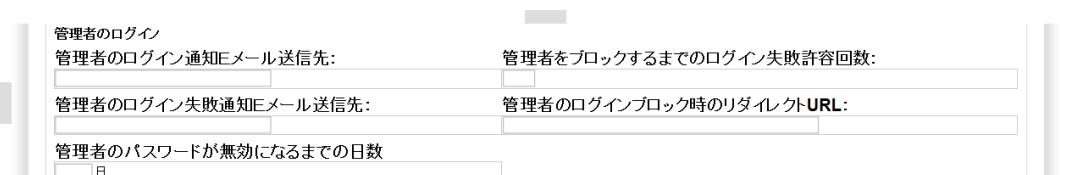
“/webadmin/password/”機能を使用しなければいけません。

- ブロックされたスーパー・ユーザを特定の URL へリダイレクト
規定回数以上のログイン試行失敗によりスーパー・ユーザでのログインがブロックされた場合には、特定の URL へリダイレクトされます。



2.5.4.2.2 Web サイト管理者ログイン

- 管理者ログイン時の通知 E メール送信先
Web 管理者による Web コンテンツ管理システムへの全アクセスを監視するため、Web 管理者が Web コンテンツ管理システムにログインする度に Eメールの通知を送信させることができます。
- 管理者ログイン失敗時の通知 E メール送信先
Web サイト管理者による Web コンテンツ管理システムへのログイン失敗を全て監視するため、Web 管理者が Web コンテンツ管理システムにログイン失敗する度に Eメール通知を送信させることができます。
- アドミンのログインを複数回失敗後ブロック
Web サイト管理者でのログインが、一定の連続回数失敗すると、Web サイト管理者へ新しいランダムなパスワードが生成され、その新パスワードを取得するには、“/password/”機能を使用しなければいけません。
- ブロックされたアドミンを特定の URL へリダイレクト
規定回数以上のログイン試行失敗により Web サイト管理者でのログインがブロックされた場合には、特定の URL へリダイレクトされます。
- Web サイト管理者パスワード__日後に期限切れ
Web サイト管理者は、最後のパスワード変更から規定の日数が経つと、パスワードを変更するよう促されます。有効期限を設けていない場合は、Web サイト管理者パスワードは期限切れになりません。

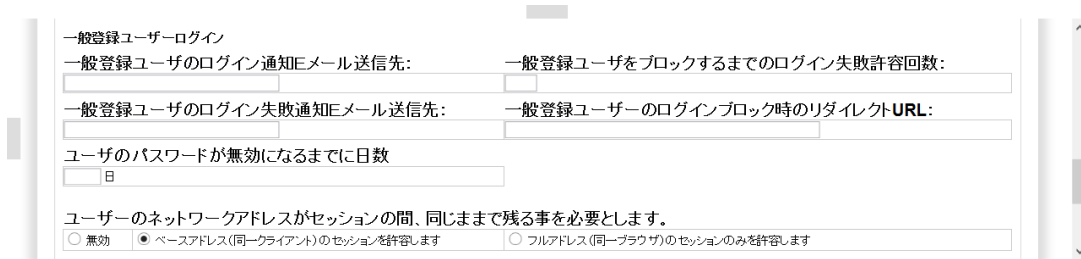


2.5.4.2.3 Web サイトユーザログイン

- ユーザログイン時の通知 E メール送信先
Web サイトユーザによる Web サイトへの全てのアクセスを監視するため、Web サイトユーザがログインする度に通知 Eメールを送信させることができます。
- ユーザログイン失敗時の通知 E メール送信先
Web サイトユーザによる Web サイトへのログイン失敗を全て監視するため、Web サイトユ

ーザがログインに失敗する度に通知 E メールを送信させることができます。

- ユーザのログインを複数回失敗後ブロック
Web サイトユーザのログインが、一定の連続回数失敗すると、Web サイトユーザへ新しいランダムなパスワードが生成され、その新パスワードを取得するには、“/password/”機能を使用しなければいけません。
- ブロックされたユーザを特定の URL へリダイレクト
規定回数以上のログイン試行失敗により Web サイトユーザでのログインがブロックされた場合には、特定の URL へリダイレクトされます。
- Web サイトユーザパスワード__日後に期限切れ
Web サイトユーザは、最後のパスワード変更から規定の日数が経つと、パスワードを変更するよう促されます。有効期限を設けていない場合は、Web サイトユーザのパスワードは期限切れになりません。
- Web サイト訪問者のインターネットアドレスを要求する
いわゆるセッションハイジャックやセッション固定化のような Web サイト攻撃を防ぐために、Web サイト訪問者のインターネットアドレスがチェックされ規制されます。
 - 無効
Web サイト訪問者のインターネットアドレスはチェック・規制されません。
警告: 無効に設定すると、Web サーバーやプロキシサーバー、ファイアウォール等による他の方法で対策しない限り、Web サイト訪問者のログイン等が、セッションハイジャックやセッション固定化といった Web サイト攻撃を受けやすくなります。
 - ベースアドレスがセッション間には同じであることが必要 (デフォルト)
Web サイト訪問者のインターネットアドレスの特定の最初の部分に変更されることは許可するが、ベースアドレスは同じままでなければならない。Web サイト訪問者の会社やインターネットサービスプロバイダが、定期的にインターネットアドレスを新しくしていたり (例えば “cust-66-249-71-87.someisp.net” から “cust-66-249-71-53.someisp.net” へ)、または多数の異なるプロキシサーバーを使用していたり (例えば、“proxy-x.someisp.net” から “proxy-y.someisp.net” へ) しても、Web サイト訪問者は同一のユーザと見なされログイン状態は継続されます。もしベースアドレスが変更されていた場合には、Web サイト訪問者は新しいユーザと見なされ自動的にログアウト等となります。
 - フルアドレスがセッション間には同じであることが必要
Web サイト訪問者のフルインターネットアドレスが同じままでなければならない。インターネットアドレスのどの部分であろうと変更されると、Web サイト訪問者は新しいユーザと見なされ自動的にログアウト等となります。
警告: Web サイト訪問者の会社やインターネットサービスプロバイダが動的なアドレスを使用していたり、複数のプロキシサーバーを使っていたりする公共の Web サイトでは、ログインに関して問題が起こる可能性があります。



一般登録ユーザーログイン

一般登録ユーザーのログイン通知Eメール送信先: 一般登録ユーザーをブロックするまでのログイン失敗許容回数:

一般登録ユーザーのログイン失敗通知Eメール送信先: 一般登録ユーザーのログインブロック時のリダイレクトURL:

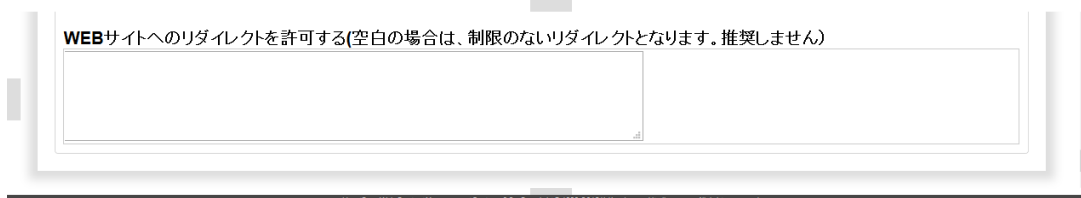
ユーザーのパスワードが無効になるまでに日数

ユーザーのネットワークアドレスがセッションの間、同じままで残る事を必要とします。

無効 ベースアドレス(同一クライアント)のセッションを許容します フルアドレス(同一ブラウザ)のセッションのみを許容します

2.5.4.2.4 リダイレクト許可アドレス

Web コンテンツ管理システムでは、HTML FORM やリンクに“redirect”パラメータを使用することができますが、悪質な外部サイトへのリダイレクトを許してしまうと、悪用される恐れがあります。そこで、リダイレクトを、自社サイトや信頼できる外部サイトに限定することを推奨します。Web サイトアドレスを入力（複数の場合は、改行区切り）して保存すると、指定したWeb サイトアドレスにのみリダイレクトが許可されるようになります。



WEBサイトへのリダイレクトを許可する(空白の場合は、制限のないリダイレクトとなります。推奨しません)

HeartCore Web Content Management System ©2 - Copyright©1999-2015 iYon, Inc. and its licensors. All rights reserved.

2.5.5 特殊ページ

Web コンテンツ管理システムや Web サイト機能の標準機能において、多種多様な特殊ページが使用されています。特定の状況で表示される普通のページもあれば、特殊コードや特殊フォームを使って開発されたページもあります。特殊コードと特殊フォームの詳細は、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照下さい。

- デフォルトのページ(ホームページ)

Web サイトがアクセスされるときにデフォルトホームページとして表示されるページ。デフォルトの“Home”ページは、どのページでも選択可能です。
- ページが存在しない場合のデフォルト・ページ

Web サイト上で存在しないページがアクセスされた場合に表示されるページ。または、HTTP プロトコル・エラー「404 Not Found」コードを Web ブラウザに返すこともできます。
- ページが公開されていない場合のデフォルト・ページ

Web サイト上で非公開のページがアクセスされた場合に表示されるページ。または、HTTP プロトコル・エラー「404 Not Found」コードを Web ブラウザに返すこともできます。
- 公開期限が切れていた場合のデフォルト・ページ

Web サイト上で期限切れのページがアクセスされた場合に表示されるページ。または、HTTP プロトコル・エラー「404 Not Found」コードを Web ブラウザに返すこともできます。
- デフォルトのログイン・ページ

アクセスが制限されたコンテンツにアクセスする際に、Web サイト訪問者にユーザ名とパスワードを要求するページ。このページは特別なコードが含まれているので、デフォルトの

“ログイン” ページのままにしておいた方がよいでしょう。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。

- デフォルトの検索結果ページ
Web サイト訪問者が検索機能を使用した際に、検索結果を表示するページ。このページは特別なコードが含まれているので、デフォルトの“検索結果” ページのままにしておいた方がよいでしょう。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- デフォルトの検索結果エントリ
検索結果ページにおいて、各検索結果エントリを表示するページ。このページは、特別なコードが含まれているので、デフォルトの“検索結果エントリ” ページのままにしておくのがよいでしょう。詳細については「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- デフォルトのリスト・エントリ
様々なページで、`@@@list:@@@`タグを使用して、リスト・エントリを表示するのに使われます。このページは、特別なコードが含まれているので、デフォルトの“リストエントリ” ページのままにしておくのがよいでしょう。詳細については「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- 公開準備完了 E メール
コンテンツが作成・更新され、「公開準備完了」としてマークされた際に、Web サイト管理者に E メール送信されるページ。このページは、特別なコードが含まれているので、デフォルトの“公開準備完了” ページにしておくのがよいでしょう。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- ユーザ登録確認メール
Web サイト訪問者がユーザ登録をした際、その訪問者に E メール送信されるページ。
- ユーザ登録通知メール
Web サイト訪問者がユーザ登録をした際、Web サイト管理者に E メール送信されるページ。
- デフォルトのパーソナル管理ページ
ユーザが Web サイト上で自身のパーソナルページを更新できるよう、ユーザに表示するページ。
- パスワード取得ページ
ユーザ名／パスワードを取得するためにユーザに表示されるページ。パスワード取得ページは一般のページではなく、特別なコードが含まれています。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- パスワード取得確認ページ
ユーザ名／パスワードの取得が成功した際にユーザに表示されるページ。パスワード取得確認ページは一般のページではなく、特別なコードが含まれています。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- パスワード取得 E メール
ユーザ名／パスワードの取得が成功した際にユーザに E メール送信されるページ。パスワード取得 E メールは一般のページではなく、特別なコードが含まれています。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。

- パスワード取得エラー
ユーザ名／パスワードの取得が失敗した際にユーザに表示されるページ。パスワード取得エラーは一般のページではなく、特殊なコードが含まれています。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- パスワード期限切れページ
パスワードが切れていた場合に、ユーザに表示されるページ。
- コンテンツ印刷ページ
Web サイトコンテンツおよびメディアライブラリの各インデックスページより、コンテンツ項目を選択して「印刷」を押下した際にレポートとして表示する特殊ページを、いくつでも作成、設定することができます。このような特殊レポートページは、“@@@list:content:.....id in ###id###:.....@@@” や他の特殊コードを使って作成し、選択したコンテンツ項目のデータを様々な方法で表示させることが可能です。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- ユーザ印刷ページ
ユーザデータベースのインデックスページより、ユーザデータベースアカウントを選択して「印刷」を押下した際にレポートとして表示する特殊ページを、いくつでも作成、設定することができます。このような特殊レポートページは、“@@@list:users:.....id in ###id###:.....@@@” や他の特殊コードを使って作成し、選択したユーザデータベースアカウントのデータを様々な方法で表示させることが可能です。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。



HeartCore Web Content Management System © 2 - Copyright © 1999-2015 Xyfon Inc. and its licensors. All rights reserved.

2.5.6 特殊設定

特別な要件が無い限り、これらの特殊設定はデフォルトのままにしておくのがよいでしょう。

2.5.6.1 Web サイトの特殊設定

- イメージ Web アドレス
 - 間接 (デフォルト)
イメージは、“/image.xxx” スクリプト (“xxx” は、お使いの Web コンテンツ管理システムのバージョンに応じて、“asp”、“jsp”あるいは“php”になります) を使って、間接的に表示されます。
 - 直接 (こちらのほうが早いですがいくつかの機能が無効になります)
イメージは、Web サーバ上のイメージ・ファイル名を使って直接的に表示されます。この方法では、HeartCore Web コンテンツ管理システムの次の機能が使用できません：アクセスコントロール機能、ステージング機能、バージョン管理機能。また、イメージは、フォーマットの異なる別のイメージに置換することができません。
- ファイル Web アドレス
 - 間接 (デフォルト)
ファイルは、“/file.xxx” スクリプト (“xxx” は、お使いの Web コンテンツ管理システムのバージョンに応じて、“asp”、“jsp”あるいは“php”になります) を使って、間接的に開かれます。

デフォルトでは、ファイルへのリンクは“/file.xxx?id=ID”形式が使用されます、ID には Web コンテンツ管理システム内のユニークコンテンツ id が入ります。代わりに、“/file.xxx?FILENAME.XXX”形式を手動でコンテンツエディタへ入力して使用することも可能です、FILENAME.XXX には Web コンテンツ管理システム内のファイルのファイル名が入ります。
 - 直接 (こちらのほうが早いですがいくつかの機能が無効になります)
ファイルは、Web サーバ上のファイルのファイル名を使って直接的に開かれます。この方法では、HeartCore Web コンテンツ管理システムの次の機能が使用できません：アクセスコントロール機能、ステージング機能、バージョン管理機能。また、ファイルは、フォーマットの異なる別のファイルに置換することができません。
- リンク Web アドレス
 - 間接 (デフォルト)
リンクは、“/link.xxx” スクリプト (“xxx” は、お使いの Web コンテンツ管理システムのバージョンに応じて、“asp”、“jsp”あるいは“php”になります) を使って、間接的に開かれます。
 - 直接 (こちらのほうが早いですがいくつかの機能が無効になります)
リンクは、リンクの Web アドレス URL を使って直接的に開かれます。この方法では、HeartCore Web コンテンツ管理システムの次の機能が使用できません：アクセスコントロール機能、バージョン管理機能。また、既存のリンクが更新されても、自動的に更新されません。
- スタイルシート Web アドレス
 - 間接 (デフォルト)
スタイルシートは、“/stylesheet.xxx” スクリプト (“xxx” は、お使いの Web コンテンツ管理システムのバージョンに応じて、“asp”、“jsp”あるいは“php”になります) を使って、間接的にロードされます。

- 直接（こちらのほうが早いですがいくつかの機能が無効になります）
スタイルシートは、スタイルシートの Web アドレス URL を使って直接的に開かれます。この方法では、HeartCore Web コンテンツ管理システムの次の機能が使用できません：アクセスコントロール機能、バージョン管理機能。また、既存のリンクが更新されても、自動的に更新されません。
- インライン（こちらのほうが早いですがいくつかの機能が無効になります）
スタイルシートは、各 Web ページにインラインで記述されます。この方法では、HeartCore Web コンテンツ管理システムのアクセスコントロール機能が使えません。
- スクリプト Web アドレス
 - 間接（デフォルト）
スクリプトは、“/script.xxx” スクリプト（“xxx” は、お使いの Web コンテンツ管理システムのバージョンに応じて、“asp”、“jsp” あるいは“php”になります）を使って、間接的にロードされます。
 - 直接（こちらのほうが早いですがいくつかの機能が無効になります）
スクリプトは、スクリプトの Web アドレス URL を使って直接的に開かれます。この方法では、HeartCore Web コンテンツ管理システムの次の機能が使用できません：アクセスコントロール機能、バージョン管理機能。また、既存のリンクが更新されても、自動的に更新されません。
 - インライン（こちらのほうが早いですがいくつかの機能が無効になります）
スクリプトは、各 Web ページにインラインで記述されます。この方法では、HeartCore Web コンテンツ管理システムのアクセスコントロール機能が使えません。

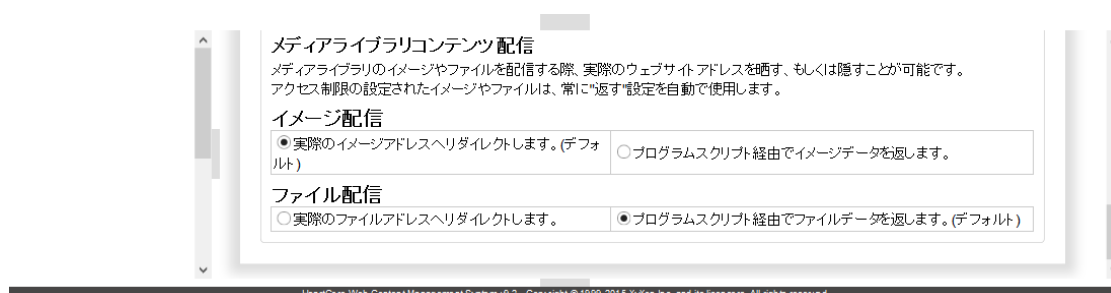


2.5.6.2 メディアライブラリコンテンツ配信

イメージおよびファイルへのアクセスを、“/image.xxx” や “/file.xxx” といったスクリプト経由で間接的に行う場合 (“xxx” は、“aspx”/“jsp”/“php”)、実際のイメージアドレス/ファイルアド

レスへ訪問者のブラウザをリダイレクトさせることもできますし、もしくは実際のイメージアドレス/ファイルアドレスは隠したままスクリプトを使ってデータを返すことも可能です。

- イメージ配信
 - 実際のイメージアドレスへリダイレクトします。(デフォルト)
実際のイメージアドレスへ訪問者のブラウザがリダイレクトされ、イメージの Web アドレスが晒されます。
 - プログラムスクリプト経由でイメージデータを返します。
実際のイメージアドレスは隠したままプログラムスクリプト経由でイメージデータを返します。
- ファイル配信
 - 実際のファイルアドレスへリダイレクトします。
実際のファイルアドレスへ訪問者のブラウザがリダイレクトされ、ファイルの Web アドレスが晒されます。
 - プログラムスクリプト経由でファイルデータを返します。(デフォルト)
実際のファイルアドレスは隠したままプログラムスクリプト経由でファイルデータを返します。



2.5.7 Web サイトアドレス URL 再描画

デフォルトでは、Web コンテンツ管理システムは“動的”な Web サイトアドレスを使用します。検索エンジンやログ分析ツールの中には、このような Web ページ上のリンクをフォローしなかったり、インデックス化を行わなかったりする場合があります。オプションで、Web ページを“静的”な Web アドレスに公開できるよう、ページの追加時や更新時にファイル名を入力することが可能です。もしくは、Web サイトアドレスを“静的”に見せるよう設定することもできます。ただし、Web サーバーがそのような Web サイトアドレスをサポート、処理できることが必要です。

- 「動的」 Web アドレス
特別な Web サーバ設定が必要のない、”/page.asp?id=1”のような「動的」 Web アドレスを使用。
- 「静的」 Web アドレス
検索エンジンやログ分析と相性の良い、“/page.asp/id=1”のような「静的」 Web アドレスを使用。Web サーバの特別な設定が必要です。

デフォルトの「動的」 Web アドレスは、全ての標準の Web サーバ・ソフトウェアで使用可能です。

「静的」Webアドレスを使用するには、URLリライトが可能なWebサーバ・ソフトウェアが必要です。例えば、mod_rewrite モジュール付きのApacheや、商用あるいは無料のURLリライトISAPIフィルターを使ったMicrosoft Internet Information Server (IIS)などがあります。

HeartCore Web コンテンツ管理システムの「動的」WebアドレスURL書き換え機能を使用するには、以下のApache mod_rewriteの例のように、URL Webアドレスを書き換えるようにWebサーバを設定する必要があります。

```
RewriteCond %{REQUEST_URI}  ^/(+)/id=(.*)$

RewriteRule ^/(+)/id=(.*)$  /$1?id=$2&{%QUERY_STRING} [L]
```

上記のような、Apache mod_rewriteは、入ってくる要求が“/page.asp?id=1”の例のように、フォーマットの“/FOO/id=BAR”に合致するかを確認します。もし入ってくる要求がこのフォーマットに一致するならば、この要求は“/page.asp?id=1”のようなフォーマットの“/FOO?id=BAR”に書き換えられます。

設定方法の詳細については、WebサーバやURLリライト・ソフトウェアのドキュメントを参照してください。



2.5.8 メディアストレージ

デフォルトでは、HeartCore Web コンテンツ管理システムは、イメージやファイルをWebサイトのサーバへ保管します。WebサイトとHeartCore Web コンテンツ管理システムが、複数サーバのクラスター上で動作している場合は、すべてのサーバでイメージやファイルが使用できるよう、共有ファイルストレージやミラーリング/複製ファイルストレージにて保管するようセットアップが必要です。代わりに、クラウドストレージサービス（もしくはその他の共有ストレージサービス）を使用することも可能です。

- クラウドストレージ

- サービス：
 - 使用するクラウドストレージサービス

- -なし-

イメージとファイルは、Webサーバ上のローカルでのみ保管されます。
(外部の共有ファイルストレージやミラーリング/複製ファイルストレージ)

ジにて保管するよう、Web サーバをセットアップしている場合は除く)

- Amazon S3
イメージとファイルは、Amazon S3 のシンプルストレージサービス上で保管されます。(http://aws.amazon.com/s3/).
- - その他 -
イメージとファイルは、独自もしくはサードパーティ製の API プログラムスクリプトを使って、その他のクラウドストレージサービスへ保管されます。(詳細は、インストールガイドおよびプログラミング API ガイドをご参照ください、)

- ユーザ名/キー
使用するクラウドストレージへイメージやファイルを保管するための認証ユーザ名/認証キー
- パスワード/シークレット
使用するクラウドストレージへイメージやファイルを保管するための認証パスワード/認証シークレット
- フォルダ (/バケット) パス/名前
使用するクラウドストレージ上で、イメージやファイルの保管場所となるフォルダ/バケット

- メディア URL

- メディアウェブアドレス URL プリフィックス
クラウドストレージ上に保管されたイメージやファイルへアクセスする際に使用する外部ウェブアドレス。例：“http://yourwebsite.s3.amazonaws.com”

注意：Web コンテンツ管理システムのメディア配信設定が、実際のイメージアドレスへやファイルアドレスへリダイレクトする設定の場合、このメディア URL でクラウドストレージ上のイメージやファイルを閲覧/ダウンロードできるよう、お使いのクラウドストレージサービスにパブリックアクセスの許可設定を行ってください。Web コンテンツ管理システムのメディア配信設定が、プログラムスクリプト経由でイメージやファイルのデータを返す設定の場合は、少なくとも Web サーバが、このメディア URL でクラウドストレージ上のイメージやファイルにアクセス/ダウンロードできるよう、お使いのクラウドストレージサービスへ許可設定を行ってください。詳しくは、エラー! 参照元が見つかりません。2.5.6.2 メディアライブラリコンテンツ配信をご参照ください。

- 公開

詳細は、3.13.2 動的および静的 Web アドレスをご参照ください。

- ページを公開するのに動的 Web アドレスを使用します。
公開ページへのアクセスは、以下のような動的 Web アドレスでのみ可能です。
“http://localhost/page.aspx?id=123”
- ページを公開するのに静的 Web アドレスを有効にします。
以下のような静的な Web アドレスへページを公開することが可能です。
“http://localhost/about.html”。

- *.html ファイルと*.css ファイルを動的に出力します。（デフォルト）
- *.html ファイルと*.css ファイルを Web サーバに対し、静的なファイルとして配信します。（高速化されますが無効になる機能があります）
- 静的 Web アドレスにファイルは作成しません。（クラウドストレージ使用時は必須）

重要：クラウドストレージを使用し、且つ静的な Web アドレスを有効にする場合は、必ずこの設定を選択してください。

注意：この設定を変更して保存したら、必ず「データベースアップグレード」リンクをクリックして、静的 Web アドレスに対して既存コンテンツのファイルを作成／更新／削除してください。



The screenshot shows the 'Media Storage' configuration page. The 'Public' (公開) section has the following options:

- ページを公開するのに動的Webアドレスを使用します。
- ページを公開するのに静的Webアドレスを有効にします。
 - *.htmlファイルと*.cssファイルを動的に出力します。
 - *.htmlファイルと*.cssファイルをWEBサーバに対し、静的なファイルとして配信します。
 - 静的なアドレスは作成しないでください（クラウドストレージが必要です）

注意: この設定を行った後に、静的なアドレスのファイルを、作成/更新/削除を行った場合は、必ず「データベースの更新をクリックしてください。」

2.6 マイクロサイト

いわゆるマイクロサイトを使用して、Web サイトのインターネット・ドメイン毎に異なるデフォルト・ページ（ホームページ）を表示させることができます。それぞれ、異なるテンプレートやスタイルシートを使用したり、様々な方法で商品価格を計算、表示させることも可能です。また、マイクロサイトは、Web サイト訪問者の Web ブラウザや Web ブラウザ言語設定ごとに異なるデフォルト・ページ（ホームページ）を表示し、異なるテンプレートやスタイルシートを使用することも可能です。最後に、マイクロサイトは、検索エンジンや他の Web サイトからのリファラーの LPO 用にも使用可能です。

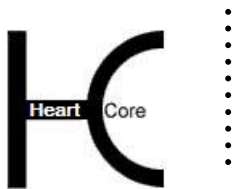
2.6.1 インターネット・ドメイン名

デフォルトでは、Web サイトにアクセスすると、設定された Web サイトのデフォルト・ページ（ホームページ）、デフォルト・テンプレート、そしてデフォルト・スタイルシートが表示されます。Web サイトは、いくつかの異なるインターネット・ドメイン名を持っている場合もありますが、HeartCore Web コンテンツ管理システムはデフォルトではこれらドメイン名を区別しません。

しかし、Web サイトの異なるセクションやページに誘導するためにそれぞれ異なるインターネット・ドメイン名が必要な場合があります。例えば:

- **www.yourcompany.com**
メインページに直接誘導。
- **www.yourcompany.co.uk**
メインページに直接誘導。
- **support.yourcompany.com**
サポートページに直接誘導。
- **partner.yourcompany.com**
パートナーページに直接誘導。
- **www.yourproduct1.com**
ある商品ページに直接誘導。
- **www.yourproduct2.com**
別の商品ページに直接誘導。
- **news.**
“news” から始まるインターネット・ドメイン名。ニュースページに誘導。
- **shop.**
“shop” から始まるインターネット・ドメイン名。E コマースページに誘導。
- **mobile.**
“mobile” から始まるインターネット・ドメイン名。モバイル用に最適化された Web サイトのメインページに誘導。
- **.co.uk**
“.co.uk” で終わるインターネット・ドメイン名。英国用 Web サイトのメインページに誘導。
- **.de**
“.de” で終わるインターネット・ドメイン名。ドイツ用 Web サイトのメインページに誘導。
- **.fr**
“.fr” で終わるインターネット・ドメイン名。フランス用 Web サイトのメインページに誘導。

HeartCore Web コンテンツ管理システムのマイクロサイト機能を使って、こうした設定を容易に行うことができます。



まず、インターネット・ドメイン名プロバイダを通じて、お持ちの Web サイト用にインターネット・ドメイン名を開設します。これらのインターネット・ドメイン名は、はじめは Web サイトのデフォルト・ページ（ホームページ）につながります。

引き続きデフォルト・ページ（ホームページ）に誘導する一般的なインターネット・ドメイン名に対しては何もしなくて結構です。

2.6.2 ビジターの訪問元インターネット・アドレス設定

デフォルトでは、Web サイト訪問者がどこのインターネット・アドレスからアクセスしているかにかかわらず、すべて同一の Web ページが表示されます。しかし、異なる地域（インターネット・アドレス）からの Web サイト訪問者に Web サイトの異なるセクションやページを表示させたい場合があります。例えば：

- ローカル・エリア・ネットワーク上の従業員には、Web サイトのイントラネット用メインページを表示する。
- （インターネット・サービス・プロバイダの場合）顧客に Web サイトの既存顧客用ニュース・ページとサポート・ページを表示する。
- 異なる国からの Web サイト訪問者には、Web サイトのそれぞれの母国語のページを表示する。

HeartCore Web コンテンツ管理システムを使用すると、こうした設定を容易に行うことができます。

Web サイトがアクセスされた際、デフォルトでは、Web サイトに設定しているデフォルトページ（ホームページ）が表示されます。Web サイトビジターによって異なるデバイスやブラウザを使用している場合もありますが、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムはデフォルトではこれらを区別しません。

2.6.3 ユーザ・エージェント（Web ブラウザ）

しかし、Web サイトビジターがアクセスするデバイスや、使用する Web ブラウザによっては（携帯電話からのアクセスや、簡易テキスト Web ブラウザ、特別なアクセシビリティの Web ブラウザ、そして古いタイプの標準でない Web ブラウザなど）、それぞれ異なったデフォルトのページ（ホームページ）へ導きたい場合があります。

- 携帯電話 Web ブラウザ

お使いの Web サイトの、簡易版、低帯域幅のデフォルトページを表示します。

- 古いタイプの標準でない Web ブラウザ

ユーザに対して、古いタイプの標準でない Web ブラウザを使用しているので、お使いの Web サイト上で正常に動作しない恐れがある、という警告付きのデフォルトページを表示します。

これは、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムのマイクロ Web サイト機能を使用することで簡単に設定できます。

各 Web ブラウザは、それぞれ以下のような“ユーザー・エージェント”識別を持っています。

Microsoft Internet Explorer 8 Web ブラウザでは；



Mozilla/4.0 (compatible; MSIE 8.0; Windows NT 6.0; Trident/4.0; Mozilla/4.0 (compatible; MSIE 6.0; Windows NT 5.1; SV1) ; SLCC1; .NET CLR 2.0.50727; Media Center PC 5.0; .NET CLR 1.1.4322; .NET CLR 3.5.21022; WWTClient2; .NET CLR 3.5.30729; .NET CLR 3.0.30729)

Apple iPhone Safari Web ブラウザでは ;

Mozilla/5.0 (iPhone; U; CPU like Mac OS X; en) AppleWebKit/420+ (KHTML, like Gecko) Version/3.0 Mobile/1A543 Safari/419.3

各 Web ブラウザのバージョンでは、それぞれ異なる “ユーザー・エージェント” 識別を持っている場合があるのでご注意ください。

マイクロ Web サイト・フィルターは、“ユーザー・エージェント” 識別のどの部分にでも一致しますので、完全な “ユーザーエージェント” 識別の設定は必ずしも設定する必要はありませんが、関連する Web ブラウザに対して何かユニークなものが必要となります。

2.6.4 Web ブラウザの言語設定

デフォルトでは、Web サイトにアクセスされると、この Web サイトに設定されているデフォルト・ページ（ホームページ）が表示されます。Web サイト訪問者はそれぞれ異なるブラウザ言語設定を選択していることがありますが、デフォルトでは HeartCore Web 管理システムはこれを識別しません。

しかし、Web サイト訪問者のブラウザ言語設定によって、それぞれ異なるデフォルト・ページ（ホームページ）を表示したい場合があります。例えば：

- French [fr]
フランス語のデフォルト・ページ／バージョン Web サイトを表示する。
- German [de]
ドイツ語のデフォルト・ページ／バージョン Web サイトを表示する。

これらは、HeartCore Web 管理システムのマイクロ Web サイト機能を使って容易に設定することができます。

2.6.5 他の Web サイトからの参照元情報

デフォルトでは、他の Web サイト上のリンクを通じてアクセスされた場合、デフォルト・ページ（ホームページ）が表示されるよう設定されています。「ランディング・ページ最適化」のため、どの Web サイトから、もしくはどの Web ページから訪問者が訪れたのかによって、異なるデフォルト・ページ（ホームページ）を表示させたい場合があります。例えば：

- 他の特別な趣味の Web サイト／ページからの Web サイト訪問者は、最も関心がありそうな情報や商品ページに誘導する
- アフィリエイト／キャンペーン Web サイト／ページからの訪問者は、特別オファーを記載したページに誘導する

これは、HeartCore Web コンテンツ管理システムのマイクロ Web サイト機能を使って簡単に設定することができます。

2.6.6 検索エンジンおよびディレクトリ Web サイト検索の参照元情報

デフォルトでは、検索エンジンやディレクトリ Web サイト検索を通じてアクセスされた場合、デフォルト・ページ（ホームページ）が表示されるよう設定されています。「ランディング・ペ

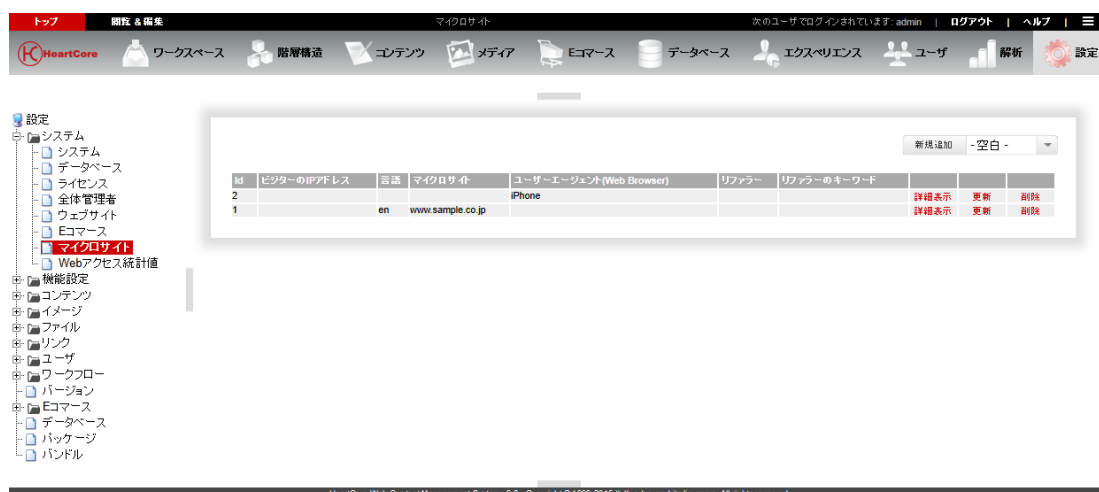
「ページ最適化」のため、Web サイト訪問者がどの検索クエリを使って Web サイトを見つけたかによって、異なるデフォルト・ページ（ホームページ）を表示させたい場合があります。例えば：

- ある特定の情報／商品を検索していた Web サイト訪問者には、同種の情報や商品に直接誘導する
- 商品のある特定の使用法や機能を検索していた Web サイト訪問者には、それらの使用法や機能を具体的に記載したページに誘導する

これは、HeartCore Web コンテンツ管理システムのマイクロ Web サイト機能を使って簡単に設定することができます。

2.6.7 マイクロサイトの設定

デフォルト・ページ（ホームページ）以外のページを表示させるため、追加のインターネット・ドメイン名や Web サイト訪問者の Web ブラウザ言語設定の設定を行うには、設定 - システム - マイクロサイトのメニュー項目リンクを選択します。



ID	ビジターのIPアドレス	言語	マイクロサイト	ユーザーエージェント(Web Browser)	リファラー	リファラーのキーワード	詳細表示	更新	削除
1		en	www.sample.co.jp	iPhone			詳細表示	更新	削除

それぞれ追加するインターネット・ドメイン名や Web サイト訪問者のブラウザ言語設定、参照元アドレスや参照元キーワードに対し、新規追加を選択してください。インターネット・ドメイン名および／あるいは Web ブラウザ言語設定および／あるいは参照元 Web サイトアドレスおよび／あるいは参照元キーワードを入力し、関連するデフォルト・ページ等を選び、保存を選択します。

- ドメイン
追加するインターネット・ドメイン名のフルネーム。例えば"support.yourcompany.com"など。
- ビジター訪問元
web サイト訪問者のインターネットアドレス。オプションです（空白の場合は、すべてのインターネットアドレスからの訪問者が対象となります）。例えば：
 - インターネット IP アドレスの範囲を指定するには、"192.168.0.1-192.168.0.255"
 - 特定のインターネット IP アドレスを指定するには、"192.168.0.128"
 - インターネット IP アドレスのサブネットを指定するには "192.168." または "192.168.0."

- インターネット・ドメイン名アドレスを指定するには".jp"または".uk"または".fr"または".xyxon.co.jp"
- ユーザ・エージェント (Web ブラウザ)
オプション (空白の場合は、すべての Web ブラウザが対象となります)。完全もしくは部分的な Web ブラウザ・ユーザーエージェントの識別文字列。
- 言語
オプション (空白の場合は、すべてのブラウザ言語設定が対象となります)。例えば"en", "en-us", "fr" または "de"などの web ブラウザの言語コードを指定します。
- リファラ (参照元)
オプション (空白の場合は、すべてのインターネット・アドレスからの参照が対象となります)。あなたの Web サイトへのリンクをもつ他の Web サイトのインターネット・アドレス。例えば：
 - “google.com” Google 検索エンジンからの参照
 - “yahoo.com” Yahoo のイエローページからの参照
 - “affiliatewebsite.com/specialoffers.html” アフィリエイト Web サイトの特定の Web ページからの参照
- リファラ・キーワード
オプション。(空白の場合は、すべての参照キーワードやキーワード無しの場合が対象となります) あなたの Web サイトを見つけるために使用された検索エンジンやディレクトリ Web サイトの検索ワードやフレーズ。例えば：
 - “cms”- 「cms」という単語/略語のクエリ
 - “web、エディタ”- 「web」および「エディタ」という単語のクエリ
 - “コンテンツ管理システム”- 「コンテンツ管理システム」というフレーズのクエリ
- デフォルトページ
そのインターネット・ドメイン名 (およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定) を使って Web サイトがアクセスされた際に表示するデフォルト・ページ。
- ページが存在しない場合のデフォルトページ
そのインターネット・ドメイン名 (およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定) を使って Web サイトの存在しないページがアクセスされた際に表示するデフォルト・ページ。または、HTTP プロトコル・エラー「404 Not Found」コードを Web ブラウザへ返すこともできます。
- ページが公開されていない場合のデフォルトページ
そのインターネット・ドメイン名 (およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定) を使って Web サイトの公開されていないページがアクセスされた際に表示するデフォルト・ページ。または、HTTP プロトコル・エラー「404 Not Found」コードを Web ブラウザへ返すこともできます。
- 公開期限が切れていた場合のデフォルトページ
そのインターネット・ドメイン名 (およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定) を使って Web サイトの期限切れページがアクセスされた際に表示するデフォルト・ページ。または、HTTP プロトコル・エラー「404 Not Found」コードを Web ブラウザへ返すこともできます。

- デフォルトのログインページ
そのインターネット・ドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って Web サイトへログインされた際に表示するデフォルト・ページ。
- デフォルトの検索結果ページ
Web サイト・ビジターが検索機能を使用する場合に、そのインターネット・ドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って検索結果が表示される際に表示するデフォルト・ページ。検索結果ページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルトの検索結果エントリ
そのインターネット・ドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って、検索結果ページの各検索結果エントリが表示される際に表示するデフォルト・ページ。検索結果エントリ・ページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- ユーザ登録確認メール
そのインターネット・ドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って Web サイトのユーザとして登録する際に、ユーザへ E メール送信されるデフォルト・ページ。ユーザ登録確認メール・ページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- ユーザ登録通知メール
そのインターネット・ドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って Web サイトのユーザとして登録する際に、管理者へ E メール送信されるデフォルト・ページ。ユーザ登録通知メール・ページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- パスワード取得ページ
そのインターネット・ドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って、ユーザがユーザ名／パスワード情報を取得する際に表示されるデフォルト・ページ。パスワード取得ページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- パスワード取得確認ページ
そのインターネット・ドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って、ユーザがユーザ名／パスワード情報を取得成功した際に表示されるデフォルト・ページ。パスワード取得確認ページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- パスワード取得 E メール
そのインターネット・ドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って、ユーザがユーザ名／パスワード情報を取得成功した際に、ユーザへ E メール送信されるデフォルト・ページ。パスワード取得 E メール・ページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- パスワード取得エラー
そのインターネット・ドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って、ユーザがユーザ名／パスワード情報を取得失敗した際に表示されるデフォルト・ページ。パスワード取得エラー・ページは、通常のページではなく特殊コードを含む

む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。

- **デフォルトバージョン**
そのインターネット・ドメイン名（またはビジターの訪問元、言語設定）を使って Web サイトにアクセスされた際に使用するデフォルト・バージョン。
- **デフォルトテンプレート**
そのインターネット・ドメイン名（またはビジターの訪問元、言語設定）を使って Web サイトにアクセスされた際に使用するデフォルト・テンプレート。
- **デフォルトスタイルシート**
そのインターネット・ドメイン名（またはビジターの訪問元、言語設定）を使って Web サイトにアクセスされた際に表示するデフォルト・スタイルシート。
- **HTML DOCTYPE**
Web ページで使用される HTML 規格を定義する Web ページヘッダー。空白のままにしておくと、Web ブラウザが Web ページの HTML ドキュメントタイプを判断し処理します。

この HTML DOCTYPE マイクロサイト設定は、Web サイトの HTML DOCTYPE 設定よりも優先されますが、他の HTML DOCTYPE 設定よりは優先度が低く、個々のページ/商品 > テンプレート > ページ/商品グループ > ページ/商品タイプの順で優先されます。

- **デフォルト表示価格**
そのインターネット・ドメイン名（またはビジターの訪問元、言語設定）を使って Web サイトにアクセスされた際に、`@@@price@@@` 特殊コードを使って表示する商品価格のデフォルト・フォーマット。詳しくは、2.7.1 通貨&価格をご参照ください。
- **デフォルトの国**
そのインターネット・ドメイン名（またはビジターの訪問元、言語設定）を使って Web サイトにアクセスされた際に、`@@@price@@@` 特殊コードを使って表示する商品価格の割引や税（VAT 等）、送料を算出するために使用されるデフォルトの国。詳しくは、2.7.1 通貨 & 価格をご参照ください。
- **デフォルトの都道府県**
そのインターネット・ドメイン名（またはビジターの訪問元、言語設定）を使って Web サイトにアクセスされた際に、`@@@price@@@` 特殊コードを使って表示する商品価格の割引や税（VAT 等）、送料を算出するために使用されるデフォルトの都道府県。詳しくは、2.7.1 通貨 & 価格をご参照ください。

追加のインターネット・ドメイン名や、指定の Web サイト訪問者インターネット・アドレス（指定している場合）、指定の言語コードが選択されている Web ブラウザ（指定している場合）、指定の検索ワード（指定している場合）、指定した参照元 Web サイトからのリンク（指定している場合）、を通じて Web サイトにアクセスすると、設定されているデフォルト・ページ（ホームページ）ではなく、ここで指定したマイクロサイトのデフォルト・ページが表示されます。

各マイクロ Web サイト毎にすべて異なる設定を定義する必要はありません。大抵、次のような 1 個～数個の設定の定義で十分でしょう。

- Web サイトにアクセスする際に使用したインターネット・アドレスによって、Web サイト訪問者を異なるセクションに誘導するための、ドメイン設定のみ。
- 社員をイントラネット Web サイトに誘導するための、ビジター訪問元設定のみ。
- Web ブラウザの言語設定に基づいて Web サイト訪問者を異なる言語バージョンの Web サイトに誘導するための、言語設定のみ。
- Web サイト訪問者の参照元である他の Web サイトのリンクによって、最も関連のありそうな情報／商品に誘導するための、リファラ設定のみ。
- Web サイト訪問者が他の検索エンジンやディレクトリ Web サイトで使用した検索ワードに対して、最も関連のありそうな情報／商品に誘導するためのリファラ・キーワード設定のみ。

マイクロ Web サイトは、例えば Web サイト訪問者が単純に”www.yourwebsite.com”にアクセスした場合などの、デフォルト・ページ（ホームページ）にのみ適用されることに注意してください。Web サイト訪問者が、例えば”www.yourwebsite.com/page.jsp?id=123”などのような、具体的なページにアクセスした場合は、マイクロ Web サイトは Web サイト訪問者を別の Web サイトページにリダイレクトはしません。もし Web サイトのどのページにおいても Web サイト訪問者がそこに到達するために使用した Web サイト／ページおよび／または検索キーワードによって異なるコンテンツを表示したい場合は、“リファラ”カスタム拡張を使用することができます。詳細は、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。

HeartCore Web Content Management System v9.2 - Copyright © 1998-2015 Xylofin Inc. and its licensors. All rights reserved.

トップ 開発 & 編集 マイクロサイトを追加します。 次のユーザーでログインしてください: admin ログアウト ヘルプ

ワークスペース 階層構造 コンテンツ メディア エコマース データベース エクスポート/インポート ユーザー 解析

設定

- システム
 - システム
 - データベース
 - ライセンス
 - 全体管理者
 - ウェブサイト
 - エコマース
 - マイクロサイト**
 - Webアクセス統計値
- 機能設定
 - コンテンツ
 - イメージ
 - ファイル
 - リンク
 - ユーザ
 - ワークフロー
 - バージョン
 - エコマース
 - データベース
 - パッケージ
 - バンドル

保存

マイクロサイト

ドメイン

ビジターのIPアドレス

ユーザーエージェント (Web Browser)

言語

リファラー

リファラーのキーワード

デフォルトページ

ページが存在しない場合のデフォルトページ

ページが公開されていない場合のデフォルトページ

公開期限が切れていた場合のデフォルトページ

デフォルトのログインページ

デフォルトの検索結果ページ

デフォルトの検索結果エントリー

ユーザ登録確認メール

ユーザ登録通知メール

パスワード取得ページ

パスワード取得確認ページ

パスワード取得Eメール

パスワード取得エラー

デフォルトバージョン

デフォルトテンプレート

デフォルトスタイルシート

HTML DOCTYPE

デフォルト表示価格

デフォルトの国

デフォルトの都道府県

2.7 E コマースシステム設定

E コマース追加モジュールのライセンス・キーが設定されると、E コマース機能を Web サイトへ設定できるようになります。

基本的な E コマース機能を設定するには、メニュー項目リンクより、設定→システム→E コマースを設定して下さい。

2.7.1 通貨&価格

商品やショッピングカート、注文で使用するデフォルトの通貨および、商品価格の表示方法。

- 通貨
商品やショッピングカート、注文で使用するデフォルトの通貨。
- 表示価格
デフォルトでは、@@@price@@@ 特殊コードを使って表示される商品価格は、単純に商品の定価です。任意で、割引や税、送料、さらには前後のテキストを含め、商品価格を表示するよう@@@price@@@ 特殊コードを設定することができます。予め定義されたオプションをいくつでも選択可能です。また、他のオプションや特殊コード、テキストも手動で入力することができます。
- デフォルトの国 (表示価格用)
デフォルトでは、商品価格は、割引や税、送料を含まず表示されます (既に定価に含まれている場合を除く)。また、ショッピングカートのアイテム価格も、Web サイト・カスタマーが請求先や配送先の国を選択するまでは、割引や税、送料を含まず表示されます。任意で、拠点となる国の割引や税 (VAT 等)、送料を算出および表示させるよう、デフォルトの国を設定することができます。
- デフォルトの都道府県 (表示価格用)
さらに追加で、拠点となる都道府県の割引や税 (VAT 等)、送料を算出および表示させるよう、デフォルトの都道府県を設定することができます。



2.7.2 注文フォーム

すべての受注通知Eメールが送信されるEメール・アドレス



2.7.3 注文管理のアクセス制限

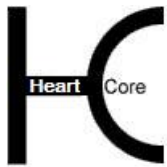
Webサイト注文管理、売上レポート、新規注文ワークフロー、カスタム定義の売上レポートへアクセスできるウェブサイト管理者ユーザ・グループ/ユーザ・タイプ。

- 注文管理アクセス制限 (グループ - タイプ)
注文管理の各ページへアクセスできるウェブサイト管理者ユーザグループ/タイプ。
- 新規注文ワークフロー
Webサイトショッピングカート経由の新規注文に対する、任意の初期ワークフロー状態 (注文ワークフロー機能が使用されている場合)。
 - デフォルト
新規、未支払い、未発送の (有料商品) 注文に対する初期ワークフロー状態。
 - フリー
無料商品のみの新規注文に対する初期ワークフロー状態。
 - 支払済み
新規、支払済み、未発送の (有料商品) 注文に対する初期ワークフロー状態。
 - 一部発送済み
新規、支払済み、 (自動出荷機能を使って) 一部発送済みの注文に対する初期ワークフロー状態。
 - 発送済み
新規、支払済み、 (自動出荷機能を使って) 発送済みの注文に対する初期ワークフロー状態。
- 売上レポートアクセス制限 (グループ - タイプ)
売上セールの各管理ページへアクセスできるウェブサイト管理者ユーザグループ/タイプ。

- 商品&注文インデックスレポート
デフォルトでは、本日、今週、今月のサマリー売上レポートデータが、商品&注文メインページに表示されます。任意で、「商品&注文インデックスレポート」フィールドに空白スペースを入力することで、これらの売上レポートデータを削除することが可能です。もしくは、「sales:REPORT:LIMIT:PERIOD」コードを入力し、カスタムレポートを表示させることもできます。REPORT:LIMIT:USAGEは、下記オプションの中からいずれかと置き換えます。
コードをスペースで区切って、複数のレポートを商品&注文メインページに表示させることができます。例えば、「sales:summary:all:today sales:summary:all:thisweek sales:summary:all:thismonth」と入力すると、本日、今週、今月の売上サマリーデータが表示されます。
これらの売上レポートデータは、すべてのウェブサイト管理者が閲覧可能ですのでご注意ください。
- 売上レポート
個々のレポートをいくつでも組み合わせて、カスタムレポートを定義することができます。売上レポートの左メニューからアクセスします。
このようなカスタムレポートを定義するには、「売上レポート」フィールドへ以下を入力します。
Name = "sales:REPORT:LIMIT:PERIOD sales:REPORT:LIMIT:PERIOD"
REPORT:LIMIT:USAGEは、下記オプションの中からいずれかと置き換えます。各レポートは改行区切りで入力します。例えば、
Summary = "sales:summary:all:today sales:summary:all:thisweek sales:summary:all:thismonth"
Top 10 = "sales:products:10:thisweek sales:products:10:thisweek "
と入力すると、「Summary」および「Top10」という2つのカスタム売上レポートが定義されます。

- REPORT

- summary
- websites
- products
- productgroups
- producttypes
- daily
- weekly
- monthly
- yearly
- hours
- weekdays
- days
- weeks
- months
- countries
- visitors
- operatingsystems
- webbrowsers
- users
- usergroups
- usertypes
- affiliates
- referrers
- searchengines
- searchqueries



searchwords
entry

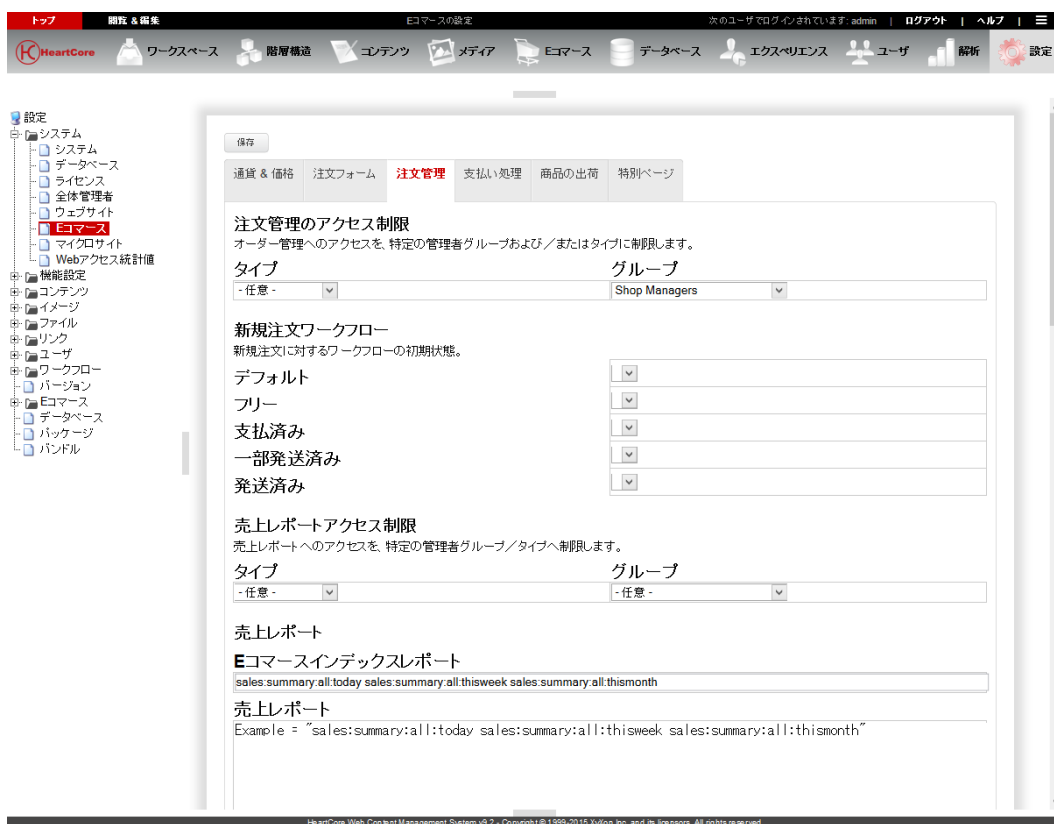
○ LIMIT

all
NUMBER

NUMBER は正の整数

○ PERIOD

all
now
today
last24hours
yesterday
thisweek
last7days
lastweek
last14days
thismonth
last30days
lastmonth
thisquarter
last3months
lastquarter
thishalfyear
last6months
lasthalfyear
this year
last12months
last year

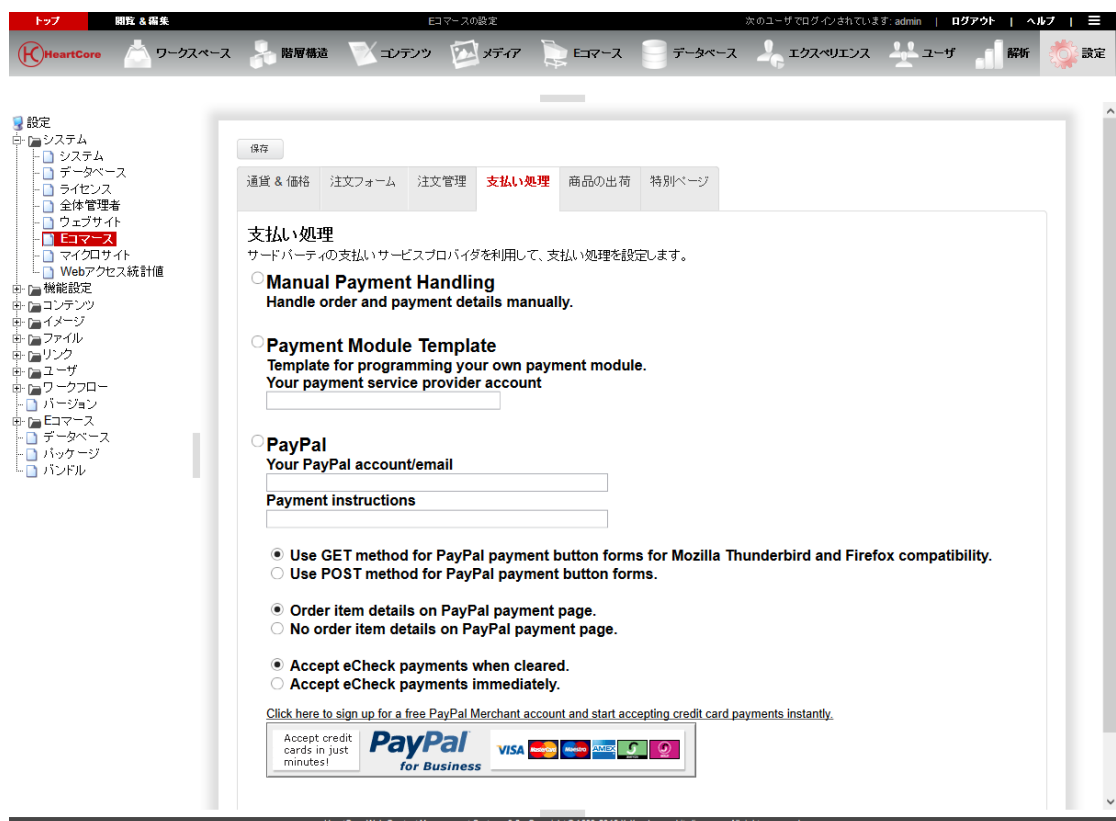


2.7.4 支払い処理

オプションとして、PayPal (www.paypal.com) や追加モジュールを使用した他の決済サービスプロバイダを通じて、クレジット/デビットカード統合決済処理が使用できます。

- **Manual Payment Handling** (自動支払い処理)
注文や決済詳細を自動で行う場合。
- **PayPal**
PayPal 決済サービスプロバイダを使用する場合。
 - **Your PayPal account/email** (PayPal アカウント/Eメール)
Web サイト・カスタマーの決済が行なわれる PayPal アカウントに登録した Eメール・アドレス
 - **Payment instructions** (支払いの説明)
Web サイト・カスタマーが PayPal を通して支払いを行う際、決済ボタンの上に表示させる説明文。
 - **Use GET method for PayPal payment button forms for Mozilla Thunderbird and Firefox compatibility.** (Mozilla Thunderbird と Firefox 互換性のため、PayPal 支払いボタンフォームに GET メソッドを使用する)
Mozilla Thunderbird および Firefox プログラムの制限により、標準の POST メソッドを使用した場合、支払いフォームが正しく処理されない場合があります。
 - **Use POST method for PayPal payment button forms.** (PayPal 支払いボタンフォームに POST メソッドを使用する)

- Order item details on PayPal payment page. (PayPal 支払いページに注文アイテム詳細を表示する)
注文商品詳細を PayPal にコピーし、PayPal のショッピングカート詳細ページに表示できるようにします。
- No order item details on PayPal payment page. (PayPal 支払いページに注文アイテム詳細を表示しない)
PayPal の支払いページには、注文の合計金額と注文アイテム詳細のサマリーのみ表示します。
- Accept eCheck payments when cleared. (清算後 eCheck による支払いを受け付ける)
eCheck による支払いが PayPal によって清算されるまで、支払いの受付および注文/出荷処理を行わない。清算には数日かかることがあります。
- Accept eCheck payments immediately. (即座に eCheck による支払いを受け付ける)
eCheck による支払いが PayPal によって清算される前に、即座に支払いの受付および注文/出荷処理を行います。



The screenshot shows the 'Payment Handling' configuration page in the HeartCore system. The left sidebar contains a navigation menu with 'Eコマース' (E-commerce) selected. The main content area is titled '支払い処理' (Payment Handling) and includes the following options:

- Manual Payment Handling
Handle order and payment details manually.
- Payment Module Template
Template for programming your own payment module.
Your payment service provider account
- PayPal
Your PayPal account/email
Payment instructions

Additional options for the PayPal method include:

- Use GET method for PayPal payment button forms for Mozilla Thunderbird and Firefox compatibility.
- Use POST method for PayPal payment button forms.
- Order item details on PayPal payment page.
- No order item details on PayPal payment page.
- Accept eCheck payments when cleared.
- Accept eCheck payments immediately.

At the bottom, there is a link to sign up for a free PayPal Merchant account and a 'PayPal for Business' logo with payment icons for Visa, MasterCard, American Express, and Discover.

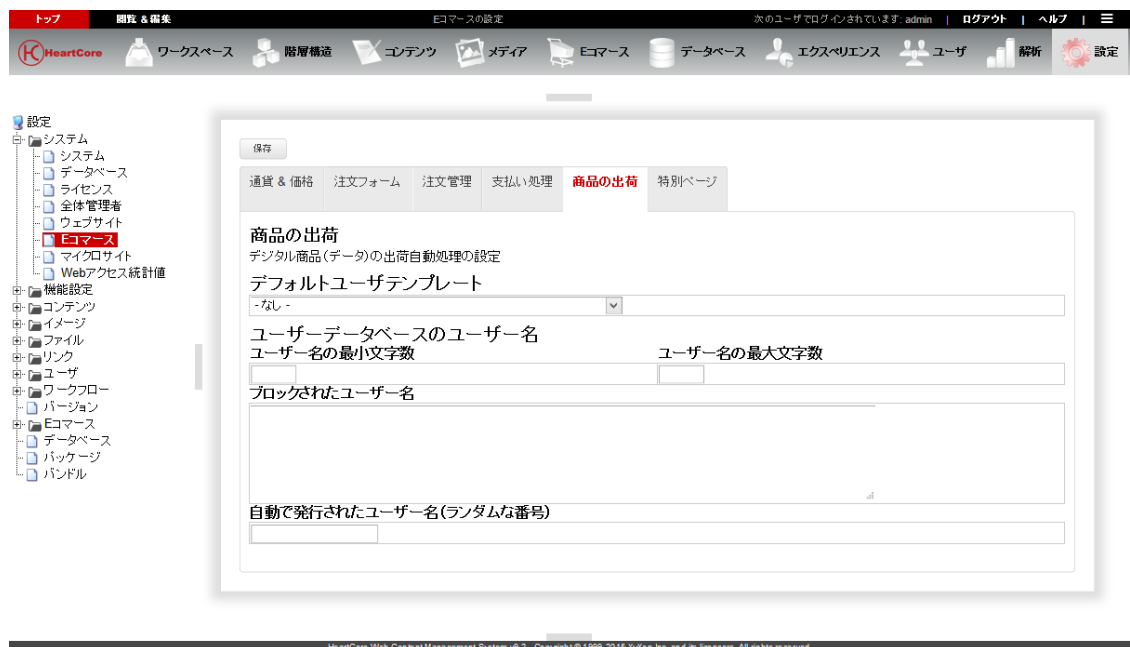
2.7.5 商品の出荷

購入された商品は、Web サイト上や E メールで、注文/支払い完了時にデジタル発送することができます。

- デフォルト・ユーザ・テンプレート
未登録でログインしていない（且つ、購入した商品の一部とし

し、
て特定のユーザアカウントが作成されていない) 新規 Web サイトカスタマーに対し、
選択したユーザテンプレートのコピーとして新しいデフォルトユーザデータベース
アカウントを作成することが可能です。

- ユーザ・データベースのユーザ名
自動的に生成されるユーザアカウントの設定
 - ユーザ名の最小文字数
許可されるユーザ名の最小限の長さ (顧客の E メールアドレスより生成されます)
 - ユーザ名の最大文字数
許可されるユーザ名の最大限の長さ (顧客の E メールアドレスより生成されます)
 - ブロックされたユーザ名
空白で区切られた、ブロック・ユーザ名のリスト
 - 自動発行されるユーザ名の接頭文字
自動的で発行されるユーザ名に使用される接頭文字。このあとにランダムな番号が続きます。(使用可能な/有効なユーザ名が顧客の E メールアドレスから生成されなかった場合)



2.7.6 E コマース特別ページ

Web コンテンツ管理システムや Web サイト機能の標準機能において、多種多様な特殊ページが使用されています。特定の状況で表示される普通のページもあれば、特殊コードや特殊フォームを使って開発されたページもあります。特殊コードと特殊フォームの詳細は、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照下さい。

- デフォルト・ショッピング・カート・サマリー・ページ
他の Web ページに含まれる、Web サイト閲覧者にショッピング・カートのサマリーを表示するページ。このページをそのままデフォルトの“ショッピング・カート・サマリー・ページ”としておくのがよいでしょう。ショッピング・カート・サマリー・ページは、一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト・ショッピング・カート・サマリー・エントリ
ショッピング・カートのサマリー・ページで、各商品アイテムを表示するためのページ。このページをデフォルトの“ショッピング・カート・サマリー・エントリ”ページとしておくのがよいでしょう。ショッピング・カート・サマリー・エントリは、一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト・ショッピング・カート・ページ
Web サイト・ビジターがショッピング・カートを見る機能や、ショッピング・カートに商品を追加する機能を使用した際に、ショッピング・カートを表示するために使用されるページ。このページをデフォルトの“ショッピング・カート・ページ”としておくのがよいでしょう。ショッピング・カート・ページは、一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト・ショッピング・カート・エントリ
ショッピング・カート・ページで、各商品アイテムを表示するためのページ。このページをデフォルトの“ショッピング・カート・エントリ”ページとしておくのがよいでしょう。ショッピング・カート・エントリは、一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト・チェックアウト・ページ
Web サイト・ビジターがチェックアウト機能を使用する際にショッピング・カートを表示するためのページ。このページをデフォルトの“チェックアウト”ページとしておくのがよいでしょう。チェックアウト・ページは、一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト・チェックアウト・エントリ
チェックアウト・ページで、各商品アイテムを表示するためのページ。このページをデフォルトの“チェックアウト・エントリ”ページとしておくのがよいでしょう。チェックアウト・エントリ・ページは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト・注文確認ページ
Web サイト・ビジターに注文確認を求める際に注文内容を表示するページ。このページをデフォルトの“注文確認”ページとしておくのがよいでしょう。注文確認ページは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト・注文確認エントリ
注文確認ページで、各商品アイテムを表示するためのページ。このページをデフォルトの“注文確認エントリ”ページとしておくのがよいでしょう。注文確認エントリは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開

発者ガイド」をご参照ください。

- デフォルト・注文完了ページ
Web サイト・ビジターが注文を完了する際に、注文内容を表示するページ。このページをデフォルトの“注文完了”ページとしておくのがよいでしょう。注文完了ページは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト・注文完了エントリ
注文完了ページで各商品を表示するページ。このページをデフォルトの“注文完了エントリ”ページとしておくのがよいでしょう。注文完了エントリは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト・空のショッピングカート・ページ
もし顧客がショッピングカートが空の場合にチェックアウトや注文確認に進もうとした場合に表示されるデフォルトのページ。
- デフォルト・注文確認Eメール・ページ
Web サイト・ビジターが注文を完了した際に、Web サイト・ビジターに注文確認Eメールを送るために使用されるページ。これをデフォルトの“注文確認”ページとしておくのがよいでしょう。注文確認ページは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト・注文確認Eメール・エントリ
注文確認Eメール・ページで、各商品アイテムを表示するために使用されるページ。これをデフォルトの“注文確認エントリ”としておくのがよいでしょう。注文確認エントリは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト・注文通知Eメール・ページ
ビジターが注文を完了した際に、Web サイトの注文フォーム管理者に注文通知を送信するために使用されるページ。これをデフォルトの“注文通知”ページとしておくのがよいでしょう。注文通知ページは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト・注文通知Eメール・エントリ
注文通知Eメール・ページで、各商品アイテムを表示するために使用されるページ。これをデフォルトの“注文通知エントリ”ページとしておくのがよいでしょう。注文通知エントリは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト注文状況トラッキングEメール・ページ
注文状況が更新された際に、Web サイト・カスタマーに注文状況追跡メッセージをEメール送信するために使用されるページ。これをデフォルトの“注文状況追跡”ページとしておくのがよいでしょう。注文状況追跡Eメール・ページは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト注文状況トラッキングEメール・エントリ
注文状況追跡Eメールページで、各商品アイテムを表示するために使用されるペー

ジ。これをデフォルトの“注文状況追跡エントリー”としておくのがよいでしょう。注文状況追跡エントリーは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。

- デフォルト支払い成功ページ
支払いが正常に完了した際に Web サイト・カスタマーに表示される Web サイト・ページ。
- デフォルト支払いキャンセルページ
支払いがキャンセル/失敗した際に Web サイト・カスタマーに表示される Web サイト・ページ。
- 商品印刷ページ
商品&注文の商品管理インデックスページより、商品コンテンツ項目を選択して「印刷」を押下した際にレポートとして表示する特殊ページを、いくつでも作成、設定することができます。このような特殊レポートページは、“@@@list:products:.....id in ####id###:.....@@@” や他の特殊コードを使って作成し、選択した商品データを様々な方法で表示させることが可能です。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- 注文印刷ページ
商品&注文の注文管理インデックスページより、注文を選択して「印刷」を押下した際にレポートとして表示する特殊ページを、いくつでも作成、設定することができます。このような特殊レポートページは、“@@@list:orders:.....id in ####id###:.....@@@” や他の特殊コードを使って作成し、選択した注文データを様々な方法で表示させることが可能です。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。



顧客がチェックアウトに進んだときに表示されるコンテンツ

デフォルトのチェックアウトページ

デフォルトのチェックアウトエントリー

顧客に注文の確認をするときに表示されるコンテンツ

デフォルトの注文確認ページ

デフォルトの注文確認エントリー

顧客が確認して注文を完了したときに表示されるコンテンツ

デフォルトの注文完了ページ

デフォルトの注文完了エントリー

買い物かごが空の場合や、注文における確認やチェックアウトを顧客が行った際にコンテンツが表示されます。
 買い物かごが空の場合デフォルトのページ

注文確認として顧客にEメールで送付されるコンテンツ

デフォルトの注文確認Eメールページ

デフォルトの注文確認Eメールのエントリー

注文の通知として管理者に送付されるEメールのコンテンツ

デフォルトの注文通知のEメールのページ

デフォルトの注文通知のEメールのエントリー

注文状況のトラッキングとして顧客に送付されるEメールのコンテンツ

デフォルトの注文状況トラッキングEメールのページ

デフォルトの注文状況トラッキングEメールのエントリー

顧客の支払いが完了した後にコンテンツを表示します

デフォルトの支払い成功ページ

デフォルトの支払いキャンセルページ

商品と在庫リスト、レポート、請求明細、配送注意事項、送料ラベルを印刷する際に使用するページ。
商品印刷ページ

注文印刷ページ

2.8 アクセス統計値システム設定

統計追加モジュールのライセンス・キーが設定されると、どの Web サイト管理者がアクセス統計データを閲覧できるか、並びに、どのアクセス統計データをどのくらいの期間収集するかを設定することができます。

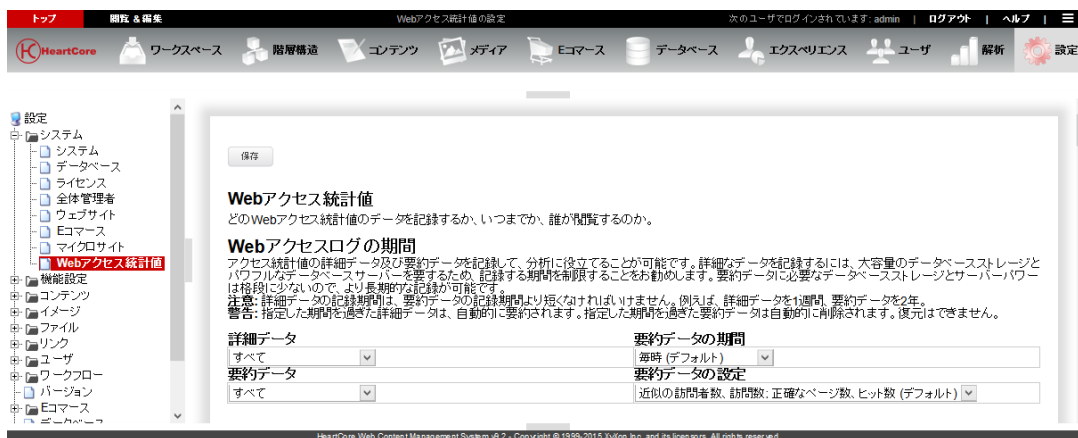
アクセス統計を設定するには、「設定」 - 「システム」 - 「Web アクセス統計値」メニューを選択します。

アクセス統計には、次の設定オプションがあります。

2.8.1 Web アクセスログの期間

アクセスログの保管や処理に、膨大なリソースを要するケースがあります。そこで、必要とする CPU 処理能力と保管スペースを抑えるために、アクセスログデータを記録する期間や記録するデータの詳細度を設定することが可能です。

- 詳細データ
アクセス統計の完全な詳細データを、Web コンテンツ管理システムのデータベースへ保管する期間を指定します。必要な CPU 処理能力と保管スペースを抑えるには、短めの期間を選択してください。詳細データの保管期間は、要約データの保管期間よりも短くしてください。例えば、詳細データを 1 週間、要約データを 2 年。
重要：指定した期間を過ぎた詳細データは、自動的に削除され復元はできません。期間を長くするよう設定を変更した場合も、対象となるのはその時点からであり、過去に遡るわけではありません。
- 要約データ
アクセス統計の要約データを、Web コンテンツ管理システムのデータベースへ保管する期間を指定します。必要な CPU 処理能力と保管スペースを抑えるには、短めの期間を選択してください。要約データの保管期間は、詳細データの保管期間よりも長くしてください。例えば、詳細データを 1 週間、要約データを 2 年。
重要：指定した期間を過ぎた要約データは、自動的に削除され復元はできません。期間を長くするよう設定を変更した場合も、対象となるのはその時点からであり、過去に遡るわけではありません。
- 要約データの周期
各要約データセットの期間を指定します。デフォルトでは、アクセス統計データは 1 時間毎に要約され、毎時、日毎、週毎のレポートが保管されます。必要な CPU 処理能力と保管スペースを抑えるには、長めの期間を選択してください。日毎の要約を選択した場合は、毎時レポートは取得できなくなります。月毎の要約を選択した場合は、毎時、日毎、週毎のレポートが取得できなくなります。
重要：一旦要約が実行されると、指定した期間以外のレポート内容は削除され、復元はできなくなります。要約データの周期を変更した場合も、対象となるのはその時点からであり、過去に遡るわけではありません。
- 要約データの内容
デフォルトでは、必要な CPU 処理能力と保管スペースを抑えるため、要約データには、近似の訪問者数と訪問数および正確なページ数とヒット数のみ含まれます。必要となる CPU 処理能力と保管スペースが増えても良いのであれば、訪問者数と訪問数も正確なデータを取得することが可能です。



2.8.2 アクセスログステータス

アクセスログステータスでは、現在保管されているアクセスログデータのレコード数が表示されます。また、現在保管されている中で、最も古い詳細アクセスログデータの日時と、最も古い要約アクセスログデータの日時、最新の要約アクセスログデータの日時が表示されます。

注意：アクセスログデータの要約は、システムが自動で実行するわけではありませんので、定期的にサマライズを行ってください。「サマライズ」ボタンを手動でクリックするか、「サマライズ」ボタンに1時間毎もしくは毎日に自動でアクセスするようWebサーバを設定（推奨）します。詳しくは、インストールガイドをご参照ください。

アクセスログの期間設定を変更した際は、保存を行った後に、「サマライズ」ボタンが有効となります。

重要：設定した期間を過ぎた詳細データは、要約が実行された際に自動で削除され、復元することはできません。アクセスログデータの期間や内容を変更した場合も、対象となるのはその時点からであり、過去に遡るわけではありません。

アクセスログステータス

件のデータが保管されています: 0	
最も古い詳細アクセスログデータ:	
最も古い要約アクセスログデータ:	
最新の要約アクセスログデータ:	

注: アクセスメトリックは、定期的にサマライズしてください。上の「サマライズ」ボタンを手動でクリックするか、「サマライズ」ボタンに1時間毎もしくは毎日に自動でアクセスするようWebサーバを設定します。詳しくは、インストールガイドをご参照ください。

「サマライズ」ボタンを押下しても、即座にアクセスログデータの要約が実行されるわけではありません。次に表示される画面で、テストや実行を行います。

- テスト**

現在の設定で、最も古い設定期間に対して、どの程度アクセス統計データの圧縮が可能か表示されます。実際にアクセス統計データの要約や削除が行われるわけではありません。
- 実行**

最も古い設定期間に対してのみ、アクセス統計データの要約を行います。この要約が完了したら、次に古い期間の要約を実行することが可能になります。

重要：対象期間の詳細データは自動的に削除されます。復元はできません。
- すべて実行**

設定日時より過去のすべての設定期間に対して、アクセス統計データの要約を行います。

重要：全対象期間の詳細データは、自動的に削除されます。復元はできません。

- **強制リセット**
開始済みで不完全に終了した要約を無視し、新たな要約を開始できるようになります。一度に実行する要約は必ず1つにしてください。実行中の要約が存在する場合は、Webコンテンツ管理システムに表示されますので、完了するまで別の要約を実行しないでください。この「強制リセット」を使用するのは、Webサーバのエラーなど何かの理由で要約が途中で終了してしまった場合です。
重要：「強制リセット」を、複数の重複する要約に使用した場合、アクセス統計データが損失する可能性があります。不完全に終了した開始済みの要約を上書きする目的でのみ使用してください。
- **要約データの周期**
設定している要約データの周期を変更することが可能です。
「テスト」の場合は、試験的に変更をするだけで、設定の変更は保存しません。
「実行」また「すべて実行」の場合は、設定変更の保存も行います。
- **要約データの内容**
設定している要約データの内容を変更することが可能です。
「テスト」の場合は、試験的に変更をするだけで、設定の変更は保存しません。
「実行」また「すべて実行」の場合は、設定変更の保存も行います。



アクセスログデータの要約に掛かる時間は、アクセス統計の設定やデータ量、Webサーバやデータベースサーバのキャパシティによって異なります。要約が完了すると、要約されたデータの詳細や、要約した結果が表示されます。アクセス統計の最適な設定は、アクセスログデータの量や内容、Webサーバとデータベースサーバのキャパシティによって異なりますので、いろいろな設定パターンをテストされることをお勧めします。

2.8.3 アクセスログデータのコンテンツ

どのコンテンツ項目のアクセス統計値を取得するか設定します。（必要となるCPU処理能力と保管スペースを抑えるには、いくつかのコンテンツ項目に対するアクセス統計値を無効にします。例えば、イメージやスクリプト、スタイルシートなど。）

コンテンツ

<input type="checkbox"/> ページのログを取る	<input type="checkbox"/> ページのログを取らない
<input type="checkbox"/> イメージのログを取る	<input type="checkbox"/> イメージのログを取らない
<input type="checkbox"/> ファイルのログを取る	<input type="checkbox"/> ファイルのログを取らない
<input type="checkbox"/> リンクのログを取る	<input type="checkbox"/> リンクのログを取らない
<input type="checkbox"/> 商品のログを取る	<input type="checkbox"/> 商品のログを取らない
<input type="checkbox"/> コンテンツデータベースのログを取る	<input type="checkbox"/> コンテンツデータベースのログを取らない
<input type="checkbox"/> スタイルシートログを取る	<input type="checkbox"/> スタイルシートログを取らない
<input type="checkbox"/> スクリプトログを取る	<input type="checkbox"/> スクリプトログを取らない
<input type="checkbox"/> コンテンツフォームのログを取る	<input type="checkbox"/> コンテンツフォームのログを取らない
<input type="checkbox"/> コンテンツの投稿のログを取る	<input type="checkbox"/> コンテンツの投稿のログを取らない
<input type="checkbox"/> ログインのログを取る	<input type="checkbox"/> ログインのログを取らない
<input type="checkbox"/> ログアウトのログを取る	<input type="checkbox"/> ログアウトのログを取らない

2.8.4 アクセス統計値レポート

Web コンテンツ管理システムの「アクセス統計値」セクションにて、様々なアクセス統計値レポートがご覧いただけます。任意で、アクセス統計値セクションのインデックスページにカスタムレポートを表示させたり、左メニューへ追加のカスタムレポートを設定することも可能です。

- Web アクセス統計値インデックス・レポート

デフォルトでは、本日・今週・今月のサマリーレポートが Web アクセス統計値のメインページに表示されます。Web アクセス統計値インデックスレポートフィールドを空白にすると、レポートは表示されません。また、"usage:REPORT:LIMIT:PERIOD" コードを入力することでカスタムレポートを表示させることも可能です。

REPORT:LIMIT:PERIOD を、以下一覧のいずれかと置き換えてください。

複数のレポートを Web アクセス統計値メインページに表示させるには、コードをスペース区切りで入力します。例えば、

"usage:pages:10:today usage:webbrowsers:all:last14days" と入力すると、「本日のトップ 10 ページ」と「過去 14 日間にアクセスのあった全てのブラウザ」の 2 つのレポートが表示されます。

- Web アクセス統計値レポート

カスタム Web アクセス統計値レポートを定義することで、独自のレポートを自由に組み合わせ、Web アクセス統計値の左メニューへ設定することができます。Web アクセス統計値レポートフィールドへ下記を入力して定義します。

Name = "usage:REPORT:LIMIT:PERIOD usage:REPORT:LIMIT:PERIOD"

REPORT:LIMIT:USAGE は、以下一覧のいずれかと置き換えてください。各レポートは改行区切りで入力します。例：

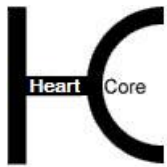
Summary = "usage:summary:all:today usage:summary:all:thisweek
usage:summary:all:thismonth"

Top 10 = "usage:pages:10:thisweek usage:products:10:thisweek usage:images:10:thisweek
usage:files:10:thisweek usage:links:10:thisweek"

「Summary」と「Top 10」という名前のカスタムレポートが定義されます。

- REPORT

summary
websites
contents
pages
pagegroups
pagetypes
contacts
posts
logins
logouts
stylesheets



scripts
library
images
imagegroups
imagetypes
files
filegroups
filetypes
links
linkgroups
linktypes
products
productgroups
producttypes
databases
daily
weekly
monthly
yearly
hours
weekdays
days
weeks
months
countries
visitors
robots
operatingsystems
webbrowsers
users
usergroups
usertypes
referrers
searchengines
searchqueries
searchwords
entry
paths
exit
duration
visits

○ LIMIT

all
NUMBER

NUMBER は任意の正整数

○ PERIOD

all
now
today
last24hours
yesterday

thisweek
last7days
lastweek
last14days
thismonth
last30days
lastmonth
thisquarter
last3months
lastquarter
thishalfyear
last6months
lasthalfyear
this year
last12months
last year

Webアクセス解析のインデクスレポート

usage.summary.all.today usage.summary.all.thisweek usage.summary.all.thismonth

Webアクセス解析のレポート

Example = "usage.summary.all.today usage.summary.all:thisweek usage.summary.all:thismonth"

2.8.5 アクセス統計値アクセス制限

アクセス統計値を閲覧できる管理者のユーザグループやタイプを設定します。Web サイト管理者が複数存在する場合、詳細なアクセス統計値の閲覧権限を、すべての管理者へは与えたくないことも想定されます。

アクセス解析アクセス制限

特定の管理者グループやタイプのみアクセス解析へアクセスできるよう制限する。

タイプ

- 任意 -

グループ

- 任意 -

3 機能設定

機能設定の各ページでは、Web コンテンツ管理システムの様々な機能を有効もしくは無効に設定することができます。Web サイト管理者が使用しやすいよう、Web コンテンツ管理システムをシンプルに保つため、不要な機能を無効にすることが可能です。

左メニューより、機能設定の各ページを使用することができます。



設定

左のメニューから設定管理ページにアクセスしてください。

アクセス制限
"ユーザ"と"管理者"に対するWebサイトのコンテンツへのアクセス制限の設定(Webサイトのページ/セクションへの制限されたアクセスを有効にし、特定のサイト"管理者"へのパーミッションとワークフローを有効にします。)

追加コンテンツ
それぞれのコンテンツページに使用する"構成要素"の選択を設定します。(Webサイトの、異なるメニュー、パナフ、ニュース等の設定)

アドバンスクリプト
コンテンツページの"raw HTMLヘッダーコード"の入力を設定します。(動的HTML、JavaScript、Javaのコンテンツと機能を有効にします。)

アーカイブ化設定
コンテンツへの追加や更新の、アーカイブ化設定(手動または自動)を有効/無効にすることで、ログや監査履歴の変更を可能にします。

専有/解放
手動または自動で、コンテンツの専有/ロックと解放/ロック解除の有効/無効の設定をします(管理者が複数の場合、安全な更新を可能にします)。

コンテンツのカテゴリ
コンテンツの"クラス"、"タイプ"、"グループカテゴリ"を有効/無効にします(大量Webサイトコンテンツの編成が可能になります)。

コンテンツの依存関係
他のコンテンツと依存関係にあるコンテンツの削除を禁止/許可

コンテンツエディタ
コンテンツの表示属性/ページ/構成要素/テンプレートを作成、更新するために使用するコンテンツエディタと、ファイルアップロードコンポーネントを定義します。

関連コンテンツ
コンテンツページの"トップ"、"アップ"、"最初の"、"最後の"、"前の"、"次の"といった構造的関係の定義を有効にする/無効にする(標準的なナビゲーションリンクとプレゼンテーションのスライドショーが可能になります)。

コンテンツのバージョン
複数のコンテンツバージョンの定義を有効/無効にします(複数言語化やデバース、ユーザセグメントを反映したコンテンツのバージョンが可能になります)。

メタ情報
それぞれのコンテンツページに関する"メタディスクリプション"、"キーワード"、"作成者"のメタ情報の入力を有効/無効にします(検索エンジン登録と検索をサポートします)。

プレゼンテーション
それぞれのコンテンツページに使用する"テンプレート"と"スタイルシート"の選択を有効/無効にします。

公開
追加/更新されたコンテンツをWebサイト上に手動または自動で公開するかどうかを定義します(公開前にWebサイトの更新のプレビュー、テスト、認証ができます)。

変更履歴
コンテンツの追加と更新の変更履歴解除の入力を有効/無効にします(変更を加えた理由を記録します)。

ユーザのアクティベーション
ユーザのアクティベーション/期限切れのスケジュール有効/無効処理を行います。(サブスクリプションの回数制限や閲覧制限も可能です。)

ユーザカテゴリ
ユーザの"クラス"、"タイプ"、"グループ"のカテゴリ分けを有効/無効にします(大量のWebサイトユーザや複数管理者の組織化が可能です)。

ユーザーデータベース
ユーザーデータベースを有効/無効にします("アクセス制限"に関連する登録ユーザと認証されたユーザ、複数サイトの管理者を有効にします)。

ユーザの詳細
自宅請求書明細や配送先詳細や支払明細の有効/無効化を行います。(コマースユーザとサブスクリプションユーザ用)

管理者権限
管理者の管理ページに対して、エディタ、セクション、メニュー等の有効/無効化の設定を行います。

3.1 Web サイトユーザ/管理者へのアクセス制限

デフォルトでは、Web サイトへ公開されたコンテンツはすべて、あらゆる Web サイト・ビジターに対して公表されています。しかしながら、コンテンツの中には、カスタマーやパートナ

一、社員といった特定の登録ユーザだけにアクセスを制限したい場合もあるでしょう。このためには、ユーザのアクセス制限を有効にします。

デフォルトでは、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムは、Web サイト管理者の全員が、すべてのコンテンツやユーザへアクセスできるようになっています。しかしながら、複数の Web サイト管理者が存在する場合、ワークフローで管理し、特定のアクションや特定のコンテンツまたはユーザへの権限をそれぞれ制限したいケースも考えられます。その際には、ユーザと管理者のアクセス制限を有効にします。



3.1.1 個々のユーザ・アクセス制限

デフォルトとして、アクセス制限では、特定のユーザ・グループやタイプへアクセス権限を制限することが可能です。多数のコンテンツ項目や Web サイト管理者を持つ管理下では、このアクセス制限により管理がし易くなるため推奨されています。そうすることで、ユーザを追加もしくは削除するだけで、複数存在するコンテンツ項目のアクセス制限を逐一更新することなく、アクセス権限を与えたり、取り消したりできるようになります。さらに／もしくは、特定のユーザアカウントに対し、アクセス権限を制限することも可能です。

コンテンツを追加したり更新したりする際、アクセス制限タブのユーザ入力フィールドにて、そのコンテンツへの個々のユーザ・アクセス制限を定義することができます。個々のユーザ・アクセス制限機能が無効になっている場合は、Web コンテンツ管理ページに「ユーザ」入力フィールドは表示されません。

設定セクションにて、コンテンツ、イメージ、ファイル、リンク、商品の各グループやタイプを追加したり更新したりする際にも、それらの各グループやタイプに対し、個々のユーザ・アクセス制限を定義することが可能です。個々のユーザ・アクセス制限機能が無効（“なし”）になっている場合、「ユーザ」入力フィールドは設定ページに表示されません。

個々のユーザーへのアクセス権限を有効にします

個々のユーザーへのアクセス権限を無効にします

3.1.2 ユーザ・アクセス制限

コンテンツ項目を追加したり更新したりする際、「閲覧」入力フィールドにて、そのコンテンツへの Web サイトユーザ・アクセス制限を定義することができます。アクセス制限機能が無効（“なし”）になっている場合、「閲覧」入力フィールドは管理ページ表示されません。

設定セクションにて、コンテンツ、イメージ、ファイル、リンク、商品の各グループやタイプを追加したり更新したりする際にも、「閲覧」入力フィールドを使って、それらの各グループやタイプに対し、Web サイトユーザ・アクセス制限を定義することが可能です。アクセス制限機能が無効（“なし”）になっている場合、「閲覧」入力フィールドは設定ページに表示されません。

3.1.3 管理者アクセス制限

基本的な管理者アクセス制限機能では、主に“作成者”、“編集者”、“公開者”といった管理者ごとの固定“役割”を定義します。コンテンツ項目を追加、更新、公開するにあたり、差

別化された権限をそれぞれの Web サイト管理者へ与えることができます。これらの固定役割は、どのグループ、タイプの Web サイト管理者が何をする権限を持つかということを定義します。しかし、それぞれの Web サイト管理者がどのようにコンテンツを追加、更新、公開するかを連係するワークフローを支配するものではありません（ベーシック・ワークフローは除く）。“作成者”と“編集者”は、コンテンツの追加／更新ができ、また作業している間、追加／変更を“プライベート”に保つ為そのコンテンツを“専有”することができます。そして、“作成者”と“編集者”は、その追加した／更新したコンテンツを公開する準備が整ったら、“解放”することができます。最後に、“公開者”は、“作成者”と“編集者”によって解放されたコンテンツを公開することができます。

管理者アクセス制限機能は、Web サイト管理者“役割”の固定階層を定義します。

スーパーユーザ			
スーパーユーザ Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システム内のすべてに対し、実行する権限があります。			
管理者			
“管理者” Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システム内の自身のコンテンツ項目に対し、あらゆる実行権限があります。			
作成者	編集者 / 開発者	公開者	閲覧者
“作成者” 権限を持つ Web サイト管理者は、新規コンテンツ項目を追加することが可能。（既存コンテンツ項目をコピーすることで）	“更新” 権限を持つ Web サイト管理者は、コンテンツ項目を更新することが可能。“開発者” 権限を持つ Web サイト管理者はアドバンスクリプト属性を更新することも可能。	“公開” 権限を持つ Web サイト管理者は、コンテンツ項目を公開、非公開、削除することが可能で、Web サイトビジターに対しそれらを有効／無効にすることができる。	“閲覧” 権限を持つ Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システム内の公開および非公開コンテンツ項目を閲覧することが可能。

コンテンツ項目やユーザアカウントを追加したり更新したりする際、アクセス制限タブの「作成」「更新」「公開」「開発者」「管理者」入力フィールドにて、Web サイト管理者アクセス制限を定義することができます。Web サイト管理者アクセス制限機能が無効（“なし”もしくは“ユーザのみ”）の場合、「作成」「更新」「公開」「開発者」「管理者」入力フィールドは、管理ページに表示されません。

設定セクションにて、コンテンツ、イメージ、ファイル、リンク、商品の各グループやタイプを追加したり更新したりする際、「作成」「更新」「公開」「開発者」「管理者」入力フィールドにて、それら各グループやタイプに対し、Web サイト管理者アクセス制限を定義することも可能です。Web サイト管理者アクセス制限機能が無効（“なし”もしくは“ユーザのみ”）の場合、「作成」「更新」「公開」「開発者」「管理者」入力フィールドは、設定ページに表示されません。

3.1.4 ワークフロー

追加のワークフロー機能を使うと、“作成者”“編集者”“公開者”をいくつもの異なるカテゴリへ細分化することが可能になります。コンテンツ項目を追加、更新、公開する一連のステップのあらゆる段階において、それぞれ異なった権限を持たせることができます。ワークフロー“アクション”や“状態”、また Web サイト管理者カテゴリをいくつでも定義することが可能で、どの管理者グループ／タイプによって、どのように、そしてどの順番でコンテンツ項目が追加され、更新され、公開されるべきかを制御することができます。例えば、従業員によっ

て追加／更新されたコンテンツ項目は、Web マスターが公開する前に、マネージャーによって承認を得る必要がある場合など。

スーパーユーザ											
スーパーユーザ Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システム内のすべてに対し、実行する権限があります。											
管理者											
“管理者” Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システム内の自身のコンテンツ項目に対し、あらゆる実行権限があります。											
作成者			編集者 / 開発者			公開者			閲覧者		
“作成者” 権限を持つ Web サイト管理者は、新規コンテンツ項目を追加することが可能。（既存コンテンツ項目をコピーすることで）			“更新” 権限を持つ Web サイト管理者は、コンテンツ項目を更新することが可能。“開発者” 権限を持つ Web サイト管理者はアドバンススクリプト属性を更新することも可能。			“公開” 権限を持つ Web サイト管理者は、コンテンツ項目を公開、非公開、削除することが可能で、Web サイトビジターに対しそれらを有効／無効にすることができる。			“閲覧” 権限を持つ Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システム内の公開および非公開コンテンツ項目を閲覧することが可能。		
C1	C2	C3	E1	E2	E3	P1	P2	P3	V1	V2	V3
...

一般的なワークフロー機能は、「Web サイトコンテンツ」「メディアライブラリ」のコンテンツ項目、E コマース商品、E コマース注文管理に対し、有効化することが可能です。

ワークフロー機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクション内の「設定」／「ワークフロー」メニュー項目やページが追加されたり、除去されたりします。自身の Web コンテンツ管理システムにおける Web サイト管理者ワークフローを設定するには、「ワークフロー」メニュー項目や各設定ページを使用します。詳しくは、6 ワークフロー設定をご参照下さい。

Web サイト管理者ワークフローは、Web サイト管理インデックスページの「ワークフロー」入力フィールドや、コンテンツ項目の閲覧時、追加時、更新時の「ワークフロー」と「コメント」入力フィールドを使って行われます。ワークフローアクセス制限機能が無効の場合は、「ワークフロー」と「コメント」入力フィールドが管理ページに表示されなくなります。

注文管理ワークフローは、E コマース注文管理インデックスページの「ワークフロー」入力フィールドや、注文の閲覧時、追加時、更新時の「ワークフロー」と「コメント」入力フィールドを使って行われます。注文管理ワークフローアクセス制限機能が無効の場合は、「ワークフロー」と「コメント」入力フィールドが、E コマース注文管理ページに表示されなくなります。

また、既存コンテンツ項目をコピーして新規コンテンツ項目を追加する際に、ワークフロー・ステータスを保持（コピー）するか、クリア（空白）するかを選択できます。

- ワークフローステータスをコピーしてコンテンツの新規追加を行う
新規コンテンツ項目のワークフロー・ステータスは、コピーしたコンテンツ項目のワークフロー・ステータスと同じになります。
- ワークフローステータスをコピーしないでコンテンツの新規追加を行う
新規コンテンツ項目のワークフロー・ステータスは、コピーしたコンテンツ項目のワークフロー・ステータスに関わらず空白となります

<input checked="" type="radio"/> ワークフローを有効にします。	<input type="radio"/> ワークフローを無効にします。
<input type="radio"/> 注文管理ワークフローを有効にします。	<input checked="" type="radio"/> 注文管理ワークフローを無効にします。

<input checked="" type="radio"/> ワークフローステータスをコピーしてコンテンツの新規追加を行う。
<input type="radio"/> ワークフローステータスをコピーしないでコンテンツの新規追加を行う。

3.1.5 空白コンテンツ項目の新規追加設定

デフォルトでは、全体管理者のみ空白コンテンツ項目を新規追加する権限があります。他の全体管理者でない管理者ユーザは、既存コンテンツ項目をコピーして新規追加する権限しかありません。オプションとして、コンテンツ・カテゴリのグループ/タイプ機能と組み合わせることで、全体管理者以外の管理者ユーザへも、権限のあるコンテンツ・グループ/タイプへ空白コンテンツを新規追加する許可を与えることが可能です。

<input checked="" type="radio"/> アクセス権限のあるコンテンツグループ・タイプへの新規（空白）コンテンツの追加を無効にする
<input type="radio"/> アクセス権限のあるコンテンツグループ・タイプへの新規（空白）コンテンツの追加を有効にする

3.1.6 特別アクセス制限設定

3.1.6.1 グループ/タイプのアクセス制限要求

デフォルトとしてユーザがコンテンツにアクセスするには、ユーザ・タイプとユーザ・グループ両方のアクセス制限を受けます。しかしながら、上級ユーザや管理者のアクセス制限用に、ユーザ・タイプかユーザ・グループのいずれか一方のアクセス制限だけをコンテンツのアクセスに要求するよう変更することもできます。

- アクセスにはグループとタイプ両方のアクセス制限を必要とします。
ユーザと管理者がコンテンツにアクセスするには、定義されたアクセス制限グループと定義されたアクセス制限タイプの両方に属する必要があります。
これはデフォルトの設定オプションであり、特にどちらか一方のアクセス制限機能を必要としない限り、常にこれが選択されるべきです。そうでなければ、権限のないユーザ/管理者が制限のあるコンテンツにアクセスしてしまう可能性があります。
- アクセスにはグループかタイプどちらかのアクセス制限を必要とします。
ユーザと管理者がコンテンツにアクセスするには、定義されたアクセス制限グループかアクセス制限タイプのどちらか一方に属していれば良い。
この設定オプションは、どちらか一方のアクセス制限機能を必要とする場合のみ選択されるべきです。そうでなければ、権限のないユーザ/管理者が制限のあるコンテンツにアクセスしてしまう可能性があります。

<input checked="" type="radio"/> アクセスにはグループとタイプ両方のアクセス制限を必要とします。
<input type="radio"/> アクセスにはグループかタイプどちらかのアクセス制限を必要とします。

3.1.6.2 管理者アクセス権限の継承

通常、「管理者」や「作成」、「公開」、「開発者」アクセス権限のような、高レベルの権限を持つ Web サイト管理者は、常に「閲覧」や「更新」のような低いアクセス権限も持つべきです。デフォルトでは、高位なアクセス権限を持つ Web サイト管理者は、低位なアクセス権限を自動的に継承しますが、オプションとしてこのアクセス権限の継承を無効にすることができます：

- 自動的にアクセス権限を継承させない
このオプションは、特にアクセス権限を継承させない必要がある場合にのみ選択されるべきです。
- 自動的にアクセス権限を継承させる
特にアクセス権限を継承させない必要がない限り、こちらが常に選択されるべきです。
 - 「管理者」は、自動的に「閲覧」、「更新」、「作成」、「公開」、および「開発者」アクセス権限も与えられます。
 - 「作成」は、自動的に「閲覧」および「更新」アクセス権限も与えられます。
 - 「公開」は、自動的に「閲覧」および「更新」アクセス権限も与えられます。
 - 「開発者」は、自動的に「閲覧」および「更新」アクセス権限も与えられます。
 - 「更新」は、自動的に「閲覧」権限も与えられます。

自動的にアクセス権限を継承させない。

自動的にアクセス権限を継承させる。

「管理者」は自動的に「閲覧」「更新」「作成」「公開」「開発」の権限も含めて与えられます。

「作成者」は自動的に「閲覧」「更新」の権限も含めて与えられます。

「公開者」は自動的に「閲覧」「更新」の権限も含めて与えられます。

「開発者」は自動的に「閲覧」「更新」の権限も含めて与えられます。

「更新者」は自動的に「閲覧」の権限も含めて与えられます。

3.1.7 コンテンツグループ/タイプのメニュー表示と非表示

デフォルトでは、コンテンツ、イメージ、ファイル、リンク、商品の全グループと全タイプが、Web コンテンツ管理システム上でメニュー項目として表示されます。オプションで、Web サイト管理者が“更新”アクセス権限を有するグループ、タイプのみ表示させるように設定することも可能です。

- コンテンツグループ・タイプのメニューを全て表示する
- コンテンツグループ・タイプを権限に応じて表示します

コンテンツグループ・タイプのメニューを全て表示する

コンテンツグループ・タイプを権限に応じて表示します

非表示グループ/タイプ設定に関わらず、閲覧権限のある全てのコンテンツを一覧に表示する。

非表示グループ/タイプに属するコンテンツは、一覧にも表示しない

3.1.8 スケジュール済のコンテンツ項目

デフォルトでは、すべての管理者ユーザが、未来の日時に公開スケジュールされたコンテンツ項目を閲覧することができます。オプションとして、スケジュールされた各コンテンツ項目に対し、更新者、開発者、作成者、公開者、管理者のアクセス権限を持つ管理者ユーザのみに、閲覧権限を与えることも可能です。例えば、他の管理者に極秘情報を隠しておきたい場合などに使用します。

- 全て（管理者）
すべての管理者ユーザに、すべてのスケジュール済コンテンツ項目を表示します。

- 更新者
スケジュールされたコンテンツ項目に対して「更新者」権限のある管理者ユーザにのみ、そのコンテンツ項目を表示します。
- 開発者
スケジュールされたコンテンツ項目に対して「開発者」権限のある管理者ユーザにのみ、そのコンテンツ項目を表示します。
- 作成者
スケジュールされたコンテンツ項目に対して「作成者」権限のある管理者ユーザにのみ、そのコンテンツ項目を表示します。
- 公開者
スケジュールされたコンテンツ項目に対して「公開者」権限のある管理者ユーザにのみ、そのコンテンツ項目を表示します。
- 管理者
スケジュールされたコンテンツ項目に対して「管理者」権限のある管理者ユーザにのみ、そのコンテンツ項目を表示します。

公開設定されたコンテンツ

全て(管理者) 更新者 開発者 作成者 公開者 管理者

3.1.9 Web サイト全体のアクセス制限

デフォルトでは、すべての Web サイト・ビジターがすべての Web サイト・コンテンツにアクセスできます。代わりに、Web サイト・ビジター全員にユーザ登録を義務づけ、Web サイト・コンテンツにアクセスするにはログインを要求するよう、Web サイト全体のアクセス制限を設定することもできます。こうした設定は、新規 Web サイト開発中一時的に、もしくはメンバー専用 Web サイトで永久に、あるいはイントラネット/エクストラネット Web サイト用に、等のケースで使用されるでしょう。

デフォルトでは、全ての Web サイト管理者が全ての Web サイト・コンテンツにアクセスでき、全ての Web サイトビジターが特殊コンテンツを作成/更新/公開できます（例えばコミュニティ追加アプリケーションを使って）。代わりに、全ての Web サイトコンテンツ管理を、特定の管理者ユーザ・グループ/タイプに制限するよう Web サイト全体のアクセス制限を設定することもできます。

アクセス制限は、個々のコンテンツ項目またはコンテンツ、イメージ、ファイル、リンク、商品グループ/タイプ毎と同様に、Web サイト全体（ここ、アクセス制限設定ページで）さらに Web コンテンツ管理システム内の全コンテンツに対し、定義することができます。Web サイトユーザと Web サイト管理者は、コンテンツ項目、コンテンツ・グループとコンテンツ・タイプ、および Web サイト全体、すべてのアクセス制限を満たす必要があります。

アクセス制限 — 「ユーザ」または「ユーザと管理者」機能が有効の場合（同様にユーザデータベースとユーザカテゴリ機能も）、追加の Web サイトアクセス制限属性が、アクセス制限設定ページへ追加されます。これらの追加入力フィールドを使って、コンテンツ管理アクセス制限を定義します。どのユーザ・タイプと/もしくはグループが、そのコンテンツに対し、下記コンテンツ管理機能を持っているかを選択します。

- 閲覧

誰が Web サイト上のコンテンツを閲覧するアクセス権を持つか定義します。

- 作成
誰が他のコンテンツのコピーとしてコンテンツを新規追加するアクセス権を持つか定義します。
- 更新
誰がコンテンツを更新するアクセス権を持つか定義します。
- 公開
誰がコンテンツを公開するアクセス権を持つか定義します。
- 開発者
誰がコンテンツのアドバンスクリプト属性を作成および更新するアクセス権を持つか定義します。
- 管理者
誰が上記すべてを含むコンテンツ管理のフルアクセス権を持つか定義します。
重要：「管理者」は、閲覧、作成、更新、公開、開発者のアクセス制限に関わらず、コンテンツに対してあらゆる実行権限があるので、他のアクセス制限が効果を得るには、「管理者」は厳しくアクセス制限される必要があります。

ユーザ・カテゴリ設定によっては、上記のコンテンツ管理機能の権限のそれぞれに対し、タイプおよび/あるいはグループを選択することができます。

- 公開
すべての Web サイト・ビジターに、このコンテンツ管理機能を使用する権限を与えます
(例えばコミュニティ追加モジュールから)
- 制限
すべての登録済みユーザ (Web サイト管理者のみならず) に、このコンテンツ管理機能を使用する権限を与えます (例えばコミュニティ追加モジュールから)
- すべて (管理者)
すべての Web サイト管理者に、このコンテンツ管理機能を使用する権限を与えます
- 特定のタイプ/グループ
このコンテンツ管理機能の使用権限を、選択されたタイプ/グループの Web サイト管理者に制限します。

ユーザタイプとユーザグループのユーザカテゴリ機能両方が有効の場合、Web サイト管理者がコンテンツ管理機能を使用する権限を得るには、両方のアクセス制限を満たす必要があります：

- もしタイプが“すべて”と定義されており、グループが特定のグループに定義されている場合、Web サイト管理者は、コンテンツ管理機能を使うにはその特定のグループに属している必要があります。
- もしタイプが特定のタイプとして定義されており、グループが特定のグループに定義されている場合、Web サイト管理者は、コンテンツ管理機能を使うにはその特定のタイプとグループ両方に属している必要があります。

ウェブサイトアクセス制限
 誰がウェブサイトに関しての管理権限を持っているか
 注意: アクセス制限は、ウェブサイト全体や、コンテンツグループ、タイプ、もしくは各それぞれのコンテンツに設定されます。全てのアクセス制限は権限によって制限されま
 す。

閲覧者	更新者
タイプ: -公開-	タイプ: -公開-
グループ: -公開-	グループ: -公開-
作成者	公開者
タイプ: -公開-	タイプ: -公開-
グループ: -公開-	グループ: -公開-
管理者	開発者
タイプ: -すべて(管理者)-	タイプ: -すべて(管理者)-
グループ: -すべて(管理者)-	グループ: -すべて(管理者)-

3.1.10 注文管理のアクセス制限

E コマース注文管理へアクセスできる管理者のユーザグループやタイプを設定します。Web サイト管理者が複数存在する場合、注文管理へのアクセス権限を、すべての管理者へは与えたくないことも想定されます。

注文管理のアクセス制限
 オーダー管理へのアクセスを、特定の管理者グループおよび/またはタイプに制限します。

タイプ	グループ
-任意-	Shop Managers

3.1.11 アクセス統計値アクセス制限

アクセス統計値を閲覧できる管理者のユーザグループやタイプを設定します。Web サイト管理者が複数存在する場合、詳細なアクセス統計値の閲覧権限を、すべての管理者へは与えたくないことも想定されます。

アクセス解析アクセス制限
 特定の管理者グループやタイプのみアクセス解析へアクセスできるよう制限する。

タイプ	グループ
-任意-	-任意-

3.2 メニューやツールバーの追加コンテンツ構成要素

通常、Web サイトの各ページには、メニューや、ツールバー、バナー、ニュース、ロゴといったコンテンツ構成要素が、補助的なコンテンツとして使用されています。これらは、管理を容易にしたり、また複数のページやセクションに共通するコンテンツの再使用を目的としています。代わりに、そのようなコンテンツを直接テンプレートに追加することも可能です。

最大で3つのイメージ、3つのファイル、および3つのリンクを各ページおよび商品に直接関連づけることができます。これらのイメージ、ファイル、リンクは、テンプレート、コンテンツ項目リスト、および検索結果などで表示/使用することができます。例えば、この3つのイメージは: コンテンツ項目リストや検索結果で表示される小さなサムネイル画像として、テンプレートによって Web ページで表示させる中サイズの画像として、印刷用の大きい高解像度画像として、それぞれ使用することができます。

追加コンテンツ機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクション内の「設定」／「コンテンツ」／「クラス」メニューやページが追加されたり、表示されなくなったりします。追加コンテンツメニューや設定ページを使って、Web サイトや商品、テンプレートで使用されるコンテンツ構成要素クラスを定義して下さい。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。

コンテンツ項目の追加時や更新時に、追加コンテンツタブの入力フィールドを使って、追加コンテンツをページや商品、テンプレートに選択することが可能です。個々の追加コンテンツ機能が無効の場合は、「追加コンテンツ」タブ入力フィールドと、左メニューの「構成要素」は、管理ページに表示されません。



3.3 Dynamic HTML のためのアドバンススクリプト

HeartCore Web コンテンツ管理システムの基本コンテンツは、フォーマットされたテキストやイメージなどのリッチ・コンテンツから構成されています。高度なナビゲーション・メニューやロールオーバー・イメージ、アニメーションなどを Web ページで作成するには、いわゆる Dynamic HTML を追加します。これをサポートするには、アドバンス・スクリプト機能を有効にします。すると、コンテンツ管理ページに HTML DOCTYPE と HTML HEAD コード、HTML BODY ONLOAD コード属性が追加されます。

コンテンツ項目を追加、更新する際、「アドバンススクリプト」タブ入力フィールドを使って、アドバンススクリプト HTML や CSS、JavaScript をページや商品、テンプレートへ入力することができます。アドバンススクリプト機能が無効の場合には、「アドバンススクリプト」タブ入力フィールドは、管理ページに表示されなくなります。



3.4 バックアップおよび変更ログ／追跡記録のためのコンテンツアーカイブ

HeartCore Web コンテンツ管理システムのデフォルト設定では、コンテンツへ施された変更は、単純に、そのコンテンツの保存 / 公開時に適用されるよう設定されています。しかしながら、コンテンツを変更するに従って、古いコンテンツのコピーを保存したい場合もあります。後々必要な時に復元できるようバックアップとして、またはコンテンツや Web サイトへの変更を追跡するための変更ログ / 追跡記録として、古いコンテンツのコピーを保存したいケースが考えられます。また、何がいつどう変更されたのかを正確に確認できるよう、コンテンツの異なるコピーを比較することも可能です。これはコンテンツのアーカイブを有効にすることで可能です。

コンテンツのアーカイブは手動あるいは自動で行われます。

- なし
コンテンツのアーカイブはしません
- 手動 – デフォルトはオン
デフォルトとして保存時にコンテンツのアーカイブを行います。保存時にアーカイブしないよう選択することもできます。
- 手動 – デフォルトはオフ
デフォルトとして保存時にはコンテンツのアーカイブを行いませんが、保存時にアーカイブするよう選択することもできます。
- 保存時に自動
常に保存時にコンテンツのアーカイブを自動的に行います。
- 解放時に自動
常に解放時にコンテンツのアーカイブを自動的に行います。
- 公開時に自動
常に公開時にコンテンツのアーカイブを自動的に行います。

公開 / 非公開に関わらず Web サイト・コンテンツの変更をすべて追跡するには、「保存時に自動」を使います。

各 Web サイト管理者が行なった変更をすべて追跡するには、「解放時に自動」を使います。

Web サイト・コンテンツの公開済み変更をすべて追跡するには、「公開時に自動」を使います。

コンテンツのアーカイブは、コンテンツ項目の追加時や更新時の「保存」ボタン下のチェックボックスを使って行われるか、もしくは Web サイトコンテンツ管理インデックスページの「アーカイブ」ボタンを使って行われます。アーカイブ機能が無効の場合は、「アーカイブ」チェックボックスとボタンは管理ページに表示されません。

アーカイブ済コンテンツへのアクセスは、Web サイトコンテンツ管理インデックスページ上にリスト化されたコンテンツの「アーカイブ済」リンク、もしくはコンテンツ更新時の「比較」と「復元」入力フィールドを使って行われます。アーカイブ機能が無効の場合は、「アーカイブ」リンクは管理ページに表示されません。

デフォルトでは、削除したコンテンツは、即座に Web コンテンツ管理システムから完全に削除されます。任意で、削除したコンテンツを数日間保管しておくことが可能です。実際に削除される前に必要であれば閲覧や復元が可能となります。指定した日数が過ぎると、完全に削除されます。

- コンテンツ項目を即座に削除
削除したコンテンツは、即座に完全に削除されます。
- 削除したコンテンツ項目のコピーを保管する：__日間
削除したコンテンツのコピーが、指定した日数保管されます。



3.5 複数管理者のための専有／解放及びアサイン先機能

デフォルトの HeartCoreWeb コンテンツ管理システムでは、全ての Web サイト管理者が Web サイトコンテンツを更新することができます。しかし、複数の Web サイト管理者が存在する状況下では、一人の管理者が作業をしている間、他の管理者がそのコンテンツを更新できないようにする必要も考えられます。コンテンツの専有とチェックイン機能を有効にすることで、それが可能となります。

コンテンツを専有すると、他の Web サイト管理者はそのコンテンツを更新できなくなります。解放を行うと、他の Web サイト管理者がそのコンテンツを再度更新できるようになります。コンテンツの専有と解放は、手動もしくは自動にて行われます。

- 専有
 - なし
専有／解放機能を無効にする。（“なし”が選択されると、解放設定は無視され、何の影響もなくなることにご注意ください）
 - 更新時に自動
Web サイト管理者がコンテンツの「更新／編集」を選択すると、自動的にそのコンテンツを専有します。また、専有は手動でも選択できます。
 - 保存時に自動
Web サイト管理者がコンテンツを更新後「保存」を選択すると、自動的にそのコンテンツを専有します。また、専有は手動でも選択できます。
 - 手動
専有が手動で選択されたときのみコンテンツを専有します。
- 解放
 - 公開時に自動
Web サイト管理者がコンテンツの「公開」を選択すると、自動的にそのコンテンツを解放します。また、解放は手動でも選択できます。
 - キャンセル時に自動
Web サイト管理者がコンテンツを更新後「キャンセル」を選択すると、自動的にそのコンテンツを解放します。また、解放は手動でも選択できます。
※現在この機能はご利用頂けません。
 - 保存時に自動
Web サイト管理者がコンテンツを更新後「保存」を選択すると、自動的にそのコンテンツを解放します。また、解放は手動でも選択できます。
 - 手動
解放が手動で選択されたときのみコンテンツを解放します。

尚、コンテンツの専有と解放が有効の場合、アサイン先機能も有効にできます。アサイン先機能に伴って、Web サイト管理者はコンテンツ項目を他の管理者にアサインすることができます。厳密には、別の Web サイト管理者に代わってそのコンテンツを専有することによって。

- アサイン
 - アサインを有効にする
Web サイト管理者はコンテンツの追加／更新時に、別の Web サイト管理者へコンテンツをアサインすることができます。
 - アサインを無効にする
Web サイト管理者はコンテンツを別の Web サイト管理者にアサインすることができません。

コンテンツの専有と解放は、Web サイトコンテンツ管理インデックスページの「専有」「解放」リンクやボタンを使って手動で行われます。また、コンテンツの追加時や更新時に「アサイン先」入力フィールドを使って、他の Web サイト管理者へアサインされます。専有／解放機能が無効の場合は、「専有」「解放」リンクとボタン、また「アサイン先」入力フィールドは、管理ページに表示されません。

専有されたコンテンツへは、Web サイトコンテンツ管理ページの左メニュー「状態」／「専有済」より、またパーソナルワークスペースの「あなたの専有済みコンテンツ」セクションより、アクセス可能です。専有／解放機能が無効の場合は、Web サイトコンテンツ管理ページの「状態」／「専有済」左メニュー、またパーソナルワークスペースの「あなたの専有済みコンテンツ」セクションは表示されません。



3.6 多数のコンテンツ項目整理のためのコンテンツカテゴリ

HeartCore Web コンテンツ管理システムのデフォルト・インストールと小規模な Web サイトには、限られた数のページ、構成要素、イメージ、ファイルやリンクのみ含まれており、特別な操作は必要ありません。しかし、Web サイトが大量のコンテンツを含む場合は、コンテンツをクラスやグループ、タイプ、またパッケージに分けて整理することが必要かもしれませんし、少なくともその方が便利で効率的です。

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、一般的なコンテンツのカテゴリに“グループ”と“タイプ”、“パッケージ”という用語を使用します。必要に応じて任意のグループ、タイプ、パッケージを自由に定義することができます。HeartCore Web コンテンツ管理システムにおいて“グループ”と“タイプ”、“パッケージ”に特別な意味はなく、大量のコンテンツをより小さな、より簡単なカテゴリで管理できるよう仕分けする方法にすぎません。

HeartCore Web コンテンツ管理システムでは、Web ページやテンプレートで使われるページ構成要素の様々なカテゴリを定義する、特別なコンテンツのカテゴリに対して、“クラス”という用語を使用します。必要に応じて任意のクラスを自由に定義することができます。

- コンテンツカテゴリを有効にする
コンテンツカテゴリ全般を有効にする。他の特定コンテンツカテゴリ機能が有効の場合には、これは常に有効になっているべきです。

- コンテンツカテゴリを無効にする
 コンテンツカテゴリ全般を無効にする。他の特定コンテンツカテゴリ機能がすべて無効の場合のみ、これは無効にされるべきです。



3.6.1 コンテンツ・パッケージ

コンテンツパッケージは、コンテンツのクラスやグループ、タイプに関わらず、コンテンツ項目を整理する方法です。「コンテンツパッケージ」は、Web コンテンツ管理システム内で他に特に意味を持つものではありません。コンテンツパッケージは、多数のコンテンツを永久的に組織化する目的で使用します。

コンテンツパッケージは、コンテンツ項目の追加時や更新時に、「コンテンツカテゴリ」タブの「パッケージ」入力フィールドを使って、定義・選択されます。コンテンツパッケージ機能が無効の場合は、「パッケージ」入力フィールドは管理ページに表示されません。

コンテンツパッケージは、Web コンテンツ管理ページや Web サイト設定ページの左メニュー「パッケージ」よりアクセス可能で、各パッケージのコンテンツを管理することができます。パッケージをどれか一つ選択すると、その選択したパッケージに属するコンテンツのみ表示されます。よって、大量のコンテンツを扱う際には、より迅速に簡単に行うことが可能になります。Web サイトコンテンツ管理インデックスページにリスト化された各コンテンツ項目には、それぞれのパッケージ名を表示するカラムがあります。コンテンツパッケージ機能が無効の場合は、「パッケージ」左メニューとインデックスページのカラムは、Web サイトコンテンツ管理ページと Web サイト設定ページに表示されなくなります。



3.6.2 コンテンツ・バンドル

コンテンツバンドルも、コンテンツのクラスやグループ、タイプに関わらず、コンテンツ項目を整理する方法です。「コンテンツバンドル」は、Web コンテンツ管理システム内で他に特に意味を持つものではありません。コンテンツパッケージは、少数のコンテンツを一時的に組織化する目的で使用します。

コンテンツパッケージは、コンテンツ項目の追加時や更新時に、「コンテンツカテゴリ」タブの「パッケージ」入力フィールドを使って、定義・選択されます。コンテンツパッケージ機能が無効の場合は、「パッケージ」入力フィールドは管理ページに表示されません。

コンテンツパッケージは、Web コンテンツ管理ページや Web サイト設定ページの左メニュー「パッケージ」よりアクセス可能で、各パッケージのコンテンツを管理することができます。パッケージをどれか一つ選択すると、その選択したパッケージに属するコンテンツのみ表示されます。よって、大量のコンテンツを扱う際には、より迅速に簡単に行うことが可能になります。Web サイトコンテンツ管理インデックスページにリスト化された各コンテンツ項目には、それぞれのパッケージ名を表示するカラムがあります。コンテンツパッケージ機能が無効の場合は、「パッケージ」左メニューとインデックスページのカラムは、Web サイトコンテンツ管理ページと Web サイト設定ページに表示されなくなります。

● コンテンツバンドルを有効にします

○ コンテンツバンドルを無効にします

3.6.3 ページと構成要素のクラス、グループ、タイプ

3.6.3.1 構成要素クラス

構成要素クラス機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクションの「設定」／「コンテンツ」／「クラス」メニュー項目が追加されたり、表示されなくなったりします。Webサイトの構成要素クラスを設定するには、「クラス」メニューと各設定ページを使用します。詳しくは、4.Webサイトコンテンツ設定をご参照下さい。

構成要素クラスは、コンテンツ項目を追加したり更新したりする際、「コンテンツカテゴリ」タブの「クラス」入力フィールドを使って定義されます。構成要素クラス機能が無効の場合は、「クラス」入力フィールドは管理ページに表示されません。

構成要素クラスへアクセスするには、Webサイトコンテンツ管理ページの左メニュー「構成要素」／「クラス」を使い、構成要素クラスのコンテンツを追加したり管理したりすることができます。「構成要素」／「クラス」メニュー項目からいずれかを選択すると、その選択した構成要素クラスに属するコンテンツのみがリスト化され、またその構成要素クラスへ新規コンテンツを追加することが可能になります。リスト化された各コンテンツ項目には、それぞれの構成要素クラスを表示するカラムがあります。構成要素クラス機能が無効の場合は、「構成要素」左メニューとインデックスページのカラムが、管理ページに表示されなくなります。

3.6.3.2 ページ／構成要素のグループとタイプ

「ページ」／「構成要素」のグループとタイプ機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクションの「設定」／「コンテンツ」／「グループ」・「タイプ」メニューやページが、追加されたり表示されなくなったりします。Webサイトのページ／構成要素グループ・タイプを設定するには、「グループ」「タイプ」メニューと設定ページを使用します。詳しくは、4.Webサイトコンテンツ設定をご参照下さい。

ページ／構成要素グループとタイプは、コンテンツ項目の追加時や更新時に、「コンテンツカテゴリ」タブの「グループ」「タイプ」入力フィールドにて定義することができます。ページ／構成要素のグループ・タイプ機能が無効の場合は、「グループ」「タイプ」入力フィールドは管理ページに表示されません。

Webサイトコンテンツ管理インデックスページのリストには、「選択を移動」ボタンと「グループ」「タイプ」リストが含まれており、選択したコンテンツ項目を別のグループやタイプへ移動することができます。ページ／構成要素グループとタイプ機能が無効の場合は、「グループ」「タイプ」リストは管理ページに表示されません。

ページ／構成要素グループとタイプへのアクセスは、Webサイトコンテンツ管理ページの左メニュー「グループ」「タイプ」より可能で、各ページ／構成要素グループとタイプのコンテンツ項目を追加したり管理したりすることができます。グループやタイプのいずれかを選択すると、その選択したグループもしくはタイプに属するコンテンツのみが一覧表示されます。Webサイトコンテンツ管理インデックスページにリスト表示された各コンテンツには、それぞれのグループとタイプを表示するカラムがあります。ページ／構成要素グループ・タイプ機能が無効の場合は、「グループ」「タイプ」左メニューとインデックスページのカラムは、管理ページに表示されません。

ページと構成要素

● 構成要素のクラスを有効にします。	○ 構成要素のクラスを無効にします。
● ページ／構成要素のタイプを有効にします。	○ ページ／構成要素のタイプを無効にします。
● ページ／構成要素のグループを有効にします。	○ ページ／構成要素のグループを無効にします。

3.6.4 イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプ

イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプ機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクションの「設定」／「イメージ」／「グループ」「タイプ」、「設定」／「ファイル」／「グループ」「タイプ」、「設定」／「リンク」／「グループ」「タイプ」メニュー項目とページが、追加されたり表示されなくなったりします。Webサイトのイメージ、ファイル、リンクのグループとタイプを設定するには、それぞれのメニュー項目と設定ページを使用します。詳しくは、4.Webサイトコンテンツ設定をご参照下さい。

イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプは、それぞれ追加時や更新時に「コンテンツカテゴリ」タブの「グループ」「タイプ」入力フィールドにて定義することができます。イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプ機能が無効の場合は、「グループ」「タイプ」入力フィールドは管理ページに表示されません。

Webサイトコンテンツ管理インデックスページには、「選択を移動」ボタンと「グループ」「タイプ」リストが含まれており、選択したコンテンツ項目を別のグループやタイプへ移動させることが可能です。イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプ機能が無効の場合には、「グループ」「タイプ」リストは管理ページに表示されません。

イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプは、Webコンテンツ管理ページの左メニュー「グループ」「タイプ」よりアクセス可能で、イメージ、ファイル、リンクの各グループとタイプのコンテンツを追加したり管理したりすることができます。グループやタイプのいずれかを選択すると、その選択したグループもしくはタイプに属するコンテンツのみリスト表示されます。Webサイトコンテンツ管理インデックスページにリスト表示された各コンテンツには、それぞれのグループやタイプを表示するカラムが含まれます。イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプ機能が無効の場合は、「グループ」「タイプ」左メニューとインデックスページのカラムは、管理ページに表示されません。

イメージ	
● イメージタイプを有効にします。	● イメージタイプを無効にします。
● イメージグループを有効にします。	● イメージグループを無効にします。
ファイル	
● ファイルタイプを有効にします。	● ファイルタイプを無効にします。
● ファイルグループを有効にします。	● ファイルグループを無効にします。
リンク	
● リンクタイプを有効にします。	● リンクタイプを無効にします。
● リンクグループを有効にします。	● リンクグループを無効にします。

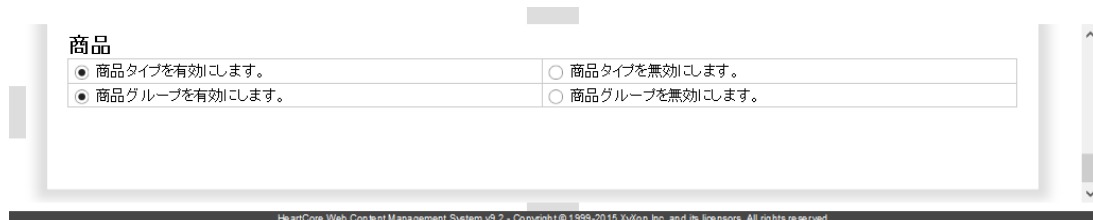
3.6.5 商品のグループとタイプ

イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプ機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクションの「設定」／「Eコマース」／「商品」／「グループ」「タイプ」メニュー項目とページが、追加されたり表示されなくなったりします。Webサイトの商品グループとタイプを設定するには、それぞれのメニュー項目と設定ページを使用します。詳しくは、7.Eコマース設定をご参照下さい。

商品のグループとタイプは、コンテンツの追加時や更新時に「コンテンツカテゴリ」タブの「グループ」「タイプ」入力フィールドにて定義することができます。商品のグループとタイプ機能が無効の場合は、「グループ」「タイプ」入力フィールドは管理ページに表示されません。

Webサイト商品管理インデックスページには、「選択を移動」ボタンと「グループ」「タイプ」リストが含まれており、選択したコンテンツ項目を別のグループやタイプへ移動させることが可能です。商品のグループとタイプ機能が無効の場合には、「グループ」「タイプ」リストは管理ページに表示されません。

商品のグループとタイプは、Web サイト商品管理ページの左メニュー「グループ」「タイプ」よりアクセス可能で、各グループやタイプのコンテンツを追加したり管理したりすることができます。グループやタイプのいずれかを選択すると、その選択したグループもしくはタイプに属するコンテンツのみリスト表示されます。Web サイト商品管理インデックスページにリスト表示された各コンテンツには、それぞれのグループやタイプを表示するカラムが含まれます。商品のグループとタイプ機能が無効の場合は、「グループ」「タイプ」左メニューとインデックスページのカラムは、管理ページに表示されません。



3.7 Web サイトコンテンツ整合性のためのコンテンツ依存関係

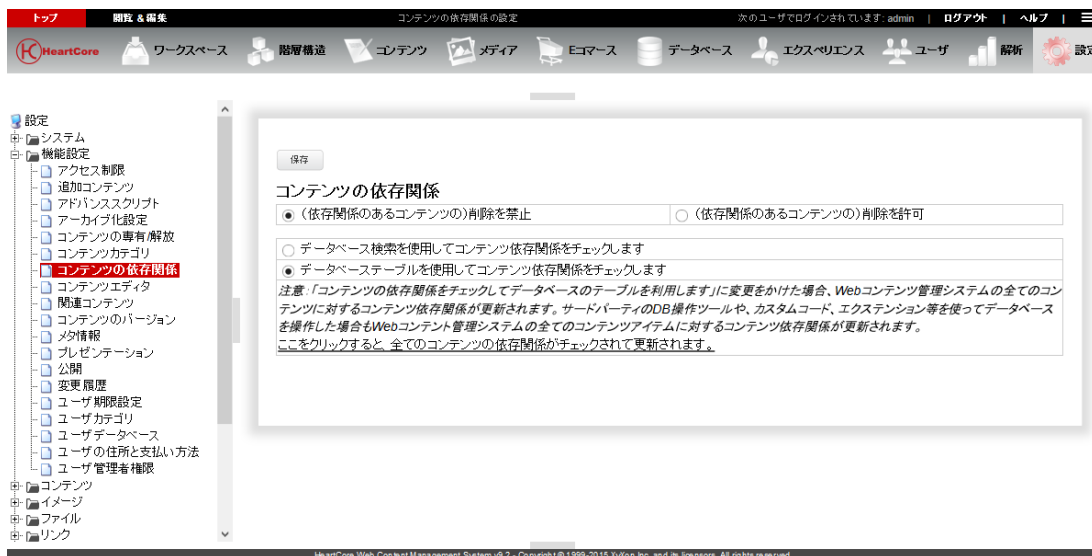
デフォルトでは、他のコンテンツ項目や Web サイト設定が依存しているコンテンツ項目は、削除することができません。他のコンテンツ項目や Web サイト設定が依存しているコンテンツ項目を削除するには、すべてのコンテンツ依存関係をあらかじめ解除する必要があります。または、他のコンテンツ項目や Web サイト設定が依存しているコンテンツ項目を削除できるよう、Web コンテンツ管理システムを設定することも可能です。

- 削除を禁止
他のコンテンツ項目や Web サイト設定が依存しているコンテンツ項目は、削除することができません。
- 削除を許可
他のコンテンツ項目や Web サイト設定が依存しているコンテンツ項目を、削除することができます。

厳密には、Web コンテンツ管理システムは、コンテンツ項目のコンテンツ依存関係を 2つの方法でチェックすることができます。

- データベース検索を使用してコンテンツ依存関係をチェックする
“substring”データベース検索を使用してすべてのコンテンツ項目のリンクが検索されます。この方法では、すべてのコンテンツ依存関係が常に最新の状態に更新されます。しかし、すべてのデータベースが“substring”データベース検索を効率よく行うわけではないので、大量のコンテンツ項目がある場合、このデータベース検索を用いたコンテンツ依存関係チェックは、時間がかかる可能性があります。
- データベース・テーブルを使用してコンテンツ依存関係をチェックする
Web コンテンツ管理システムは、コンテンツ依存関係を特殊なデータベース・テーブルに記録します。この方法では、コンテンツ依存関係チェックが効率よく行われます。しかし、Web コンテンツ管理システム内のコンテンツ項目を独自のプログラムから、あるいはサードパーティ製のプログラムから直接、追加、更新、削除した場合、この特殊なコンテンツ依存関係データベース・テーブルは自動的に更新されず、登録されているコンテンツ依存関係が間違っている可能性があります。登録されているコンテンツ依存関係を最新の状態にしておくには、Web コンテンツ管理システムのプログラミング・インターフェースを使って、独自の、またはサードパーティ製のプログラムから Web コンテンツ管理システム内のコンテンツ項目を追加、更新、削除してください。あるいは、独自の、もしくはサードパーティ製のプログラムから Web コンテンツ管理システ

ムデータベース内を直接変更した後で、すべてのコンテンツ項目のコンテンツ依存関係を更新するには、「ここをクリックすると、全てのコンテンツの依存関係がチェックされて更新されます」リンクを使用してください。



The screenshot shows the 'Content Dependencies' configuration page. The left sidebar contains a navigation menu with 'コンテンツの依存関係' (Content Dependencies) selected. The main content area has a title 'コンテンツの依存関係' and two radio buttons: '依存関係のあるコンテンツの削除を禁止' (Prohibit deletion of content with dependencies) and '依存関係のあるコンテンツの削除を許可' (Allow deletion of content with dependencies). Below these are two radio buttons for checking dependencies: 'データベース検索を使用してコンテンツ依存関係をチェックします' (Check content dependencies using database search) and 'データベーステーブルを使用してコンテンツ依存関係をチェックします' (Check content dependencies using database tables). A note below states: '注意: 「コンテンツの依存関係をチェックしてデータベースのテーブルを利用します」に変更をかけた場合、Webコンテンツ管理システムの全てのコンテンツに対するコンテンツ依存関係が更新されます。サードパーティのDB操作ツールや、カスタムコード、エクステンション等を使ってデータベースを操作した場合もWebコンテンツ管理システムの全てのコンテンツアイテムに対するコンテンツ依存関係が更新されます。ここをクリックすると、全てのコンテンツの依存関係がチェックされて更新されます。' (Note: When you change to 'Check content dependencies using database tables', the content dependencies for all content in the Web Content Management System will be updated. Even if you use third-party DB operation tools, custom code, or extensions to operate the database, the content dependencies for all content items in the Web Content Management System will be updated. Clicking here will check and update the content dependencies for all content.)

3.8 コンテンツ編集

デフォルトでは、HeartCore Web コンテンツ管理システムは、ページ、構成要素、テンプレートの編集に HeartCore Web コンテンツ・エディタが使われます。対応 Web ブラウザの仕様の相違のため、HeartCore コンテンツ・エディタには様々なバージョンがあります。デフォルトでは、お使いの Web ブラウザに応じて最適な HeartCore Web コンテンツ・エディタのバージョンが自動的に選択されます。しかし、HeartCore Web コンテンツ・エディタの特定のバージョンだけを使用するように HeartCore Web コンテンツ管理システムを設定することも可能です。任意で、カスタム Web コンテンツエディタモジュールをインストールして設定し、HeartCore Web コンテンツエディタの代わりに使用することもできます。

また、パーソナルワークスペース・セクションの表示や、各セクションで表示されるインデックスページのカラム、メニュー項目のシングル選択とコンビネーション選択など、HeartCore Web コンテンツ管理システムの様々な箇所を、各自の要件や好みに合わせてカスタマイズすることができます。

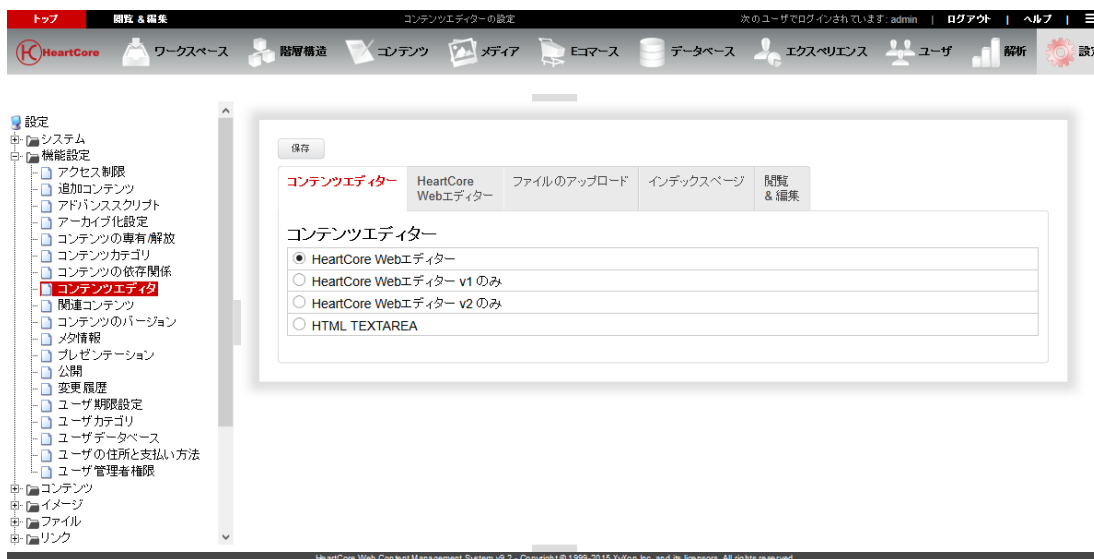
3.8.1 コンテンツ・エディタ

どのコンテンツ・エディタを使用するか、優先コンテンツ・エディタ設定オプションを選択します。特別な要件がない限り、デフォルトの HeartCore Web コンテンツエディタが常に使用されるべきです。

- HeartCore Web エディタ

内蔵のビジュアルな What-You-See-Is-What-You-Get の HeartCore Web コンテンツ・エディタを使用し、ユーザの Web ブラウザに合わせて自動的に HeartCore Web コンテンツ・エディタの最適なバージョンを選択します。このためには、Web サイト管理者は Microsoft Windows Internet Explorer (4.0 以上) または Mozilla をベースとした Web ブラウザ (Mozilla version 1.3 以上) (Mozilla Firefox version 0.7 以上) (Netscape version 7.1 以上) の最新版が必要です。他の Web ブラウザには、シンプルな HTML TEXTAREA テキスト・エディタが使われます。

- HeartCore Web エディタ v1 のみ
 内蔵のビジュアル What-You-See-Is-What-You-Get HeartCore Web コンテンツ・エディタ v1 のみを使用します。これには、Web サイト管理者は Microsoft Windows Internet Explorer (4.0 以上)の最新版が必要です。他の Web ブラウザには、シンプルな HTML TEXTAREA テキスト・エディタが使われます。
- HeartCore Web エディタ v2 のみ
 内蔵のビジュアル What-You-See-Is-What-You-Get HeartCore コンテンツ・エディタを使用します。これには、Web サイト管理者は Microsoft Windows Internet Explorer (5.5 以上) または Mozilla ベースの Web ブラウザ (Mozilla version 1.3 以上) (Mozilla Firefox version 0.7 以上) (Netscape version 7.1 以上)の最新版が必要です。その他の Web ブラウザにはシンプルな HTML TEXTAREA テキスト・エディタが使用されます。
- HTML TEXTAREA
 標準的な Web ブラウザのシンプルなテキスト・エディタを使います。これには、Web サイト管理者がコンテンツをフォーマットなしのシンプルなテキストに限定するか、または専門知識を必要とする HTML コードを直接編集することが必要になります。
- カスタム Web コンテンツエディタモジュール
 任意で、カスタム Web コンテンツエディタモジュールをインストールして設定し、HeartCore Web コンテンツエディタの代わりに使用することもできます。インストールされているカスタム Web コンテンツエディタモジュールが存在する場合は、ここへ表示され選択することが可能となります。



3.8.2 HeartCoreWeb エディタ

3.8.2.1 イメージ・アップロード

Web サイト管理者が、コンテンツ・エディタ・ページから直接新規イメージをアップロードすることもできますし、ライブラリ管理を使ってのみ新規イメージをアップロードできるよう制限することもできます。

- イメージのアップロードを有効にします
 コンテンツ・エディタから新規イメージを直接アップロードできます。

- イメージのアップロードを無効にします
コンテンツ・エディタから新規イメージを直接アップロードすることはできません。新規イメージのアップロードは、ライブラリ管理を通じてのみ可能です。

3.8.2.2 HTML フォーマット

デフォルトでは、Web コンテンツ・エディタからの出力は、Web ブラウザによって生成される HTML コードです。生成される HTML コードは、Web ブラウザによってフォーマットが異なります。代わりに、コンテンツの保存時/前に、Web ブラウザによって生成される HTML コードを、より統一された標準準拠の HTML や、または XHTML フォーマットに再フォーマットするよう、Web コンテンツ・エディタを設定することも可能です。

- デフォルト (Web ブラウザの生成した HTML)
デフォルトでは、HTML コードは Web ブラウザの内臓 HTML 編集機能によって生成されます。Web ブラウザによっては、生成される HTML コードに顕著な違いがある可能性がありますのでご了承下さい。また、いくつかの HTML コードは、コンテンツの更新や保存が行われると、変化する場合がありますが、コンテンツ自体に変更が及ぶことはありません。
- HTML
HeartCore Web エディタは、異なる Web ブラウザ間でも、より統一された HTML コードになるよう Web ブラウザの生成した HTML コードに変更を施します (全く同一ではありません)。
- HTML4
HeartCore Web エディタは、異なる Web ブラウザ間でも、より統一された HTML コードになるよう Web ブラウザの生成した HTML コードに変更を施します (全く同一ではありません)。HTML4 の標準に準拠した項目が、「フォーマット」および「フォームの挿入」からご利用いただけるようになります。
- HTML5
HeartCore Web エディタは、異なる Web ブラウザ間でも、より統一された HTML コードになるよう Web ブラウザの生成した HTML コードに変更を施します (全く同一ではありません)。新しい HTML5 の標準に準拠した項目が、「フォーマット」および「フォームの挿入」からご利用いただけるようになります。
- XHTML
HeartCore Web エディタは、Web ブラウザの生成した HTML コードが XHTML コード構文に準拠するよう変更を施します (必ずしもセマンティック XHTML ではありません)。

3.8.2.3 入力フィールドのサイズ

デフォルトでは、Web コンテンツ・エディタの入力フィールドのサイズは、幅が Web ブラウザ・ウィンドウで使用可能な幅の 100%、高さが 450 ピクセルです。幅と高さを空白のままにしてデフォルト値を使用するか、Web コンテンツ・エディタの入力フィールドで使用する幅および/あるいは高さを入力します。

3.8.2.4 Enter キー出力

デフォルトでは、Web コンテンツ・エディタは、Enter キーが押されると Web ブラウザのデフォルト出力を使用します。ブラウザによって出力が異なる場合があります。ブラウザによっては Enter が押されると段落を挿入し、Shift+Enter で改行を挿入しますが、その他のブラウザは Enter で改行を、Shift+Enter で段落を挿入する場合があります。このようなブラウザのデフォルト出力を使用するには、この設定オプションを空白にしておきます。Web ブラウザのデフォルト

トを上書きするよう、Enter キーが押された際に挿入する HTML コードを設定することができます。出力は、どんな HTML コードやプレーン・テキストでも設定可能です。

3.8.2.5 ツールバーのカスタマイズ

デフォルトの Web コンテンツ・エディタ・ツールバーには、Web コンテンツ・エディタがサポートする全てのボタン／オプションが含まれています。しかしながら、他の定義済み設定を使用したり、ツールバー・ボタンやオプションを並べ替えたり、もしくはいくつかのツールバー・ボタンやオプションを除去したりできるよう設定することも可能です。例えば、ユーザが太字、斜体、下線などを使って直接体裁を整える代わりに、スタイルシートの使用を義務付ける時など。

定義済みのツールバー設定を設定するには、定義済みツールバー・オプションからひとつ選択してください。

- 標準
すべての Web コンテンツ・エディタ機能のツールバー・ボタンとドロップダウン・メニューを持つ 3 行のツールバー。
- コンパクト
すべての Web コンテンツ・エディタ機能のツールバー・ボタンとドロップダウン・メニューを持つ 2 行のツールバー。
- 最大
すべての Web コンテンツ・エディタ機能のツールバー・ボタンがツールバー内に直接ある拡張ツールバー。
- 最小
テキスト・フォーマットのツールバー・ボタンと、スタイル以外のドロップダウン・メニューを持たない、縮小ツールバー。

Web コンテンツ・エディタでカスタム・ツールバーを設定するには、表示したいツールバー・ボタン／オプションの名前を、スペース区切りで入力します。デフォルトのツールバー・ボタン／オプション名は、次のものがあります。

- formatclass formatblock fontname fontsize bold italic underline forecolor backcolor superscript subscript strikethrough help
- cut copy paste clean removeformat delete selectall undo redo specialcharacter insertmedia iframe createlink mailto anchor unlink inserthorizontalrule insertorderedlist insertunorderedlist outdent indent justifyleft justifycenter justifyright justifyfull nobr
- createtable tableproperties insertcaption insertrowhead insertrowfoot rowproperties insertrowabove insertrowbelow deleterow splitcellrows columnproperties insertcolumnleft insertcolumnright deletecolumn splitcellcolumns cellproperties insertcellleft insertcellright deletecell splitcell mergecells import find printbreak print preview
- form submitbutton resetbutton backbutton imagebutton file button text password hidden textarea checkbox radio select position forwards backwards front back abovetext belowtext box spellcheck viewdetails viewsource save

各 Web サイト管理者用にそれぞれ異なるカスタムのツールバーを設定することもできます。例えば、ある Web サイト管理者には基本的な機能だけにアクセスできるようにし、別の Web サイ

ト管理者には全ての機能にアクセスできるようにすることができます。詳細については「ウェブサイト管理者ガイド」をご参照下さい。

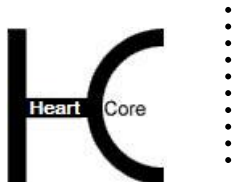
3.8.2.6 フォーマット・オプション

Web コンテンツ・エディタの“フォーマット”オプション。デフォルトのオプションは次の通りです:

Normal=<p>
Paragraph=<p>
Formatted=<pre>
Heading 1=<h1>
Heading 2=<h2>
Heading 3=<h3>
Heading 4=<h4>
Heading 5=<h5>
Heading 6=<h6>
Numbered List=
Bulleted List=
Directory List=<dir>
Menu List=<menu>
Definition Term=<dt>
Definition=<dd>
Address=<address>
Main=<main>
Section=<section>
Article=<article>
Header=<header>
Footer=<footer>
Navigation =<nav>
Aside=<aside>
Figure=<figure>
Figure Caption=<figcaption>
Details=<details>
Summary=<summary>

For HTML4 and XHTML format the default options are:

Normal=<p>
Paragraph=<p>
Formatted=<pre>
Heading 1=<h1>
Heading 2=<h2>
Heading 3=<h3>
Heading 4=<h4>
Heading 5=<h5>
Heading 6=<h6>
Numbered List=
Bulleted List=
Directory List=<dir>
Menu List=<menu>
Definition Term=<dt>
Definition=<dd>
Address=<address>



3.8.2.7 フォント名オプション

Web コンテンツ・エディタの“フォント名”オプション。デフォルトのオプションは次の通りです：

Times New Roman=Times New Roman
Helvetica,Arial=Helvetica,Arial
Helvetica=Helvetica
Arial=Arial
Courier=Courier

3.8.2.8 フォントサイズオプション

Web コンテンツ・エディタの“フォントサイズ”オプション。デフォルトのオプションは次の通りです：

8=1
10=2
12=3
14=4
18=5
24=6
36=7

3.8.2.9 カスタム Javascript 機能

Web コンテンツ・エディタのツールバーに、カスタマイズした Javascript 機能を追加することができ、このカスタマイズした Javascript 機能で既存の機能を置き換えることができます。

カスタマイズしたツールバー・ボタンや Javascript 機能を追加するには、前述の方法で”hello”というボタンを追加し、次のような Javascript 機能を入力します：

```
function webeditor_custom_hello() {  
    alert('Hello');  
}
```

この例では単純に、”hello”というツールバー・ボタンが押された時に、”Hello”というメッセージを表示させるものですが、Javascript 機能で Web コンテンツ・エディタにコンテンツを貼り付けたり、その他の方法で Web コンテンツ・エディタのコンテンツを編集することも可能です。カスタム・ツールバー・ボタンや Javascript 機能、HeartCore Web コンテンツ・エディタ Javascript API に関する詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。

HeartCore Web Content Management System Configuration Guide - HeartCore Web Editor Settings

Navigation: トップ | 開発 & 編集 | コンテンツエディタの設定 | 次のユーザーでログインされています: admin | ログアウト | ヘルプ | 設定

System Settings: システム | 機能設定

- アクセス制限
- 追加コンテンツ
- アドバンススクリプト
- アーカイブ化設定
- コンテンツの毒有解放
- コンテンツカテゴリ
- コンテンツの依存関係
- コンテンツエディタ**
- 関連コンテンツ
- コンテンツのバージョン
- メタ情報
- プレゼンテーション
- 公開
- 変更履歴
- ユーザー期限設定
- ユーザーカテゴリ
- ユーザーデータベース
- ユーザーの住所と支払い方法
- ユーザー管理者権限

Content Management: コンテンツ | イメージ | ファイル | リンク | ユーザ | ワークフロー | バージョン | エコマース | データベース | バックアップ | バンドル

HeartCore Web Editor Settings

Image Upload: イメージのアップロードを有効にします。 イメージのアップロードを無効にします。

HTML Format: デフォルト (Webブラウザが生成したHTML) HTML HTML4 HTML5 XHTML

Input Field Size: 幅: [] 高さ: []

Enter Key Output: Enter: [] Ctrl+Enter: [] Shift+Enter: [] Alt+Enter: []

Toolbar: 標準: 標準 コンパクト 最大 最小

Format Options: []

Font Name Options: []

Font Size Options: []

Customized Java Script Function: []

HeartCore Web Content Management System v9.2 - Copyright © 1999-2015 Xylin Inc. and its licensors. All rights reserved.

3.8.3 ファイル・アップロード

様々なファイルアップロード・コンポーネントが、イメージやファイルのアップロードに使用できますが、現在は、統合された HeartCore ファイルアップロード・コンポーネントのみサポートしています。

- HeartCore
HeartCore Web コンテンツ管理システムに内蔵されたファイル・アップロード機能を使います。

サードパーティ製のコンテンツ・エディタ製品を使用する場合でも、通常は HeartCore ファイル・アップロード・オプションを選択すべきです。サードパーティ製のファイル・アップロード・コンポーネントは、HeartCore Web コンテンツ管理システムのより高度な機能をすべてサポートできない可能性があります。

デフォルトでは、イメージやファイルはサイズに関係なくアップロードが許可されています。任意で、ファイルのサイズを制限することが可能です。（イメージの解像度サイズを制限してリサイズを行いたい場合などは、「プログラミング API ガイド」をご参照ください。）

- イメージアップロード制限
アップロードしたイメージのファイルサイズは、指定したバイトを超えてはいけません。サイズを制限しない場合は、空白のままにしてください。
- ファイルアップロード制限
アップロードしたファイルのファイルサイズは、指定したバイトを超えてはいけません。サイズを制限しない場合は、空白のままにしてください。



3.8.4 インデックス・ページ

パーソナルワークスペース・セクションの表示や、各セクションで表示されるインデックスページのカラム、メニュー項目のシングル選択とコンビネーション選択をカスタマイズすることができます。

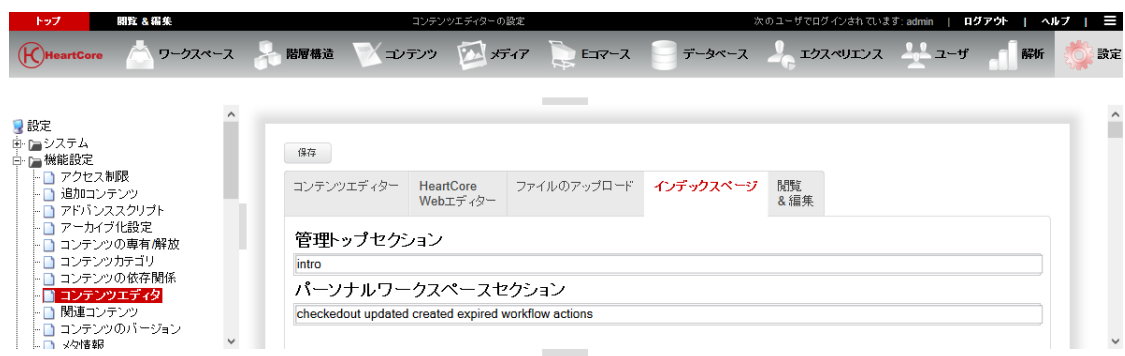
3.8.4.1 管理トップ・セクションとパーソナル・ワークスペース・セクション

「管理トップセクション」および「パーソナルワークスペース」セクションと、その順序をカスタマイズすることができます。表示させたいセクションを表示させたい順序で、以下に示す

コードをスペース区切りで入力します。例えば“intro checkedout updated created expired workflow actions”と入力すると、入力した順序で利用可能なセクションがすべて表示されます。関連機能が無効に設定されているセクションは表示されませんのでご注意ください。デフォルトの設定に戻すには、入力フィールドを完全にクリアして保存します。管理トップセクションとパーソナルワークスペースセクションを無効にするには、空白を入力します。

また、パーソナルワークスペースセクション設定は、各管理者ユーザ・アカウント別にカスタマイズすることも可能です。詳しくは、3.19 Web サイト管理者別 機能設定のためのユーザ機能設定および「ウェブサイト管理者ガイド」をご参照ください。

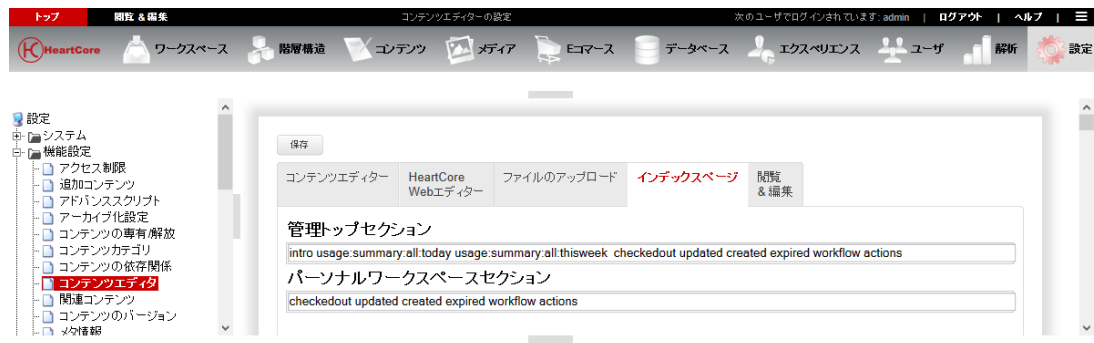
- **Intro**
HeartCore の各エリアへのリンクと説明を記載したメインイントロセクションを表示します。
- **Checkedout**
ログイン中のユーザによって専有されたコンテンツ項目をすべて表示します。
- **Updated**
ログイン中のユーザにアクセス権限のある、更新済み未公開コンテンツ項目をすべて表示します。
- **Created**
ログイン中のユーザにアクセス権限のある、新規の未公開コンテンツ項目をすべて表示します。
- **Expired**
ログイン中のユーザにアクセス権限のある、公開期限終了済みコンテンツ項目をすべて表示します。
- **Workflow**
ログイン中のユーザにワークフローアクション実行権限のあるコンテンツ項目をすべて表示します。
- **Actions**
実行ボタンを表示します。



3.8.4.1.1 Web アクセス統計値

Web アクセス統計値レポートを、管理トップセクションやパーソナルワークスペースの一部として直接表示させることもできます。管理トップセクションとパーソナルワークスペースセクション設定へ、Web アクセス統計値レポート・コードを入力します。例えば“intro usage:summary:all:today usage:summary:all:thisweek checkedout updated created expired workflow

actions” と入力すると、メインイントロセクションに続いて、日次および週次の統計値サマリーが表示されます。使用する Web アクセス統計値レポート・コードについての詳細は、2.8 アクセス統計値システム設定をご参照ください。

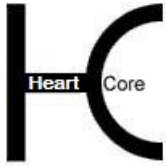


3.8.4.2 インデックスページカラム

管理インデックスページに表示させるカラム及びリンクは、カスタマイズが可能です。表示させたいカラムとリンクを、下記コードをスペース区切りで、表示させたい順に入力します。カラムの後ろにコロんとピクセル幅を追加し、各カラムのサイズを指定することもできます。例えば、"group:50px admin id:25px" と入力すると、50ピクセル幅の「グループ」フィールドと、管理ページへのリンク、25ピクセル幅の「id」フィールドが表示されます。関連機能が無効に設定されているカラム及びリンクは、表示されませんのでご注意ください。デフォルトの設定に戻すには、入力フィールドを完全にクリアして保存します。

また、インデックスページカラム設定は、各管理者ユーザ・アカウント別にカスタマイズすることも可能です。詳しくは、3.19 Web サイト管理者別機能設定のためのユーザ機能設定および「ウェブサイト管理者ガイド」をご参照ください。

- パーソナルワークスペース、Web サイトコンテンツ、メディアライブラリ、E コマース商品、E コマース在庫コード
 - checkbox
コンテンツ項目を選択するためのチェックボックスを表示します。
 - package
パッケージに属しているコンテンツ項目のパッケージを表示します。
 - class
コンテンツ項目のクラスを表示します。例：「ページ」「テンプレート」
 - bundle
コンテンツ項目のバンドル名を表示します。
 - group
コンテンツ項目のグループ名を表示します。
 - type
コンテンツ項目のタイプ名を表示します。
 - version
コンテンツ項目のバージョンを表示します。



- **device**
コンテンツ項目のデバイスを表示します。
- **metainfo_NAME**
コンテンツ項目の **NAME** メタ情報カスタム属性を表示します。
- **admin**
コンテンツ項目の管理ページを開くための、コンテンツ項目タイトルをリンクとして表示します。
- **title**
コンテンツ項目のタイトルを表示します。
- **id**
コンテンツ項目の **ID** を表示します。
- **template**
コンテンツ項目のテンプレート **ID** を表示します。
- **stylesheet**
コンテンツ項目のスタイルシート **ID** を表示します。
- **top**
コンテンツ項目の関連コンテンツ「ページトップ」**ID** を表示します。
- **up**
コンテンツ項目の関連コンテンツ「ページアップ」**ID** を表示します。
- **first**
コンテンツ項目の関連コンテンツ「最初のページ」**ID** を表示します。
- **previous**
コンテンツ項目の関連コンテンツ「前のページ」**ID** を表示します。
- **next**
コンテンツ項目の関連コンテンツ「次のページ」**ID** を表示します。
- **last**
コンテンツ項目の関連コンテンツ「最後のページ」**ID** を表示します。
- **permissionicon**
コンテンツ項目に対する管理権限アイコンを表示します。
- **permission**
コンテンツ項目に対する管理権限を表示します。
- **previewicon**
コンテンツ項目のプレビューへリンクするアイコンを表示します。
- **preview**
コンテンツ項目のプレビューへリンクする「プレビュー」というテキストリンクを表示します。

- **webviewicon**
Web サイト上でのコンテンツ項目を閲覧するアイコンを表示します。
- **webview**
Web サイト上でのコンテンツ項目を閲覧するテキストリンクを表示します。
- **view**
コンテンツ項目の詳細閲覧ページへリンクする「詳細表示」というテキストリンクを表示します。
- **update**
コンテンツ項目を更新できる「更新」というテキストリンクを表示します。
- **create**
インデックスページでコンテンツ項目のコピーとして新規作成できる「追加」というテキストリンクを表示します。
- **delete**
コンテンツ項目を削除する管理ページ開くための「削除」というテキストリンクを表示します。
- **archivedicon**
コンテンツ項目のアーカイブ管理ページへリンクするアイコンを表示します。
パーソナルワークスペースに表示されるコンテンツ項目の数が非常に多い場合は、パフォーマンスの理由により、このカラムは使用すべきではありません。
- **archived**
コンテンツ項目のアーカイブ管理ページへリンクする「アーカイブ済」というテキストリンクを表示します。
パーソナルワークスペースに表示されるコンテンツ項目の数が非常に多い場合は、パフォーマンスの理由により、このカラムは使用すべきではありません。
- **scheduledicon**
コンテンツ項目のスケジュール管理ページへリンクするアイコンを表示します。
パーソナルワークスペースに表示されるコンテンツ項目の数が非常に多い場合は、パフォーマンスの理由により、このカラムは使用すべきではありません。
- **scheduled**
コンテンツ項目のスケジュール管理ページへリンクする「スケジュール済」というテキストリンクを表示します。
パーソナルワークスペースに表示されるコンテンツ項目の数が非常に多い場合は、パフォーマンスの理由により、このカラムは使用すべきではありません。
- **checkout**
コンテンツ項目を専有もしくは解放できるテキストリンクを表示します。既に他のユーザによって専有されている場合は、そのユーザのユーザ名を表示します。
- **status**
コンテンツ項目のステータスを表示します。例：「公開 2020-05-09 08:00:00」
- **statusicon**
コンテンツ項目のステータスアイコンを表示します。

- **created**
コンテンツ項目の作成日時を表示します。
- **createdby**
コンテンツ項目を作成したユーザのユーザ名を表示します。
- **updated**
コンテンツ項目の最終更新日時を表示します。
- **updatedby**
コンテンツ項目を最後に更新したユーザのユーザ名を表示します。
- **published**
コンテンツ項目の公開日時を表示します。
- **publishedby**
コンテンツ項目を公開したユーザのユーザ名を表示します。
- **scheduledpublish**
コンテンツ項目にスケジュールされた公開日時を表示します。
- **scheduledunpublish**
コンテンツ項目にスケジュールされた公開終了日時を表示します。
- **unpublished**
コンテンツ項目の非公開日時を表示します。
- **unpublishedby**
コンテンツ項目を非公開したユーザのユーザ名を表示します。
- **filename**
コンテンツ項目のファイル名を表示します。
- **position**
検索と置換の行番号と文字位置を表示します。
検索と置換管理ページでのみ使用されます。他の管理ページでは無視されます。
- **search**
検索したテキストとその文脈を表示します。
検索と置換管理ページでのみ使用されます。他の管理ページでは無視されます。
- **replace**
置換されるテキストとその文脈を表示します。
検索と置換管理ページでのみ使用されます。他の管理ページでは無視されます。
- **productcode**
商品の商品コードを表示します。
- **currency**
商品の通貨を表示します。
- **price**
商品の販売価格を表示します。

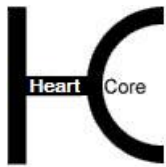
- **cost**
商品の仕入れ原価を表示します。
- **period**
商品のサブスクリプション期間を表示します。
- **depth**
商品の奥行きを表示します。
- **height**
商品の高さを表示します。
- **width**
商品の幅を表示します。
- **weight**
商品の重さを表示します。
- **volume**
商品の容量を表示します。
- **brand**
商品の銘柄を表示します。
- **colour**
商品の色を表示します。
- **size**
商品のサイズを表示します。
- **stock**
商品の現在在庫数量を表示します。
- **stocklow**
商品が残りわずかとなるしきい値を表示します。
- **stockupdate**
商品の現在在庫数量を更新するための入力フィールドを表示します。
- **restocked**
商品の発注済み在庫数量を表示します。
- **restockedupdate**
商品の発注済み在庫数量を更新するための入力フィールドを表示します。
- **stockcomment**
商品の現在在庫コメントを表示します。
- **stocklocation**
商品の在庫場所を表示します。
- **stockcost**
現在在庫数量の原価を表示します。

(現在在庫数量×仕入れ原価)

- **stockvalue**
現在在庫数量が売れた場合の値段を表示します。
(現在在庫数量×販売価格)
 - **stockprofit**
現在在庫数量が売れた場合の利益を表示します。
(現在在庫数量×(販売価格－仕入れ原価))
 - **restockcost**
商品の残りわずかのしきい値まで在庫を補充するために掛かる原価を表示します。
((残りわずかのしきい値－現在在庫数量) ×仕入れ原価)
 - **productinfo_NAME**
商品の **NAME** 商品詳細カスタム属性を表示します。
 - **heatmapicon**
コンテンツ項目のヒートマップにリンクするアイコンを表示します。
 - **heatmap**
コンテンツ項目のヒートマップにリンクするテキストリンクを表示します。
 - **heatmapclear**
コンテンツ項目のヒートマップデータをすべて削除するテキストリンクを表示します。
 - **heatmaponoff**
コンテンツ項目のヒートマップデータの記録に関し、オンとオフを切り替えるテキストリンクを表示します。
 - **heatmapalign**
コンテンツ項目とヒートマップの配置を定義する選択ボックスを表示します。コンテンツ項目に対してヒートマップを適切に表示させるには、コンテンツ項目の実際の配置と合致する必要があります。ヒートマップの配置とコンテンツ項目の配置が合致しない場合、ヒートマップが正しい位置に表示されない可能性があります。
- **E コマース注文コード**
 - **checkbox**
注文を選択するためのチェックボックスを表示します。
 - **id**
注文の **ID** を表示します。
 - **view**
注文の詳細ページへリンクする「詳細表示」というテキストリンクを表示します。
 - **update**
注文を更新するための「更新」というテキストリンクを表示します。

- **create**
インデックスページより注文をコピー追加するための「追加」というテキストリンクを表示します。
- **delete**
注文を削除する管理ページを開くための「削除」というテキストリンクを表示します。
- **checkout**
商品を専有／解放するためのテキストリンクを表示します。既に他のユーザによって専有されている場合は、そのユーザのユーザ名が表示されます。
- **status**
注文のステータスを表示します。例：「- オープン -」
- **created**
注文が作成された日付を表示します。
- **createdby**
注文を作成したユーザのユーザ名を表示します。
- **updated**
注文の最終更新日を表示します。
- **updatedby**
注文を最後に更新したユーザのユーザ名を表示します。
- **closed**
注文がクローズされた日付を表示します。
- **closedby**
注文をクローズしたユーザのユーザ名を表示します。
- **paid**
注文が支払われた日時を表示します。
- **currency**
注文の通貨を表示します。
- **order_quantity**
注文の数量を表示します。
- **order_subtotal**
注文の小計金額を表示します。
- **order_total**
注文の合計金額を表示します。
- **tax_description**
注文の税の説明を表示します。
- **tax_total**
注文の税の合計金額を表示します。

- **shipping_description**
注文の送料説明を表示します。
- **shipping_total**
注文の送料の合計金額を表示します。
- **discount_description**
注文の割引説明を表示します。
- **discount_total**
注文の割引合計金額を表示します。
- **delivery_name**
注文の配送先名前を表示します。
- **delivery_organisation**
注文の配送先組織を表示します。
- **delivery_address**
注文の配送先住所を表示します。
- **delivery_postalcode**
注文の配送先郵便番号を表示します。
- **delivery_city**
注文の配送先市区町村を表示します。
- **delivery_state**
注文の配送先都道府県を表示します。
- **delivery_country**
注文の配送先国名を表示します。
- **delivery_phone**
注文の配送先電話番号を表示します。
- **delivery_fax**
注文の配送先 FAX 番号を表示します。
- **delivery_website**
注文の配送先 Web サイトアドレスを表示します。
- **delivery_email**
注文の配送先 E メールアドレスを表示します。
- **invoice_name**
注文の請求先名前を表示します。
- **invoice_organisation**
注文の請求先組織を表示します。
- **invoice_address**
注文の請求先住所を表示します。



- **invoice_postalcode**
注文の請求先郵便番号を表示します。
- **invoice_city**
注文の請求先市区町村を表示します。
- **invoice_state**
注文の請求先都道府県を表示します。
- **invoice_country**
注文の請求先国名を表示します。
- **invoice_phone**
注文の配送先電話番号を表示します。
- **invoice_fax**
注文の請求先 FAX 番号を表示します。
- **invoice_website**
注文の請求先 Web サイトアドレスを表示します。
- **invoice_email**
注文の請求先 E メールアドレスを表示します。
- **card_type**
注文の支払いカードタイプを表示します。
- **card_number**
注文の支払いカード番号を表示します。
- **card_issuedmonth**
注文の支払いカード発行月を表示します。
- **card_issuedyear**
注文の支払いカード発行年を表示します。
- **card_issued**
注文の支払いカード発行月/年を表示します。
- **card_expirymonth**
注文の支払いカード有効期限月を表示します。
- **card_expiryyear**
注文の支払いカード有効期限年を表示します。
- **card_expiry**
注文の支払いカード有効期限月/年を表示します。
- **card_cvc**
注文の支払いカード CVC 番号を表示します。
- **card_issue**
注文の支払いカード発行番号を表示します。


- **card_name**
注文の支払いカード名義を表示します。
- **card_postalcode**
注文の支払いカード郵便番号を表示します。
- ユーザーデータベースで使用するコード
 - **checkbox**
ユーザを選択するためのチェックボックスを表示します。
 - **class**
ユーザのクラスを表示します。例：「**administrator**」
 - **group**
ユーザのグループ名を表示します。
 - **type**
ユーザのタイプ名を表示します。
 - **name**
ユーザの名前を表示します。
 - **organisation**
ユーザの組織を表示します。
 - **email**
ユーザのメールアドレスを表示します。
 - **username**
ユーザのユーザ名を表示します。
 - **id**
ユーザの ID を表示します。
 - **view**
ユーザの詳細閲覧ページへリンクする「詳細表示」というテキストリンクを表示します。
 - **update**
ユーザの管理ページへリンクする「更新」というテキストリンクを表示します。
 - **create**
既存ユーザのコピーとして新規ユーザを作成するための「追加」というテキストリンクを表示します。
 - **delete**
ユーザを削除する管理ページを開くための「削除」というテキストリンクを表示します。
- マイクロサイトで使用するコード

- **domain**
マイクロサイトのドメインを表示します。
- **remote**
マイクロサイトへのリダイレクト対象となる、ビジター訪問元の詳細を表示します。例：国「.de」
- **useragent**
マイクロサイトへのリダイレクト対象となる、ユーザの使用ブラウザを表示します。
- **language**
マイクロサイトへのリダイレクト対象となる、ユーザのブラウザ選択言語を表示します。
- **referrer**
マイクロサイトへのリダイレクト対象となる、リファラーを表示します。
- **keywords**
マイクロサイトへのリダイレクト対象となる、リファラーキーワードを表示します。
- **version**
マイクロサイトのデフォルト・バージョンを表示します。
- **country**
マイクロサイトのデフォルトの国を表示します。
- **state**
マイクロサイトのデフォルトの都道府県を表示します。
- **template**
マイクロサイトのデフォルト・テンプレートを表示します。
- **stylesheet**
マイクロサイトのデフォルト・スタイルシートを表示します。
- **id**
マイクロサイトの ID を表示します。
- **view**
マイクロサイトの詳細閲覧ページへの「詳細表示」というテキストリンクを表示します。
- **update**
マイクロサイトの管理ページへの「更新」というテキストリンクを表示します。
- **create**
マイクロサイトをコピーして新規マイクロサイト作成するための「追加」というテキストリンクを表示します。
- **delete**
マイクロサイトを削除する管理ページへの「削除」というテキストリンクを表示します。

Web コンテンツ管理システムや、外部システムまたはサービス内の独自カスタム機能へのカスタムリンクを定義することも可能です。例えば、
 "NAME:50px:/webadmin/custommodule/foo.jsp?id="

 "NAME:50px:http://localhost/customservice/bar.jsp?id="

 このようなコードを入力すると、“NAME”に指定したテキストがリンクとして表示されます。そしてリンクを選択すると、指定した Web サイトアドレス URL に、選択しているコンテンツ項目の ID が付与された状態で表示されます。



The screenshot shows the configuration interface for the HeartCore system. On the left is a navigation menu with categories like 'Settings', 'System', 'Function Settings', 'Content', 'E-commerce', and 'User Database'. The 'Content Edit' option is highlighted. The main area displays configuration options for various content management features, each with a checkbox and a text input field for ID, class, bundle, group, type, version, device, usersegment, and usertest. The features include:

- インデックスページカラム
- パーソナルワークスペース
- ウェブサイトコンテンツ
- メディアライブラリ
- ウェブサイト検索
- ウェブサイトコンテンツの高度な検索
- ウェブサイトコンテンツの検索と置換
- Eコマース商品
- Eコマース在庫
- Eコマース注文
- エクスペリエンス管理 セグメント
- エクスペリエンス管理 ユーザテスト
- エクスペリエンス管理 ヒートマップ
- ユーザーデータベース
- マイクロサイト

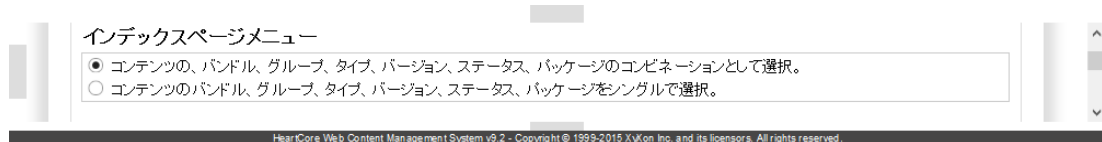
3.8.4.3 インデックスページメニュー

デフォルトでは、コンテンツカテゴリのクラス、グループ、タイプ、バージョン、ワークフロー機能が有効の場合、それらのメニュー項目をコンビネーションとして選択することで、選択したすべてのカテゴリに合致するコンテンツ項目のみを表示させることができます。オプションとして、一度にひとつのメニュー項目しか選択できないように設定し、その選択された単一のコンテンツカテゴリに属するすべてのコンテンツ項目を表示させることも可能です。

また、インデックスページメニュー設定は、各管理者ユーザ・アカウント別にカスタマイズすることも可能です。詳しくは、3.19 Web サイト管理者別 機能設定のためのユーザ機能設定および「ウェブサイト管理者ガイド」をご参照ください。

- 「コンテンツのバンドル、グループ、タイプ、バージョン、ステータス、パッケージのコンビネーションとして選択」
 複数のコンテンツカテゴリ・メニュー項目をコンビネーションとして選択し、選択したすべてのカテゴリに合致するコンテンツ項目のみ表示されます。

- 「コンテンツのバンドル、グループ、タイプ、バージョン、ステータス、パッケージをシングルで選択」
一度にひとつのコンテンツカテゴリ・メニュー項目しか選択できません。選択した単一カテゴリに属するすべてのコンテンツ項目が表示されます。



3.8.5 閲覧&編集

3.8.5.1 ツールバーカスタマイズ

「閲覧&編集」モードのインライン編集で使用するデフォルトの Web コンテンツエディタツールバーは、他の管理ページで使用するツールバーと同じです。これを、予め定義された別のツールバーに変更したり、ツールバーのボタンやオプションをカスタマイズしたりすることが可能です。例えば、太字や斜体、下線といった直接的なテキスト整形ではなく、スタイルシートの使用をユーザへ義務付けたい場合などに有効です。

予め定義されたツールバーを設定するには、いずれかを選択してください。

- 標準
Web コンテンツエディタの全機能に対するツールバーボタンとドロップダウンメニューを備えた 3 行のツールバー
- コンパクト
Web コンテンツエディタの全機能に対するツールバーボタンとドロップダウンメニューを備えた 2 行のツールバー
- 最大
Web コンテンツエディタの全機能に対するツールバーボタンが直接表示される、拡張ツールバー
- 最小
スタイル以外のテキスト整形ツールバーボタンとドロップダウンメニューを除いた、縮小ツールバー

Web コンテンツエディタのツールバーをカスタマイズするには、表示したいツールバーボタン／オプションの名前を、改行区切りで入力します。デフォルトのツールバー／オプションの名前は、以下のとおりです。

- formatclass formatblock fontname fontsize bold italic underline forecolor backcolor superscript subscript strikethrough help
- cut copy paste clean removeformat delete selectall undo redo specialcharacter insertmedia iframe createlink mailto anchor unlink inserthorizontalrule insertorderedlist insertunorderedlist outdent indent justifyleft justifycenter justifyright justifyfull nobr
- createtable tableproperties insertcaption insertrowhead insertrowfoot rowproperties insertrowabove insertrowbelow deleterow splitcellrows columnproperties insertcolumnleft insertcolumnright deletecolumn splitcellcolumns cellproperties insertcelleft insertcellright deletecell splitcell

mergcells import find printbreak print preview

- form submitbutton resetbutton backbutton imagebutton file button text password hidden textarea checkbox radio select position forwards backwards front back abovetext belowtext box spellcheck viewdetails viewsource save

各 Web サイト管理者にそれぞれ異なるカスタムツールバーを設定することもできます。例えば、ある Web サイト管理者は基本的な機能だけ使用できるようにし、別の Web サイト管理者は全ての機能を使用できるようにすることができます。詳細については「ウェブサイト管理者ガイド」をご参照下さい。



3.9 動的ナビゲーションメニューとリンクのためのコンテンツ依存関係

通常は、Web サイト・ナビゲーション・メニューやツールバー内で Web サイト・ページへのリンクを作成し、Web サイト・ページ間をリンクさせます。しかしながら、「上へ」、「前へ」、「次へ」のような汎用ナビゲーション・リンクでテンプレートを作成したり、自動スライドショー・プレゼンテーション Web サイト・ページを作成したい場合があります。コンテンツ相互関係機能を使えばこれが可能です。メディアライブラリ・イメージ/ファイル/リンクについても、いくつでもページや商品と連携させることが可能です（メディアライブラリのイメージ、ファイル、リンク相互関係を使って）。コンテンツの相互関係は、動的なパンくずやメニューを生成する目的で、“パンくず”や“メニュー”によっても使用されます。

コンテンツの相互関係は、コンテンツの追加時や更新時に、「関連コンテンツ」タブの「ページトップ」「ページアップ」「前のページ」「次のページ」「最初のページ」「最後のページ」入力フィールドにて定義されます。コンテンツの相互関係機能が無効の場合は、これらの入力フィールドは管理ページに表示されません。



3.10 多言語対応やその他のマルチバージョン・コンテンツ

通常、Web サイトで使用されるバージョンはひとつだけですが、往々にして Web サイトには様々なユーザを対象としたセクションが含まれます。そこで多言語対応やその他のマルチバージョン・コンテンツが必要になる場合もあるでしょう。

- 諸外国向けの多言語対応コンテンツ
- ビジター、顧客、パートナー、従業員へのそれぞれ差別化されたコンテンツ内容
- 初心者と専門家の各レベルに応じた技術的コンテンツ
- 子供と大人とで区別する成人向けコンテンツ
- モデム、ブロードバンド、ワイヤレスによってユーザを区別するコンテンツ
- ユーザ個人に対応するグラフィック・デザイン様式

複数の Web サイトを別々に作成し管理するのもひとつの方法ですが、もっと簡単で効率的な方法は、コンテンツ・バージョン機能を使うことです。コンテンツ・バージョン機能を使って、シングル・バージョン Web サイトのように単に、優先 Web サイト・コンテンツを作成します。そして追加として、Web サイト・コンテンツの全部あるいは選択した部分の代替バージョンを必要なだけ作成します。代替バージョンは、ページ、構成要素、テンプレート、スタイルシート、イメージ、ファイル、リンクを含むコンテンツ全部に対して作成することができます。

Web サイト・コンテンツの関連代替バージョンは、Web サイトの設定と Web サイト・ビジターの言語などの設定に応じて、自動的に表示されます。代替バージョンが利用できない場所では、コンテンツのマスター/オリジナル/デフォルトバージョンが表示されます。この方法を使えば、Web サイト・コンテンツのマルチバージョンの作成と管理がより簡単で便利になります。

3.10.1 コンテンツ・バージョン

コンテンツバージョン機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクションの「設定」/「バージョン」メニュー項目とページが追加されたり表示されなくなったりします。Web サイトのコンテンツバージョンを設定するには、「バージョン」メニュー項目と各設定ページを使用します。詳しくは、4.Web サイトコンテンツ設定をご参照下さい。

コンテンツバージョンは、コンテンツ項目の追加時や更新時に、「コンテンツバージョン」タブの「バージョンとマスター/デフォルト」入力フィールドにて定義されます。コンテンツバージョン機能が無効の場合は、「バージョンとマスター/デフォルト」入力フィールドは管理ページに表示されなくなります。

コンテンツバージョンは、Web サイトコンテンツ管理ページの「バージョン」左メニューよりアクセス可能で、各コンテンツバージョンに属するコンテンツ項目を管理することができます。「バージョン」メニューの中からいずれかを選択すると、その選択したバージョンに属するコンテンツのみ表示されます。Web サイトコンテンツ管理インデックスページに表示された各コンテンツには、それぞれのバージョンを表示するカラムがあります。コンテンツバージョン機能が無効の場合には、左メニュー「バージョン」とインデックスページのカラムは、管理ページに表示されません。

3.10.2 Eメール通知

コンテンツの代替バージョンを管理する Web サイト管理者は、マスター/デフォルトバージョンのコンテンツが変更されると自動的にEメール通知を受けることができます。「Eメール通知を有効にします」または「Eメール通知を無効にします」を選択し、Eメール通知機能を有効または無効に設定してください。



3.11 SEO や目録作成のためのメタ情報

Web コンテンツ管理システムの基本コンテンツは、タイトルと実際のコンテンツから構成されています。これに加えて、追加のメタ情報属性が、すべてのコンテンツに対して有効化できます。デフォルトの追加メタ情報属性は、キーワード、ディスクリプション、作成者の入力フィールドで構成されています。通常、これらのメタ情報属性は、Web サイトの検索エンジン・プロファイリングや最適化、また他の目録作成や自動エージェント・システム、を目的に使用されます。

任意の追加カスタム・メタ情報属性も追加することができます。例えば、Dublin Core Metadata (<http://www.dublincore.org/>)やその他メタデータを Web ページに追加することが可能です。

メタ情報は、コンテンツの追加時や作成時、「メタ情報」タブの「作成者」「ディスクリプション」「キーワード」及び独自のカスタムメタ情報入力フィールドにて定義可能です。メタ情報機能が無効の場合は、これらの入力フィールドは管理ページに表示されません。



3.12 Web サイトセクションやページ指定デザイン/レイアウトのプレゼンテーション
 デフォルトでは、Web サイト内すべてのページに対して単一のプレゼンテーション・テンプレートとスタイルシートを使うように設定されています。しかしながら、Web サイトの各セクションによって異なるプレゼンテーション・テンプレートやスタイルシートを使用することも可能です。ページ指定プレゼンテーション・テンプレートおよびスタイルシート機能を有効にすることで、各 Web サイト・ページを表示するそれぞれのプレゼンテーション・テンプレートとスタイルシートを選択することができます。

コンテンツのプレゼンテーション・テンプレートとスタイルシートは、コンテンツの追加時や更新時、「コンテンツプレゼンテーション」タブの「テンプレート」、「スタイルシート」入力フィールドにて定義可能です。プレゼンテーション機能が無効の場合は、これらの入力フィールドはコンテンツ管理ページに表示されません。

コンテンツのプレゼンテーション・テンプレートとスタイルシートはまた、ページグループ・タイプ、マイクロ Web サイトへも定義することができます。プレゼンテーション機能が無効の場合は、これらの入力フィールドは、ページグループ・タイプ、マイクロ Web サイトの各設定ページには表示されません。



3.13 コンテンツのステージング、プレビュー、公開

デフォルトとして HeartCore Web コンテンツ管理システムは、非常に簡単なコンテンツ公開モデルを使用するように設定されています。すべてのコンテンツが、保存時にすぐ自動公開されます。しかしながら、コンテンツを一定期間に亘って作業し、テストし、そして公開前に承認を得る、というように管理したい場合もあります。そのためには、手動によるコンテンツ公開を有効にすることで可能になります。

3.13.1 自動および手動での公開

コンテンツ項目は、追加時や更新時に自動もしくは手動にて公開できます。

- 保存時に自動
常にコンテンツ保存時に自動的にかつ即座に公開する。
- 手動 - デフォルトはオン
デフォルトとしては保存時にコンテンツを公開するが、保存時に公開しないよう選択することもできる。
- 手動 - デフォルトはオフ
デフォルトとしては保存時にコンテンツを公開しないが、保存時に公開するよう選択することもできる。

コンテンツの手動による公開は、コンテンツの追加時や更新時に保存ボタンの上にある「公開」「公開準備完了」チェックボックスにて行われます。また、コンテンツ管理インデックスページの「公開」ボタンからも公開可能です。手動での公開機能が無効の場合（「保存時に自動」が選択されている場合）、これらチェックボックスやボタンは、コンテンツ管理ページに表示されません。

新規、更新済、公開済のコンテンツへアクセスするには、コンテンツ管理ページの左メニュー「新規」、「更新済」「公開済」を使用します。もしくは、パーソナルワークスペースにある「更新済みでまだ公開されていないコンテンツ」、「作成済みでまだ公開されていないコンテンツ」セクションからもアクセス可能です。手動での公開機能が無効の場合（「保存時に自動」が選択されている場合）、これらの左メニューやパーソナルワークスペースのセクションは表示されません。



3.13.2 動的および静的 Web アドレス

ユーザに親しみやすい Web アドレスとして、”http://localhost/page.aspx?id=123”のような動的 Web アドレスの代わりに、“http://localhost/about.html”のような静的 Web アドレスへコンテンツを公開したい場合もあるでしょう。

- ページを公開するのに動的 Web アドレスを使用します
公開ページへのアクセスは以下のような動的 Web アドレスからのみ可能
http://localhost/page.aspx?id=123

- ページを公開するのに静的 Web アドレスを有効にします
http://localhost/about.html のような静的アドレスにページを公開することが可能です。
 - *.html ファイルと *.css ファイルを動的に出力します。
*.html と *.css のページとスタイルシートは、動的コンテンツを持つ擬似ファイル/フォルダとして公開されます。ただ Web アドレスのみが静的です。コンテンツは、他のコンテンツが更新されると自動的に更新されます。通常は、このオプションが選択されるべきです。
 - *.html ファイルと *.css ファイルを Web サーバーに対し、静的なファイルとして配信します。（こちらほうが早いといくつかの機能が無効となる）
*.html と *.css のページとスタイルシートは、静的コンテンツを持つシンプルな静的ファイルとして公開されます。Web アドレスもコンテンツも静的です。コンテンツは他のコンテンツが更新されても自動的に更新はされません。通常、このオプションは選択されるべきではありません。
 - 静的 Web アドレスにファイルは作成しません。（クラウドストレージ使用時は必須）
Web サーバには実際のファイル/フォルダは作成されません。Web コンテンツ管理システムのデータベースへ、静的な Web アドレスが保管されます。クラウドストレージを使用して、「ページを公開するのに静的 Web アドレスを有効にします」を有効にする場合は、必ずこれを選択してください。

注意：この設定を変更して保存した後、既存コンテンツに対する静的アドレスのファイルを作成/更新/削除するには、「データベースアップグレード」を実行する必要があります。

静的 Web アドレスは、コンテンツの追加時や更新時、「プライマリコンテンツ」タブの「ファイル名」入力フィールドにて定義可能です。静的 Web アドレス機能が無効の場合は、この「ファイル名」入力フィールドはコンテンツ管理ページに表示されません。

静的 Web アドレスは、コンテンツ管理インデックスページの「選択を移動」ボタンと「フォルダ」入力フィールドにて定義可能です。選択したコンテンツを別のフォルダへ移動させることができます。静的 Web アドレス機能が無効の場合は、この「フォルダ」入力フィールドは表示されません。

静的 Web アドレスはまた、設定領域のコンテンツ、イメージ、ファイルのページにある「フォルダ: 公開コンテンツをフォルダーに移動します _____ フォルダーへ _____」入力フィールドでも変更可能です。静的 Web アドレス機能が無効の場合は、この入力フィールドは表示されません。

- ページを公開するのに動的 Web アドレスを使用します。
 - ページを公開するのに静的 Web アドレスを有効にします。
 - *.html ファイルと *.css ファイルを動的に出力します。
 - *.html ファイルと *.css ファイルを WEB サーバーに対し、静的なファイルとして配信します。
 - 静的なアドレスは作成しないでください (クラウドストレージが必要です)

注意: この設定を行った後に、静的なアドレスのファイルを、作成/更新/削除を行った場合は、必ずデータベースの更新をクリックしてください。*

3.13.3 スケジュールされた公開と公開期限終了

デフォルトでは、コンテンツ項目は即座に公開され、公開が終了することはありません。オプションとして、ニュースやプレスリリース、特別キャンペーンなどのコンテンツを、特定の日に公開するよう、または特定の時間に公開終了するようスケジュールすることができます。

デフォルトでは、最後に更新およびスケジュールされた最新レビジョンのみ、指定した日時にスケジュール公開されます（指定した日時にお知らせを公開したい場合など）。オプションとして、複数のレビジョンをそれぞれ異なる日時に公開されるようスケジュールし、待ち状態として保存することができます（一定期間のみスペシャルオファーを公開した後、掲載を除外したい場合や、時間によって公表する内容を変化させたい場合など。）

公開スケジュール

- 「スケジュールされた公開を無効にします」
公開するとコンテンツは即時に公開されます。
- 「スケジュールされた公開を有効にします」
指定する未来の日時にコンテンツを自動的に公開することができます。
- 「複数公開スケジュールを無効にします」
最後に更新およびスケジュールされたコンテンツ・レビジョンのみ公開されます。
- 「複数公開スケジュールを有効にします」
コンテンツの複数レビジョンを、それぞれ異なる日時に公開されるようスケジュールし、待ち状態として設定することができます。

公開期限スケジュール

- スケジュールされた公開期限を無効にする
公開されたコンテンツは、手動で非公開／削除されない限り、公開のまま。
- スケジュールされた公開期限を有効にする
指定された未来の日時に、コンテンツが自動的に公開期限切れになる。

公開と公開期限のスケジュール日時は、コンテンツの追加時や更新時に「保存」ボタン下にある「開始時間」「終了時間」入力フィールドにて定義可能です。公開と公開期限スケジュール機能が無効の場合は、これらの入力フィールドはコンテンツ管理ページに表示されません。

コンテンツの複数レビジョンをそれぞれ異なる日時に公開されるようスケジュールし、待ち状態として設定するには、コンテンツの追加時や更新時に「保存」ボタン下にある「スケジュール」チェックボックスを使用します。スケジュールされた各レビジョンは、コンテンツの追加時や更新時の「削除」「比較」「元に戻す」選択ボックスよりアクセス可能です。また、Webサイトコンテンツ管理インデックスページの「スケジュール」アイコン／リンクよりアクセスすることもできます（表示する設定の場合）。複数公開スケジュールが無効に設定されている場合は、「スケジュール」チェックボックスおよび「スケジュール」アイコン／リンクは表示されません。

公開開始スケジュール済みコンテンツ、公開期限終了コンテンツにアクセスするには、Webサイトコンテンツ管理の左メニュー「スケジュール済」「期限終了」を使用します。公開と公開期限スケジュール機能が無効の場合は、これらの左メニューはコンテンツ管理ページに表示されません。

<input type="radio"/> スケジュールされた公開を無効にします。	<input checked="" type="radio"/> 全てのスケジューリング(複数公開設定)を無効にします。
<input checked="" type="radio"/> スケジュールされた公開を有効にします。	<input type="radio"/> 全てのスケジューリング(複数公開設定)を有効にします。
<input type="radio"/> スケジュールされた公開期限を無効にします。	
<input checked="" type="radio"/> スケジュールされた公開期限を有効にします。	

3.13.4 コンテンツを静的 HTML ページ/ファイルとしてエクスポート

デフォルトでは、Web サイトコンテンツは、Web コンテンツ管理システムによって、Web コンテンツ管理システムデータベースより動的に配信されます。オプションとして、Web サイトコンテンツのコピーを、静的な HTML ファイルやイメージファイルとしてエクスポートすることが可能です。

- フォルダパスのエクスポート

Web サイトコンテンツアイテムの簡単な静的ファイルのコピーがエクスポートされる、Web サーバ上のフルパスとフォルダ名—例えば、高度な動的機能のない Web サイトを外部パブリック Web サイトへ公開する；機能制限されたバックアップ Web サイトとして；もしくは Web サイトの機能制限された CD/DVD コピーとして。セキュリティ上の理由から、エクスポートフォルダパスは、Web サイト “root” フォルダ内に位置するサブフォルダでなければいけません。

エクスポートフォルダパスの設定後、“全てをエクスポートします” ボタンを選択し、全ての Web サイトコンテンツアイテムの最初のエクスポートを行ないます。個々のコンテンツアイテムは、追加・更新・公開・削除時に自動でエクスポートされます。

コンテンツアイテムを静的なHTMLファイルとしてコピーします。
エクスポートするフォルダを選択し「全てをエクスポートします」をクリックします。
新規および更新されたコンテンツが自動的にエクスポートされます。

エクスポートするフォルダパス名:

HeartCore Web Content Management System v9.2 - Copyright © 1999-2015 XyWon Inc. and its licensors. All rights reserved.

3.14 コンテンツの変更ログのための変更履歴

デフォルトでは HeartCore Web コンテンツ管理システムには、Web サイト・コンテンツへ施した変更を追跡したり記録したりする変更履歴情報は含まれていません。しかしながら、特に公開機能やアーカイブ機能との関連で、コンテンツの何がなぜ変更されたのか、変更履歴情報を追加したい場合もあります。

変更履歴は、コンテンツの追加時や更新時に、「変更履歴」タブの「変更」入力フィールドへ入力します。変更履歴機能が無効の場合には、この「変更」入力フィールドはコンテンツ管理ページに表示されません。



3.15 期限付きユーザアカウントのためのユーザ有効化と有効期限

デフォルトでは、ユーザ・アカウントは、常にアクティブです。しかし、ユーザの有効化機能を使用して、期限付きの会員や、試用期間のユーザ・アカウント、一時的な Web サイト管理者ユーザなどを作成することも可能です。ユーザ・アカウントは決められた期間内のみ有効で、この期間は制限付コンテンツや、ひいては Web コンテンツ管理システムにアクセスしたりすることができます。

有効化と有効期限のスケジュール日時は、ユーザアカウントの追加時や更新時に、「有効期限」タブの「有効化」「通知」「期限切れ」入力フィールド、及び各通知 E メール入力フィールドにて定義可能です。ユーザの有効化と有効期限機能が無効の場合は、これらの入力フィールドはユーザデータベース管理ページに表示されません。

保留、アクティブ、期限終了予定、期限終了のユーザアカウントへアクセスするには、ユーザデータベース管理ページの左メニュー「保留」「アクティブ」「期限終了予定」「期限終了」を使用します。ユーザの有効化と有効期限機能が無効の場合は、これらの左メニューはユーザデータベース管理ページに表示されません。



3.16 多数のユーザアカウントを整理するためのユーザカテゴリ

HeartCore Web コンテンツ管理システムのデフォルト・インストールと小規模な Web サイトには、限られた数の Web サイト管理者や登録ユーザしか存在しないため、特別な操作は必要ありません。しかし、Web サイトが多数の管理者や多様なユーザを有する場合は、ユーザアカウントをユーザグループやタイプに分けて整理することが必要かもしれませんし、少なくともその方が便利で効率的です。また、各グループ/タイプのユーザへ、それぞれ異なった権限を与え、アクセスできるコンテンツを制御することもできます。

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、一般的なユーザアカウントのカテゴリに“グループ”“タイプ”という用語を使用します。必要に応じて任意のグループ、タイプを自由に定義することができます。HeartCore Web コンテンツ管理システムにおいて“グループ”“タイプ”という言葉に特別な意味はなく、多数のユーザアカウントをより小さな、より簡単なカテゴリで管理できるよう仕分けする方法にすぎません。

HeartCore Web コンテンツ管理システムで使用する“クラス”という言葉は、Web サイト管理者と非管理者を定義する特別なユーザアカウントカテゴリを意味します。

- ユーザカテゴリを有効にする
ユーザカテゴリ全般を有効にする。他の特定のユーザカテゴリも有効の場合には、常にこちらが選択されるべきです。
- ユーザカテゴリを無効にする
ユーザカテゴリ全般を無効にする。他の特定のユーザカテゴリもすべて無効の場合のみ、こちらが選択されるべきです。

3.16.1 ユーザクラス

ユーザクラスは、ユーザアカウントの追加時や更新時に、「ユーザカテゴリ」タブの「クラス」入力フィールドにて定義可能です。ユーザクラス機能が無効の場合には、この「クラス」入力フィールドは表示されません。

ユーザクラスへアクセスするには、ユーザデータベース管理ページの左メニュー「管理者」「ユーザ」を使用し、ユーザクラスに属するユーザアカウントの追加や管理を行います。「管理者」もしくは「ユーザ」のメニュー項目よりいずれかを選択すると、その選択したクラスに属するユーザアカウントのみ表示されます。また、そのクラスへ新規ユーザアカウントを追加することもできます。ユーザデータベース管理インデックスページに一覧表示されたユーザアカウントには、それぞれのユーザクラスを表示するカラムがあります。ユーザクラス機能が無効の場合は、左メニュー「管理者」とインデックスページのカラムは管理ページに表示されません。

3.16.2 ユーザグループとタイプ

ユーザグループとタイプ機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクションの「設定」/「ユーザ」/「グループ」「タイプ」メニュー項目とページが、表示されたりされなくなったりします。Web サイトのユーザグループやタイプを設定するには、「グループ」「タイプ」メニューを使用します。詳しくは、5.ユーザデータベース設定をご参照下さい。

ユーザグループとタイプは、ユーザアカウントの追加時や更新時に、「ユーザカテゴリ」タブの「グループ」「タイプ」入力フィールドにて定義可能です。ユーザグループとタイプ機能が無効の場合には、これらの入力フィールドは表示されません。

ユーザデータベース管理インデックスページには、「選択を移動」ボタンと「グループ」「タイプ」リストがあり、選択したユーザアカウントを別のグループやタイプへ移動させることが

できます。ユーザグループとタイプ機能が無効の場合は、この「グループ」「タイプ」リストは表示されません。

ユーザグループとタイプへアクセスするには、ユーザデータベース管理ページの左メニュー「グループ」「タイプ」を使用し、ユーザグループ・タイプに属するユーザアカウントの追加や管理を行います。「グループ」もしくは「タイプ」のメニュー項目よりいずれかを選択すると、その選択したグループもしくはタイプに属するユーザアカウントのみ表示されます。ユーザデータベース管理インデックスページに一覧表示されたユーザアカウントには、それぞれのユーザグループとタイプを表示するカラムがあります。ユーザグループとタイプ機能が無効の場合は、左メニュー「グループ」「タイプ」及びインデックスページのカラムは管理ページに表示されません。



3.17 Web サイト管理者および登録ユーザのためのユーザデータベース

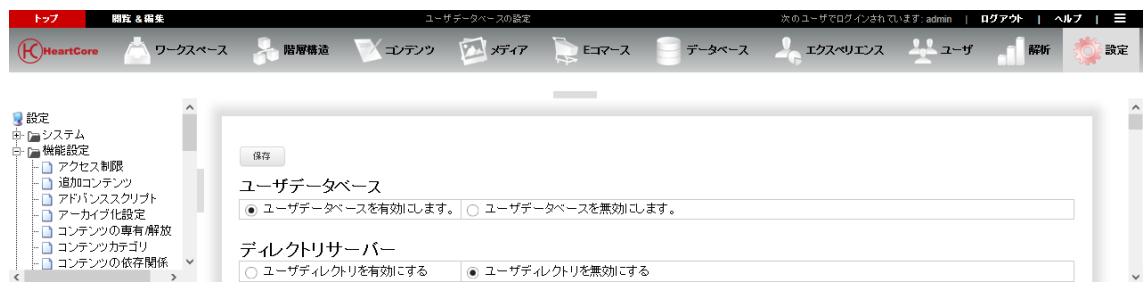
デフォルトでは、HeartCore Web コンテンツ管理システムは、アクセスに制限のある Web サイトではなく、また単一 Web サイト管理者による Web コンテンツ管理用に設定されています。つまり、Web サイトへ訪れる誰もが Web サイト全体にアクセスでき、また HeartCore Web コンテンツ管理システムのユーザは一人しかいない、ということになります。しかしながら、登録ビジターに対しアクセス制限を設けたいコンテンツがあったり、また複数の Web サイト管理者が HeartCore Web コンテンツ管理システムを通して Web コンテンツを管理できるようにしたい場合も考えられます。このためには、HeartCore Web コンテンツ管理システムに内蔵されたユーザ・データベースと、アクセス制限および複数管理者機能を有効にします。

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、アクセス制限などのためのユーザ情報を保存するのに、内部のユーザ・データベースを使用することができます。あるいは、アクセス制限などのためのユーザ情報を検索するのに、外部のディレクトリ・サーバ (LDAP) を使用することも可能です。

内部のユーザ・データベースは、Web コンテンツ管理システムのユーザ・データベース管理セクションから管理できます。外部のディレクトリ・サーバは、外部のディレクトリ・サーバ管理ソフトウェア/サービスから管理する必要があります。

- ユーザ・データベースを有効にします
Web コンテンツ管理システムの内部ユーザデータベースを使用する。

- ユーザ・データベースを無効にします
ユーザデータベースを使用しない。
- ユーザ・ディレクトリを有効にする
外部 LDAP ディレクトリサーバーを使用する。



3.17.1 外部 LDAP ディレクトリサーバー

外部のディレクトリ・サーバを使用するには、その接続情報を設定する必要があります：

- URL
ディレクトリ・サーバの URL。ディレクトリ・サーバに接続するために使用する、プロトコル、サーバ・アドレス、ポート番号（任意）を含む。例えば：
“ldap://localhost:389”。
- 接続パラメータ
ディレクトリ・サーバに接続するために使用する特別な接続パラメータ。例えば：

```
com.sun.jndi.ldap.connect.timeout=5000
com.sun.jndi.ldap.connect.pool=true
com.sun.jndi.ldap.connect.pool.maxsize=20
com.sun.jndi.ldap.connect.pool.prefsize=10
com.sun.jndi.ldap.connect.pool.timeout=300000
```


デフォルトでは、この設定は空白のままにしておくべきです。使用可能な特別パラメータについての詳細は、LDAP ディレクトリサーバやプログラミング言語バージョンの一般的なドキュメントを参照してください。
- Bind DN
ディレクトリ・サーバに接続／バインドするために使用される DN(Distinguished Name)。例えば：“uid=admin, ou=Administrators, ou=TopologyManagement, o=NetscapeRoot”
- Bind パスワード
DN がディレクトリ・サーバに接続／バインドするために使用されるパスワード。
- ルート DSE
ディレクトリ・サーバのルート・エントリ。例えば：“dc=xyxon,dc=com”
- ユーザ名
ユーザ名に使用されるディレクトリ・サーバの属性名。例えば：“uid”。

外部のディレクトリ・サーバを使用するには、Web コンテンツ管理システムで使用される様々なユーザ情報に使用される属性名も設定する必要があります。複数の属性に対し、同じ属性名

を使用することができます。これらのすべての属性は必須ではありません。ユーザ情報に使用したいディレクトリ・サーバ属性名のみ指定してください：

- ユーザの詳細
 - タイトル
ユーザのタイトルに使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 名前
ユーザ名に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。例えば“cn”
 - 組織
ユーザの組織に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。例えば“o”
 - メールアドレス
ユーザの E メールアドレスに使用されるディレクトリ・サーバ属性名。例えば“mail”
 - 性別
ユーザの性別に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 誕生日
ユーザの生年月日に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 日
ユーザの誕生日に使用されるディレクトリ・サーバ属性名
 - 月
ユーザの誕生月に使用されるディレクトリ・サーバ属性名
 - 年
ユーザの誕生年に使用されるディレクトリ・サーバ属性名
 - 備考
様々なユーザ・メモに使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - カスタムユーザ詳細
カスタムユーザ詳細属性に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
- ユーザ・カテゴリ
 - クラス
ユーザのクラスに使用されるディレクトリ・サーバ属性名。例えば“objectClass”
 - クラス：管理者
管理者クラスユーザに使用されるディレクトリ・サーバ属性値。例えば“inetadmin”
 - グループ
ユーザのグループに使用されるディレクトリ・サーバ属性名。例えば“memberOf”
 - タイプ

ユーザのタイプに使用されるディレクトリ・サーバ属性名。例えば
“objectClass”

- 有効化と有効期限終了
 - 有効化日時
ユーザの有効化日時を使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 有効化 E メール
ユーザの有効化 E メールを使用されるディレクトリ・サーバ属性名。 T
 - 通知日時
ユーザの通知日時を使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 通知 E メール
ユーザの通知 E メールを使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 有効期限切れ日時
ユーザの有効期限終了日時を使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 有効期限切れ E メール
ユーザの有効期限終了 E メールを使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
- 自宅／請求先詳細
 - 名前
ユーザの自宅／請求先詳細の名前に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 組織
ユーザの自宅／請求先詳細の組織に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 住所
ユーザの自宅／請求先詳細の住所に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 郵便番号
ユーザの自宅／請求先詳細の郵便番号に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 市区町村
ユーザの自宅／請求先詳細の市区町村に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 都道府県
ユーザの自宅／請求先詳細の都道府県に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 国名
ユーザの自宅／請求先詳細の国名に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 電話
ユーザの自宅／請求先詳細の電話番号に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - Fax

- ユーザの自宅／請求先詳細のファックス番号に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
- メールアドレス
ユーザの自宅／請求先詳細の E メール・アドレスに使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
- Web サイト
ユーザの自宅／請求先詳細の Web サイト・アドレスに使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
- 勤務先／配送先詳細
 - 名前
ユーザの勤務先／配送先詳細の名前に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 組織
ユーザの勤務先／配送先詳細の組織に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 住所
ユーザの勤務先／配送先詳細の住所に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 郵便番号
ユーザの勤務先／配送先詳細の郵便番号に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 市区町村
ユーザの勤務先／配送先詳細の市区町村に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 都道府県
ユーザの勤務先／配送先詳細の都道府県に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 国名
ユーザの勤務先／配送先詳細の国名に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 電話
ユーザの勤務先／配送先詳細の電話番号に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - Fax
ユーザの勤務先／配送先詳細のファックス番号に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - メールアドレス
ユーザの勤務先／配送先詳細の E メールアドレスに使用されるディレクトリ・サーバ属性名。

- Web サイト
ユーザの勤務先／配送先詳細の Web サイト・アドレスに使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
- 支払明細
 - カードタイプ
ユーザの支払明細のカードタイプに使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - カード番号
ユーザの支払明細のカード番号に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 発行日
ユーザの支払明細のカード発行日に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 有効期限
ユーザの支払明細のカード有効期限に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 名前
ユーザの支払明細のカード名義に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 検証コード
ユーザの支払明細のカード検証コード(CVC)に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 発行 No
ユーザの支払明細のカード発行ナンバーに使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - 郵便番号
ユーザの支払明細のカード郵便番号に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
- 管理者機能設定
 - コンテンツ・エディタ
ユーザのコンテンツ・エディタ管理者機能設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。属性値は空白か、“HardCore”、“HardCore1”、“HardCore2”または“textarea”です。
 - イメージのアップロード
ユーザのイメージ・アップロード管理者機能設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。属性値は空白か、“yes”です。
 - HTML フォーマット
ユーザの HTML フォーマット管理者機能設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。属性値は空白か、“html”、“html4”、“html5”、“xhtml”です。
 - 入力フィールドのサイズ
 - 幅
ユーザの入力フィールド・サイズ幅管理者機能設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。

- 高さ
ユーザの入力フィールド・サイズ高さ管理者機能設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
- Enter キーで出力
 - Enter
ユーザの Enter キーの出力管理者機能設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - Ctrl + Enter
ユーザの Ctrl + Enter キーの出力管理者機能設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - Shift + Enter
ユーザの Shift + Enter キーの出力管理者機能設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
 - Alt + Enter
ユーザの Alt + Enter キーの出力管理者機能設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。
- ツールバー
ユーザのツールバー管理者機能設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。属性値は、Web コンテンツ管理システムで使用されるツールバーボタン名で、スペース区切りです。
- 管理メニューをメニューから隠す
ユーザの管理者メニュー管理者機能設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。属性値は、空白あるいは“forbid”です。
- パーソナルワークスペースセクション
ユーザのパーソナルワークスペースセクション設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。属性値は、Web コンテンツ管理システムで使用されるスペース区切りのパーソナルワークスペースセクション・コードです。
- インデックスページカラム
ユーザのインデックスページカラム設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。属性値は、Web コンテンツ管理システムで使用されるスペース区切りのインデックスページカラム・コードです。
- インデックスページメニュー
ユーザのインデックスページメニュー設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。属性値は、空白あるいは“multi”か“single”です。
- Web アクセス統計値レポート
ユーザの Web アクセス統計値レポート設定に使用されるディレクトリ・サーバ属性名。属性値は、Web コンテンツ管理システムで使用するスペース区切りの Web アクセス統計値レポートコード。

URL	
接続パラメーター	
Bind DN	
Bind パスワード	
ルートDSE	
ユーザ名	
ユーザの詳細	
タイトル	
名前	
組織	
メールアドレス	
性別	
誕生日	
- 日	
- 月	
- 年	
備考	
カスタムユーザ詳細	
ユーザカテゴリ	
クラス	
クラス: 管理者	
グループ	
タイプ	
利用開始と終了期限設定	
有効化日時:	
有効化eメール	
通知日時:	
通知eメール	
無効化日時:	
無効化eメール	
自宅/請求書明細	
名前	
組織	
住所	
郵便番号	
市区町村	
都道府県	
国名	
電話	
Fax	
メールアドレス	
Webサイト	
ご利用情報/配送先詳細	
名前	
組織	
住所	
郵便番号	
市区町村	
都道府県	
国名	
電話	
Fax	
メールアドレス	
Webサイト	
支払明細	
カードタイプ	
カード番号	
カードの発行月	
カードの発行年	
カードの有効期限月	
カードの有効期限年	
名前	
後証コード	
発行No	
郵便番号	
管理者機能設定	
コンテンツエディター	
イメージのアップロード	
HTMLフォーマット	
入力フィールドのサイズ	
- 幅:	

- 高さ:	
Enterキーで出力	
- Enter:	
- Ctrl+ Enter:	
- Shift+ Enter:	
- Alt+ Enter:	
ツールバー	
- ツールバー 1	
- ツールバー 2	
- ツールバー 3	
- ツールバー 4	
- ツールバー 5	
管理メニューをメニューから隠す	
- 閲覧 & 編集	
- ウェブサイト階層構造	
- コンテンツ	
- ウェブサイト階層構造	
- ページ	
- 構成要素	
- テンプレート	
- スタイルシート	
- スクリプト	
- パッケージ	
- バンドル	
- メディア	
- イメージ	
- ファイル	
- リンク	
- パッケージ	
- バンドル	
- Eコマース	
- 商品	
- 注文	
- パッケージ	
- バンドル	
- データベース	
- コンテンツ	
- エクスポート	

- インポート	
- エクスプレレンス	
- セグメント	
- ユーザーテスト	
- ヒートマップ	
- ユーザ	
- 管理者	
- テンプレート	
- ユーザ	
- Webアクセス	
- サマリー	
- 目的	
- ウェブサイト/ドメイン	
- ウェブサイトのコンテンツ	
- メディアライブラリ	
- Eコマース	
- コンテンツデータベース	
- 日時	
- 日毎	
- 週ごと	
- 月ごと	
- 年間の	
- 本日の時間別	
- 今週の日別	
- 今月の日別	
- 今年の週別	
- 今年の月別	
- 人	
- 国	
- ビジター	
- ロボット	
- オペレーティングシステム	
- ブラウザ	
- ユーザ	
- 理由	
- リフェラー	
- 検索エンジン	
- 検索項目	

- 検索語	
- 方法	
- エントリー	
- パス	
- 終了	
- 期間	
- 訪問	
- アップデート	
パーソナルワークスペースセクション	
インデックスページカラム	
- パーソナルワークスペース	
- ウェブサイトコンテンツ	
- メディアライブラリ	
- Eコマース商品	
- Eコマース在庫	
- Eコマース注文	
- Eクスぺリエンス管理 セグメント	
- Eクスぺリエンス管理 ユーザテスト	
- Eクスぺリエンス管理 ヒートマップ	
- ユーザーデータベース	
- マイクロサイト	
インデックスページメニュー	
Webアクセス解析のレポート	

3.18 ユーザ住所および支払内容のためのユーザ詳細

デフォルトでは、ユーザ・アカウントには、ユーザ名やパスワードなどの基本情報とオプションの名前やEメール・アドレスのみが含まれます。ユーザの住所と支払い詳細機能を有効にし、ユーザ・データベースにユーザの追加情報を保存しておくこともできます。追加のユーザ情報には、自宅／請求先詳細、勤務先／配送先詳細、支払詳細が含まれます。

ユーザ住所と支払内容は、ユーザアカウントの追加時や更新時、「自宅／請求先詳細」「勤務先／配送先詳細」「支払詳細」タブの入力フィールドへ入力できます。ユーザ詳細機能が無効の場合は、これらの入力フィールドは表示されません。



The screenshot shows the '設定' (Settings) page in the HeartCore CMS. The left sidebar lists various configuration categories, with 'ユーザの住所と支払い方法' (User Location and Payment Method) highlighted in red. The main content area displays the title 'ユーザの住所と支払方法' and two radio button options: 'ユーザの住所と支払方法を有効にします。' (checked) and 'ユーザの住所と支払方法を無効にします。' (unchecked). A '保存' (Save) button is located at the top left of the main area.

3.19 Web サイト管理者別 機能設定のためのユーザ機能設定

デフォルトでは、全ての Web サイト管理者が、Web コンテンツ管理システムのデフォルト Web コンテンツ・エディタと管理設定を使用するように設定されています。しかしながら、Web サ

イト管理者別に機能設定できるよう、ユーザ管理者機能設定を有効にすることもできます。例えば、ある Web サイト管理者には、基本機能のみのシンプルな Web コンテンツ・エディタ・ツールバーを使用させるよう設定したり、「Web コンテンツ」セクションの「ページ」メニューしかアクセスできないよう設定することが可能です。

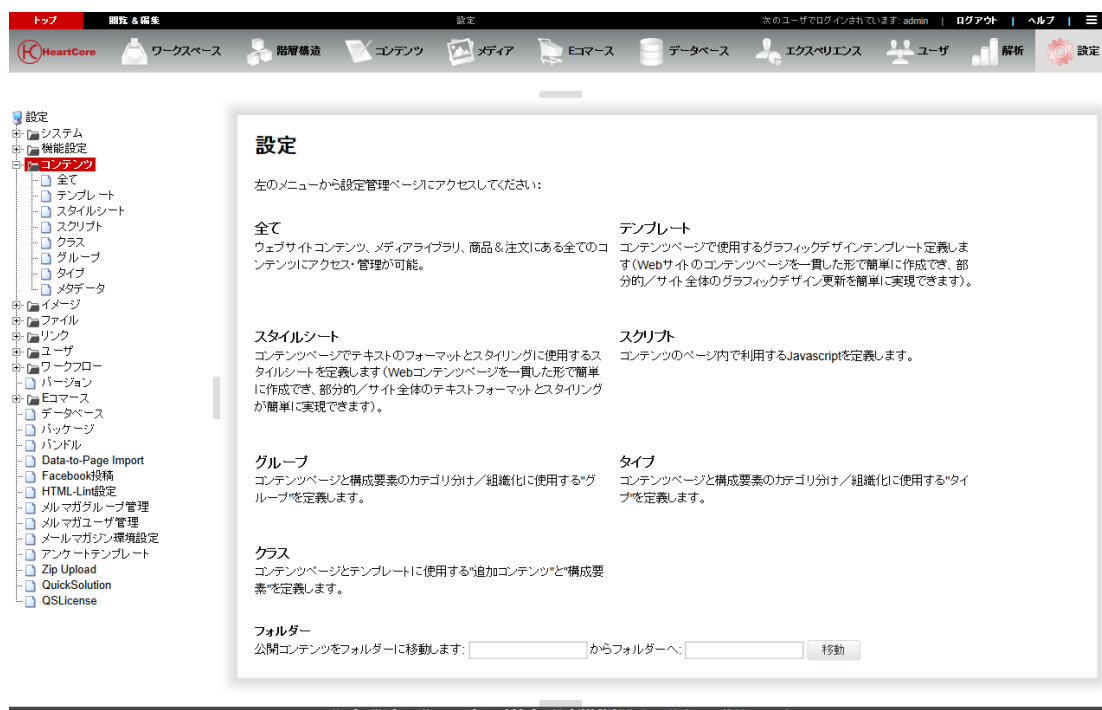
ユーザ機能設定は、ユーザアカウントの追加時や更新時に、「管理者機能設定」タブの「コンテンツエディタ」「HeartCoreWeb エディタ」「管理者メニューをメニューから隠す」入力フィールドにて定義可能です。ユーザ機能設定の機能が無効の場合には、これらの入力フィールドは表示されません。



4 Web サイトコンテンツ設定

4.1 コンテンツの設定

コンテンツの設定ページでは、ページや構成要素のコンテンツクラス、グループ、タイプを左メニューより設定することができます。



設定

左のメニューから設定管理ページにアクセスしてください。

全て
ウェブサイトコンテンツ、メディアライブラリ、商品&注文にある全てのコンテンツにアクセス・管理が可能。

テンプレート
コンテンツページで使用するグラフィックデザインテンプレート定義します(Webサイトのコンテンツページを一貫した形で簡単に作成でき、部分的/サイト全体のグラフィックデザイン更新を簡単に実現できます)。

スタイルシート
コンテンツページでテキストのフォーマットとスタイリングに使用するスタイルシートを定義します(Webコンテンツページを一貫した形で簡単に作成でき、部分的/サイト全体のテキストフォーマットとスタイリングが簡単に実現できます)。

スクリプト
コンテンツのページ内で利用するJavaScriptを定義します。

グループ
コンテンツページと構成要素のカテゴリ分け/組織化に使用する"グループ"を定義します。

タイプ
コンテンツページと構成要素のカテゴリ分け/組織化に使用する"タイプ"を定義します。

クラス
コンテンツページとテンプレートに使用する"追加コンテンツ"と構成要素を定義します。

フォルダー
公開コンテンツをフォルダーに移動します: からフォルダーへ:

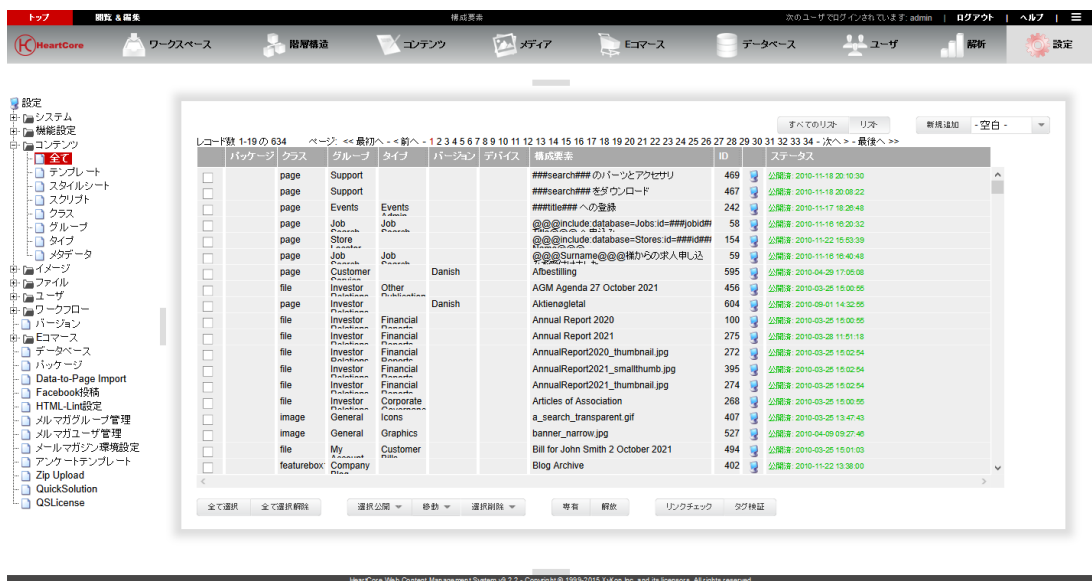
4.1.1 静的 Web アドレスフォルダの移動/リネーム

静的 Web アドレスへ公開されているコンテンツ項目は、コンテンツ設定ページの下部にある「フォルダ: 公開コンテンツをフォルダーに移動します ____ フォルダーへ ____」入力フィールドを使って、移動させることが可能です。前方・後方とも両方の入力フィールドへ入力して下さい。前方のフォルダ名に既に公開されているコンテンツ項目のみ、後方のフォルダへと移動されます。それに伴い、ファイル名も変更されます。例：“myfolder/mypage.html” から “myotherfolder/mypage.html”へ。

4.1.2 Web サイトコンテンツ管理

コンテンツの設定ページでは、テンプレート、スタイルシート、スクリプト、メタデータレポートの Web サイトコンテンツ管理ページへもアクセスできます。

左メニューより、「Web サイトコンテンツ」「メディアライブラリ」「商品と注文」管理セクションのあらゆるクラスのコンテンツ項目のある、特別な Web サイトコンテンツ管理ページへアクセスできます。特定のパッケージやグループ、タイプに属するコンテンツすべてを、そのクラスに関係なく管理する際に、便利な方法です。

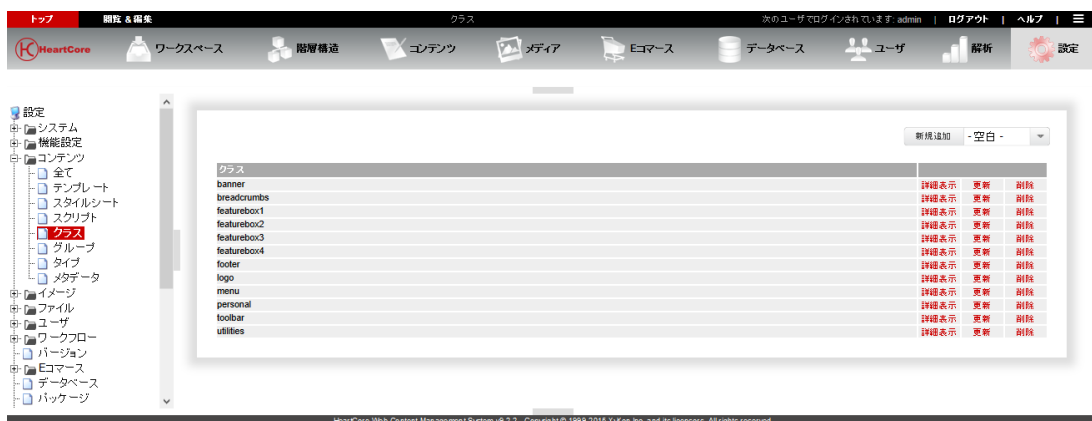


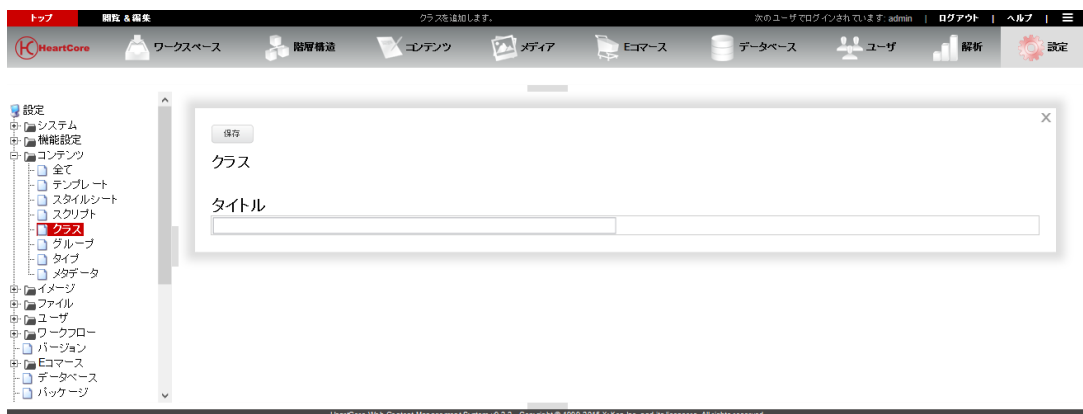
4.1.3 コンテンツクラス設定

コンテンツクラスは、テンプレートとページで使用するコンテンツ構成要素を定義します。

「設定」 / 「コンテンツ」 / 「クラス」メニュー項目を選択し、コンテンツ・クラス設定にアクセスします。現在定義済みのコンテンツ・クラスがリストアップされます。追加、詳細表示、更新、削除から選択し、コンテンツの構成要素クラスを定義します。

各コンテンツクラスは、単に左メニューや、追加コンテンツ選択ボックス、特殊コードで使われる名前にすぎません。



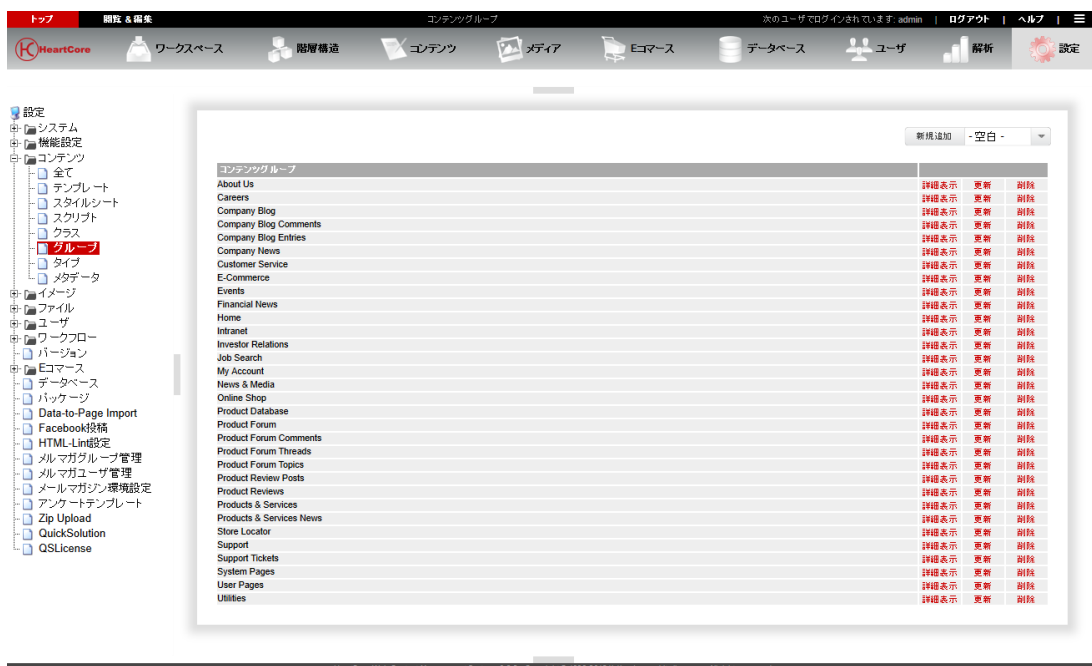


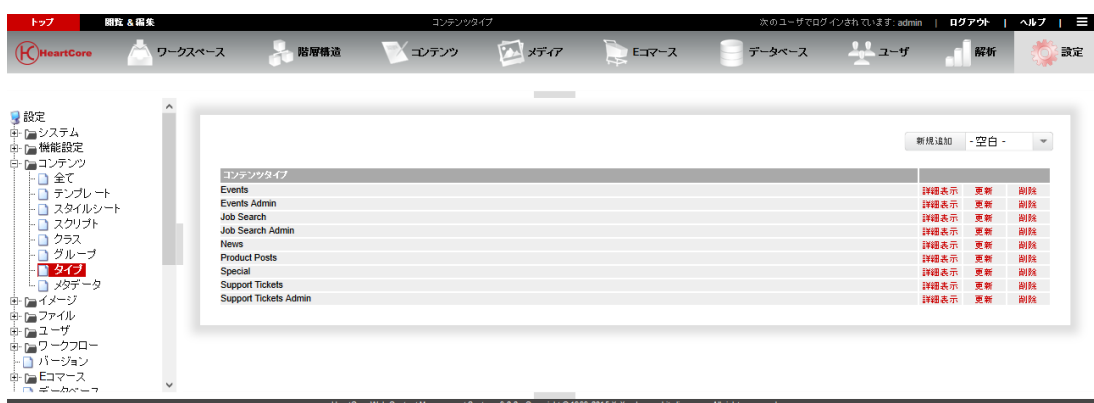
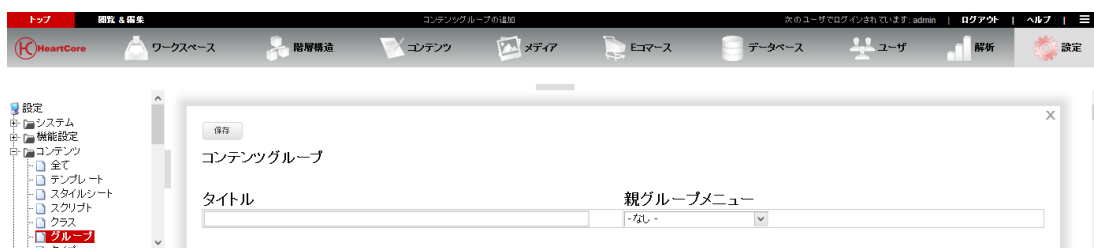
4.1.4 コンテンツのグループ/タイプ設定

コンテンツのグループとタイプは、コンテンツページや構成要素の組織化に使用されるコンテンツカテゴリを定義します。

「設定」 / 「コンテンツ」 / 「グループ」「タイプ」メニュー項目を選択し、コンテンツグループとタイプの設定へアクセスします。現在定義済みのコンテンツグループとタイプがリストアップされます。追加、詳細表示、更新、削除から選択し、コンテンツのグループとタイプを定義します。

コンテンツのグループとタイプは、「親グループ・メニュー」および「親タイプ・メニュー」を使って、Webサイトコンテンツ管理ページの左メニューを階層的に構成することができます。「親グループ・メニュー」もしくは「親タイプ・メニュー」が選択されている場合、そのコンテンツグループ/タイプは、選択した親グループ/タイプ・メニューの下に表示されます。コンテンツグループ/タイプの階層構造は、左メニューの整理に用途を限定したものであり、いかなる属性も親グループ/タイプから継承されるわけではありませんのでご注意ください。





4.1.4.1 コンテンツプレゼンテーション

個々のページにテンプレートとスタイルシートが定義されている場合、そのページが Web サイト上で閲覧される際には、それらのテンプレートとスタイルシートが使用されます。そうでない場合は、そのページのコンテンツグループもしくはタイプに定義されているテンプレートとスタイルシートが使用されます。もしグループとタイプの両方に定義されている場合は、グループに定義されているテンプレートとスタイルシートが使用されます。コンテンツグループのテンプレートとスタイルシートは、コンテンツタイプのそれらよりも優先されます。

ページタイトル・プレフィックスやページタイトル・サフィックスが、ページのコンテンツグループもしくはタイプに定義されている場合は、それらが Web ブラウザ・ウィンドウ・タイトルバー内のページタイトル前後に表示されます。もしコンテンツグループやタイプに対してページタイトル・プリフィックスやサフィックスが定義されている場合は、デフォルトのページタイトルプリフィックス・サフィックス Web サイト設定に代わって、そちらが適用されます。

HTML DOCTYPE Web ページヘッダーは、Web ページで使用される HTML 規格を定義します。空白のままにしておくと、Web ブラウザが Web ページの HTML ドキュメントタイプを判断して処理します。この HTML DOCTYPE コンテンツグループ/タイプ設定は、マイクロサイトや Web サイトに設定された HTML DOCTYPE よりも優先されますが、個々のページやテンプレートに設定された HTML DOCTYPE よりも優先度が低く、ページ > テンプレートの順で優先されます。コンテンツグループに設定された HTML DOCTYPE は、コンテンツタイプに設定された HTML DOCTYPE よりも優先されます。



4.1.4.2 アクセス制限

コンテンツ項目、コンテンツグループ・タイプ、Web サイトにおけるアクセス制限はすべて、アクセス権限を満たす必要があります。従って、コンテンツグループ・タイプに定義されたアクセス制限は、他のアクセス制限に追加されます。コンテンツグループ・タイプのアクセス制限は、他のアクセス制限を上書き／置換はしません。

コンテンツグループ・タイプのアクセス制限は、個々のコンテンツ項目のアクセス制限と同じであり、同様に使用されます。



4.2 イメージの設定

イメージの設定ページでは、イメージのフォーマット、グループ、タイプを左メニューより設定できます。



4.2.1 イメージフォルダの移動/リネーム

イメージコンテンツ項目は、イメージ設定ページの下部にある「フォルダ: 公開コンテンツをフォルダに移動します ____フォルダへ ____」入力フィールドを使って、移動させることが可能です。前方・後方とも両方の入力フィールドへ入力して下さい。前方のフォルダ名に既に公開されているコンテンツ項目のみ、後方のフォルダへと移動されます。それに伴い、ファイル名も変更されます。例：“myfolder/myimage.jpg” から “myotherfolder/myimage.jpg”へ。

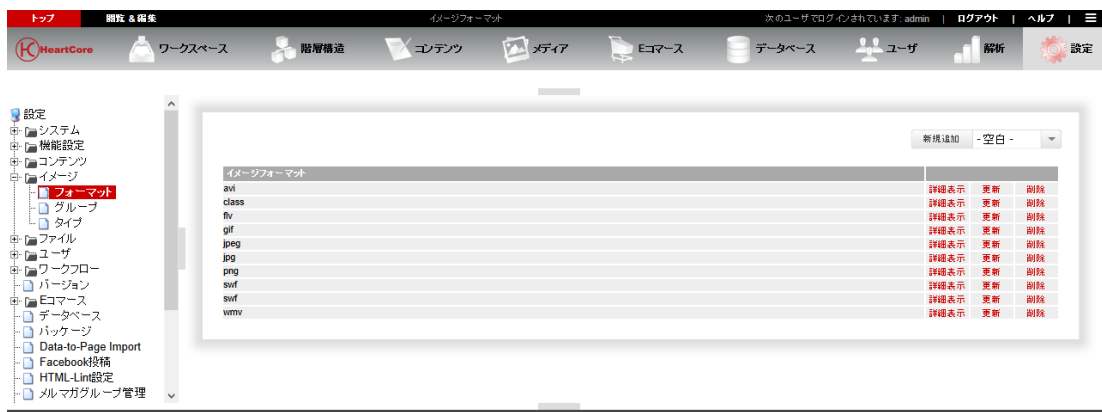
4.2.2 イメージフォーマット設定

イメージフォーマットは、イメージコンテンツ項目として Web コンテンツ管理システムにアップロードできるイメージフォーマットとファイル名拡張子を定義します。

「設定」 / 「イメージ」 / 「フォーマット」メニューより、イメージフォーマット設定へアクセスします。現在定義済みのイメージフォーマットがリスト化されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、イメージフォーマットを定義します。

各イメージフォーマットは、単にローカルコンピュータ上のイメージに使用されるような、イメージフォーマットファイル名拡張子です。

動画や Adobe Flash アニメーションまたはアプリケーションのような他のビジュアルメディアもイメージフォーマットとして設定できます。HeartCoreWeb エディタの「メディアの挿入」機能を使って Web サイトへ挿入します。





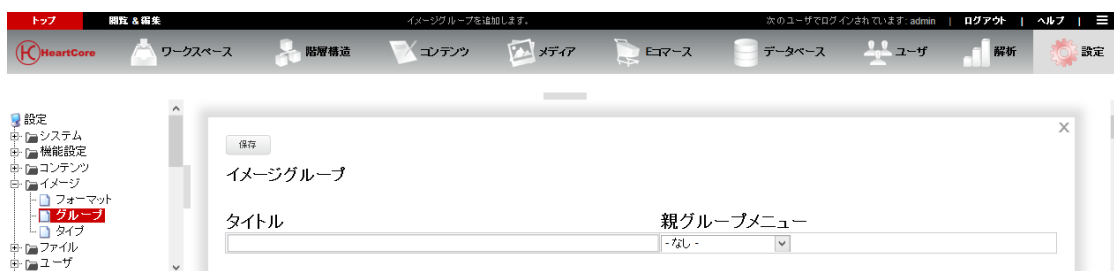
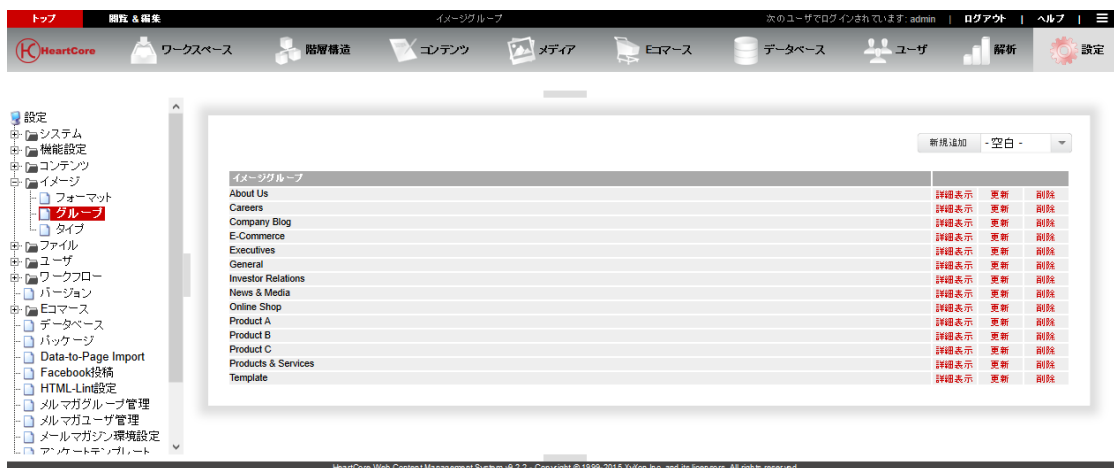
4.2.3 イメージのグループ/タイプ設定

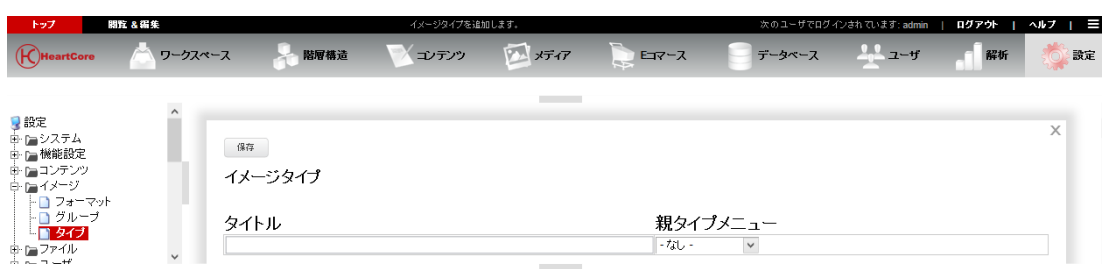
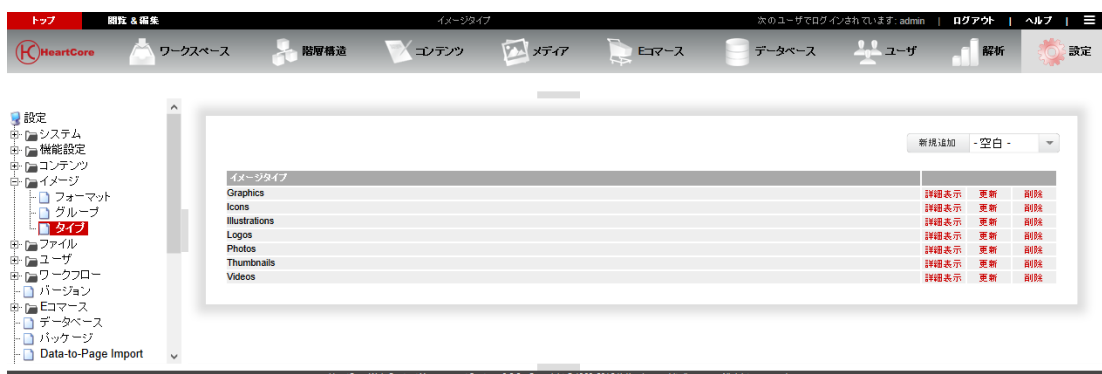
イメージのグループとタイプは、Webサイトのイメージを組織化するために使用されるコンテンツカテゴリを定義します。

「設定」 / 「イメージ」 / 「グループ」 「タイプ」を選択し、イメージのグループとタイプ設定へアクセスします。現在定義済みのイメージグループとタイプが一覧表示されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、イメージグループとタイプを定義します。

イメージのグループとタイプは、「親グループ・メニュー」および「親タイプ・メニュー」を使って、メディアライブラリ管理ページの左メニューを階層的に構成することができます。

「親グループ・メニュー」もしくは「親タイプ・メニュー」が選択されている場合、そのイメージグループ/タイプは、選択した親グループ/タイプ・メニューの下に表示されます。イメージグループ/タイプの階層構造は、左メニューの整理に用途を限定したものであり、いかなる属性も親グループ/タイプから継承されるわけではありませんのでご注意ください。





4.2.3.1 アクセス制限

イメージコンテンツ項目、イメージグループ・タイプ、Webサイトにおけるアクセス制限はすべて、アクセス権限を満たす必要があります。従って、イメージグループ・タイプに定義されたアクセス制限は、他のアクセス制限に追加されます。イメージグループ・タイプのアクセス制限は、他のアクセス制限を上書き／置換はしません。

イメージグループ・タイプのアクセス制限は、個々のコンテンツ項目のアクセス制限と同じであり、同様に使用されます。



4.3 ファイルの設定

ファイルの設定ページでは、ファイルのフォーマット、グループ、タイプを左メニューより設定できます。



4.3.1 ファイルフォルダの移動/リネーム

ファイルコンテンツ項目は、ファイル設定ページの下部にある「フォルダ: 公開コンテンツをフォルダに移動します ____フォルダーへ ____」入力フィールドを使って、移動させることが可能です。前方・後方とも両方の入力フィールドへ入力して下さい。前方のフォルダ名に既に公開されているコンテンツ項目のみ、後方のフォルダへと移動されます。それに伴い、ファイル名も変更されます。例：“myfolder/myfile.pdf” から “myotherfolder/myfile.pdf”へ。

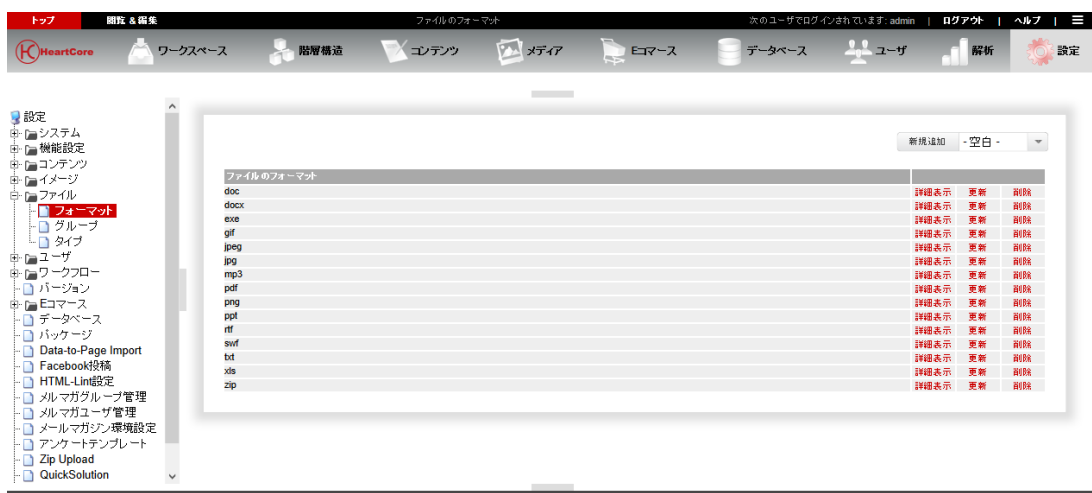
4.3.2 ファイルフォーマット設定

ファイルフォーマットは、ファイルコンテンツ項目として Web コンテンツ管理システムにアップロードできるファイルフォーマットとファイル名拡張子を定義します。

「設定」 / 「ファイル」 / 「フォーマット」メニューより、ファイルフォーマット設定へアクセスします。現在定義済みのファイルフォーマットがリスト化されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、ファイルフォーマットを定義します。

各ファイルフォーマットは、単にローカルコンピュータ上のファイルに使用されるような、ファイルフォーマットファイル名拡張子です。

イメージフォーマットも、ファイルフォーマットとして設定できます。HeartCoreWeb エディタの「ハイパーリンクの挿入」機能を使って Web サイトへ挿入したり、また Web サイトからダウンロードしたりすることが可能になります。



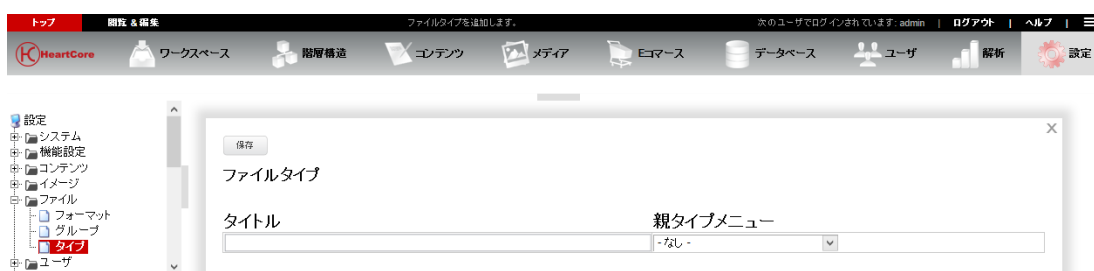
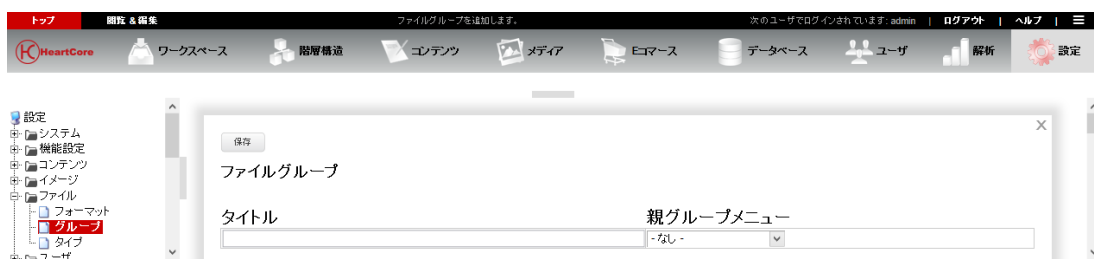
4.3.3 ファイルのグループ/タイプ設定

ファイルのグループとタイプは、Web サイトのファイルを組織化するために使用されるコンテンツカテゴリを定義します。

「設定」 / 「ファイル」 / 「グループ」 「タイプ」を選択し、ファイルのグループとタイプ設定へアクセスします。現在定義済みのファイルグループとタイプが一覧表示されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、ファイルグループとタイプを定義します。

ファイルのグループとタイプは、「親グループ・メニュー」および「親タイプ・メニュー」を使って、メディアライブラリ管理ページの左メニューを階層的に構成することができます。「親グループ・メニュー」もしくは「親タイプ・メニュー」が選択されている場合、そのファイルグループ/タイプは、選択した親グループ/タイプ・メニューの下に表示されます。ファイルグループ/タイプの階層構造は、左メニューの整理に用途を限定したものであり、いかなる属性も親グループ/タイプから継承されるわけではありませんのでご注意ください。





4.3.3.1 アクセス制限

ファイルコンテンツ項目、ファイルグループ・タイプ、Web サイトにおけるアクセス制限はすべて、アクセス権限を満たす必要があります。従って、ファイルグループ・タイプに定義されたアクセス制限は、他のアクセス制限に追加されます。ファイルグループ・タイプのアクセス制限は、他のアクセス制限を上書き／置換はしません。

ファイルグループ・タイプのアクセス制限は、個々のコンテンツ項目のアクセス制限と同じであり、同様に使用されます。



4.4 リンクの設定

リンクの設定ページでは、リンクのグループ、タイプを左メニューより設定できます。

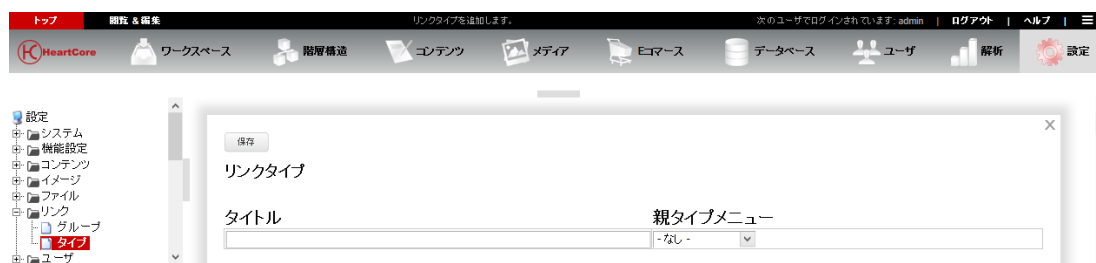
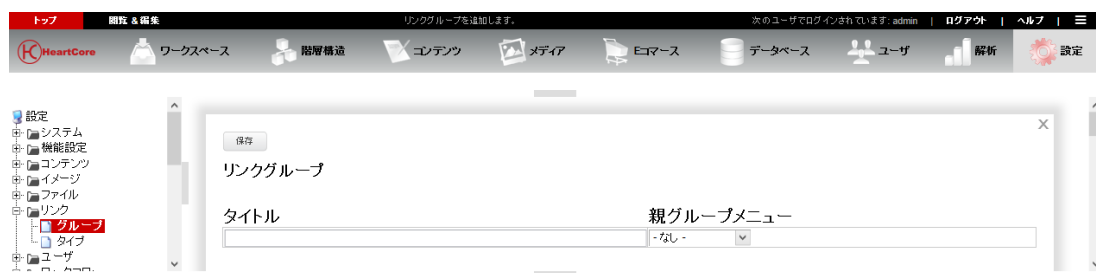


4.4.1 リンクのグループ/タイプ設定

リンクのグループとタイプは、Web サイトのリンクを組織化するのに使用されるコンテンツカテゴリを定義します。

「設定」／「リンク」／「グループ」「タイプ」を選択し、リンクのグループとタイプ設定へアクセスします。現在定義済みのリンクグループとタイプが一覧表示されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、リンクグループとタイプを定義します。

リンクのグループとタイプは、「親グループ・メニュー」および「親タイプ・メニュー」を使って、メディアライブラリ管理ページの左メニューを階層的に構成することができます。「親グループ・メニュー」もしくは「親タイプ・メニュー」が選択されている場合、そのリンクグループ/タイプは、選択した親グループ/タイプ・メニューの下に表示されます。リンクグループ/タイプの階層構造は、左メニューの整理に用途を限定したものであり、いかなる属性も親グループ/タイプから継承されるわけではありませんのでご注意ください。



4.4.1.1 アクセス制限

リンクコンテンツ項目、リンクグループ・タイプ、Web サイトにおけるアクセス制限はすべて、アクセス権限を満たす必要があります。従って、リンクグループ・タイプに定義されたアクセス制限は、他のアクセス制限に追加されます。リンクグループ・タイプのアクセス制限は、他のアクセス制限を上書き/置換はしません。

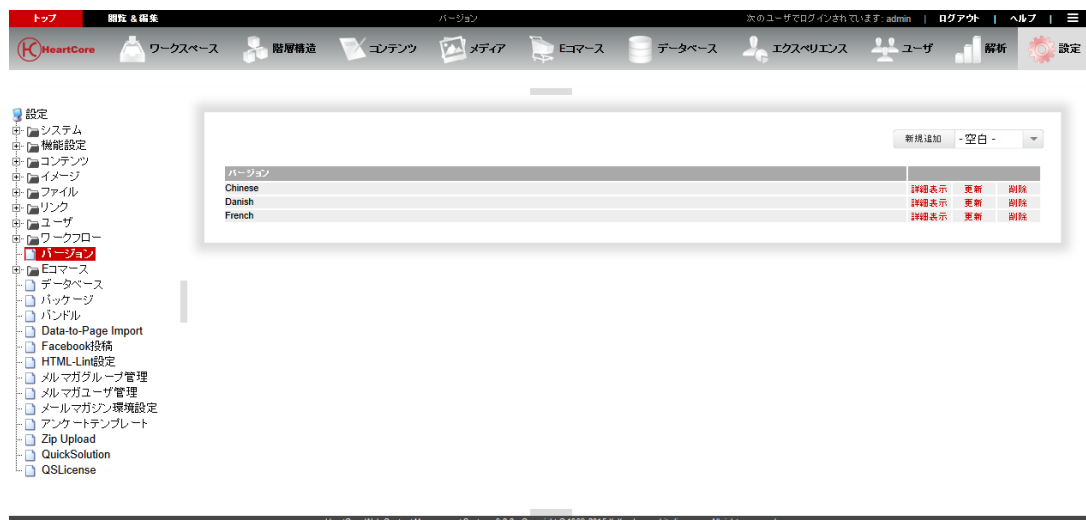
リンクグループ・タイプのアクセス制限は、個々のコンテンツ項目のアクセス制限と同じであり、同様に使用されます。

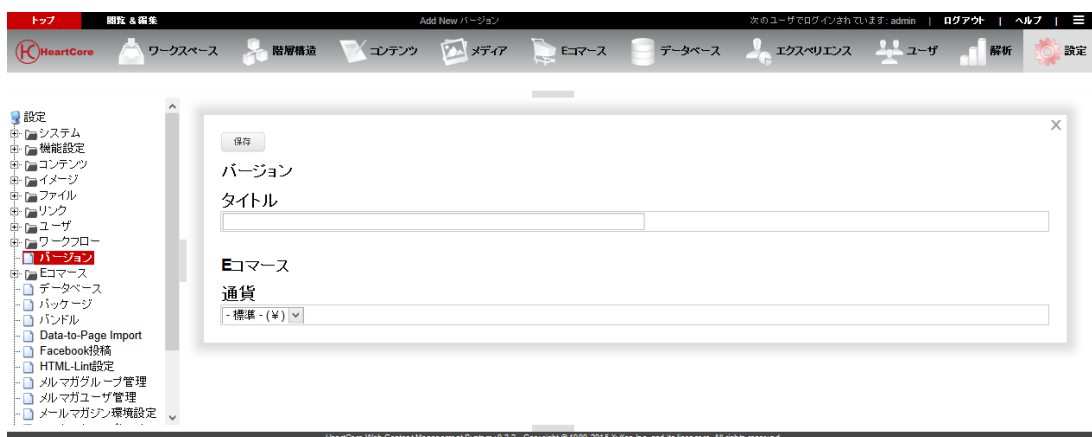


4.5 バージョンの設定

バージョンの設定ページでは、コンテンツ項目のバージョンを設定できます。現在定義済みのコンテンツバージョンが一覧表示されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、コンテンツバージョンを定義します。

各コンテンツバージョンは、単に左メニューと「コンテンツバージョン」選択ボックス入力フィールドで使用される名前にすぎません。オプションで、Eコマース機能が使用されている場合は、各コンテンツバージョンへ通貨を定義することもできます。



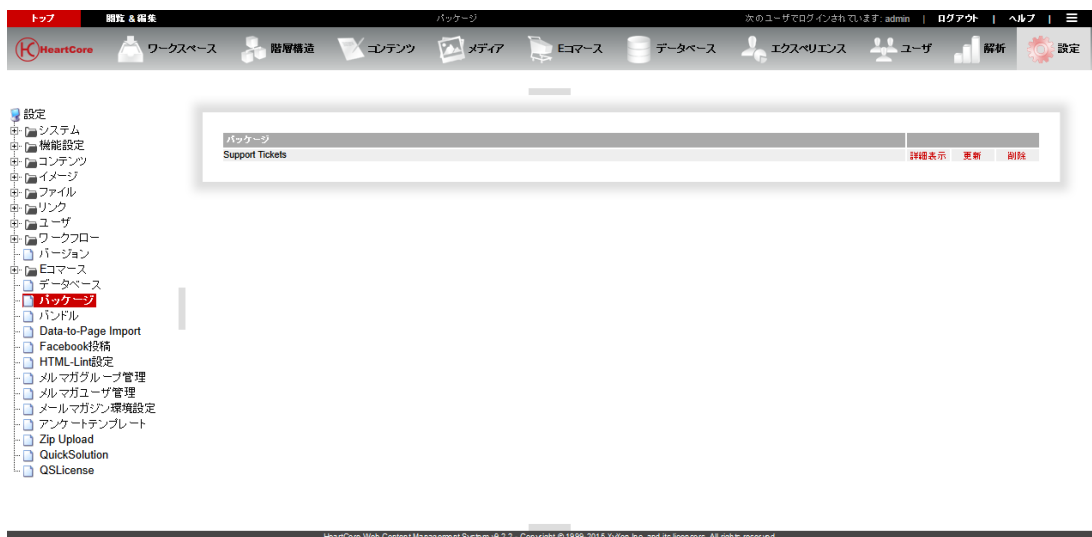


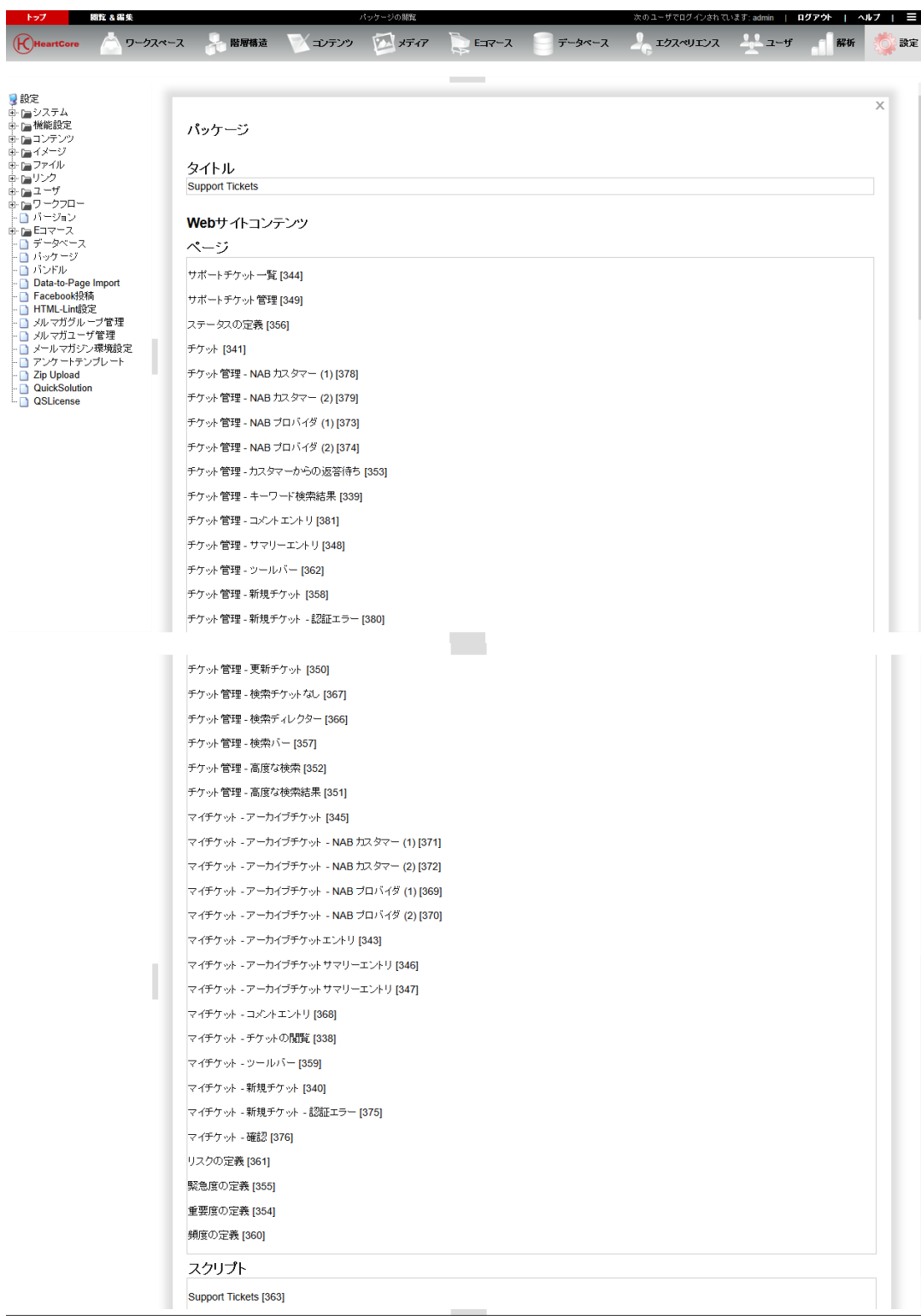
4.6 パッケージの設定と管理

パッケージの設定ページでは、コンテンツパッケージの全コンテンツ項目を閲覧したり、削除したりすることができます。また、コンテンツパッケージを更新（リネーム）することも可能です。パッケージを削除すると、リストされたコンテンツ項目もすべて完全に削除されますのでご注意ください。（バンドルでは削除されません）

現在定義済みのコンテンツパッケージが一覧表示されます。「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、コンテンツパッケージを管理します。

コンテンツパッケージに属する個々のコンテンツ項目を管理するには、「設定」／「コンテンツ」／「全て」の管理ページを使用するか、もしくは通常の Web サイトコンテンツ、メディアライブラリ、商品の各管理ページを使用します。





The screenshot shows the configuration page for 'パッケージ' (Package) in the HeartCore WCM system. The page is divided into several sections:

- タイトル** (Title): A text input field containing 'Support Tickets'.
- Webサイトコンテンツ** (Website Content): A list of content items under the 'ページ' (Page) category.
 - サポートチケット一覧 [344]
 - サポートチケット管理 [349]
 - ステータスの定義 [356]
 - チケット [341]
 - チケット管理 - NAB カスタマー (1) [378]
 - チケット管理 - NAB カスタマー (2) [379]
 - チケット管理 - NAB プロバイダ (1) [373]
 - チケット管理 - NAB プロバイダ (2) [374]
 - チケット管理 - カスタマーからの返答待ち [353]
 - チケット管理 - キーワード検索結果 [339]
 - チケット管理 - コメントエントリ [381]
 - チケット管理 - サマリーエントリ [348]
 - チケット管理 - ツールバー [362]
 - チケット管理 - 新規チケット [358]
 - チケット管理 - 新規チケット - 認証エラー [380]
 - チケット管理 - 更新チケット [350]
 - チケット管理 - 検索チケットなし [367]
 - チケット管理 - 検索ディレクター [366]
 - チケット管理 - 検索バー [357]
 - チケット管理 - 高度な検索 [352]
 - チケット管理 - 高度な検索結果 [351]
 - マイチケット - アーカイブチケット [345]
 - マイチケット - アーカイブチケット - NAB カスタマー (1) [371]
 - マイチケット - アーカイブチケット - NAB カスタマー (2) [372]
 - マイチケット - アーカイブチケット - NAB プロバイダ (1) [369]
 - マイチケット - アーカイブチケット - NAB プロバイダ (2) [370]
 - マイチケット - アーカイブチケットエントリ [343]
 - マイチケット - アーカイブチケットサマリーエントリ [346]
 - マイチケット - アーカイブチケットサマリーエントリ [347]
 - マイチケット - コメントエントリ [368]
 - マイチケット - チケットの閲覧 [338]
 - マイチケット - ツールバー [359]
 - マイチケット - 新規チケット [340]
 - マイチケット - 新規チケット - 認証エラー [375]
 - マイチケット - 確認 [376]
 - リスクの定義 [361]
 - 緊急度の定義 [355]
 - 重要度の定義 [354]
 - 頻度の定義 [360]
- スクリプト** (Scripts): A list containing 'Support Tickets [363]'.

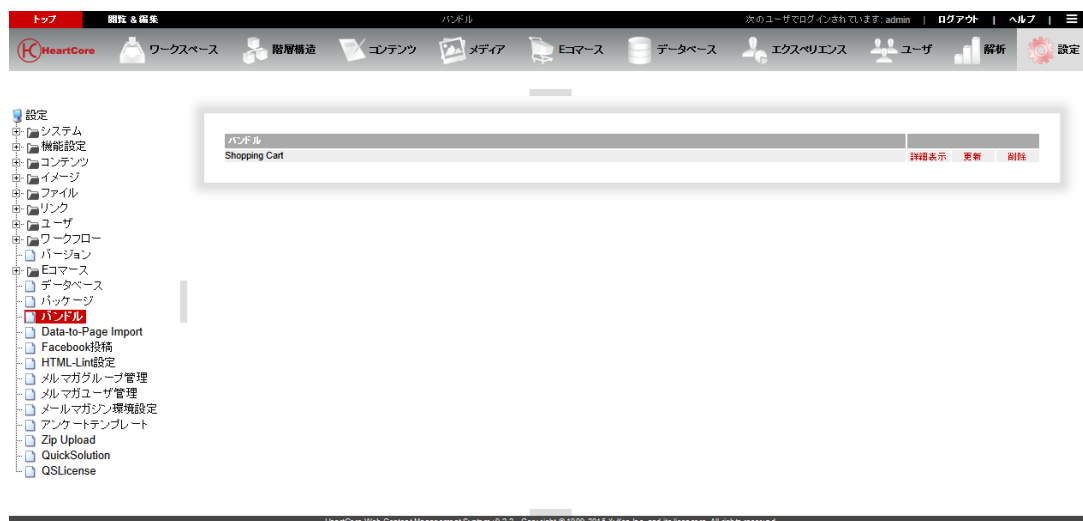
The left sidebar contains a navigation menu with categories like '設定' (Settings), '機能設定' (Feature Settings), 'コンテンツ' (Content), 'メディア' (Media), 'Eコマース' (E-commerce), 'データベース' (Database), 'エクスペリエンス' (Experience), 'ユーザ' (User), and '解析' (Analytics). The top navigation bar includes 'トップ' (Home), '開発 & 編集' (Development & Edit), and 'パッケージの閲覧' (View Package).

4.7 バンドルの設定と管理

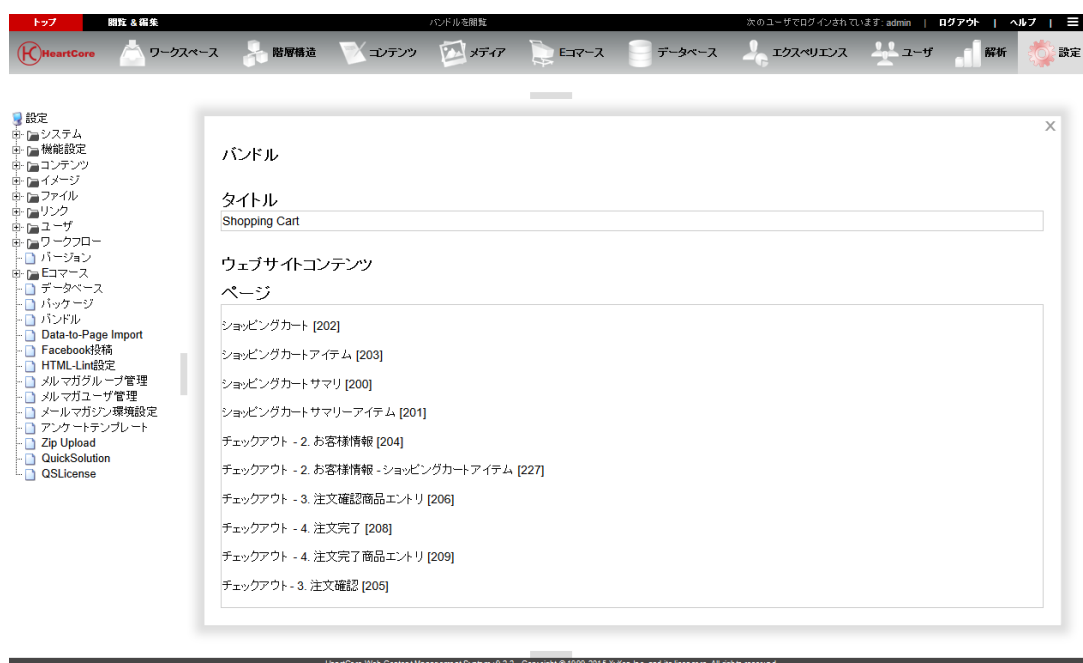
バンドルの設定ページでは、コンテンツバンドルを閲覧したり、削除したりすることができます。また、コンテンツバンドルを更新（リネーム）することも可能です。バンドルを削除しても、リストされたコンテンツ項目のカテゴリー化を削除するだけで、実際のコンテンツ項目は削除されませんのでご注意ください。（パッケージでは削除されます）

現在定義済みのコンテンツバンドルが一覧表示されます。「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、コンテンツバンドルを管理します。

コンテンツバンドルに属する個々のコンテンツ項目を管理するには、「設定」／「コンテンツ」／「全て」の管理ページを使用するか、もしくは通常の Web サイトコンテンツ、メディアライブラリ、商品の各管理ページを使用します。



HeartCore Web Content Management System © 2.2 - Copyright © 1999-2015 Kykon Inc. and its licensors. All rights reserved.



HeartCore Web Content Management System © 2.2 - Copyright © 1999-2015 Kykon Inc. and its licensors. All rights reserved.

5 ユーザーデータベース設定

ユーザの設定ページでは、ユーザグループやタイプを左メニューより設定することができます。

ユーザの設定ページではまた、ユーザーデータベースの内容を CSV 形式ファイルにてエクスポートまたはインポートすることが可能です。Web コンテンツ管理システム外での一括更新や、他の外部ユーザーデータベースとの同期化に便利です。

すでに既存のデータベースが存在していて、例えばパスワードなどのユーザ情報が頻繁に更新される、といったケースも考えられます。ユーザ・データベース全体とその管理を HeartCore Web コンテンツ管理システムに移動したり、既存のデータベースと HeartCore Web コンテンツ管理システム内のユーザを両方更新したり、というのは不便、もしくは不可能です。

既存のデータベースのユーザ情報と HeartCore Web コンテンツ管理システムのユーザを容易に同期化させるため、HeartCore Web コンテンツ管理システムへ / からユーザ詳細をインポート / エクスポートすることができます。



5.1 ユーザのグループ/タイプ設定

ユーザのグループとタイプは、Web サイト管理者ユーザアカウントを組織化するのに使用されるユーザカテゴリを定義します。

「設定」 / 「ユーザ」 / 「グループ」 「タイプ」メニューを選択し、ユーザグループ・タイプ設定へアクセスします。現在定義済みのユーザグループとタイプが一覧表示されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」より、ユーザグループとタイプを定義します。

ユーザのグループとタイプは、「親グループ・メニュー」および「親タイプ・メニュー」を使って、ユーザーデータベース管理ページの左メニューを階層的に構成することができます。「親グループ・メニュー」もしくは「親タイプ・メニュー」が選択されている場合、そのユーザグループ/タイプは、選択した親グループ/タイプ・メニューの下に表示されます。ユーザグル

ープ/タイプ/階層構造は、左メニューの整理に用途を限定したものであり、いかなる属性も親グループ/タイプから継承されるわけではありませんのでご注意ください。

ユーザグループ	詳細表示	更新	削除
Account Managers	詳細表示	更新	削除
Company Bloggers	詳細表示	更新	削除
Customer	詳細表示	更新	削除
Event Managers	詳細表示	更新	削除
Financial Officers	詳細表示	更新	削除
Forum Moderator	詳細表示	更新	削除
Human Resources	詳細表示	更新	削除
Intranet Managers	詳細表示	更新	削除
Intranet Users	詳細表示	更新	削除
Newsletter	詳細表示	更新	削除
Press Officers	詳細表示	更新	削除
Product Managers	詳細表示	更新	削除
Registered Users	詳細表示	更新	削除
Shop Managers	詳細表示	更新	削除
Subscribers	詳細表示	更新	削除
Support Ticket Administrators	詳細表示	更新	削除
Support Ticket Users	詳細表示	更新	削除
User Managers	詳細表示	更新	削除
Website Administrators	詳細表示	更新	削除
Website Developers	詳細表示	更新	削除

保存

ユーザグループ

タイトル

親グループメニュー

-なし-

ユーザタイプ	詳細表示	更新	削除
Customer	詳細表示	更新	削除
Member	詳細表示	更新	削除

保存

ユーザタイプ

タイトル

親タイプメニュー

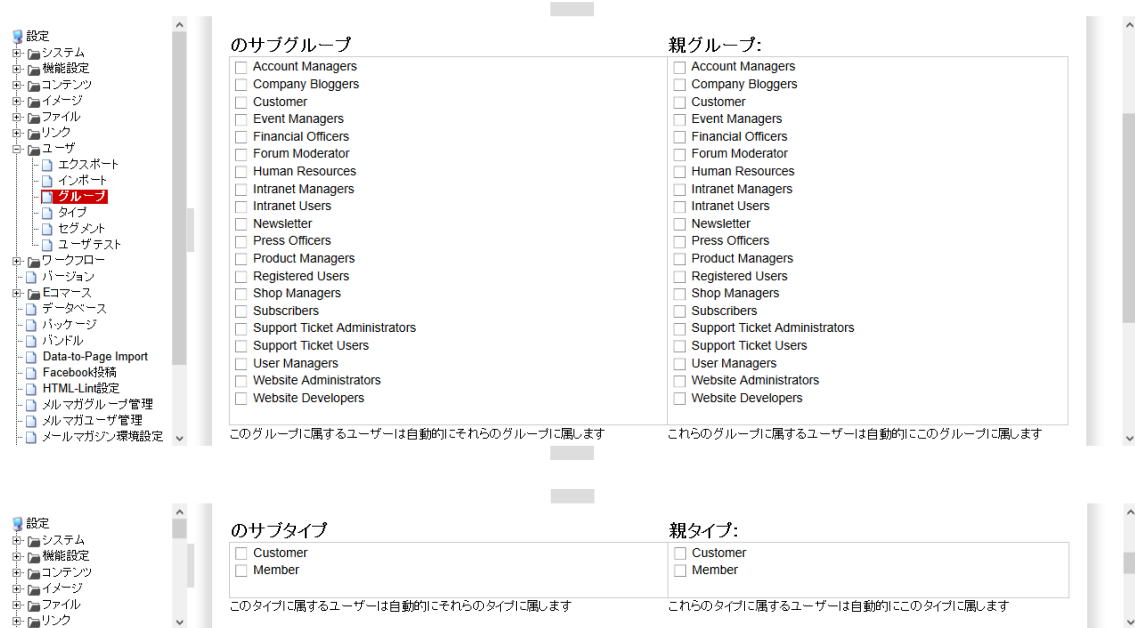
-なし-

5.1.1 サブグループとサブタイプ

ユーザグループ/タイプは、サブグループ/サブタイプとしてその他のユーザグループ/タイプを持つように定義することができます。つまり、あるユーザグループ/タイプに属する全てのユーザは、自動的にそのサブグループ/タイプにも属すとみなされます。

例えば、もし“ウェブサイト開発者”ユーザグループ/タイプが、サブグループ/タイプとして“ウェブサイト管理者”ユーザグループ/タイプをもつ場合、全ての“ウェブサイト開発者”ユーザは、“ウェブサイト管理者”ユーザとみなされ、実際の“ウェブサイト管理者”ユーザと同じアクセス権限が与えられます。また、もし“従業員”ユーザタイプが、サブタイプとして“パートナー”ユーザタイプをもつ場合、全ての“従業員”ユーザは、“パートナー”ユーザとみなされ、実際の“パートナー”ユーザと同じアクセス権限が与えられます。

ユーザグループ/タイプが、他のユーザグループ/タイプを「サブグループ/タイプ」として持つ場合、それらの「サブグループ/タイプ」は、自動的にそのユーザグループ/タイプの「親グループ/タイプ」として定義されます。また、その逆も同じです。



The screenshot displays two configuration panels. The top panel is for 'Subgroups' (サブグループ) and the bottom panel is for 'Subtypes' (サブタイプ). Both panels have a left sidebar with a navigation menu where 'Groups' (グループ) is selected. Each panel contains two columns of checkboxes: 'Subgroups' (サブグループ) and 'Parent Groups' (親グループ) for the top panel, and 'Subtypes' (サブタイプ) and 'Parent Types' (親タイプ) for the bottom panel. The 'Subgroups' panel lists 25 categories, while the 'Subtypes' panel lists 2 categories. Below each list, a note states that users of the selected group/type are automatically associated with the parent group/type.

5.1.2 アクセス制限

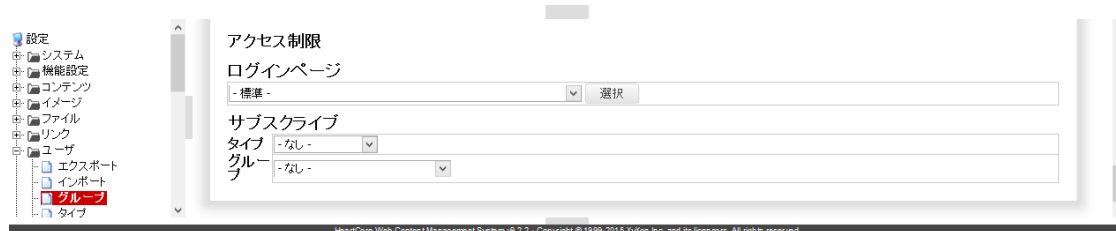
5.1.2.1 ログインページ

ユーザグループとタイプのアクセス制限では、そのユーザグループ/タイプに制限されているコンテンツにアクセスしようとした際に使用されるログインページを定義します。デフォルトでは、すべてのユーザは Web サイトに設定されたデフォルトのログイン・ページからログインします。しかし、ユーザ・グループ/タイプ毎に異なるログイン・ページを使用したい場合もあるでしょう。デフォルトでは、Web サイトの設定された「デフォルトログインページ」を使用するよう“一標準”に設定されています。他のログイン・ページに設定すると、このカテゴリに属するユーザにはそのログイン・ページが使用されます。

5.1.2.2 ユーザグループ/タイプの入会・退会

ユーザグループ/タイプのアクセス制限ページではまた、Web サイト上の「入会」「退会」などの特別リンクを使って、そのユーザグループ/タイプに入会、退会できる権利を Web サイトユーザに持たせるかどうかを定義することができます。

- なし
登録済みユーザは、このユーザ・タイプ/グループへの入会、退会はできません。
Web サイト管理者とユーザを、このユーザグループ/タイプへ割り当てるには、ユーザデータベース管理ページを使うしかありません。
- 制限
すべての登録済みユーザ（既に Web サイトへログインしている）は、このユーザ・タイプ/グループへの入会、退会ができます。
- 特定のタイプ/グループ
選択されたユーザ・タイプ/グループに属する登録済みユーザ（既に Web サイトへログインしている）のみが、このユーザ・タイプ/グループへの入会、退会ができます。



5.2 ユーザ情報のエクスポート

「設定」 - 「ユーザ」 - 「エクスポート」メニュー項目リンクを選択すると、「ユーザの詳細をエクスポート」管理にアクセスできます。

「エクスポート」を選択すると、HeartCore Web コンテンツ管理システムから現在のユーザ情報が抽出され、.csv 形式のファイルとしてダウンロードできるようになります。

ダウンロード済みの.csv 形式のファイルは、スプレッドシート・デスクトップ・アプリケーションで開いたり編集したりできます。また、データベース・アプリケーションでインポートすることも可能です。



5.3 ユーザ情報のインポート

「設定」 - 「ユーザ」 - 「インポート」メニュー項目リンクを選択すると、「ユーザデータのインポート」管理にアクセスできます。

.csv 形式のファイル（ユーザ情報のエクスポート機能でエクスポートされたもの）をローカル・コンピュータより選択し、「インポート」を選択するとアップロードされ、HeartCore Web コンテンツ管理システムにインポートされます。インポートによって、.csv 形式ファイルに追加されたユーザ情報は HeartCore Web コンテンツ管理システムに追加され、更新されたユーザ情報は更新されます。

インポートでは、ユーザ情報は削除されないことに注意してください。ユーザ情報は、新規ユーザの追加、既存ユーザの更新がされるのみです。ユーザを削除するには、ユーザ・データベース管理より削除する必要があります。

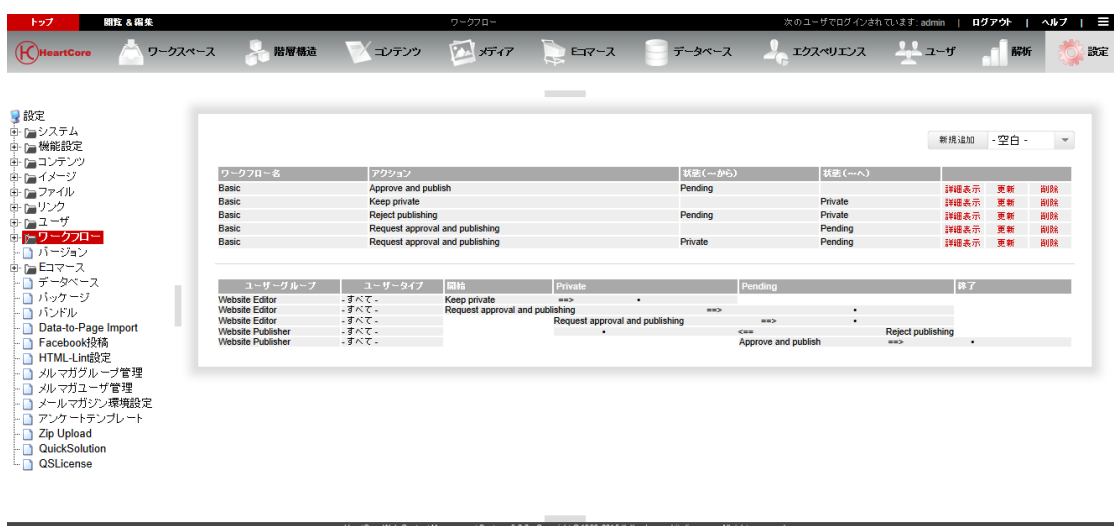


6 ワークフロー設定

ワークフローの設定ページでは、Web サイトコンテンツを作成、管理するにあたり、高度な Web サイト管理アクセス制限や、必要な作業、また承認プロセスを使用できるよう、独自のワークフローを定義することができます。

6.1.1 ワークフロー

「設定」 - 「ワークフロー」メニュー項目を選択し、ワークフロー設定ページにアクセスしてください。現在定義されているワークフロー・アクションがすべて一覧表示され、さらに現在定義されているすべてのワークフロー・アクションの連携図が表示されます。また、現在定義されている各ワークフロー名のワークフロー・サブメニュー項目を選択することもできます。特定のワークフロー名を選択すると、そのワークフロー名のワークフロー・アクションのみ一覧表示され、これらのワークフロー・アクションの図が表示されます。ワークフロー・アクションを定義するには、追加、更新、削除を選択してください。



ワークフロー名	アクション	状態 (→から)	状態 (←へ)	
Basic	Approve and publish	Pending		詳細表示 更新 削除
Basic	Keep private		Private	詳細表示 更新 削除
Basic	Reject publishing	Pending	Private	詳細表示 更新 削除
Basic	Request approval and publishing		Pending	詳細表示 更新 削除
Basic	Request approval and publishing	Private	Pending	詳細表示 更新 削除

ユーザーグループ	ユーザータイプ	公開	Private	Pending	終了
Website Editor	-すべて-	Keep private	***	*	
Website Editor	-すべて-	Request approval and publishing		***	*
Website Editor	-すべて-		Request approval and publishing		***
Website Publisher	-すべて-			<==	Reject publishing
Website Publisher	-すべて-			Approve and publish	***

6.1.2 ワークフローアクション

ワークフローは、いくつかのワークフロー・アクションから構成され、これらのアクションはそれぞれ、コンテンツ項目のステータス変更と、それを実行する権限を誰が持つか、を定義します。各ワークフロー・アクションは、下記属性により定義されます：

- ワークフロー

- ワークフロー名

このワークフロー・アクションが属するワークフローを定義します。例えば「新規ページの追加」など。

重要：複数のワークフローを定義する場合の注意ですが、それぞれのワークフロー名は単に管理的な目的のためであり、関連するワークフロー・アクションをただグループ化するためだけに使用されるものです。しかし、異なるワークフロー内で、同じ“状態”を使用すると、それらの異なるワークフローは繋がります。例えば、“X”という名前のワークフロー内に存在する「承認済み」という“状態”は、別の“Y”という名前のワークフロー内に存在する「承認済み」という“状態”と何ら変わりはありません。コンテンツ項目は、決して“ワークフロー名”に存在するのではなく、常に、次に実行可能なワークフローアクションを決定する“状態”に

存在します。同じワークフロー“状態”が二つのワークフローで使用されていれば、片方のワークフロー内のワークフロー・アクションを、もう片方のワークフロー内のワークフロー・アクションでフォローすることができます。

- アクション

ワークフロー・アクションを記述します。**Web** サイト管理者は、これを使用可能なワークフロー・アクションとして参照し、コンテンツのワークフロー・ステータスを変更する際を選びます。例えば「コンテンツの承認」や「コンテンツの却下」など。

- 状態（～から）

コンテンツのどの状態からこのワークフロー・アクションが実行できるかを定義します。コンテンツの現在の状態がこの状態である場合のみ、このワークフロー・アクションが選択できます。デフォルトではすべてのコンテンツの状態は空白です。

ワークフローを開始するには、ワークフロー内の一番始めのワークフロー・アクションの「状態（～から）」は空白のままにします。例えば「新規」、「却下」、「承認」など。

- 状態（～へ）

このワークフロー・アクションが実行された後のコンテンツの新しい状態を定義します。**Web** サイト管理者は、これをコンテンツの現在のワークフロー・ステータスとして参照し、その他のどのワークフロー・アクションがこのワークフロー・アクションに続くかを定義します。デフォルトではすべてのコンテンツの状態は空白です。

ワークフローを終了するには、ワークフローの一番最後のワークフロー・アクションの「状態（～へ）」は空白のままにします。

もし **Web** サイト管理者に、コンテンツのワークフロー・ステータスを変更しないでコンテンツを更新する権限を与える場合には、「状態（～から）」と「状態（～へ）」を同じにします。変更先ステートを変更元ステートと同じにします。コンテンツ項目に対してどのワークフロー・アクション権限も持たない **Web** サイト管理者は、そのコンテンツ項目を更新する権限がありません。

- コンテンツの変更

- アクション

アクションチェックボックスは、以下に説明するプログラムされたコンテンツの変更を追加/除去するために使われます。

- アーカイブ

ワークフローアクションが選択された際、コンテンツ項目をアーカイブしません。

- 専有

ワークフローアクションが選択された際、コンテンツ項目を専有します。

- 解放

ワークフローアクションが選択された際、コンテンツ項目を解放します。

- 公開

ワークフローアクションが選択された際、コンテンツ項目を公開します。

- 非公開

ワークフローアクションが選択された際、コンテンツ項目を非公開にします。

- 削除

ワークフローのアクションが選択された際、コンテンツ項目を削除します。

- スケジュールを削除

予約済みの公開開始日時と公開終了日時を取り消します。

- アクセス権限

コンテンツアクセス権限のチェックボックスは、以下に説明するプログラムされたコンテンツの変更を追加/除去するために使われます。

- 無効にする

与えられたアクセス権限を無効にし、ユーザー/管理者の一般アクセス権限を上書きします。

- 再有効にする

与えられたアクセス権限を有効にしなおすので、ユーザー/管理者の一般アクセス権限は適用されます。

- ユーザー・閲覧

コンテンツ項目を閲覧するための、ユーザー/管理者の権限

- 更新者・更新

コンテンツ項目を更新するための、ユーザーと管理者の権限

- 開発者・更新

コンテンツ項目を更新するための、開発管理者の権限

- 作成者・新規追加

コンテンツ項目をコピーして新規のコンテンツアイテムを追加するための、ユーザー/管理者の権限

- 公開者・公開

コンテンツを公開、非公開にするための、管理者の権限

- 管理者・オーナー権限

コンテンツ項目のカテゴリ、およびアクセス制限等を更新するための、管理者の権限

- スケジュール済公開

Webコンテンツ管理システムの公開開始日時予約機能により、コンテンツ項目を公開するかどうかを制御します。

- スケジュール済期限切れ

Webコンテンツ管理システムの公開終了日時予約機能により、コンテンツ項目を期限切れにするかどうかを制御します。

○ 自動での強制的なコンテンツの変更

このワークフロー・アクションの実行時にコンテンツに行われる自動変更を定義します。これらのコンテンツ変更は、Webサイト管理者によって入力/選択されたコンテンツ属性を上書きします。自動コンテンツ変更は、“ATTRIBUTE=VALUE”行で、いくつでも定義することができます。例えば、コンテンツを別のコンテンツ・グループ/タイプに移動したり、コンテンツのアクセス制限を変更できます：

```
contentgroup=News
contenttype=General
users_group=
users_type=
creators_group=Website Designer
creators_type=Employee
developers_group=Website Developer
developers_type=Employee
editors_group=Website Designer
editors_type=Employee
publishers_group=Website Administrator
publishers_type=Employee
administrators_group=Website Administrator
administrators_type=Employee
```

ワークフロー・アクション実行時の、コンテンツの強制的な自動アクションも定義することができます。これらのアクションは、Webサイト管理者によって選択されたアクションを上書きします。自動コンテンツアクションは、“ACTION”行で、いくつでも定義することができます。（アクションはすべて大文字でなければなりません。）これらのコマンドは、手動、または上述のアクションチェックボックスを使って追加/除去する事ができます。例えば、コンテンツを自動的にアーカイブしたり、解放や公開したりすることができます。使用可能なアクションは：

ARCHIVE
CHECKIN
CHECKOUT
PUBLISH
UNPUBLISH
DELETE
UNSCHEDULE
LOCK USER
UNLOCK USER
LOCK CREATOR
UNLOCK CREATOR
LOCK DEVELOPER
UNLOCK DEVELOPER
LOCK EDITOR
UNLOCK EDITOR
LOCK PUBLISHER
UNLOCK PUBLISHER
LOCK ADMINISTRATOR
UNLOCK ADMINISTRATOR
LOCK SCHEDULE
UNLOCK SCHEDULE
LOCK UNSCHEDULE
UNLOCK UNSCHEDULE

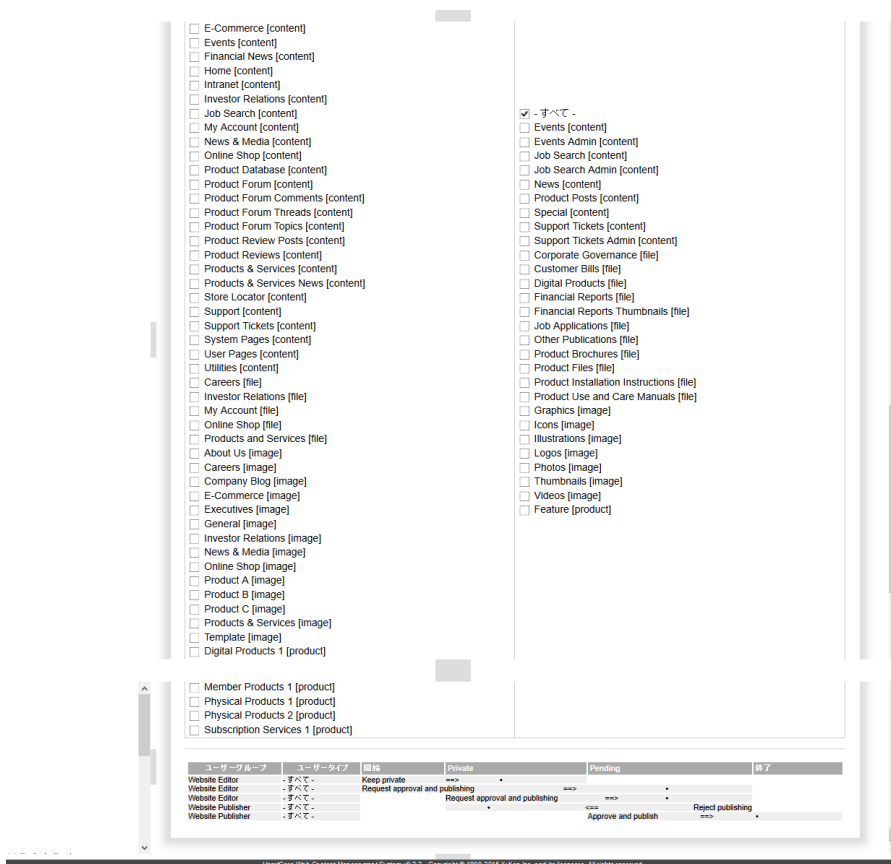
- カスタムエクステンションプログラム
インストールされたカスタムワークフローアクションプログラムスクリプトモジュールが存在する場合、ここに表示され選択することが可能となります。このカスタムワークフローアクションプログラムスクリプトモジュールは、プログラムされた通りに実行されます。
- ワークフローアクセス制限
誰がこのワークフロー・アクションを実行できるかを定義します。Web サイト管理者は、このワークフロー・アクションを実行するためには、ユーザ・グループとユーザ・タイプ両方に属し、さらにユーザ制限を満たしている必要があります。
 - ユーザグループ
このユーザグループに属する Web サイト管理者のみが、このワークフローアクションを実行できる。
 - ユーザタイプ
このユーザタイプに属する Web サイト管理者のみが、このワークフローアクションを実行できる。
 - ユーザ制限
 - 前回のワークフローアクションに関わらず全ての Web サイト管理者
前回のワークフローアクションを誰が行ったかに関わらず、全ての Web サイト管理者がこのワークフローアクションを実行できる。
 - 前回のワークフローアクションと異なる Web サイト管理者
前回のワークフローアクションを行った Web サイト管理者とは別の Web サイト管理者のみ、このワークフローアクションを実行できる。

- 前回のワークフローアクションと同一の Web サイト管理者
前回のワークフローアクションを行った Web サイト管理者のみ、このワークフローアクションを実行できる。
- 通知メール
このワークフロー・アクションの後のワークフロー・アクションを実行する権限を持つすべての Web サイト管理者に E メール送信されるページを定義します。
- コンテンツ
このワークフロー・アクションが適用されるコンテンツ・クラス、バージョン、グループ、およびタイプを定義します。このワークフロー・アクションは、選択したコンテンツ・クラス、バージョン、グループ、タイプに対してのみ使用可能です。

The screenshot shows the configuration page for a workflow action in the HeartCore system. The interface includes a navigation menu on the left and a main configuration area with the following sections:

- ワークフロー (Workflow):**
 - ワークフロー名: Basic
 - アクション: [Dropdown]
 - 状態 (~から): [Dropdown]
 - 状態 (~へ): [Dropdown]
- コンテンツの変更 (Content Change):**
 - アーカイブ:
 - 専用: 解放: 公開: 非公開: 削除: スケジュールを削除:
- アクセス権限 (Access Permissions):**

	ユーザ閲覧	更新者更新	閲覧者更新	作成者新規追加	公開者公開	管理者オーナー権限	スケジュール済公開	スケジュール済期限切れ
無効	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
再度有効	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
- 自動での強制的なコンテンツの変更 (Automatic Content Changes):** [Text area]
- カスタムエクステンション プログラム (Custom Extension Program):** [Dropdown]
- アクセス制限 (Access Restrictions):**
 - ユーザーグループ: [Dropdown]
 - ユーザータイプ: [Dropdown]
 - ユーザー制限: [Text area]
- 通知メール (Notification Email):** [Dropdown]
- コンテンツ (Content):**
 - コンテンツクラス (Content Class):**
 - すべて-
 - ページ
 - テンプレート
 - スタイルシート
 - スクリプト
 - イメージ
 - ファイル
 - リンク
 - 商品
 - banner
 - breadcrumbs
 - featurebox1
 - featurebox2
 - featurebox3
 - featurebox4
 - footer
 - logo
 - menu
 - personal
 - toolbar
 - utilities
 - コンテンツバージョン (Content Version):**
 - すべて-
 - Chinese
 - Danish
 - French
 - コンテンツグループ (Content Group):**
 - すべて-
 - About Us [content]
 - Careers [content]
 - Company Blog [content]
 - Company Blog Comments [content]
 - Company Blog Entries [content]
 - Company News [content]
 - Customer Service [content]
 - コンテンツタイプ (Content Type):** [Empty]



6.1.3 サンプルワークフロー

デフォルトで、いくつかの典型的なワークフローが Web コンテンツ管理システムに含まれています。これらのワークフローはそのまま使ったり、要件に応じて変更/拡張することができます。

6.1.3.1 Basic Workflow 編集者－公開者

例：Web サイト管理者は、新規コンテンツを追加したり、既存コンテンツを更新する権限を持ちます。新規/更新済みコンテンツの公開準備ができると、公開権限を持つ Web サイト管理者がコンテンツを承認し、公開する必要があります。

このワークフローは、コンテンツに対し下記ワークフロー“状態”を使用します：

- プライベート
追加/更新されたコンテンツは作業中であり、公開できません。
- ペンディング
追加/更新されたコンテンツは公開準備ができており、公開権限を持つ Web サイト管理者による承認と公開を待っています。

このワークフローは、下記ワークフロー・アクションを使用します：

- プライベート保持
コンテンツの追加/更新時、Web サイト管理者はそのコンテンツを作業している間プライベートの状態を保つことができます。これでワークフローを開始します。

- 承認と公開の依頼
Web サイト管理者がコンテンツの追加／更新作業を完了したら、このコンテンツの承認と公開を依頼することができます。
- 承認と公開
Web サイト管理者が追加／更新済みコンテンツの承認と公開を依頼すると、公開権限を持つ Web サイト管理者がこのコンテンツの承認と公開を行う事ができます。これによりワークフローが終了します。
- 公開の却下
Web サイト管理者が追加／更新済みコンテンツの承認と公開を依頼すると、公開権限を持つ Web サイト管理者はこのコンテンツの公開を却下する事ができます。

このワークフローは、以下の Web サイト管理者ユーザ・グループ／タイプを使用します：

- すべての Web サイト管理者
すべての Web サイト管理者がこのワークフローを開始し、コンテンツを追加／更新し、承認と公開を依頼することができます。従って、これについては特別なユーザ・グループ／タイプは必要ありません。代わりに、特定の Web サイト管理者ユーザ・グループ／タイプに限定することもでき、その場合はこれらの Web サイト管理者にユーザ・グループ／タイプが定義、使用される必要があります。例えば、ユーザグループは「Web サイト編集者」で、ユーザタイプが「従業員」など。
- 公開者
一部の Web サイト管理者のみコンテンツの承認と公開を行う権限を持ちます。従って、これらの Web サイト管理者を識別するために、ユーザグループ／タイプが必要です。例えばユーザグループは「Web サイト公開者」で、ユーザタイプが「従業員」など。

このワークフローは、下記ワークフロー・アクション設定で実装されます。

Web サイト管理者がコンテンツを追加／更新でき、これをプライベートに保つワークフローを開始できる。	
ワークフロー名：	Basic
アクション：	プライベート保持
状態（～から）：	
状態（～へ）：	プライベート
ユーザグループ：	すべて（管理者）
ユーザタイプ：	すべて（管理者）
Web サイト管理者が、公開準備が完了するとコンテンツの承認と公開の依頼を行うことができる。	
ワークフロー名：	Basic
アクション：	承認と公開の依頼
状態（～から）：	プライベート
状態（～へ）：	ペンディング
ユーザグループ：	すべて（管理者）
ユーザタイプ：	すべて（管理者）
Web サイト公開者が、コンテンツの承認と公開を行なうことができる。	
ワークフロー名：	Basic
アクション：	承認と公開
状態（～から）：	ペンディング
状態（～へ）：	

ユーザグループ :	Web サイト公開者
ユーザタイプ :	すべて (管理者)
Web サイト公開者が、コンテンツの公開を却下することができる。	
ワークフロー名 :	Basic
アクション :	公開の却下
状態 (～から) :	ペンディング
状態 (～へ) :	プライベート
ユーザグループ :	Web サイト公開者
ユーザタイプ :	すべて (管理者)

上記のワークフロー・アクションは、記載された基本ワークフローを定義します。最終的には、例えば次のような追加のワークフロー・アクションをいくつでも追加することができます :

- Web サイト管理者が、コンテンツをプライベートにすることなく、すぐに承認と公開の依頼ができるようにする。
- Web サイト管理者が、承認と公開待ちのコンテンツを引き戻し、引き続き編集できるようにする。
- Web サイト管理者と Web サイト公開者が、ワークフローをキャンセルできるようにする。

Web サイト管理者が、コンテンツの承認と公開をすぐに依頼することができる。	
ワークフロー名 :	Basic
アクション :	承認と公開の依頼
状態 (～から) :	
状態 (～へ) :	ペンディング
ユーザグループ :	すべて (管理者)
ユーザタイプ :	すべて (管理者)
Web サイト管理者が、承認と公開を依頼したコンテンツを引き戻すことができる。	
ワークフロー名 :	Basic
アクション :	承認と公開依頼の引き戻し
状態 (～から) :	ペンディング
状態 (～へ) :	プライベート
ユーザグループ :	すべて (管理者)
ユーザタイプ :	すべて (管理者)
Web サイト管理者と Web サイト公開者が、プライベートのコンテンツに対し、ワークフローをキャンセルできる。	
ワークフロー名 :	Basic
アクション :	ワークフローのキャンセル
状態 (～から) :	プライベート
状態 (～へ) :	
ユーザグループ :	すべて (管理者)
ユーザタイプ :	すべて (管理者)
Web サイト管理者と Web サイト公開者が、ペンディングのコンテンツに対し、ワークフローをキャンセルできる。	
ワークフロー名 :	Basic
アクション :	ワークフローのキャンセル
状態 (～から) :	ペンディング
状態 (～へ) :	
ユーザグループ :	すべて (管理者)

ユーザタイプ :

すべて (管理者)

ワークフロー名	アクション	状態(→から)	状態(←へ)			
Basic	Approve and publish	Pending		詳細表示	更新	削除
Basic	Keep private		Private	詳細表示	更新	削除
Basic	Reject publishing	Pending	Private	詳細表示	更新	削除
Basic	Request approval and publishing		Pending	詳細表示	更新	削除
Basic	Request approval and publishing	Private	Pending	詳細表示	更新	削除

ユーザーグループ	ユーザータイプ	開始	Private	Pending	終了
Website Editor	-すべて-	Keep private	==>		
Website Editor	-すべて-	Request approval and publishing		==>	
Website Publisher	-すべて-		Request approval and publishing	==>	
Website Publisher	-すべて-			<==	Reject publishing
Website Publisher	-すべて-			Approve and publish	==>

6.1.3.2 Simple Approval 編集者-マネージャー公開者

例：Web サイト管理者は、新規コンテンツの追加および既存コンテンツの更新を行う権限を持ちます。追加／更新済みコンテンツの公開準備ができたなら、まずマネージャがこのコンテンツを承認してから、公開権限を持った Web サイト管理者がこのコンテンツを公開する必要があります。

このワークフローは、コンテンツに対し下記ワークフロー“状態”を使用します：

- プライベート
追加／更新されたコンテンツは作業中であり、公開できません。
- ペンディング
追加／更新済みコンテンツは公開準備ができており、マネージャによる承認を待っています。
- 承認済み
追加／更新済みコンテンツはマネージャの承認済みで、公開権限を持つ Web サイト管理者による公開を待っています。

このワークフローは、下記ワークフロー・アクションを使用しています：

- プライベート保持
コンテンツの追加／更新時、Web サイト管理者はそのコンテンツを作業している間プライベートの状態を保つことができます。これでワークフローを開始します。
- 承認と公開の依頼
Web サイト管理者がコンテンツの追加／更新作業を完了したら、このコンテンツの承認と公開を依頼することができます。
- 公開の承認 (マネージャ)

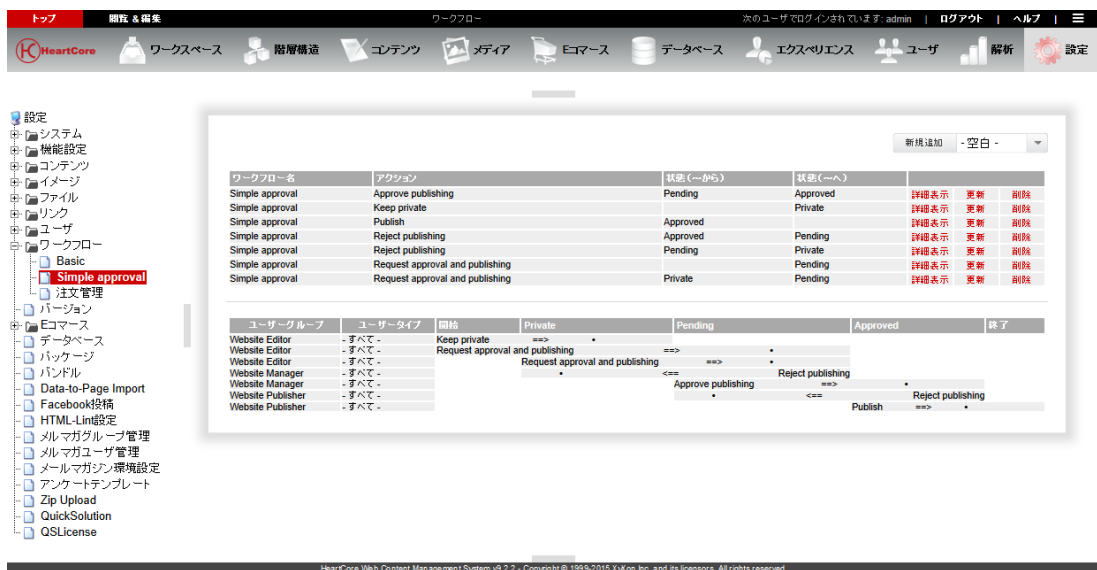
Web サイト管理者が追加／更新済みコンテンツの承認と公開を依頼すると、マネージャがこの公開を承認し、公開権限を持つ Web サイト管理者に受け渡すことができます。

- 公開の却下（マネージャ）
Web サイト管理者が追加／更新済みコンテンツの承認と公開を依頼すると、マネージャがこの公開を却下し、Web サイト管理者に差し戻すことができます。
- 公開の承認（公開者）
Web サイト管理者が追加／更新済みコンテンツの承認と公開を依頼し、マネージャがこれを承認すると、公開権限を持つ Web サイト管理者がこのコンテンツを公開することができます。これによりワークフローが終了します。
- 公開の却下（公開者）
Web サイト管理者が追加／更新されたコンテンツの承認と公開を依頼し、マネージャがこれを承認すると、公開権限を持つ Web サイト管理者がこのコンテンツの公開を却下し、マネージャに差し戻すことができます。

このワークフローは、下記 Web サイト管理者ユーザグループ／タイプを使用します：

- すべての Web サイト管理者
すべての Web サイト管理者がこのワークフローを開始し、コンテンツを追加／更新し、承認と公開を依頼することができます。従って、これについては特別なユーザ・グループ／タイプは必要ありません。代わりに、特定の Web サイト管理者ユーザ・グループ／タイプに限定することもでき、その場合はこれらの Web サイト管理者にユーザ・グループ／タイプが定義、使用される必要があります。例えば、ユーザグループは「Web サイト編集者」で、ユーザタイプが「従業員」など。
- マネージャ
一部の Web サイト管理者のみコンテンツの承認を行う権限を持ちます。従って、これらの Web サイト管理者を識別するために、ユーザグループ／タイプが必要です。例えば、ユーザグループは「Web サイトマネージャ」で、ユーザタイプが「従業員」など。
- 公開者
一部の Web サイト管理者のみコンテンツの公開を行う権限を持ちます。従って、これらの Web サイト管理者を識別するために、ユーザグループ／タイプが必要です。例えば、ユーザグループは「Web サイト公開者」で、ユーザタイプが「従業員」です。

このワークフローが様々なワークフロー・アクション設定を使用してどのように実装されているか詳細については、“Simple Approval” 追加モジュールを参照してください。



6.1.3.3 Two-step Approval 編集者 - マネージャ - 法務 - 公開者

例：Web サイト管理者は、新規コンテンツの追加および既存コンテンツの更新を行う権限を持ちます。追加／更新したコンテンツの公開準備ができたなら、まずマネージャがこのコンテンツを承認し、次にその他の誰か（法務部門等）が承認し、その後公開権限を持った Web サイト管理者がこのコンテンツを公開する必要があります。

このワークフローは、コンテンツに対し下記ワークフロー“状態”を使用します：

- プライベート
追加／更新されたコンテンツは作業中であり、公開できません。
- ペンディング
追加／更新済みコンテンツは公開準備ができており、マネージャによる承認を待っています。
- マネージャ承認済み
追加／更新済みコンテンツはマネージャにより承認済みで、法務部門（もしくは他の誰か）による承認を待っています。
- 承認済み
追加／更新済みコンテンツはマネージャおよび法務部門により承認済みで、公開権限を持つ Web サイト管理者による公開を待っています。

このワークフローは、下記ワークフロー・アクションを使用しています：

- プライベート保持
コンテンツの追加／更新時、Web サイト管理者はそのコンテンツを作業している間プライベートの状態を保つことができます。これでワークフローを開始します。
- 承認と公開の依頼
Web サイト管理者がコンテンツの追加／更新作業を完了したら、このコンテンツの承認と公開を依頼することができます。
- 公開の承認（マネージャ）

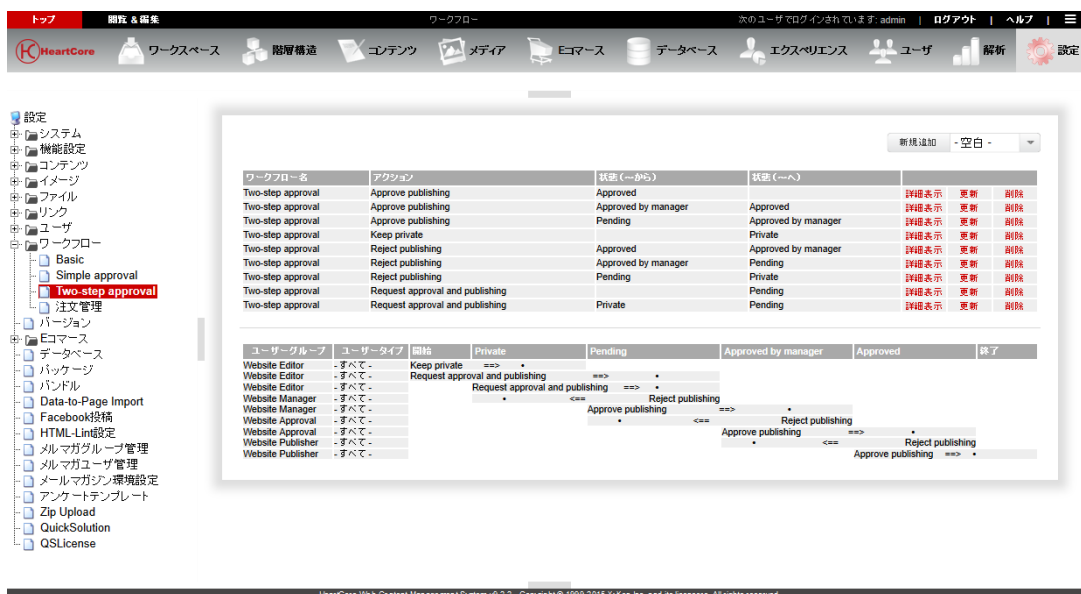
Web サイト管理者が追加／更新したコンテンツの承認と公開を依頼すると、マネージャがこの公開を承認し、法務部門へ受け渡すことができます。

- 公開の却下（マネージャ）
Web サイト管理者が追加／更新したコンテンツの承認と公開を依頼すると、マネージャがこの公開を却下し、Web サイト管理者に差し戻すことができます。
- 公開の承認（法務部門）
Web サイト管理者が追加／更新したコンテンツの承認と公開を依頼し、マネージャがこれを承認すると、公開権限を持つ Web サイト管理者が公開する前に、法務部門がこの公開を承認することができます。
- 公開の却下（法務部門）
Web サイト管理者が追加／更新したコンテンツの承認と公開を依頼し、マネージャがこれを承認すると、法務部門がこの公開を却下し、マネージャに差し戻すことができます。
- 公開の承認（公開者）
Web サイト管理者が追加／更新したコンテンツの承認と公開を依頼し、マネージャがこれを承認すると、公開権限を持つ Web サイト管理者がこのコンテンツを公開することができます。これによりワークフローが終了します。
- 公開の却下（公開者）
Web サイト管理者が追加／更新されたコンテンツの承認と公開を依頼し、マネージャがこれを承認すると、公開権限を持つ Web サイト管理者がこのコンテンツの公開を却下し、法務部門に差し戻すことができます。

このワークフローは、下記 Web サイト管理者ユーザグループ／タイプを使用します：

- すべての Web サイト管理者
すべての Web サイト管理者がこのワークフローを開始し、コンテンツを追加／更新し、承認と公開を依頼することができます。従って、これについては特別なユーザ・グループ／タイプは必要ありません。代わりに、特定の Web サイト管理者ユーザ・グループ／タイプに限定することもでき、その場合はこれらの Web サイト管理者にユーザ・グループ／タイプが定義、使用される必要があります。例えば、ユーザグループは「Web サイト編集者」で、ユーザタイプが「従業員」など。
- マネージャ
一部の Web サイト管理者のみコンテンツの承認を行う許権限を持ちます。従って、これらの Web サイト管理者を識別するために、ユーザグループ／タイプが必要です。例えばユーザグループは「Web サイトマネージャ」で、ユーザタイプが「従業員」など。
- 法務
一部の Web サイト管理者のみコンテンツの二次承認を行う権限を持ちます。従って、これらの Web サイト管理者を識別するために、ユーザグループ／タイプが必要です。例えば、ユーザグループは「Web サイト法務承認」で、ユーザタイプが「従業員」など。
- 公開者
一部の Web サイト管理者のみコンテンツの公開を行う権限を持ちます。従って、これらの Web サイト管理者を識別するために、ユーザグループ／タイプが必要です。例えば、ユーザグループは「Web サイト公開者」で、ユーザタイプが「従業員」など。

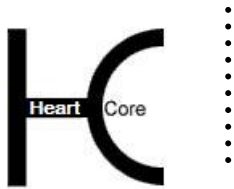
このワークフローが様々なワークフロー・アクション設定を使用してどのように実装されているか詳細については、“Two-step Approval” 追加モジュールを参照してください。



The screenshot shows the configuration page for workflows in the HeartCore system. The left sidebar contains a navigation menu with 'Two-step approval' selected. The main content area displays two tables: a workflow list and a user group permission matrix.

ワークフロー名	アクション	状態 (←から)	状態 (→へ)			
Two-step approval	Approve publishing	Approved		詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Approve publishing	Approved by manager	Approved	詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Approve publishing	Pending	Approved by manager	詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Keep private		Private	詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Reject publishing	Approved	Approved by manager	詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Reject publishing	Approved by manager	Pending	詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Reject publishing	Pending	Private	詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Request approval and publishing		Pending	詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Request approval and publishing	Private	Pending	詳細表示	更新	削除

ユーザーグループ	ユーザータイプ	開始	Private	Pending	Approved by manager	Approved	終了
Website Editor	-すべて-	Keep private	==>	*			
Website Editor	-すべて-	Request approval and publishing		==>	*		
Website Editor	-すべて-	Request approval and publishing			==>	*	
Website Manager	-すべて-		*	Reject publishing			
Website Manager	-すべて-			Approve publishing	==>	*	
Website Approval	-すべて-				Reject publishing		
Website Approval	-すべて-			Approve publishing	<==	*	
Website Publisher	-すべて-				Approve publishing	<==	Reject publishing
Website Publisher	-すべて-					Approve publishing	==>



7 E コマース設定

HeartCore Web コンテンツ管理システムのEコマース追加モジュールを使うことによってEコマース・Webサイトを作成し管理できるようになり、またWebサイト・ビジターをWebサイト・カスタマーへと変えることができます。

Web コンテンツ管理システムの柔軟性とパワーをフル活用して、あらゆる数の商品や商品ページを定義することができます。Webサイト・ビジターは、Webサイトの他のページと同様に、商品ページを閲覧、検索することができます。

商品価格やその他の商品詳細を簡単に変更したり、既存の商品データベースと同期化させるため、商品詳細情報を HeartCore Web コンテンツ管理システムEコマース追加モジュールに容易にインポート/エクスポートすることができます。

為替交換レートの自動処理によって、どんな通貨も、いくつでも定義でき、商品価格に使用することができます。また、為替交換レートの自動処理を使って、異なるマーケットに対しても現地の各通貨に対応できるようWebサイトの複数のバージョンを作成することができます。

商品ページを通して、Webサイト・カスタマーは欲しい商品をバーチャルなWebサイト・ショッピング・カートに入れることができます。Webサイトのカスタマーは、欲しい商品をすべて選び終えた後、チェックアウトへと進み、支払いや配送や請求内容詳細を入力し、選んだ商品の注文をします。オプションで、Webサイト・カスタマーは、PayPal (www.paypal.com) や他の決済サービスプロバイダを通して商品の支払いをクレジット/デビット・カードで済ますことも可能です。

それぞれの商品、商品タイプ、商品グループ、注文数、注文総計、配送先国名または県名などの別にしたがって、どのようなタイプの配送料および税金の設定もできます。

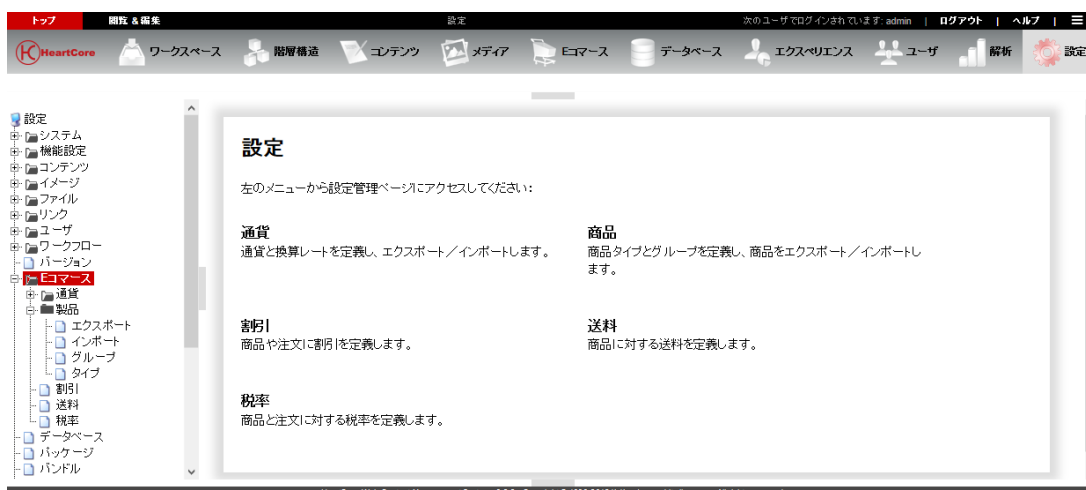
注文が完了すると、Webサイト・カスタマーに注文確認Eメールが送信され、Webサイト注文管理者に、受注通知Eメールが送信されます。受領した注文は、受注管理の簡便さのため、またEメール通知のバックアップとして、Webサイト・データベースに保存されます。これにより、Eメールのトラブルが原因で注文が紛失することがなくなります。

HeartCore Web コンテンツ管理システム機能を使うことにより、注文確認や受注通知Eメール・メッセージはじめ、すべての商品やショッピング・カート、チェックアウトや注文Webページが、フルにカスタマイズ可能です。



7.1 商品の設定

商品の設定にアクセスするには、「設定」－「Eコマース」－「商品」メニュー項目を選択します。左メニューより、商品グループやタイプを設定できる設定ページへアクセスできます。また、Web コンテンツ管理システム外での一括更新や、外部データベースとの同期化に便利な、商品詳細のエクスポート・インポートページへもアクセスすることが可能です。



7.1.1 商品のグループ/タイプ設定

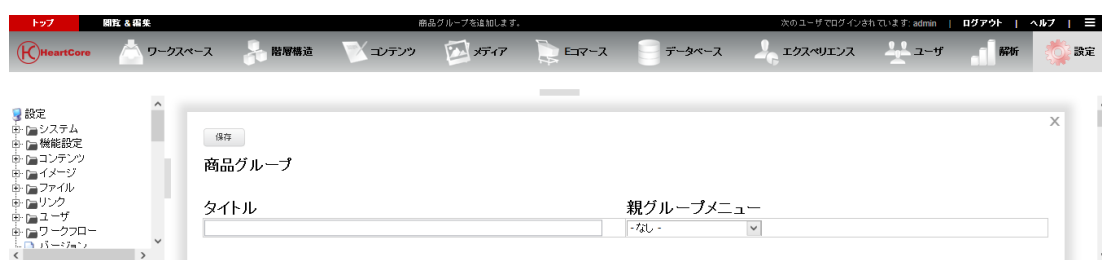
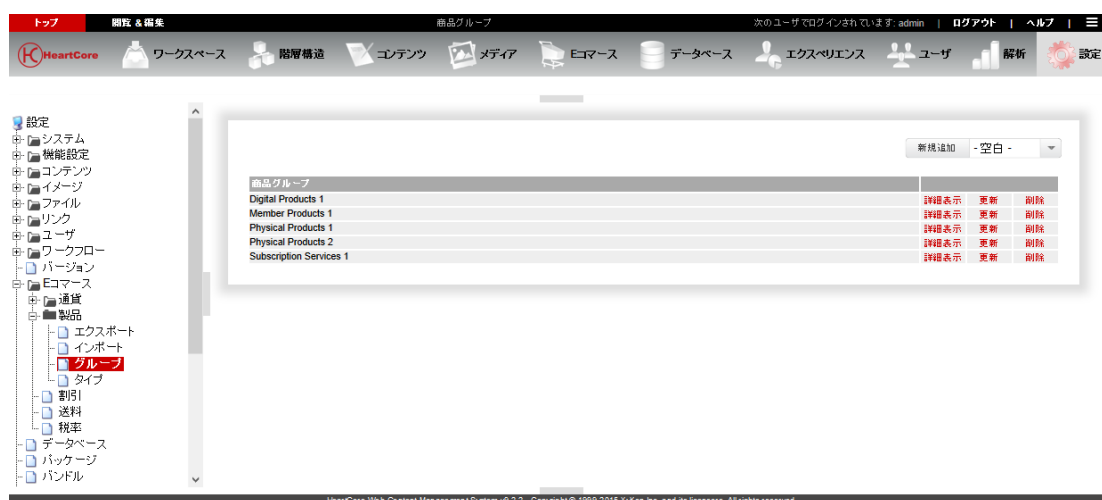
TE コマース追加モジュールのデフォルト・インストールでは、限られた商品数を取り扱う、特別な処理を必要としない小規模な Web サイト向けに設定されます。しかし、Web サイトが多数の商品を含んでいる場合には、商品をいくつかの商品グループならびに/または商品タイプに整理する必要がありますし、また少なくとも整理したほうがより便利で効率的になります。

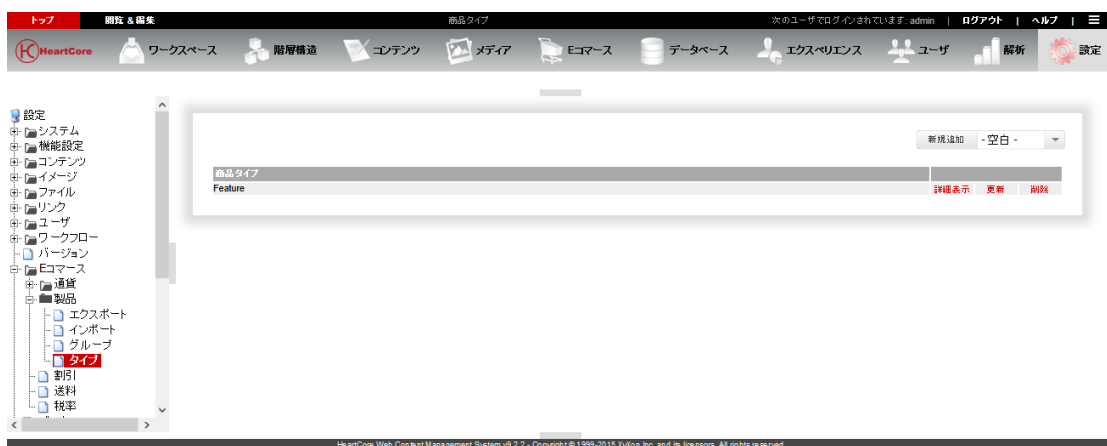
E コマース追加モジュールは、「グループ」と「タイプ」という用語を、一般的な商品カテゴリとして使っています。要件に合わせて、どんなグループやタイプでも定義することができます。「グループ」と「タイプ」は、E コマース追加モジュールでは何ら特別な意味を持ってはいませんが、ただ商品のカテゴリを細かく分類することによってその管理をより容易にするための方法といえます。

商品グループとタイプはまた、様々な商品に対してそれぞれ異なった送料や税率を定義するためにも使うことができます。

「設定」－「Eコマース」－「商品」－「グループ」「タイプ」メニューを選択し、商品のグループ/タイプ設定へアクセスします。現在定義済みの商品グループ/タイプが一覧表示されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を使って、商品グループ/タイプを定義します。

商品のグループとタイプは、「親グループ・メニュー」および「親タイプ・メニュー」を使って、商品管理ページの左メニューを階層的に構成することができます。「親グループ・メニュー」もしくは「親タイプ・メニュー」が選択されている場合、その商品グループ/タイプは、選択した親グループ/タイプ・メニューの下に表示されます。商品グループ/タイプの階層構造は、左メニューの整理に用途を限定したものであり、いかなる属性も親グループ/タイプから継承されるわけではありませんのでご注意ください。





7.1.1.1 コンテンツプレゼンテーション

個々の商品にテンプレートとスタイルシートが定義されている場合、その商品が Web サイト上で閲覧される際には、それらのテンプレートとスタイルシートが使用されます。そうでない場合は、その商品のコンテンツグループもしくはタイプに定義されているテンプレートとスタイルシートが使用されます。もしグループとタイプの両方に定義されている場合は、グループに定義されているテンプレートとスタイルシートが使用されます。商品グループのテンプレートとスタイルシートは、商品タイプのそれらよりも優先されます。

ページタイトル・プレフィックスやページタイトル・サフィックスが、商品のコンテンツグループもしくはタイプに定義されている場合は、それらが Web ブラウザ・ウィンドウ・タイトルバー内のページタイトル前後に表示されます。もし商品グループやタイプに対してページタイトル・プレフィックスやサフィックスが定義されている場合は、デフォルトのページタイトルプレフィックス・サフィックス Web サイト設定に代わって、そちらが適用されます。

HTML DOCTYPE Web ページヘッダーは、Web ページで使用される HTML 規格を定義します。空白のままにしておくと、Web ブラウザが Web ページの HTML ドキュメントタイプを判断して処理します。この HTML DOCTYPE 商品グループ/タイプ設定は、マイクロサイトや Web サイトに設定された HTML DOCTYPE よりも優先されますが、個々の商品やテンプレートに設定された HTML DOCTYPE よりも優先度が低く、商品 > テンプレートの順で優先されます。商品グループに設定された HTML DOCTYPE は、商品タイプに設定された HTML DOCTYPE よりも優先されます。



7.1.1.2 アクセス制限

商品、商品グループ・タイプ、Web サイトにおけるアクセス制限はすべて、アクセス権限を満たす必要があります。従って、商品グループ・タイプに定義されたアクセス制限は、他のアクセス制限に追加されます。商品グループ・タイプのアクセス制限は、他のアクセス制限を上書き／置換はしません。

商品グループ・タイプのアクセス制限は、個々の商品のアクセス制限と同じであり、同様に使用されます。



7.1.2 商品データベース同期化

大抵の場合、すでに独自の商品データベース（またはスプレッドシート）をお持ちで、価格や在庫数などの商品情報は頻繁に更新されることが考えられます。既存の商品データベース全体や管理を HeartCore Web コンテンツ管理 E コマース追加モジュールに移行したり、既存の商品データベースと HeartCore Web コンテンツ管理システム E コマース追加モジュールの両方を更新するのは、現実的でなく不可能な場合もあります。

既存の商品データベースの商品と HeartCore Web コンテンツ管理システム E コマース追加モジュールの商品とを容易に同期させるため、HeartCore Web コンテンツ管理システム E コマース追加モジュールへから、商品情報をインポート/エクスポートすることができます。

7.1.2.1 商品情報のエクスポート

「設定」 - 「E コマース」 - 「製品」 - 「エクスポート」メニュー項目リンクを選択し、商品情報エクスポートの管理画面にアクセスします。

現在の商品情報を HeartCore Web コンテンツ管理システム E コマース追加モジュールから抽出し、.csv 形式ファイルとしてダウンロードするには、“エクスポート”を選択します。

ダウンロードされた.csv 形式ファイルは、スプレッドシート・デスクトップ・アプリケーションで開いて編集することができます。また、データベース・アプリケーションでインポートすることもできます。



7.1.2.2 商品情報のインポート

商品情報のインポート管理にアクセスするには、「設定」 - 「E コマース」 - 「製品」 - 「インポート」メニュー項目リンクを選択します。

ローカル・コンピュータから.csv 形式ファイル（商品情報のエクスポート機能でエクスポートした）を選択し、“インポート”ボタンで、HeartCore Web コンテンツ管理システム E コマース追加モジュールにアップロード及びインポートします。インポートした.csv 形式ファイルで更新されている商品情報は、すべて HeartCore Web コンテンツ管理システム E コマース追加モジュールへ更新されます。

デフォルトでは、インポートするファイル内の商品現在在庫数および発注済み在庫数は無視されます。インポートするファイル内の現在在庫数および発注済み在庫数を使用するには、「現在の在庫数と発注済み在庫数をインポートします」チェックボックスを選択してください。

インポートでは、新規商品が作成されたり、既存の商品が削除されたりしないことに注意ください。商品情報は、既存の商品に関してのみ更新されます。商品の作成、削除は、商品管理より行なって下さい。



7.2 通貨の設定

デフォルトでは、Eコマース追加モジュールは、Webサイトに設定した単一の通貨のみが、商品、ショッピング・カート、チェックアウト、注文に使用されます。

しかし、各商品ごとに異なる複数の通貨を使用したり、Webサイトのバージョンによって複数の通貨を使用することも可能です。

通貨は、Webサイト・ビジターのショッピング・カートや注文、また商品価格や配送料、税率を定義するために使用されます。全てに単一通貨を使用することも、異なる商品、配送料、税率、Webサイト・バージョンに応じた複数の通貨を使用することもできます。

要件に応じて、どんな通貨でも、いくつでも作成することが可能です。

商品管理によって、個々の商品に対する通貨を指定することができます。通常、これはデフォルトの通貨を使用するよう設定されますが、Webサイトに定義されたいかなる特定通貨も選択可能です。

このようにして、異なる通貨価格の各商品を同時に取り扱うことができます。国産品の価格を国内通貨に設定し、輸入品を外国通貨に設定したい場合でも、この方法により商品価格変更を為替レートの変動にしたがって自動的に容易に処理できるようになります。

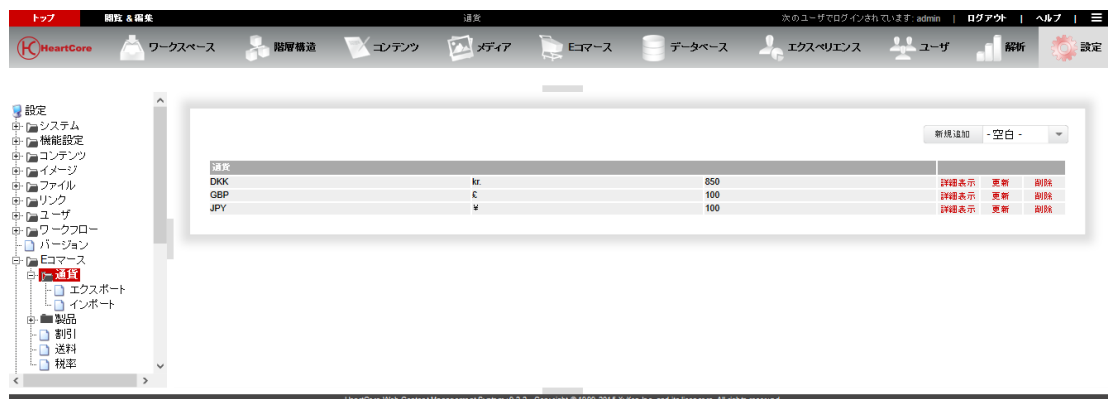
各商品の価格がそれぞれ異なる通貨で設定されている場合でも、ショッピング・カートやチェックアウト、注文などで使われる実際の価格は、常に、設定した為替レートを使用してデフォルトの通貨に換算されます。

デフォルトでは、商品価格は常に、Webサイトに設定されたデフォルト通貨に変換されます。しかし、Webサイトで複数バージョン機能をお使いの場合には、それぞれのWebサイト・バージョンごとに異なる通貨を使用することもできます。

このようにして、異なったバージョンのWebサイトに対してそれぞれ違った通貨を同時に使用することができるようになります。異なった地域や国々で、Webサイトのショッピング・カートやチェックアウト、注文においてそれぞれの現地通貨を使用するWebサイトの各バージョンが作成できます。

各商品の価格がそれぞれ異なった通貨で設定されていたとしても、ショッピング・カートやチェックアウト、注文に使われる実際の価格は、設定した為替レートに従って、常にWebサイトの現行バージョンに定義されたデフォルト通貨へと変換されます。

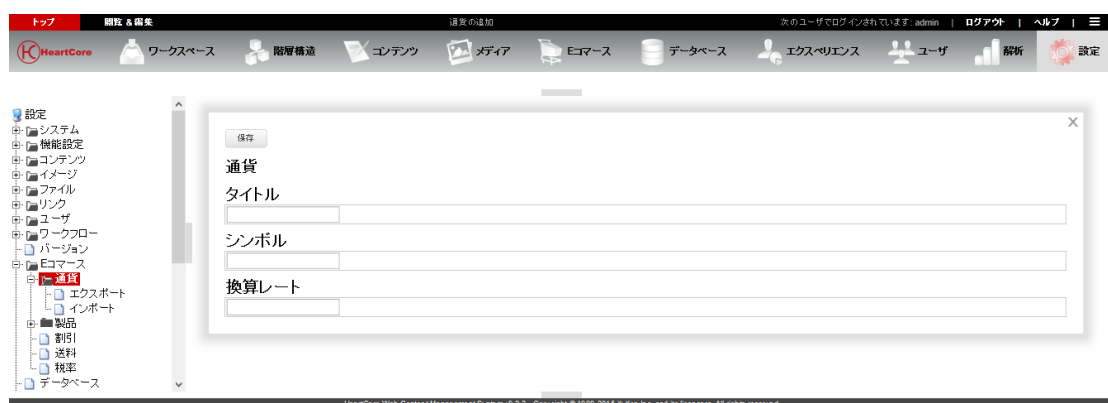
「設定」－「Eコマース」－「通貨」メニューを選択し、通貨設定にアクセスします。現在定義済みの通貨が一覧表示されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を使って通貨を定義します。



7.2.1 通貨

それぞれの通貨には、次のものを定義します。

- **タイトル**
通貨管理で使用される通貨の名前
- **シンボル**
Web サイト・カスタマーに表示される通貨のシンボル、コードまたは名前。
- **換算レート**
通貨の為替レート。為替レートは、Web サイト内で複数の通貨が使用される場合のみ使用されます。為替レートは、基本となる通貨を 100 とし、Web サイトで使用されるその他の通貨は、基本通貨と相対する形で定められます。



7.2.2 通貨データベース同期化

為替レートに関して、すでに独自の通貨データベース（またはスプレッドシート）をお持ちの場合があります。これらは頻繁に更新されることもあります。既存の通貨データベース全体や管理を HeartCore Web コンテンツ管理 Eコマース追加モジュールに移行したり、既存の通貨データベースと HeartCore Web コンテンツ管理システム Eコマース追加モジュールの両方を更新するのは、現実的でなく、不可能な場合もあります。

既存の通貨データベースと HeartCore Web コンテンツ管理システムE コマース追加モジュールの通貨詳細とを容易に同期化させるため、HeartCore Web コンテンツ管理システムE コマース追加モジュールへから通貨情報をインポート／エクスポートすることができます。

7.2.2.1 通貨情報のエクスポート

「設定」 - 「Eコマース」 - 「通貨」 - 「エクスポート・」メニュー項目リンクを選択し、通貨情報エクスポート管理にアクセスします。

“エクスポート”を選択すると、HeartCore Web コンテンツ管理システムE コマース追加モジュールから現在の通貨情報を抽出し、.csv 形式ファイルとしてダウンロードすることができます。

ダウンロードした .csvs 形式ファイルは、スプレッドシート・デスクトップ・アプリケーションで開いて編集したり、データベース・アプリケーションでインポートすることができます。



7.2.2.2 通貨情報のインポート

「設定」 - 「Eコマース」 - 「通貨」 - 「インポート」メニュー項目リンクを選択し、通貨情報インポート管理にアクセスします。

ローカル・コンピュータから、.csv 形式ファイル（通貨情報のエクスポート機能で出力されたもの）を選び、“インポート”を選択し、HeartCore Web コンテンツ管理システムE コマース追加モジュールへアップロード及びインポートします。インポートされた.csv 形式ファイル内の更新済みの通貨情報は、インポートを通して HeartCore Web コンテンツ管理システムE コマース追加モジュールへ更新されます。

インポートでは、通貨の新規作成や削除は行われないことに注意してください。通貨情報は、すでに存在する通貨に対してのみ、更新されます。通貨の新規作成、削除を行なうには、通貨管理をお使いください。



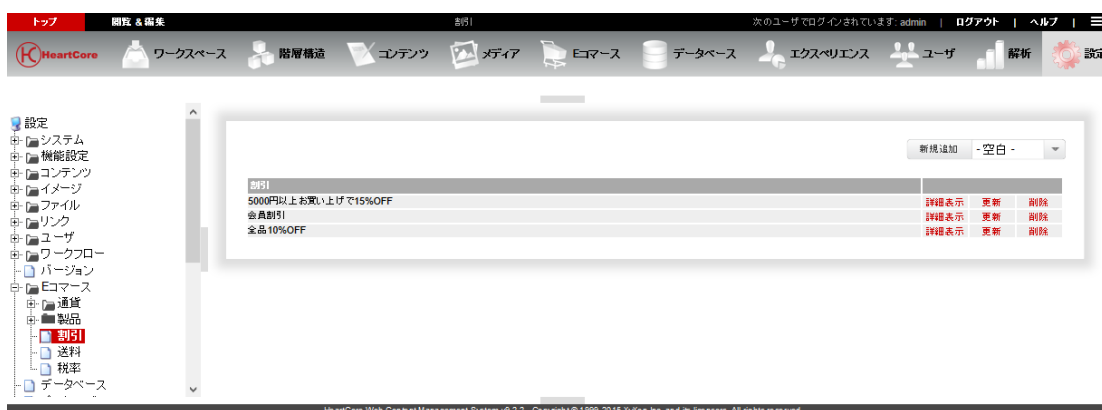
7.3 割引の設定

割引率は Web サイト・カスタマーの注文に対して、特別な提供を定義するのに使用されます。異なるタイプの割引率が定義される場合があります。

- 特定のユーザに対する割引
- 特定の商品に対する割引
- 特定のセール期間に対する割引
- 指定総額以上の注文に対する一般割引
- 指定商品を指定の数量で購入する際の数量割引
- 指定商品を指定の数量で購入する際の固定価格の提供
- BOGOF (1 個購入すると 1 個無料) と、類似割引

7.3.1 割引率 (設定)

設定 - 「割引」メニュー項目リンクを選択し、割引率の設定にアクセスします。現在定義されている割引率が一覧表示されます。



追加、詳細表示、更新、削除を選択し、割引率を定義します。

7.3.2 割引率

各割引率に対して、以下を定義します：

- タイトル
割引率に対して割引率管理内で使用される名前
- 詳細
Web サイト・カスタマーに対して表示される割引率の説明



7.3.2.1 割引詳細

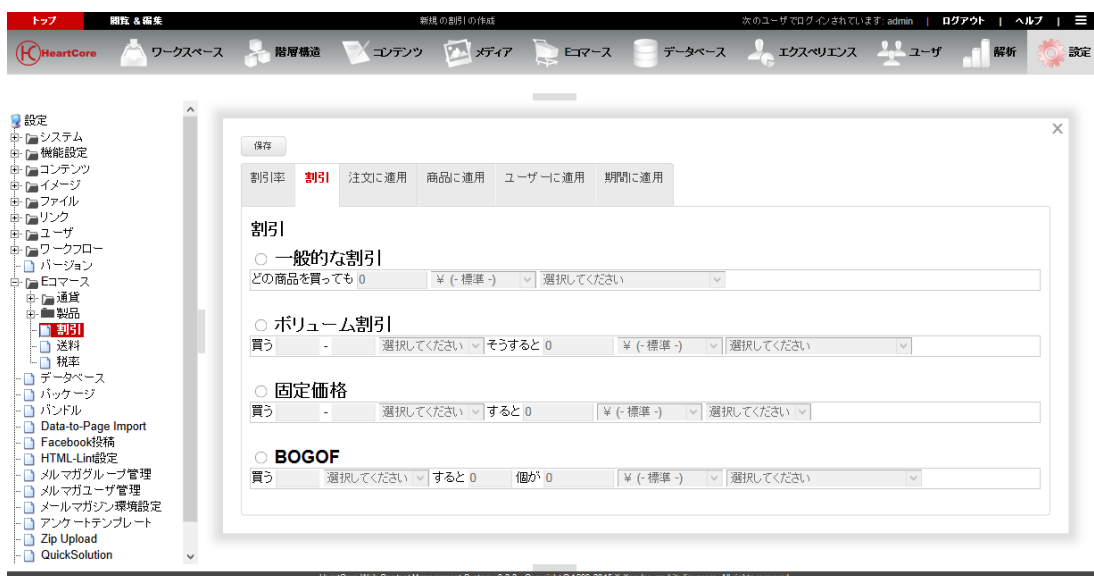
注文に適用される割引

- 一般割引
 - 額
 - 商品価格もしくは注文合計から引かれる額
 - 通貨／パーセンテージ
 - 商品価格もしくは注文合計から引かれる通貨額、もしくはパーセンテージ。
 - 各アイテム／合計価格割引
 - (通貨額の割引にのみ適用し、パーセンテージ割引には適用しない。)
 - 該当商品の各アイテムを割引
 - 指定商品の数量を掛けた割引額を引く。
 - 該当商品の合計価格を割引
 - 指定商品の合計注文総額から割引額を引く
 - 例：
 - すべての商品を10%オフとする
 - すべての注文を\$10オフとする
- 数量割引
 - 割引対象の数量
 - 割引を適用する指定商品の数量。数量の上限を定めない場合には、数量を空白のままにします。
 - いかなる商品でも／同一商品の
 - いかなる商品でも
 - 指定の商品グループ／タイプ（商品に適用）からの商品であれば、どれでも、混合されていても割引が適用されます。
 - 同一商品の
 - Discount only applies to multiple items of the same product.

- 額
商品価格または注文合計から引かれる額。
- 通貨／パーセンテージ
商品価格もしくは注文合計から引かれる通貨額もしくはパーセンテージ。
- 各アイテム／合計価格を割引
(通貨額の割引にのみ適用し、パーセンテージ割引には適用しない。)
 - 該当商品の各アイテムを割引
指定商品の数量を掛けた割引額を引く
 - 該当商品の合計価格を割引
指定商品の合計注文総額から割引額を引く
- 例：
3個、またはそれ以上の商品購入で10%オフ
XYZという商品を5個購入で10%オフ
- 固定価格
 - 割引対象の数量
割引を適用する指定商品の数量。数量の上限を定めない場合には、数量を空白のままにします。
 - いかなる商品でも／同一商品の
 - いかなる商品でも
指定の商品グループ／タイプ（商品に適用）からの商品であれば、どれでも、混合されていても割引が適用されます。
 - 同一商品の
同じ商品が複数の場合にのみ、割引が適用されます。
 - 額
商品1つにつき使用される商品価格（標準の商品価格より低い場合）
 - 通貨
商品価格の通貨
 - 1アイテムにつき／合計で
 - 該当商品の1アイテム毎
指定商品の数量を掛けた割引額を請求します。
 - 該当商品の合計で
指定商品の指定数量の合計で割引額を請求します。
 - 例：
どれでも商品3個以上だと10\$
どれでも商品3個またはそれ以上だと各それぞれ10\$
- BOGOF

- 標準価格での数量
標準の価格で購入される指定商品の数量
- いかなる商品でも／同一商品の
 - いかなる商品でも
指定の商品グループ／タイプ（商品に適用）からの商品であれば、どれでも、混合されていても割引が適用されます。
 - 同一商品の
同じ商品が複数の場合にのみ、割引が適用されます。
- 割引価格での数量
割引価格で購入される指定商品の数量
- 額
1 商品アイテムにつき使用される商品価格（標準商品価格より低い場合）
- 通貨／パーセンテージ
使用される標準商品価格の通貨額、またはパーセンテージ。
- 1 アイテムにつき／合計で／各アイテムをオフ
 - 該当商品の 1 アイテムにつきオフ
各商品アイテムは、指定の割引額で請求されます。
 - 該当商品に対して合計で
割引された商品アイテムの合計数量（割引価格での数量）が、指定の割引額で請求されます。
 - 該当商品の各アイテムをオフ
指定の割引額が、各商品アイテムの標準商品価格から引かれます。
- 例：
 - 1 個購入で 1 個無料
 - 2 個購入で 2 個が半分価格
 - 3 個購入で 2 個が 1 0 \$ になる

すべての割引は常に、商品価格の高低順に適用されます。商品アイテムの数量が奇数の場合には、数量と固定価格と BOGOF 割引が最も高い商品アイテムに適用され、標準商品価格は、残った最安の商品アイテムに課されます。BOGOF 割引は、標準の商品価格を最も高い商品アイテムに対して課し、割引された商品価格を商品アイテムの各セットへの最も少ない高い商品アイテムへ課します。（例えば、1 個購入で、1 個 5 0 % オフ、最も高い商品に対しては標準価格、2 番目に高い商品には半額、3 番目に高い商品には標準価格、4 番目に高い商品には半額で、など）



7.3.2.2 注文に適用

割引率は、すべての定義された基準に一致する注文への全体の注文に適用されることになっています。基準はいくつでも、また組み合わせで定義することができます。定義されていない基準（空白の部分）は無視され、すべての注文と一致します。すなわち、国名を空白にすると、どの国へでも注文が適用されることとなります。（その他のすべての基準が一致する部分）

- 国
 - 割引率が適用する注文配信国
- 都道府県
 - 割引率が適用する注文都道府県
- 最小注文数量
 - 割引率が適用する最小注文数量
- 最大注文数量
 - 割引率が適用する最大注文数量
- 通貨
 - 割引率が適用する注文通貨
- 最低注文合計額
 - 割引率が適用する、送料と税をぬいた最低注文額
- 最高注文合計額
 - 割引率が適用する、送料と税をぬいた最高注文額
- 最小重量

割引率が適用する注文の最小の重さ

- 最大重量

割引率が適用する注文の最大の重さ

- 最小分量

割引率が適用する最小注文分量

- 最大分量

割引率が適用する最大注文分量



7.3.2.3 商品に適用

割引率は、すべての定義された基準に一致する個々の商品に適用されることとなります。基準はいくつでも、また組み合わせで定義することもできます。

- 商品

割引率が適用する指定の商品

- グループ

割引率が適用する商品グループ

- タイプ

割引率が適用する商品タイプ

- 最小重量

割引率が適用する商品の最小の重さ

- 最大重量

割引率が適用する商品の最大の重さ

- 最小分量

割引率が適用する最小商品分量

- 最大分量

割引率が適用する最大商品分量

- 最小幅

割引率が適用する商品の最小幅

- 最大幅

割引率が適用する商品の最大幅

- 最低の高さ

割引率が適用する商品の最低の高さ

- 最高の高さ

割引率が適用する商品の最高の高さ

- 最小奥行き

割引率が適用する商品の最小の奥行き

- 最大奥行き

割引率が適用する商品の最大の奥行き



7.3.2.4 ユーザに適用

割引率は、すべての定義された基準に一致する個々のユーザに適用されることとなります。基準はいくつでも、また組み合わせで定義することもできます。

- ユーザ

割引率が適用する指定のユーザ

- グループ

割引率が適用する商品グループ

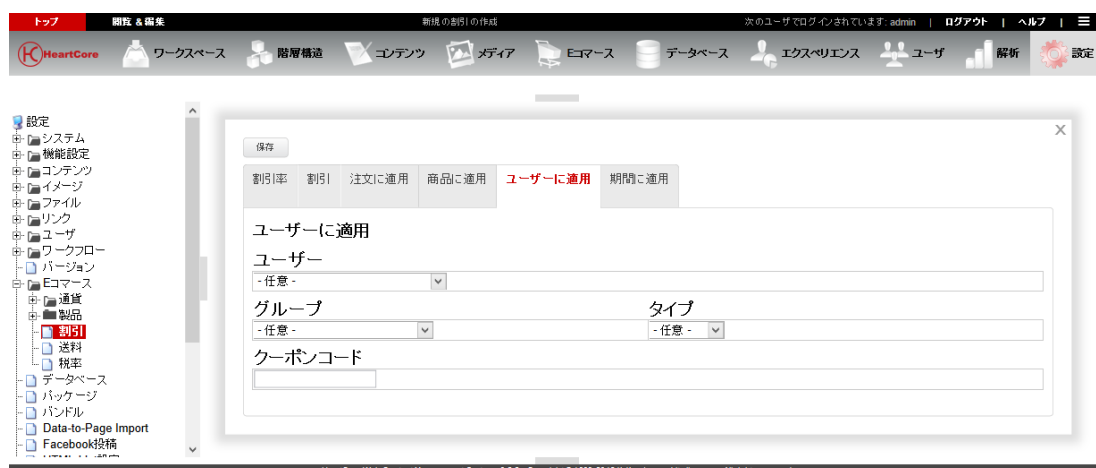
- タイプ

割引率が適用する商品タイプ

- 割引コード

割引率が適用するものに対して、顧客が入力する割引コード。

割引率を割引率コードで使用するには、Web サイトビジターが割引コードを入力する追加の特別入力フィールドがショッピングカート Web ページに追加されていなければなりません。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照下さい。



7.3.2.5 期間に適用

割引率は、指定の期間の間適用されることとなります。

- 開始日時

割引が適用する開始日時。“今”にする場合は、空白にしてください。

- 終了日時

割引率が適用する終了日時。指定の終了日時がない場合は、空白にしてください。



7.4 送料の設定

Web サイト・カスタマーからの注文への送料や梱包料を定義するために「送料」が用いられます。商品価格が送料や梱包料を含んでおり、Web サイト・カスタマーの発注に付け加えるべき費用がない場合には送料を設定する必要はありません。

以下のようなさまざまな送料が考えられます。

- 標準的な送料ならびに梱包料
- 異なる商品、商品タイプ、商品グループごとにそれぞれ追加される送料、梱包料
- 配送先の国別や県別に応じたさまざまな送料ならびに梱包料
- 注文数や注文金額の別に応じたさまざまな送料や梱包料
- 発注 1 件当たりに対して固定された送料ならびに梱包料
- 発注品 1 個につき固定された送料ならびに梱包料
- 発注総額に対しパーセンテージで定められる送料ならびに梱包料
- 個々の商品価格に対しパーセンテージで定められる送料ならびに梱包料

7.4.1 送料（設定）

送料の設定にアクセスするには「設定」 - 「E コマース」 - 「送料」メニュー項目リンクを選択してください。現在定義されている送料が表示されます。



追加、詳細表示、更新、削除を選択し、送料を定義してください。

7.4.2 送料

個々の送料について以下の項目を設定します。

- タイトル
送料管理のために用いる送料の名前
- 詳細
送料について Web サイト・カスタマーへ表示する説明



7.4.2.1 送料の詳細

注文に追加される送料ならびに梱包料

- 通貨
送料の金額表示に使われる通貨
- 注文単位
注文 1 件ごとに追加される送料
- 品目単位
注文品 1 個ごとに追加される送料
- パーセンテージ
注文総額の一定率(0 から 100)にしたがって追加される送料
- 合計
発注 1 件ごとの送料に対する最大の合計額



7.4.2.2 注文に適用

定義した基準に合致する注文の全体に対して送料が適用されます。基準はいくつでもまたどのような組み合わせでも定義可能です。未定義の基準（空白のまま）は無視され、すべての注文に合致します - 例えば、あらゆる国に適用させるには国名の欄を空白のままに残しておきます（それ以外のすべての基準が合致している場合）。

- 国名
送料が適用される配送先の国名
- 都道府県
送料が適用される配送先の都道府県名
- 数量～
送料が適用される最小注文数量
- ～数量
送料が適用される最大注文数量
- 合計通貨
送料に適用される通貨
- 合計～
送料が適用される、送料および税を除いた最小注文総額
- ～合計
送料が適用される、送料および税を除いた最大注文総額
- 重さ（から）
送料が適用される最少注文重量
- 重さ（まで）
送料が適用される最大注文重量
- ボリューム（から）
送料が適用される最少注文分量
- ボリューム（まで）
送料が適用される最大注文分量

「注文に適用」と「商品に適用」の基準を併用すると、送料が二重で注文に適用されてしまいますので、ご注意ください。



7.4.2.3 商品に適用

発送料は、定義された基準すべてに合致する商品一つずつについて適用されます。基準はいくつでも、またどのような組み合わせでも定義可能です。

- 商品
発送料が適用される特定の商品
- グループ
発送料が適用される商品グループ
- タイプ
発送料が適用される商品タイプ
- 重さ（から）
発送料が適用される最少商品重量
- 重さ（まで）
発送料が適用される最大商品重量
- ボリューム（から）
発送料が適用される最少商品分量
- ボリューム（まで）
発送料が適用される最大商品分量
- 幅（から）
発送料が適用する最小商品幅
- 幅（まで）
発送料が適用する最大商品幅
- 高さ（から）
発送料が適用する最低の商品の高さ

- 高さ（まで）
送料が適用する最高の商品の高さ
- 奥行き（から）
送料が適用する最小商品奥行き
- 奥行き（まで）
送料が適用する最大商品奥行き

「注文に適用」と「商品に適用」の基準を併用すると、送料が二重で注文に適用されてしまいますので、ご注意ください。



7.5 税率の設定

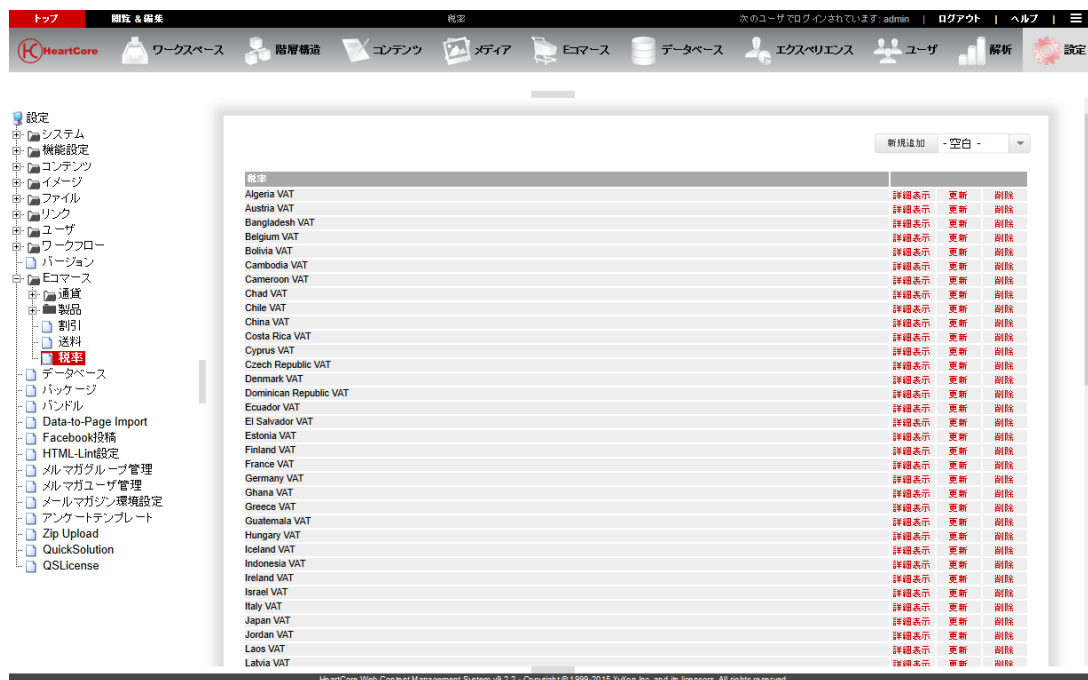
Web サイト・カスタマーの発注に対して消費税やその他の税金、関税などを定義するのに税率が使用されます。もし、商品価格にすべての税金が既に含まれており、Web サイト・カスタマーの注文に対していかなる課税も行われない場合には、税率の設定は必要ありません。

以下のようなさまざまなタイプの税率が考えられます。

- 標準的な税金
- 異なったタイプの商品、商品タイプ、商品グループに対するさまざまな付加的な税金
- 配送先である国別、都道府県別によって異なる、さまざまな付加的な税金
- 注文数量や注文金額によって異なるさまざまな付加的な税金
- 発注 1 件ごとの固定された税金
- 注文商品 1 個ごとの固定された税金
- 注文総額に対する一定率の税金
- 個々の商品価格に対する一定率の税金

7.5.1 税率 (設定)

税率の設定にアクセスするには「設定」 - 「Eコマース」 - 「税率」メニュー項目リンクを選択してください。現在定義されている税率が一覧表示されます。

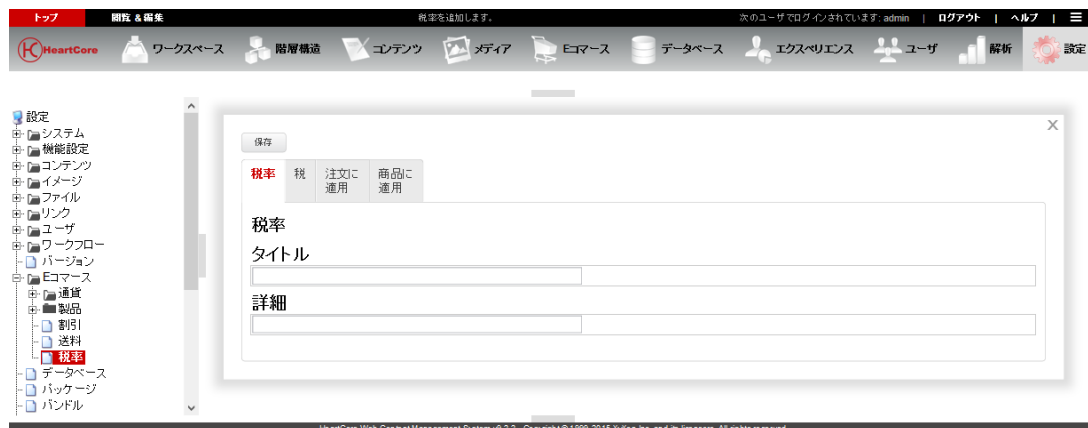


追加、詳細表示、更新、削除より選択し、税率を定義してください。

7.5.2 税率

各税率に対し以下を設定します。

- タイトル
税率管理で使用される税率の名前
- 詳細
Web サイト・カスタマーへ表示される税率についての説明



7.5.2.1 税の詳細

注文に対して加算される税金

- 通貨
税率が設定される通貨
- 注文単位
発注 1 件あたりについて加算される税金
- 品目単位
商品 1 個あたりについて加算される税金
- パーセンテージ
注文総額を基として加算される税金のパーセンテージ (0 から 100)
- 合計
発注 1 件ごとの税率に対する最大の合計額



7.5.2.2 注文に適用

定義した基準に合致する注文の全体に対して税率が適用されます。基準はいくつでもまたどのような組み合わせでも設定可能です。未定義の基準（空白のまま）は無視され、すべての注文に合致します。例えば、あらゆる国に適用させるには国名の欄を空白のままに残しておきます（それ以外のすべての基準が合致している場合）。

- 国名
税率が適用される配送先の国名
- 都道府県
税率が適用される配送先の都道府県名
- 数量～
税率が適用される最小注文数量
- ～数量
税率が適用される最大注文数量

- 合計通貨
税率が適用される注文通貨
- 合計～
税率が適用される、送料および税金を除いた最小注文総額
- ～合計
税率が適用される、送料および税金を除いた最大注文総額
- 重さ（から）
税率が適用される最少注文重量
- 重さ（まで）
税率が適用される最大注文重量
- ボリューム（から）
税率が適用される最少注文分量
- ボリューム（まで）
税率が適用される最大注文分量

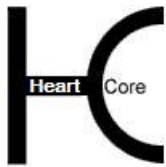
「注文に適用」と「商品に適用」の基準を併用すると、税率が二重で注文に適用されてしまいますので、ご注意ください。



7.5.2.3 商品に適用

税率は、定義したすべての基準に合致する商品一つずつに適用されます。基準はいくつでもまたどのような組み合わせでも設定可能です。

- 商品
税率が適用される特定の商品



- グループ
税率が適用される商品グループ
- タイプ
税率が適用される商品タイプ
- 重さ (から)
税率が適用される最少商品重量
- 重さ (まで)
税率が適用される最大商品重量
- ボリューム (から)
税率が適用される最少商品分量
- ボリューム (まで)
送料が適用される最大商品分量
- 幅 (から)
税率が適用する最小商品幅
- 幅 (まで)
税率が適用する最大商品幅
- 高さ (から)
送料が適用する最低の商品の高さ
- 高さ (まで)
税率が適用する最高の商品の高さ
- 奥行き (から)
税率が適用する最小商品奥行き
- 奥行き (まで)
税率が適用する最大商品奥行き

「注文に適用」と「商品に適用」の基準を併用すると、税率が二重で注文に適用されてしまいますので、ご注意ください。



HeartCore Web Content Management System v2.2.2 - Copyright © 1999-2015 Xyfon Inc. and its licensors. All rights reserved.

8 コンテンツデータベース設定

HeartCore Web コンテンツ管理システムの全てのコンテンツはデータベースに格納されますが、データベース追加モジュールを使用すると、一般的な Web サイト・コンテンツ・ページとして表示、管理するには適さない構造化されたコンテンツ用に、追加の特殊コンテンツ・データベースを作成することができます。

異なるデータのタイプ用に、いくつもの特殊コンテンツ・データベースを定義し、データベース内のコンテンツにいくつもの属性／フィールドを定義することができます。特殊コンテンツは、その他のコンテンツ項目（ページ、イメージ、ファイルなど）への参照をはじめ、簡易テキスト、HTML テキスト、数字、日付、選択オプション、ラジオボタン、チェックボックス、ユーザ名やEメール・アドレスなど様々なタイプのデータを保持することができます。

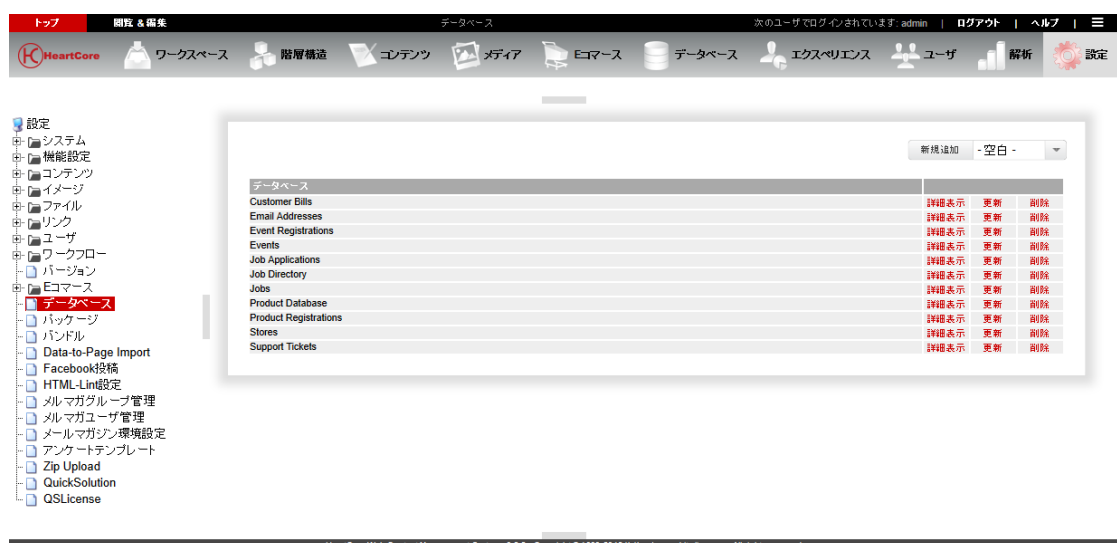
特殊コンテンツ・データベースを使用して、Web サイト・ビジターはデータベース内のコンテンツを閲覧、検索することができます。コンテンツ・データベースの各個別の属性／フィールドを検索することが可能です。特殊コンテンツ・データベースがどのように検索、表示されるかは、HeartCore Web コンテンツ管理システムの一般的なコンテンツ管理機能や、いくつかのシンプル特殊コードを使って、自由にカスタマイズ可能です。

特殊コンテンツ・データベースは、Web サイト・ビジターからデータを収集する際にも使用できます。Web ページ・フォームを作成し、ここから送信されるデータを特殊コンテンツ・データベースへ格納し、特殊コンテンツ・データベース管理者に通知Eメールを送信することができます。

8.1.1 コンテンツデータベース（設定）

Web サイトに特殊コンテンツ・データベースを設定するには、「設定」 - 「データベース」メニュー項目リンクを選択します。

すでに存在する特殊コンテンツ・データベースが一覧表示され、各特殊コンテンツ・データベースには、詳細表示、更新、削除のためのリンクが表示されます。新規特殊コンテンツ・データベースを作成するには、「追加」ボタンを選択して下さい。



データベース	詳細表示	更新	削除
Customer Bills	詳細表示	更新	削除
Email Addresses	詳細表示	更新	削除
Event Registrations	詳細表示	更新	削除
Events	詳細表示	更新	削除
Job Applications	詳細表示	更新	削除
Job Directory	詳細表示	更新	削除
Jobs	詳細表示	更新	削除
Product Database	詳細表示	更新	削除
Product Registrations	詳細表示	更新	削除
Stores	詳細表示	更新	削除
Support Tickets	詳細表示	更新	削除

8.1.2 コンテンツデータベース

各特殊コンテンツ・データベースに対し、以下のデータベース設定があります。

- データベース・コンテンツ
データベースの名前と、データベース内の属性／フィールドの数やタイプの定義。

データベース名は、1つの単語でなければならず、特殊文字は使用できません。



8.1.2.1 コンテンツ

データベースでは、属性／フィールドへ一意の名前を入力し、データ・タイプを選んで、「追加」を選択することで、データベース属性／フィールドをいくつでも定義できます。追加された属性／フィールドの新規テーブル列が表示されます。ここでは、インデックス・チェックボックスや、“上に移動” “下に移動” ボタンをはじめ、このデータ・タイプに対するいくつかの追加プロパティが表示されます。

特殊データベースのデータ属性／フィールドに名前を付ける際には、Web コンテンツ管理で既に特殊コードに使用されている名前は避けるべきです。競合を避けるために、データ属性／フィールド名の最初の文字を大文字にすることが推奨されます。

使用可能なデータ・タイプとそれらのプロパティについては、下記に説明します。

インデックス・チェックボックスをチェックすると、データベースのデータ属性／フィールドにインデックスが作成されます。属性／フィールドにインデックスを作成すると、データベース内の属性／フィールドの検索がより高速になるため、通常は検索可能な全てのデータベース属性／フィールドにインデックスを作成します。しかし、属性／フィールドにインデックスを作成すると、データの追加、更新、削除が遅くなると同時に、より多くのスペースが必要となるので、インデックスが必要な場合のみ作成してください。インデックスを作成したからといって、コンテンツデータベースの管理インデックスページに、データベース属性／フィールドが自動で追加されるわけではありませんのでご注意ください。

コンテンツ・データベース管理ページでは、データベース属性／フィールドは、データベース設定ページで定義された順番に表示されます。上に移動、下に移動ボタンを使用して、データベース属性／フィールドの順番を変更します。デフォルトでは、一番目のプレーン・テキスト属性／フィールドが、データベースの各データ項目の“タイトル”として、コンテンツ・データベース管理インデックス・ページに表示される点にご注意ください。

- テキスト (プレーン)
シンプルでフォーマットのない、長くなる可能性のあるテキスト。カラムは、データ入力フィールドの文字幅を定義します。行は、データ入力フィールドの行数を定義します。

(厳密には、「text」もしくは「clob」型のデータベースサーバーカラムとして作成されます。)

- テキスト (検索可)
シンプルでフォーマットのない、短めのテキスト。カラムは、データ入力フィールドの文字幅を定義します。行は、データ入力フィールドの行数を定義します。
(厳密には、「varchar」型のデータベースサーバーカラムとして作成されます。カラムのサイズ制限は、データベースサーバーによって異なります。通常は、数千文字です。詳しくは、一般的なデータベースサーバー文献をご参照ください。)
- リッチ・テキスト(HTML)
イメージやハイパーリンクなどを含む、フォーマットされたテキスト。「幅」はデータ入力フィールドのピクセル幅を定義します。「高さ」はデータ入力フィールドのピクセル高さを定義します。
- 数字
整数か小数の数字。「小数」は小数点の後に表示される桁数を定義します。
※デフォルトで小数部分は4桁までの対応となります。
※現在、「桁」項目は設定出来ません。
- 選択
あらかじめ定義されたオプション一覧から、ひとつ選択します。「サイズ」は表示されるオプションの数を定義します。(オプション総数より小さい数)「オプション」は、選択可能なオプションを定義します。各行が1つのオプションになります。
- 選択(複数)
あらかじめ定義されたオプション一覧から、任意の数のオプションを選択します。「サイズ」は表示されるオプションの数を定義します。(オプション総数より小さい数)「オプション」は、選択可能なオプションを定義します。各行が1つのオプションになります。
- ラジオボタン
あらかじめ定義されたいくつかのラジオボタンから、ひとつ選択します。「オプション」は選択可能なラジオボタン・オプションを定義します。各行が1つのラジオボタンになります。
- チェックボックス
あらかじめ定義されたチェックボックス一覧から、任意の数のオプションを選択します。「オプション」は選択可能なチェックボックス・オプションを定義します。各行が1つのチェックボックスになります。
- 日付/時間
日付あるいは/または時間。フォーマットは、日付/時間がどのように表示されるかを定義します。
- 作成日付/時間
新規データがデータベースに追加されると自動的に設定される日付/時間。

- 更新日付 / 時間
データベースのデータが更新されると自動的に設定される日付/時間。
- 作成者名
データベースに新規データが追加されると、自動的に設定されるユーザ名。このユーザ名は、データを追加したユーザまたは Web サイト管理者のユーザ名です。
- 更新者名
データベースのデータが更新されると、自動的に設定されるユーザ名。このユーザ名は、データを更新したユーザまたは Web サイト管理者のユーザ名です。
- コンテンツ項目
Web コンテンツ管理システムの全てのコンテンツ項目一覧から、ひとつのコンテンツ項目を選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ項目数を定義します。
- コンテンツ項目（複数）
Web コンテンツ管理システムの全てのコンテンツ項目一覧から、任意の数のコンテンツ項目を選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ項目数を定義します。
- コンテンツ・クラス
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツ・クラス一覧から、コンテンツ・クラスをひとつ選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ・クラスの数进行定義します。
- コンテンツ・クラス（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツ・クラス一覧から、任意の数のコンテンツ・クラスを選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ・クラスの数进行定義します。
- コンテンツ・グループ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツ・グループ一覧から、ひとつのコンテンツ・グループを選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ・グループの数进行定義します。
- コンテンツ・グループ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツ・グループ一覧から、任意の数のコンテンツ・グループを選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ・グループの数进行定義します。
- コンテンツ・タイプ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツ・タイプ一覧から、ひとつのコンテンツ・タイプを選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ・タイプの数进行定義します。
- コンテンツ・タイプ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツ・タイプ一覧から、任意の数のコンテンツ・タイプを選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ・タイプの数进行定義します。

- ページ
Web コンテンツ管理システムの全てのページ一覧から、ひとつのページを選択します。「サイズ」は、表示されるページの数进行定義します。
- ページ (複数)
Web コンテンツ管理システムの全てのページ一覧から、任意の数のページを選択します。「サイズ」は、表示されるページの数进行定義します。
- ページ・グループ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのページ・グループ一覧から、ひとつのコンテンツ・グループを選択します。「サイズ」は、表示されるページ・グループの数进行定義します。
- ページ・グループ (複数)
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのページ・グループ一覧から、任意の数のコンテンツ・グループを選択します。「サイズ」は、表示されるページ・グループの数进行定義します。
- ページ・タイプ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのページ・タイプ一覧から、ひとつのコンテンツ・タイプを選択します。「サイズ」は、表示されるページ・タイプの数进行定義します。
- ページ・タイプ (複数)
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのページ・タイプ一覧から、任意の数のコンテンツ・タイプを選択します。「サイズ」は、表示されるページ・タイプの数进行定義します。
- イメージ
Web コンテンツ管理システムの全てのイメージ一覧から、ひとつのイメージを選択します。「サイズ」は、表示されるイメージの数进行定義します。
- イメージ (複数)
Web コンテンツ管理システムの全てのイメージ一覧から、任意の数のイメージを選択します。「サイズ」は、表示されるイメージの数进行定義します。
- イメージ・グループ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのイメージ・グループ一覧から、ひとつのイメージ・グループを選択します。「サイズ」は、表示されるイメージ・グループの数进行定義します。
- イメージ・グループ (複数)
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのイメージ・グループ一覧から、任意の数のイメージ・グループを選択します。「サイズ」は、表示されるイメージ・グループの数进行定義します。
- イメージ・タイプ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのイメージ・タイプ一覧から、ひとつのイメージ・タイプを選択します。「サイズ」は、表示されるイメージ・タイプの数进行定義します。

- **イメージ・タイプ (複数)**
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのイメージ・タイプ一覧から、任意の数のイメージ・タイプを選択します。「サイズ」は、表示される画像タイプの数を定義します。
- **イメージ・フォーマット**
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのイメージ・フォーマット一覧から、ひとつのイメージ・フォーマットを選択します。「サイズ」は、表示されるイメージ・フォーマットの数を定義します。
- **イメージ・フォーマット (複数)**
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのイメージ・フォーマット一覧から、任意の数のイメージ・フォーマットを選択します。「サイズ」は、表示されるイメージ・フォーマットの数を定義します。
- **ファイル**
Web コンテンツ管理システムの全てのファイル一覧から、ひとつのファイルを選択します。「サイズ」は、表示されるファイルの数を定義します。
- **ファイル (複数)**
Web コンテンツ管理システムの全てのファイル一覧から、任意の数のファイルを選択します。「サイズ」は、表示されるファイルの数を定義します。
- **ファイル・グループ**
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのファイル・グループ一覧から、ひとつのファイル・グループを選択します。「サイズ」は、表示されるファイル・グループの数を定義します。
- **ファイル・グループ (複数)**
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのファイル・グループ一覧から、任意の数のファイル・グループを選択します。「サイズ」は、表示されるファイル・グループの数を定義します。
- **ファイル・タイプ**
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのファイル・タイプ一覧から、ひとつのファイル・タイプを選択します。「サイズ」は、表示されるファイル・タイプの数を定義します。
- **ファイル・タイプ (複数)**
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのファイル・タイプ一覧から、任意の数のファイル・タイプを選択します。「サイズ」は、表示されるファイル・タイプの数を定義します。
- **ファイル・フォーマット**
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのファイル・フォーマット一覧から、ひとつのファイル・フォーマットを選択します。「サイズ」は、表示されるファイル・フォーマットの数を定義します。
- **ファイル・フォーマット (複数)**
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのファイル・フォーマット一覧から、任意の数のファイル・フォーマットを選択します。「サイズ」は、表示される

るファイル・フォーマットの数を定義します。

- リンク
Web コンテンツ管理システムの全てのファイルリンク一覧から、ひとつのリンクを選択します。「サイズ」は、表示されるリンクの数を定義します。
- リンク（複数）
Web コンテンツ管理システムの全てのファイルリンク一覧から、任意の数のリンクを選択します。「サイズ」は、表示されるリンクの数を定義します。
- リンク・グループ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのリンク・グループ一覧から、ひとつのリンク・グループを選択します。「サイズ」は、表示されるリンク・グループの数を定義します。
- リンク・グループ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのリンク・グループ一覧から、任意の数のリンク・グループを選択します。「サイズ」は、表示されるリンク・グループの数を定義します。
- リンク・タイプ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのリンク・タイプ一覧から、ひとつのリンク・タイプを選択します。「サイズ」は、表示されるリンク・タイプの数を定義します。
- リンク・タイプ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのリンク・タイプ一覧から、任意の数のリンク・タイプを選択します。「サイズ」は、表示されるリンク・タイプの数を定義します。
- 構成要素
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツ構成要素一覧から、ひとつのコンテンツ構成要素を選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ構成要素の数を定義します。「クラス」は、コンテンツ構成要素のどのクラスを表示するかを定義します。クラスが選択されない場合は、全てのコンテンツ・クラスの全てのコンテンツ構成要素が表示されます。
- 構成要素（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツ構成要素一覧から、任意の数のコンテンツ構成要素を選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ構成要素の数を定義します。「クラス」は、コンテンツ構成要素のどのクラスを表示するかを定義します。クラスが選択されない場合は、全てのコンテンツ・クラスの全てのコンテンツ構成要素が表示されます。
- バージョン
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのバージョン一覧から、ひとつのバージョンを選択します。「サイズ」は、表示されるバージョンの数を定義します。
- バージョン（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのバージョン一覧から、任意の

数のバージョンを選択します。「サイズ」は、表示されるバージョンの数を定義します。

- データベース

Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツ・データベース一覧から、ひとつを選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ・データベースの数を定義します。

- データベース（複数）

Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツ・データベース一覧から、任意の数のコンテンツ・データベースを選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ・データベースの数を定義します。

- データ

指定したコンテンツ・データベース内のデータ属性値／フィールド値一覧から、ひとつのデータ属性値／フィールド値を選択します。「サイズ」は、表示されるデータ属性値／フィールド値の数を定義します。「データベース」は、表示するデータベースの名前を定義します。「コンテンツ」は表示する属性値／フィールドの名前を定義します。

- データ（複数）

指定したコンテンツ・データベース内のデータ属性値／フィールド値一覧から、任意の数のデータ属性値／フィールド値を選択します。「サイズ」は、表示されるデータ属性値／フィールド値の数を定義します。「データベース」は、表示するデータベースの名前を定義します。「コンテンツ」は表示する属性値／フィールドの名前を定義します。

- データビュー

指定したコンテンツデータベース内のデータ属性値／フィールド値一覧から、ひとつのデータ属性値／フィールド値を選択します。「サイズ」は、表示するデータ属性値／フィールド値の数を定義します。

「データベース」は、表示するデータベースの名前を定義します。複数の場合は、「,」もしくは「*」で区切ります。「*」を使用すると、指定した属性／フィールドの値の組合せがすべて一覧表示されます。「,」を使用すると、指定したデータベースに同じ名前の属性／フィールドが存在する場合に、それらの値が同じ組合せのみ一覧表示されます。

「コンテンツ」は、表示する属性／フィールドの名前を定義します。複数の場合は、カンマで区切ります（カンマの前後にスペースは入れないでください）。特殊コードとフォーマット文字列を使用すれば、属性／フィールドの値をどのように表示するか定義することもできます。例えば、“PREFIX @@@Some Attribute Name@@@ - @@@Another Attribute name@@@ SUFFIX” と入力すると、二つの属性値が「-」で区切られ、前後に「PREFIX」と「SUFFIX」が付与されます。この場合、フォーマットも値としてデータベースへ保管されることとなりますのでご注意ください。

- データビュー（複数）

指定したコンテンツデータベース内のデータ属性値／フィールド値一覧から、任意の数のデータ属性値／フィールド値を選択します。「サイズ」は、表示するデータ属性値／フィールド値の数を定義します。

「データベース」は、表示するデータベースの名前を定義します。複数の場合は、「,」もしくは「*」で区切ります。「*」を使用すると、指定した属性／フィールドの値の組合せがすべて一覧表示されます。「,」を使用すると、指定したデータベースに同じ名前の属性／フィールドが存在する場合に、それらの値が同じ組合せのみ一覧表示されます。

「コンテンツ」は、表示する属性／フィールドの名前を定義します。複数の場合は、カンマで区切ります（カンマの前後にスペースは入れないでください）。特殊コードとフォーマット文字列を使用すれば、属性／フィールドの値をどのように表示するか定義することもできます。例えば、“PREFIX @@@Some Attribute Name@@@ - @@@Another Attribute name@@@ SUFFIX”と入力すると、二つの属性値が「-」で区切られ、前後に「PREFIX」と「SUFFIX」が付与されます。この場合、フォーマットも値としてデータベースへ保管されることとなりますのでご注意ください。

- ユーザ名
ユーザ・データベースに定義されている全てのユーザ名一覧から、ひとつのユーザ名を選択します。「サイズ」は、表示されるユーザ名の数を定義します。
- ユーザ名（複数）
ユーザ・データベースに定義されている全てのユーザ名一覧から、任意の数のユーザ名を選択します。「サイズ」は、表示されるユーザ名の数を定義します。
- ユーザEメール
ユーザ・データベースに定義されている全てのユーザEメール・アドレス一覧から、ひとつのユーザEメール・アドレスを選択します。「サイズ」は、表示されるユーザEメール・アドレスの数を定義します。
- ユーザEメール（複数）
ユーザ・データベースに定義されている全てのユーザEメール・アドレス一覧から、任意の数のユーザEメール・アドレスを選択します。「サイズ」は、表示されるユーザEメール・アドレスの数を定義します。
- ユーザ・グループ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのユーザ・グループ一覧から、ひとつのユーザ・グループを選択します。「サイズ」は、表示されるユーザ・グループの数を定義します。
- ユーザ・グループ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのユーザ・グループ一覧から、任意の数のユーザ・グループを選択します。「サイズ」は、表示されるユーザ・グループの数を定義します。
- ユーザ・タイプ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのユーザ・タイプ一覧から、ひとつのユーザ・タイプを選択します。「サイズ」は、表示されるユーザ・タイプの数を定義します。
- ユーザ・タイプ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのユーザ・タイプ一覧から、任

意の数のユーザ・タイプを選択します。「サイズ」は、表示されるユーザ・タイプの数を定義します。



8.1.2.2 アクセス制限

どの Web サイト・ビジターや管理者がデータベース・コンテンツにアクセスや管理できるかを定義します。

ユーザ・アクセス制限機能が有効の場合、特定のユーザのみがデータベース・コンテンツを閲覧できるようにアクセス制限を定義できます。デフォルトでは、全ての Web サイト・ユーザがデータベース・コンテンツを閲覧できます。

管理者アクセス制限機能が有効の場合はさらに、特定の管理者のみがデータベース・コンテンツを作成、更新、削除できるようにアクセス制限を定義できます。デフォルトでは、全ての Web サイト管理者がデータベース・コンテンツを管理できます。

- 閲覧

Web サイトや Web コンテンツ管理システム上で、データベース・コンテンツを閲覧可能なユーザを定義します。
- 更新

Web コンテンツ管理システムのデータベースに存在するデータを更新可能なユーザを定義します。
- 作成

Web コンテンツ管理システムのデータベースに、あるいは Web サイトのフォームを入力して送信することで、新規データを追加可能なユーザを定義します。

 - 公開

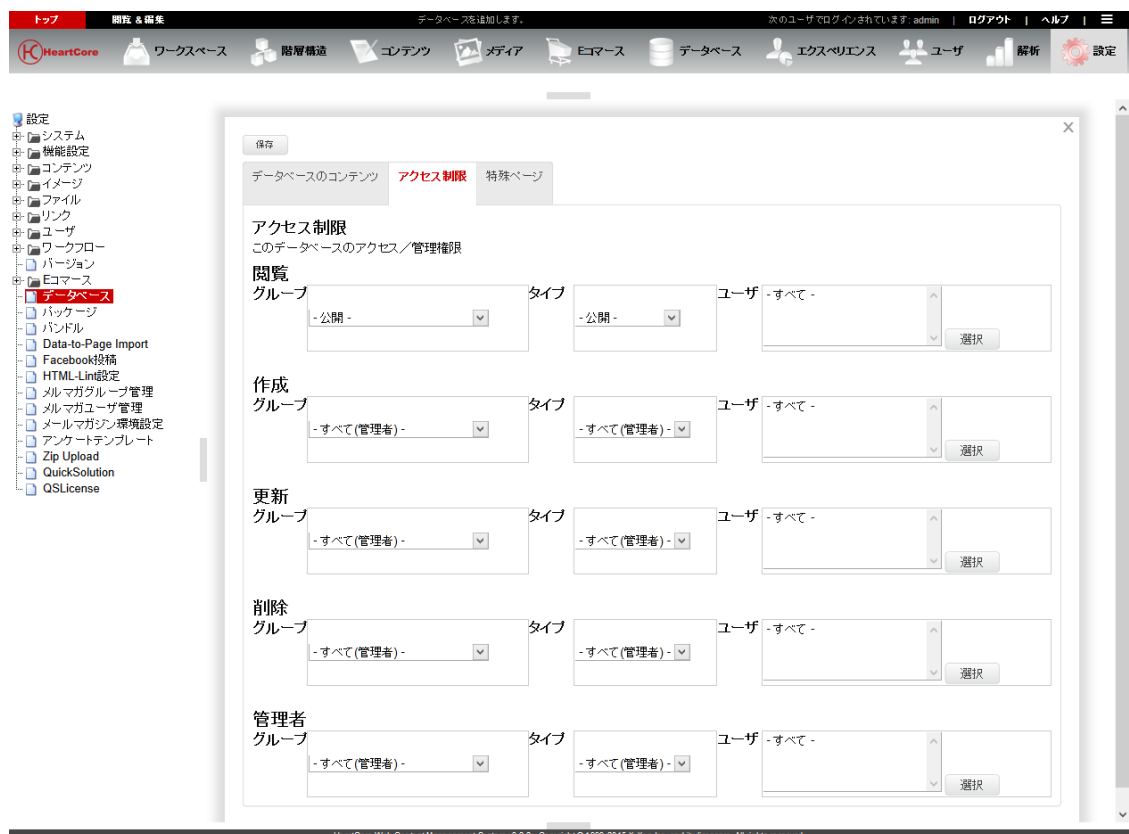
全ての Web サイト・ビジターが、Web サイト上のフォームを入力、送信することで、新規データを追加することができます。全ての Web サイト管理者が、Web コンテンツ管理システムを使ってデータベースにデータを追加することができます。
 - 制限

全ての登録済み Web サイト・ビジターが、Web サイト上のフォームを入力、送信することで、新規データを追加することができます。全ての Web サイト管理者が、Web コンテンツ管理システムを使ってデータベースにデータを追加することができます。
 - ユーザ・グループ／タイプ

選択されたグループ／タイプの全ての登録済み Web サイト・ビジターが、Web サイト上のフォームを入力、送信することで、新規データを追加することができます。選択されたグループ／タイプの全ての Web サイト管理者が、Web コンテンツ管理システムを使ってデータベースにデータを追加

ることができます。

- すべて
全ての Web サイト管理者が、Web コンテンツ管理システムを使ってデータベースにデータを追加することができます。
- 削除
Web コンテンツ管理システムのデータベースからデータを削除できるユーザを定義します。
- 管理者
Web コンテンツ管理システムを使って、データベースのデータを閲覧、更新、作成、削除全て可能なユーザを定義します。



8.1.2.3 特殊ページ

8.1.2.3.1 特殊ページ

Web コンテンツ管理システムの標準機能や Web サイトの機能では、様々な特殊ページが使用されています。これらの特殊ページは、特殊コードやフォームを使って開発する必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。

- デフォルトの検索結果ページ
データベースの検索結果を表示するデフォルトの検索結果ページ。検索結果ページは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。

- デフォルトの検索結果エントリ
検索結果ページに各検索結果を表示する際に使用されるページ。検索結果エントリは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルトのデータ閲覧ページ
データベースからデータレコードを取得して表示するためのページ。データ閲覧ページは一般的なページではなく、データ項目属性／フィールドを表示する特殊なコードを含みます。詳しくは「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。

8.1.2.3.2 インデックスページカラム

管理インデックスページに表示するカラムやリンクは、カスタマイズが可能です。以下に記載するコードを使って、表示したいカラムやリンクを表示したい順にスペース区切りで入力します。各カラムのサイズを指定するには、コードの後にコロンを付けて、ピクセルで幅を指定します。例えば、"`checkbox:25px default id:25px view:50px update:50px delete:50px`" と入力すると、25px 幅のチェックボックスフィールドと、デフォルトのタイトル属性（一番目のテキスト属性）、25px 幅の ID フィールド、50px 幅の詳細表示／更新／削除リンクフィールドが表示されます。このインデックスページカラム入力フィールドを完全に空にした状態で保存を行うと、デフォルトの設定に戻ります。

- インデックスページカラム
 - `checkbox`
コンテンツデータを選択するためのチェックボックスを表示します。
 - `default`
コンテンツデータベースのデフォルトのタイトル属性（一番目のテキスト属性）を表示します。
 - `ATTRIBUTE`
指定したコンテンツデータ属性名の値を表示します。
 - `id`
コンテンツデータの ID を表示します。
 - `view`
コンテンツデータの詳細を閲覧するページへリンクする「詳細表示」というテキストリンクを表示します。
 - `update`
コンテンツデータを更新するための「更新」というテキストリンクを表示します。
 - `create`
コンテンツデータをコピーして新しいコンテンツデータを作成するための「新規追加」というテキストリンクを表示します。
 - `delete`
コンテンツデータの削除ページを開く「削除」というテキストリンクを表示します。



HeartCore Web Content Management System v6.2.2 - Copyright © 1999-2015 Xylon Inc. and its licensors. All rights reserved.